

中央区政世論調査

報告書

第48回 平成30年5月実施



は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析したうえでの確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、区長への手紙、区政への提案制度など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で48回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」「築地魚河岸」「広報」「緑・公園」「施策の要望・評価」の13項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成30年9月

中央区企画部広報課

I 調査のあらまし	1
1 調査の目的	3
2 調査の項目	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	4
5 地域区分	4
6 この報告書の見方	4
7 調査方法略歴	6
II 回答者の属性	7
1 性別	9
2 年齢	9
3 職業	9
4 居住地域	10
5 同居家族	10
6 住居形態	10
7 家族構成	11
8 家族の状況	11
9 ライフステージ（7分類）	11
III 地域別にみた回答者の属性	13
1 年齢	15
2 職業	15
3 同居家族	15
4 住居形態	16
5 ライフステージ	16
IV 調査結果の分析	17
【1 定住性】	19
(1) 居住年数	19
(2) 愛着心	22
(3) 定住意向	25
【2 防災対策】	28
(1) 家庭での災害に対する備え	28
(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え	33
(3) 防災拠点の認知度	36

目 次

(4) 災害に備えた地域の協力体制	39
(5) 避難の際に心配なこと	41
(6) 災害時に協力できる活動	45
(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの	48
【3 健康診査】	51
(1) 加入している健康保険	51
(2) 健康診査の受診状況	54
(3) 健康診査を受けなかった理由	57
【4 高齢者施策】	60
(1) 要介護時における暮らし方	60
(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス	64
(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	67
【5 子育て支援】	69
(1) 子育てに関する悩みの相談	69
(2) 重要と考える子育て支援策	73
(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策	77
(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	81
【6 男女共同参画社会】	83
(1) 男女の地位の平等感	83
(2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方	95
(3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況	99
(4) 女性センター「ブーケ21」の認知度	103
【7 防犯対策】	107
(1) 不安に感じる犯罪	107
(2) 防犯のために行っていること	111
(3) 区に特に力を入れてほしい施策	115
【8 スポーツ】	119
(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	119
(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	124
(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと	128
【9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会】	132
(1) 東京2020大会への思い	132
(2) 東京2020大会の開催に伴い期待していること	135
(3) 東京2020大会の開催に伴い懸念していること	139

【10 築地魚河岸】	143
(1) 「築地魚河岸」への来場経験	143
【11 広報】	145
(1) 区政情報を得る手段	145
【12 緑・公園】	149
(1) 公園や緑に望む役割	149
(2) 区に望む緑のまちづくり	152
(3) 緑に関し行っていることや興味	155
(4) ボランティア活動への参加状況	157
【13 施策の要望・評価】	159
(1) 区の施策の満足度と重要度	159
(2) 区の施策への要望	166
V 結果の数表	171
VI 使用した調査票	191

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の13項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 男女共同参画社会
- (7) 防犯対策
- (8) スポーツ
- (9) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
- (10) 築地魚河岸
- (11) 広報
- (12) 緑・公園
- (13) 施策の要望・評価

3 調査の設計

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の男女個人（外国人区民を除く） |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法
平成30年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満18歳以上の男女129,416人から一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送に準じた配布－郵送回収） |
| (5) 調査時期 | 平成30年5月11日（金）～5月28日（月） |
| (6) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4 回収結果

(1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	496	244	49.2
日本橋地域	625	312	49.9
月島地域 (無回答)	879	468	53.2
計	2,000	1,056	52.8

(2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	18(0.9)	85.7
その他	3(0.2)	14.3
計	21(1.1)	100.0

* 宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

* 高齢や病気などの理由による調査辞退者をその他とした。

5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層の n の合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位10項目）や（5項目）などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

（2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（61.0%）が最も高いが、「独身期」（28.0%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（8.5%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（18～39歳、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦（18～39歳）、
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
独身（65歳以上）、子どものいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どものいない夫婦（40～64歳）

(3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,056	±1.85	±2.46	±2.82	±3.02	±3.08
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,056で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.02%以内（56.98～63.02%）である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

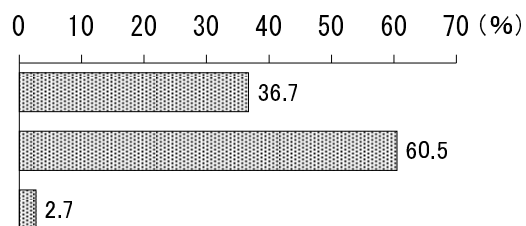
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
昭和63年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成4年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成8年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

Ⅱ 回答者の属性

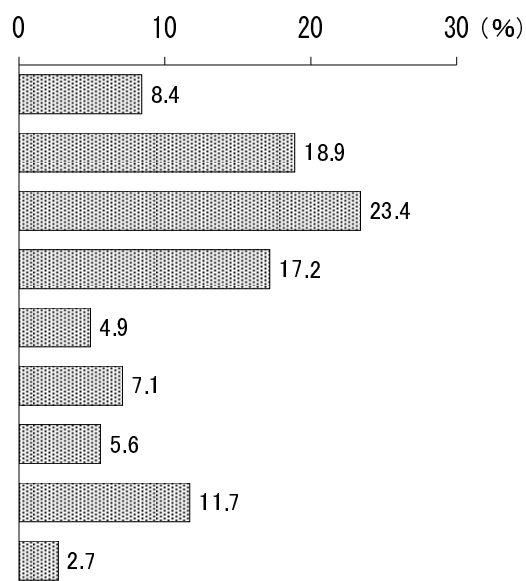
1 性別

	基数	構成比
1 男性	388	36.7%
2 女性	639	60.5
(無回答)	29	2.7
合計	1,056	100.0



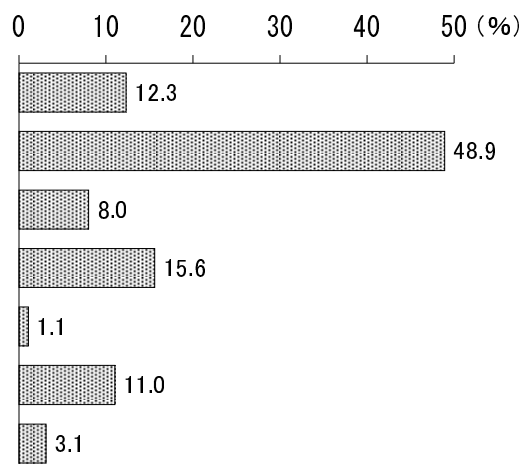
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	89	8.4%
2 30歳代	200	18.9
3 40歳代	247	23.4
4 50歳代	182	17.2
5 60～64歳	52	4.9
6 65～69歳	75	7.1
7 70～74歳	59	5.6
8 75歳以上	124	11.7
(無回答)	28	2.7
合計	1,056	100.0



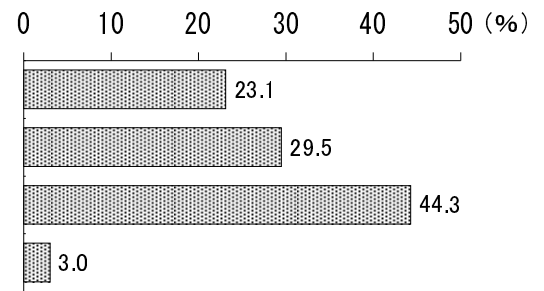
3 職業

	基数	構成比
1 自営業（家族従業を含む）	130	12.3%
2 勤め人	516	48.9
3 アルバイト・パートタイマー	84	8.0
4 無職（主婦）	165	15.6
5 無職（学生）	12	1.1
6 無職（その他）	116	11.0
(無回答)	33	3.1
合計	1,056	100.0



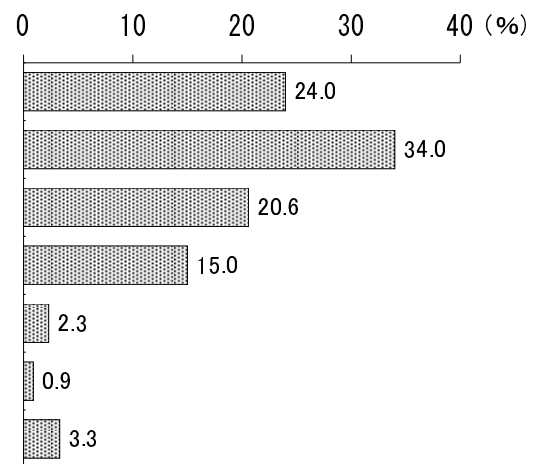
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	244	23.1%
2 日本橋地域	312	29.5
3 月島地域	468	44.3
(無回答)	32	3.0
合計	1,056	100.0



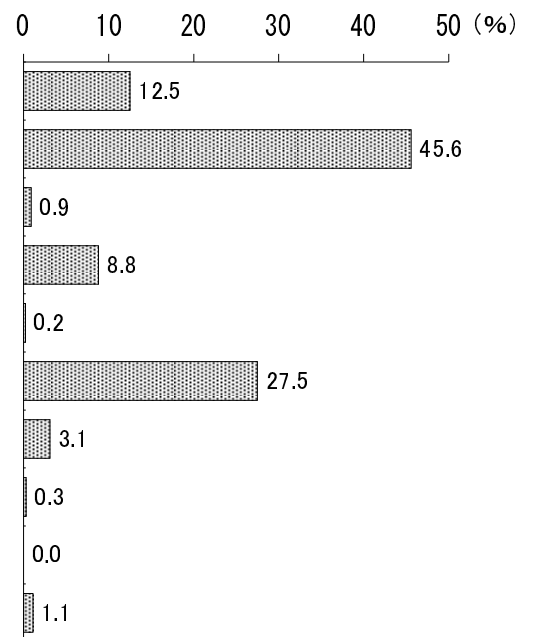
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	253	24.0%
2 2人	359	34.0
3 3人	218	20.6
4 4人	158	15.0
5 5人	24	2.3
6 6人以上	9	0.9
(無回答)	35	3.3
合計	1,056	100.0



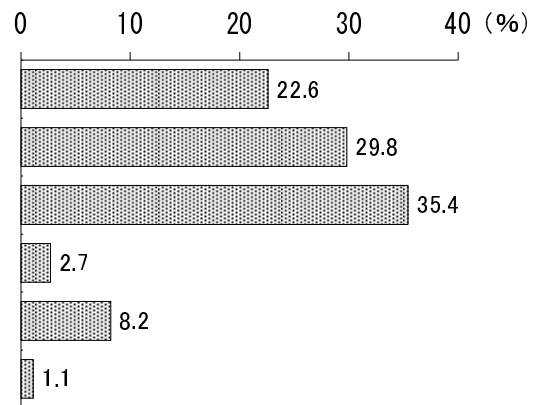
6 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	132	12.5%
2 持家 分譲マンション	482	45.6
3 借家 一戸建	9	0.9
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	93	8.8
5 借家 民間木造アパート	2	0.2
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	290	27.5
7 借家 社宅、官舎、寮	33	3.1
8 借家 間借り、住込み	3	0.3
9 その他	0	0.0
(無回答)	12	1.1
合計	1,056	100.0



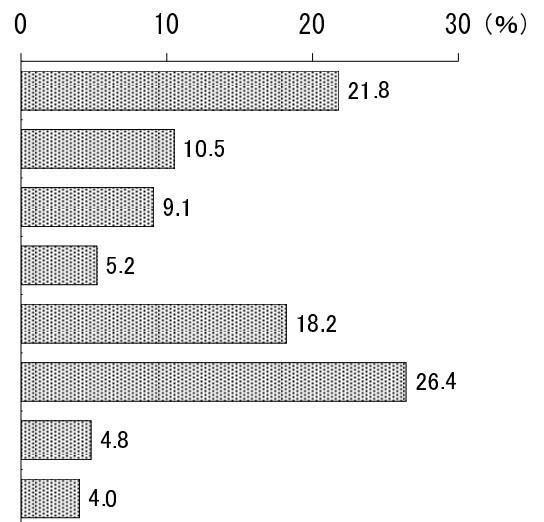
7 家族構成

	基数	構成比
1 ひとり暮らし	239	22.6%
2 夫婦だけ（1世代）	315	29.8
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	374	35.4
4 夫婦と子どもと親（3世代）	29	2.7
5 その他	87	8.2
（無回答）	12	1.1
合計	1,056	100.0



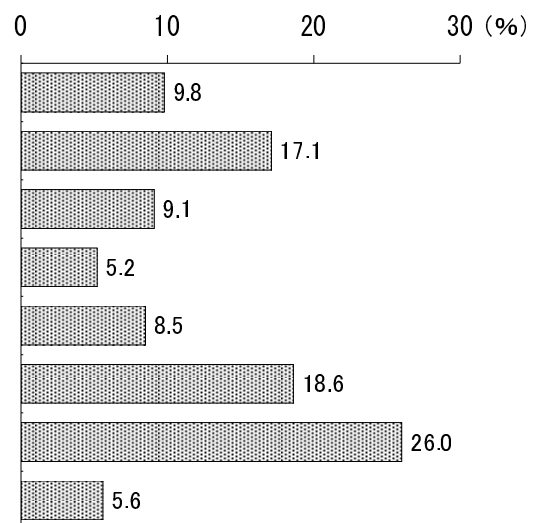
8 家族の状況

	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	230	21.8%
2 一番上の子どもが小学校入学前	111	10.5
3 一番上の子どもが小・中学生	96	9.1
4 一番上の子どもが高校・大学生	55	5.2
5 一番上の子どもが学校卒業	192	18.2
6 独身	279	26.4
7 その他	51	4.8
（無回答）	42	4.0
合計	1,056	100.0



9 ライフステージ（7分類）

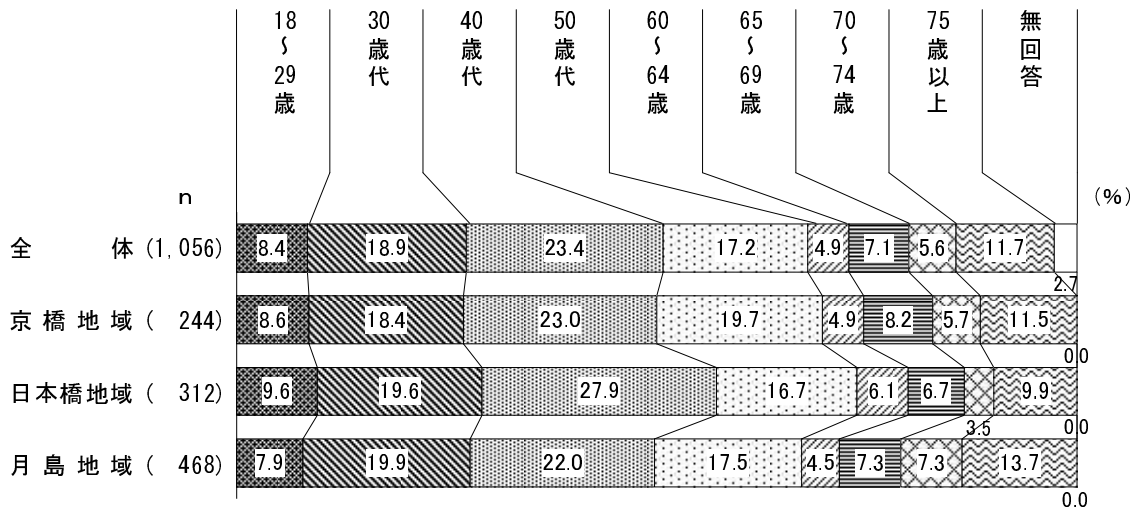
	基数	構成比
1 独身期	104	9.8%
2 家族形成期	181	17.1
3 家族成長前期	96	9.1
4 家族成長後期	55	5.2
5 家族成熟期	90	8.5
6 老齢期	196	18.6
7 その他	275	26.0
（無回答）	59	5.6
合計	1,056	100.0



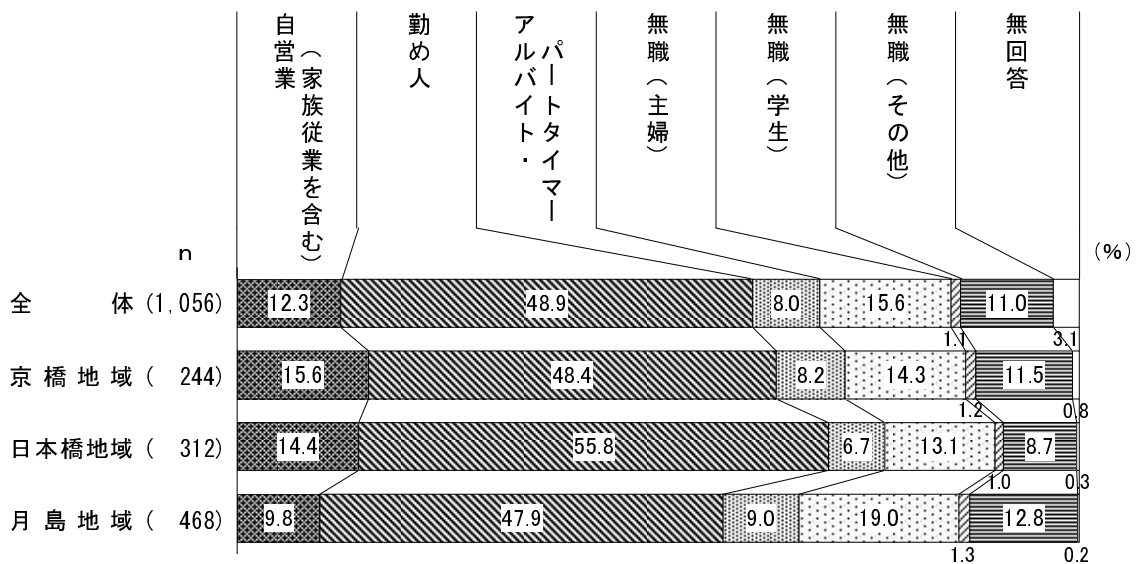
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

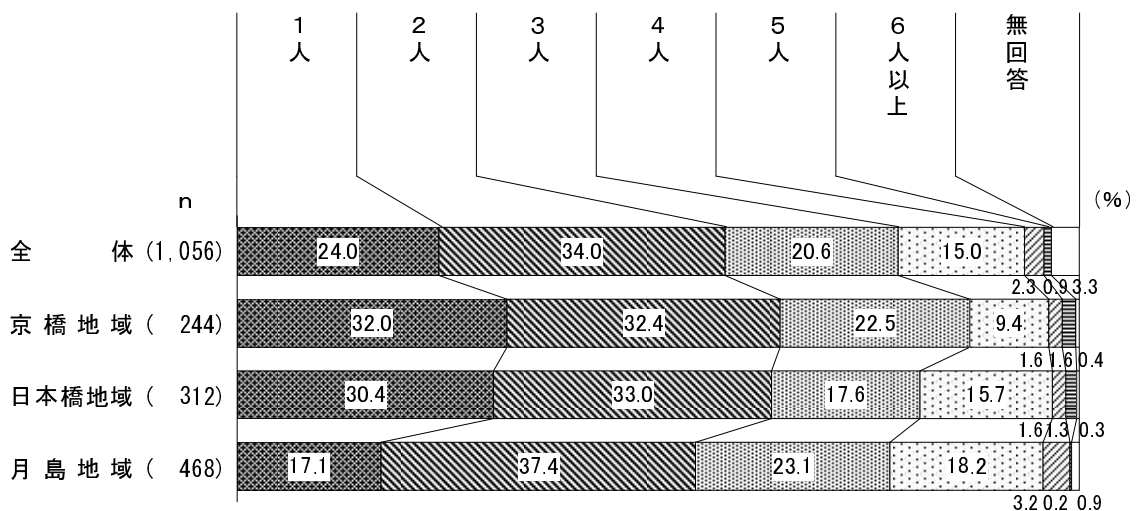
1 年齢



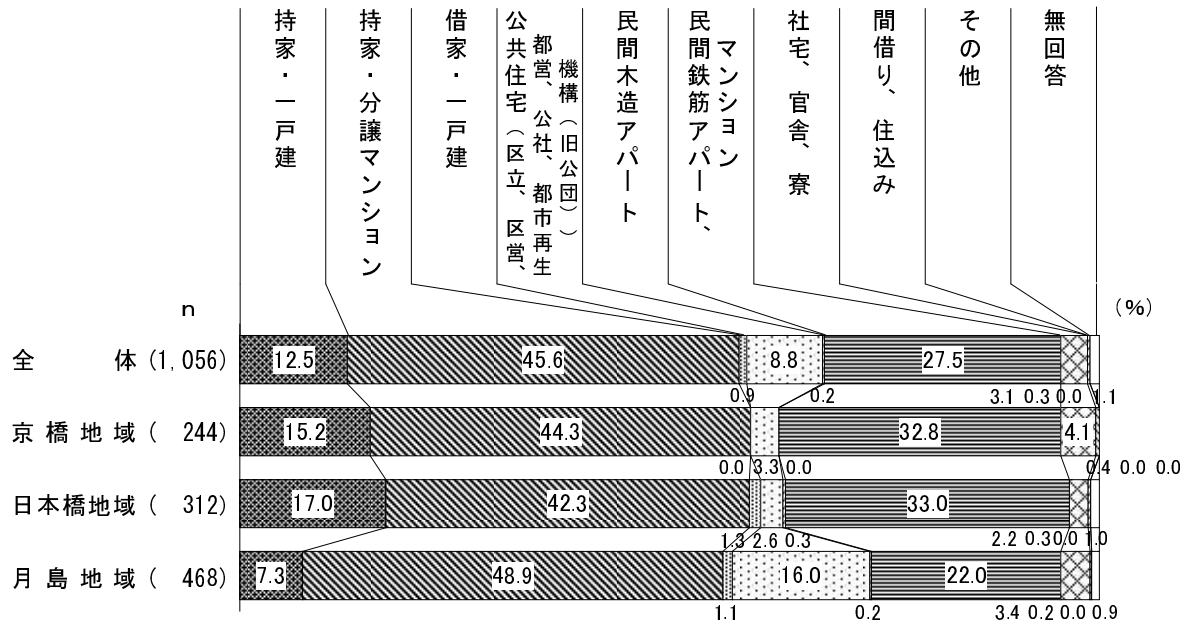
2 職業



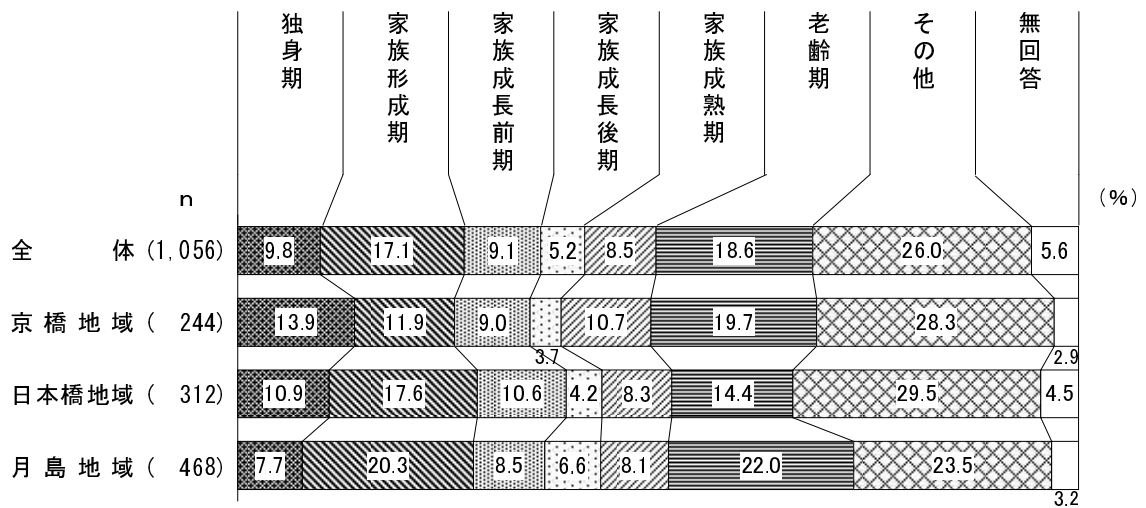
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

◇『短期居住者』と『中期居住者』がともに3割台半ば

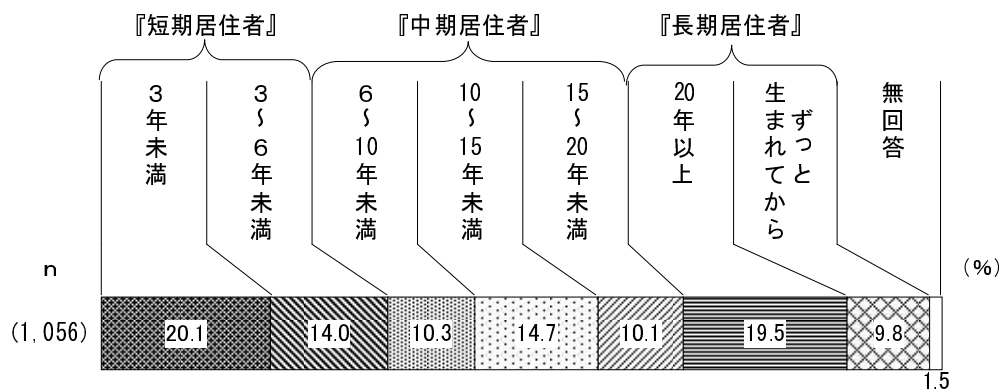
問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)					
n = 1,056					
1	3年未満	20.1%	5	15～20年未満	10.1
2	3～6年未満	14.0	6	20年以上	19.5
3	6～10年未満	10.3	7	生まれてからずっと	9.8
4	10～15年未満	14.7		(無回答)	1.5

居住年数は、「3年未満」(20.1%)が最も高くなっており、「3～6年未満」(14.0%)と合わせた『短期居住者』(34.1%)が3割台半ばとなっている。

また、「6～10年未満」(10.3%)、「10～15年未満」(14.7%)および「15～20年未満」(10.1%)を合わせた『中期居住者』(35.1%)は3割台半ばとなっている。「20年以上」(19.5%)と「生まれてからずっと」(9.8%)を合わせた『長期居住者』(29.3%)は約3割となっている。

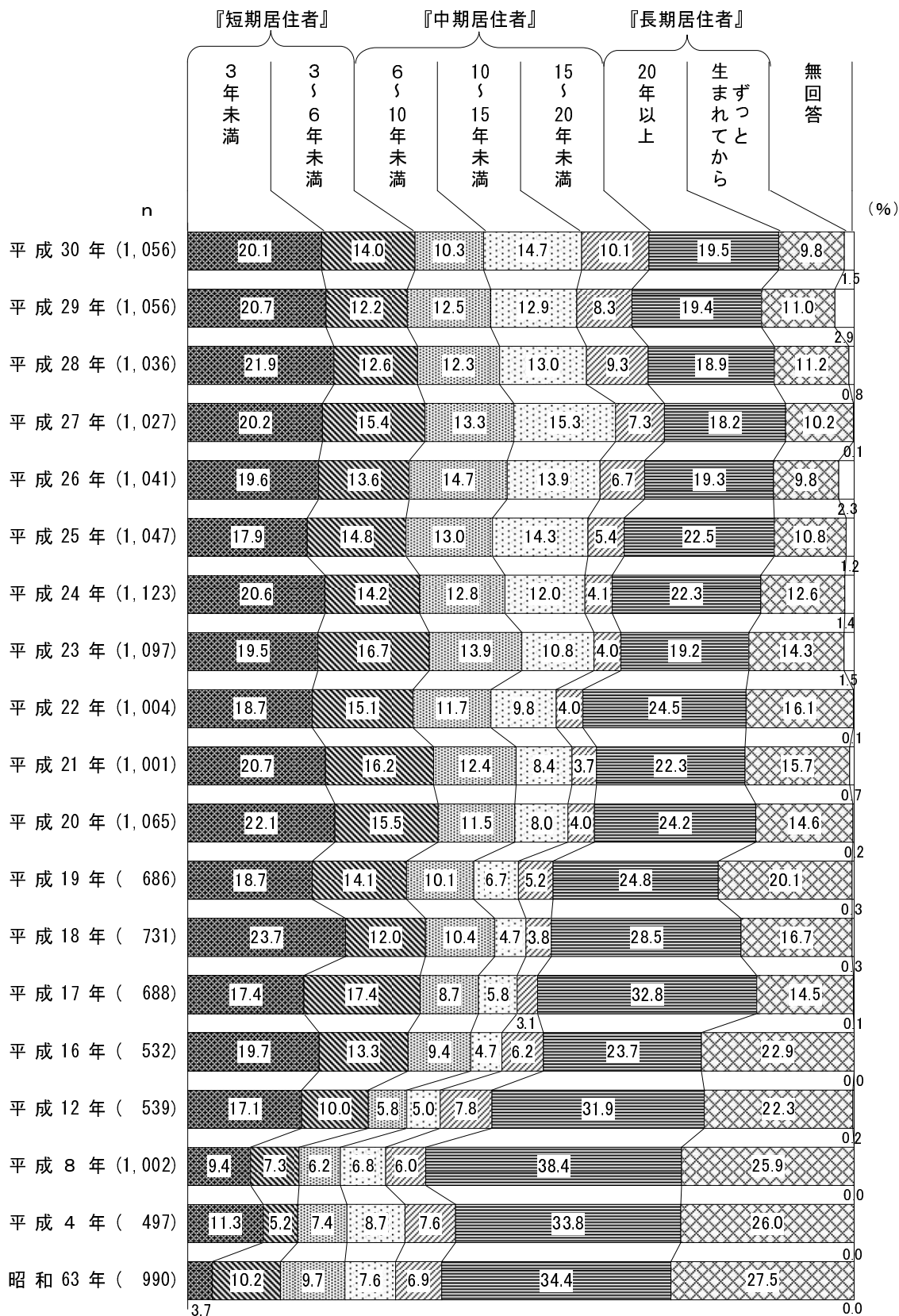
(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



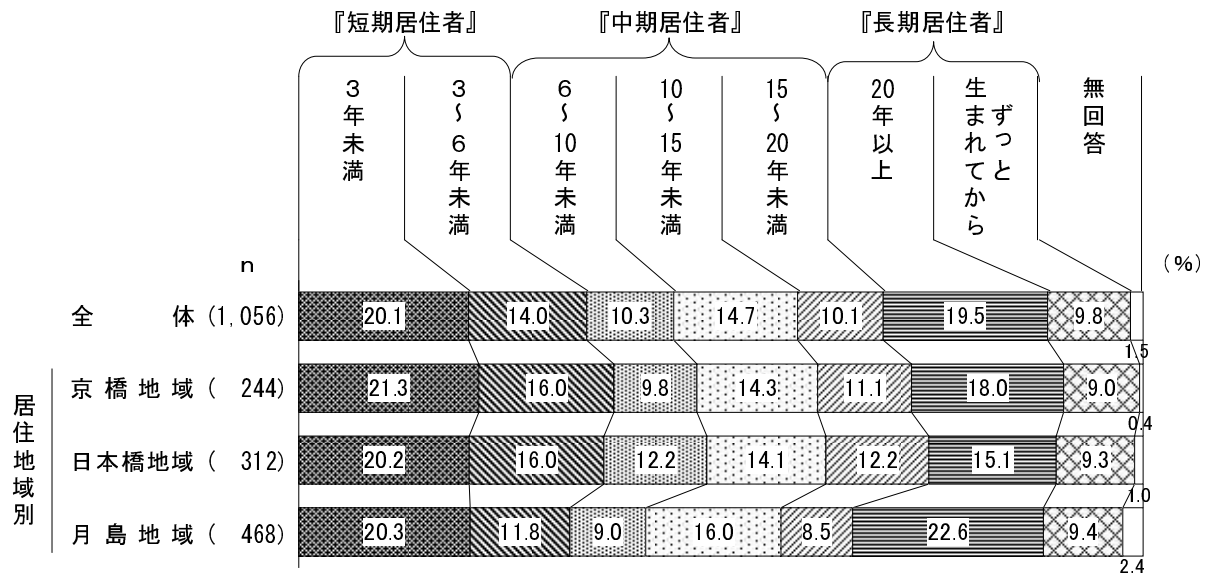
過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。(図表 1 - 1 - 2)

図表 1 - 1 - 2 居住年数一過年度比較



居住地域別でみると、『短期居住者』は京橋地域で4割近くと高くなっている。『長期居住者』は月島地域で3割を超えて高くなっている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数—居住地域別



(2) 愛着心

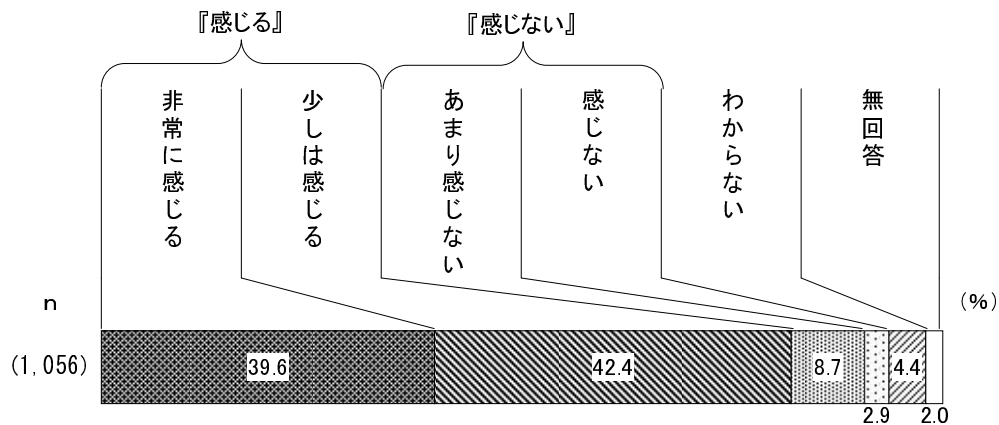
◇愛着を『感じる』人が8割を超える

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。					
(○は1つ)					
n = 1,056					
1	非常に感じる	39.6%	4	感じない	2.9
2	少しは感じる	42.4	5	わからない	4.4
3	あまり感じない	8.7	(無回答)		2.0

愛着心は、「少しは感じる」(42.4%)が最も高くなっており、「非常に感じる」(39.6%)と合わせた『感じる』(82.0%)が8割を超えている。

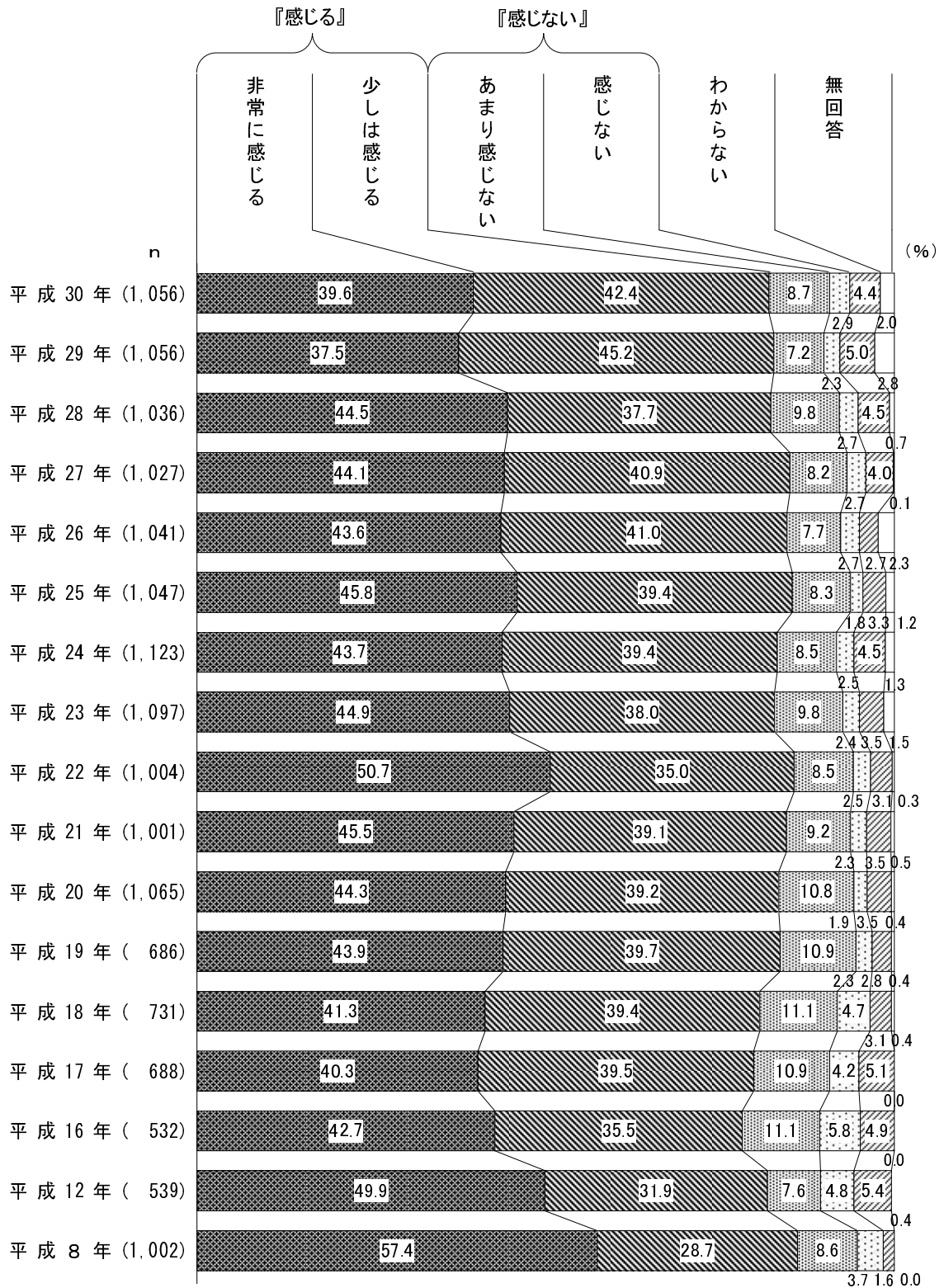
一方、「あまり感じない」(8.7%)と「感じない」(2.9%)を合わせた『感じない』(11.6%)は1割を超えている。(図表1-2-1)

図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、「非常に感じる」と「少しは感じる」を合わせた『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。(図表1-2-2)

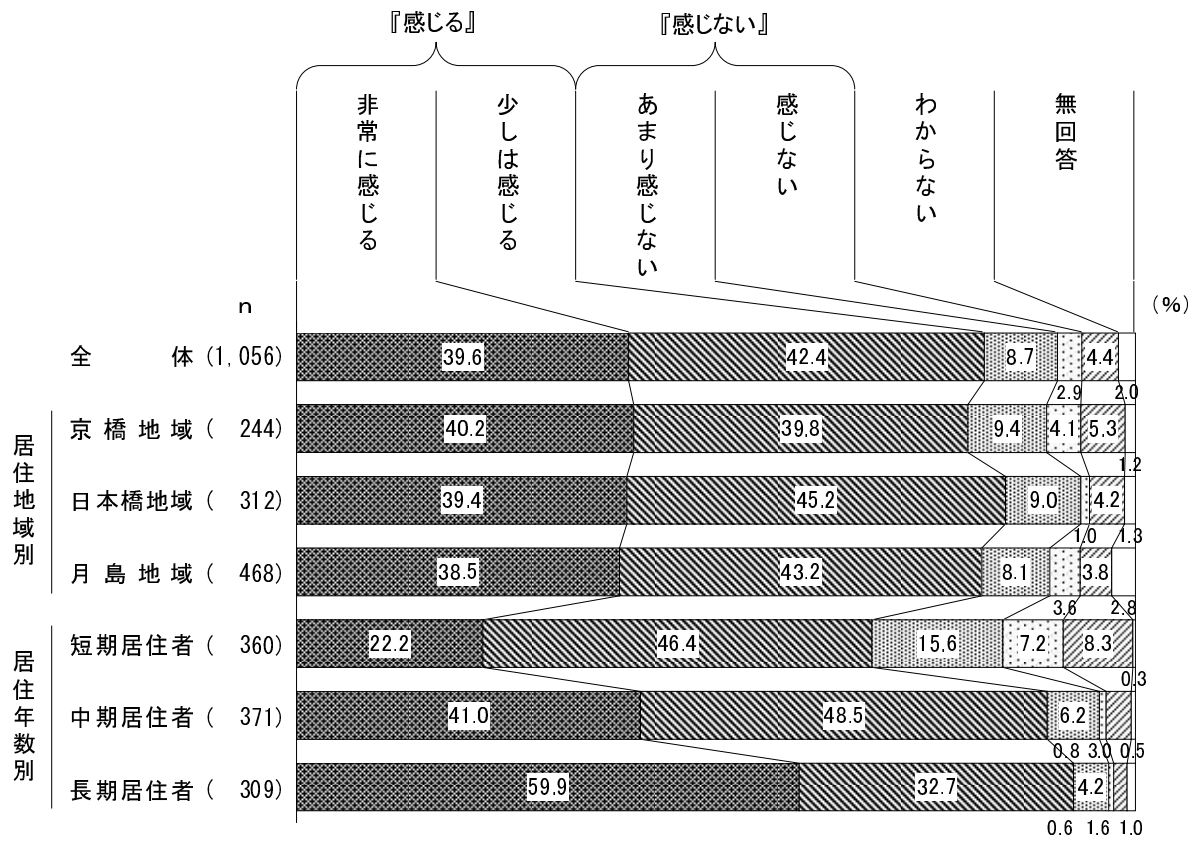
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は日本橋地域で8割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割を超えて高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

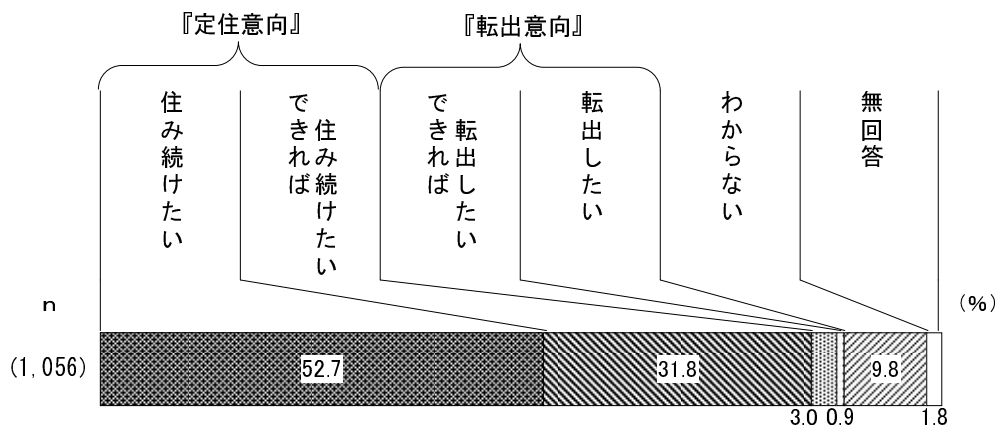
◇『定住意向』が8割台半ば

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)					
n = 1,056					
1	住み続けたい	52.7%	4	転出したい	0.9
2	できれば住み続けたい	31.8	5	わからない	9.8
3	できれば転出したい	3.0	(無回答)		1.8

定住意向は、「住み続けたい」(52.7%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(31.8%)と合わせた『定住意向』(84.5%)が8割台半ばとなっている。

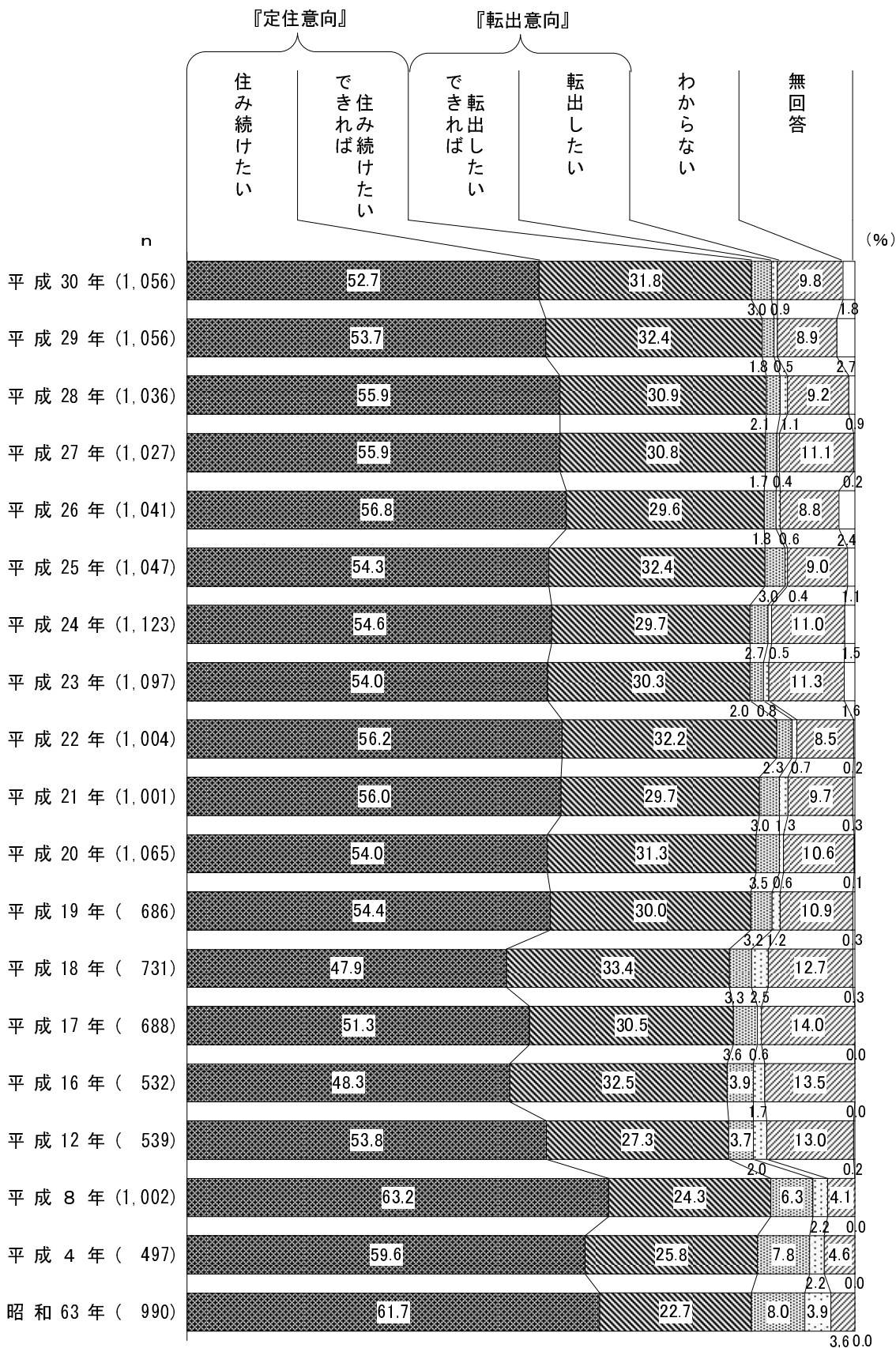
一方、「できれば転出したい」(3.0%)と「転出したい」(0.9%)を合わせた『転出意向』(3.9%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、平成23年以降大きな傾向の違いはみられない。(図表 1 - 3 - 2)

図表 1 - 3 - 2 定住意向一過年度比較



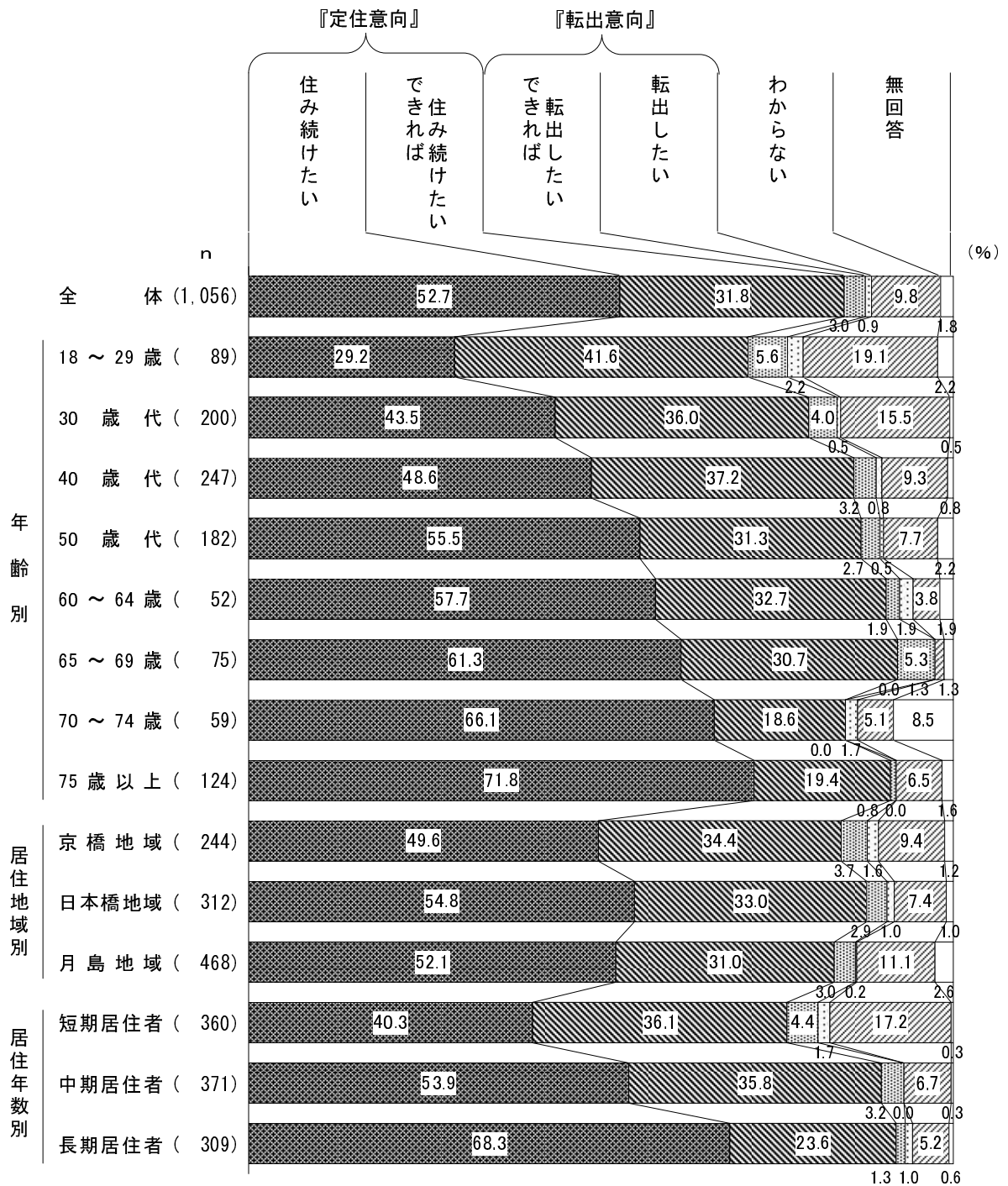
年齢別でみると、『定住意向』は65～69歳と75歳以上でともに9割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で9割を超えて高くなっている。

(図表 1-3-3)

図表 1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が6割を超える

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

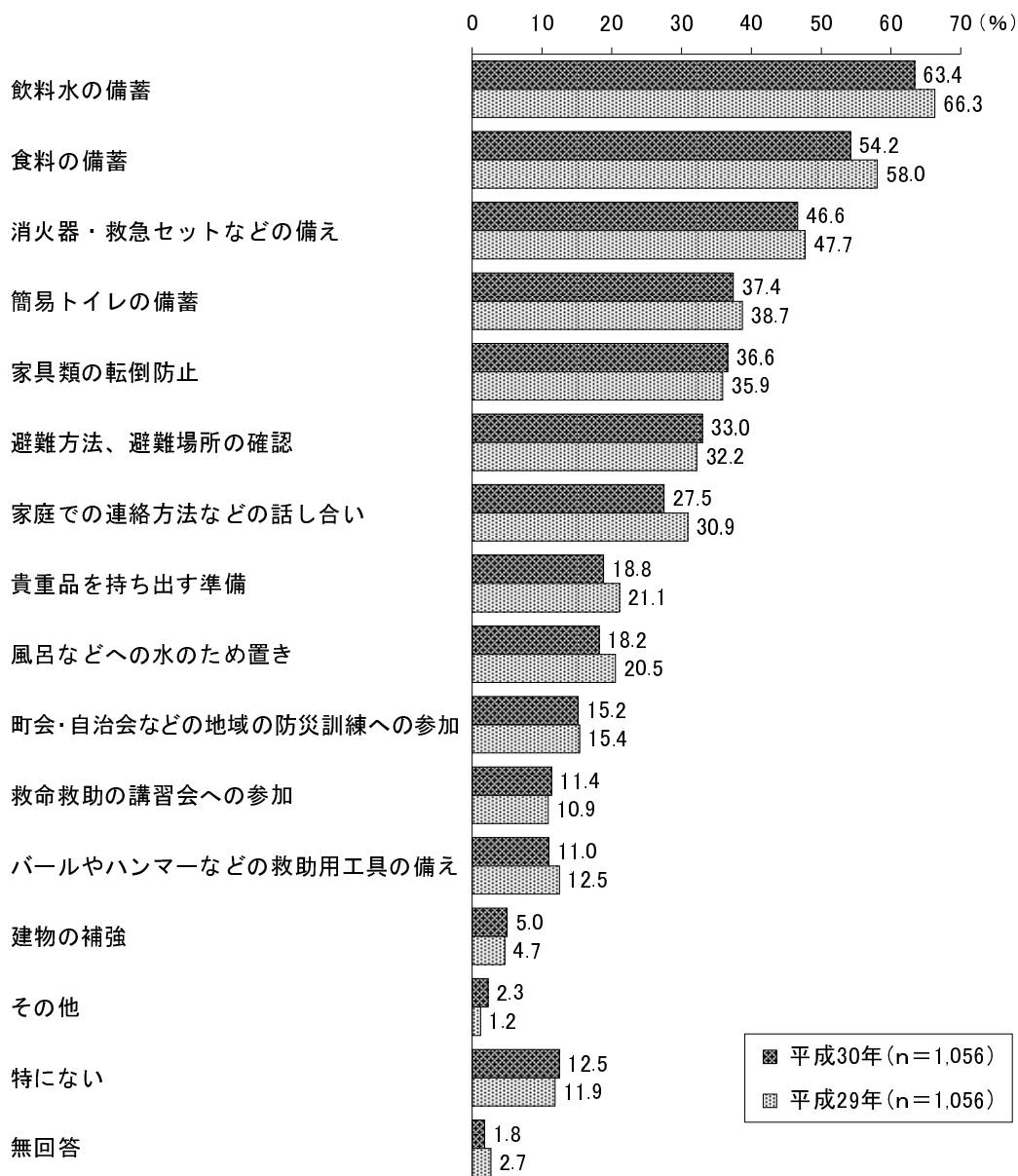
n = 1,056

1	食料の備蓄	54.2%
2	飲料水の備蓄	63.4
3	簡易トイレの備蓄	37.4
4	家具類の転倒防止	36.6
5	消火器・救急セットなどの備え	46.6
6	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	11.0
7	貴重品を持ち出す準備	18.8
8	風呂などへの水のため置き	18.2
9	救命救助の講習会への参加	11.4
10	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	15.2
11	避難方法、避難場所の確認	33.0
12	家庭での連絡方法などの話し合い	27.5
13	建物の補強	5.0
14	その他	2.3
15	特にない	12.5
	(無回答)	1.8

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(63.4%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(54.2%)、「消火器・救急セットなどの備え」(46.6%)、「簡易トイレの備蓄」(37.4%)、「家具類の転倒防止」(36.6%)、「避難方法、避難場所の確認」(33.0%)などとなっている。また、「特にない」(12.5%)は1割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「食料の備蓄」は3.8ポイント、「家庭での連絡方法などの話し合い」は3.4ポイント、それぞれ減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）

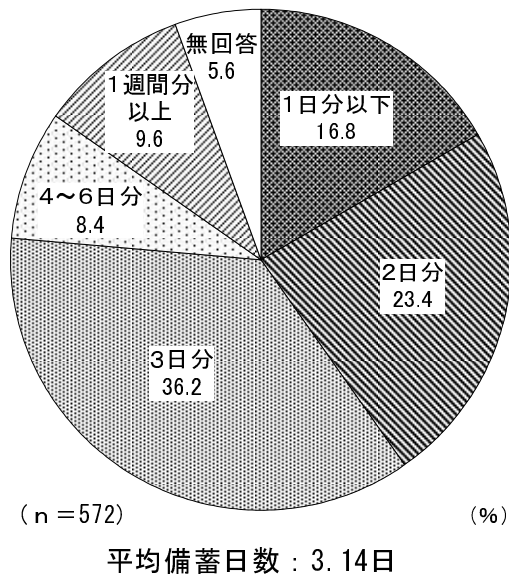


食料の備蓄日数は、「3日分」(36.2%)が3割台半ばで最も高く、平均備蓄日数は3.14日分となっている。(図表2-1-2)

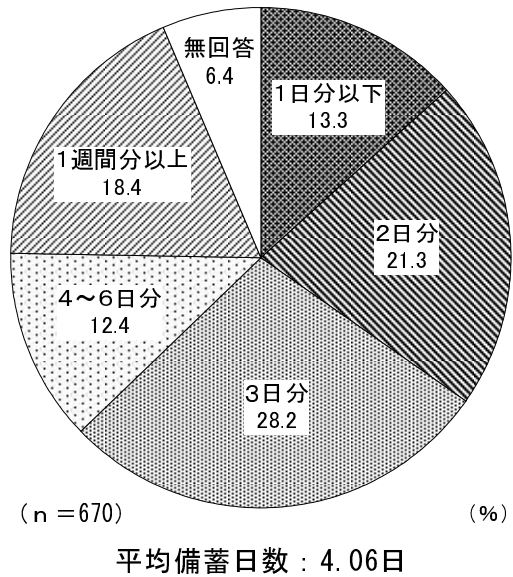
飲料水の備蓄日数は、「3日分」(28.2%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は4.06日分となっている。(図表2-1-3)

簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(28.1%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は4.12日分となっている。(図表2-1-4)

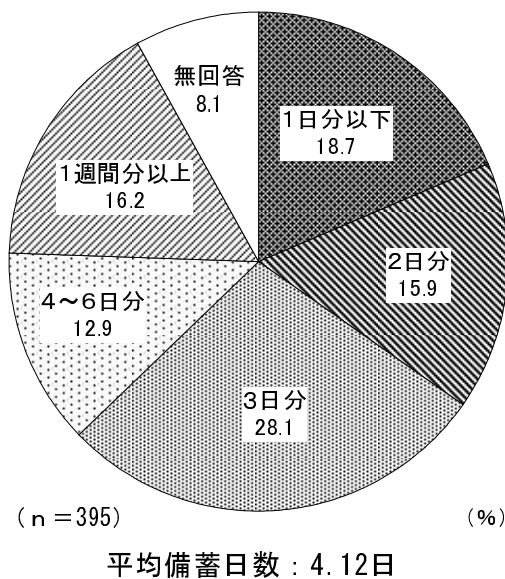
図表2-1-2 食料の備蓄日数



図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」および「消火器・救急セットなどの備え」が引き続き上位3項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

(%)

調査年	n	飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器・救急セットなどの備え	簡易トイレの備蓄	家具類の転倒防止	避難方法、避難場所の確認	家庭での話し合い、連絡方法などの	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	救命救助の講習会への参加	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	建物の補強	その他	特になし	無回答
平成30年	1,056	63.4	54.2	46.6	37.4	36.6	33.0	27.5	18.8	18.2	15.2	11.4	11.0	5.0	2.3	12.5	1.8
平成29年	1,056	66.3	58.0	47.7	38.7	35.9	32.2	30.9	21.1	20.5	15.4	10.9	12.5	4.7	1.2	11.9	2.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	44.8	33.2	33.5	36.0	32.7	19.6	23.5	16.0	12.7	12.5	4.5	2.6	11.1	1.1
平成27年	1,027	63.5	57.7	47.0	33.9	35.2	35.3	29.9	23.8	20.4	16.6	10.5	11.3	5.6	2.5	14.4	0.5
平成26年	1,041	67.0	60.7	50.1	36.4	37.9	37.7	33.5	22.1	25.5	16.8	14.2	12.5	4.0	2.5	10.2	3.4
平成25年	1,047	67.1	60.6	49.5	30.0	37.0	36.9	34.7	24.7	28.5	18.6	11.2	13.1	4.8	3.1	8.8	1.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	51.6	23.5	40.1	35.5	36.2	26.2	27.0	16.5	11.0	13.1	4.2	2.2	9.0	1.8
平成23年	1,097	63.1	51.0	39.5	19.3	36.7	30.5	35.1	31.6	28.4	11.5	6.2	8.5	2.3	1.9	7.1	2.0
平成22年	1,004	42.8	37.3	39.5	※	※	26.7	21.2	17.5	21.8	16.6	7.2	6.7	5.8	1.9	19.9	2.0
平成21年	1,001	41.0	36.4	37.2	※	21.0	24.3	23.1	13.4	19.9	14.2	7.5	4.7	3.0	0.9	20.3	1.4
平成20年	1,065	41.1	24.8	31.7	※	23.6	29.6	26.1	11.0	19.5	14.3	6.5	4.2	2.1	1.6	20.5	1.9
平成19年	686	42.6	26.5	36.7	※	21.3	24.3	16.9	12.8	22.6	14.0	6.0	4.5	1.6	0.7	25.8	0.7

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

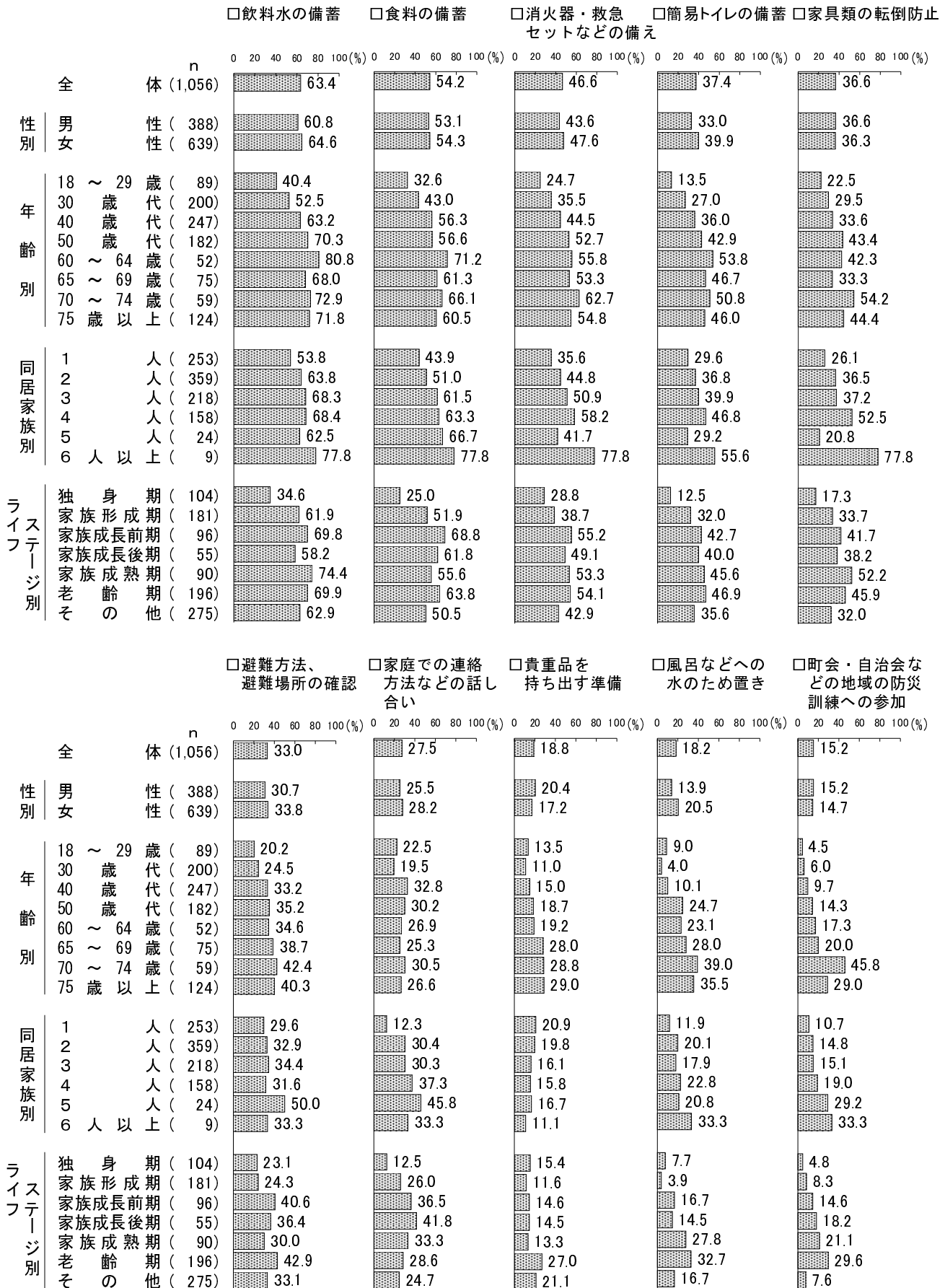
性別でみると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で6.9ポイント、「風呂などへの水のため置き」で6.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は60～64歳で約8割と高くなっている。「食料の備蓄」は60～64歳で7割を超えて高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は70～74歳で6割を超えて高くなっている。「町会・自治会などの地域の防災訓練への参加」は70～74歳で4割台半ばと高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」および「消火器・救急セットなどの備え」はいずれも同居家族2人以上に比べて同居家族1人で割合が低くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は家族成熟期で7割台半ばと高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長前期で7割近くと高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

◇「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」が3割を超える

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

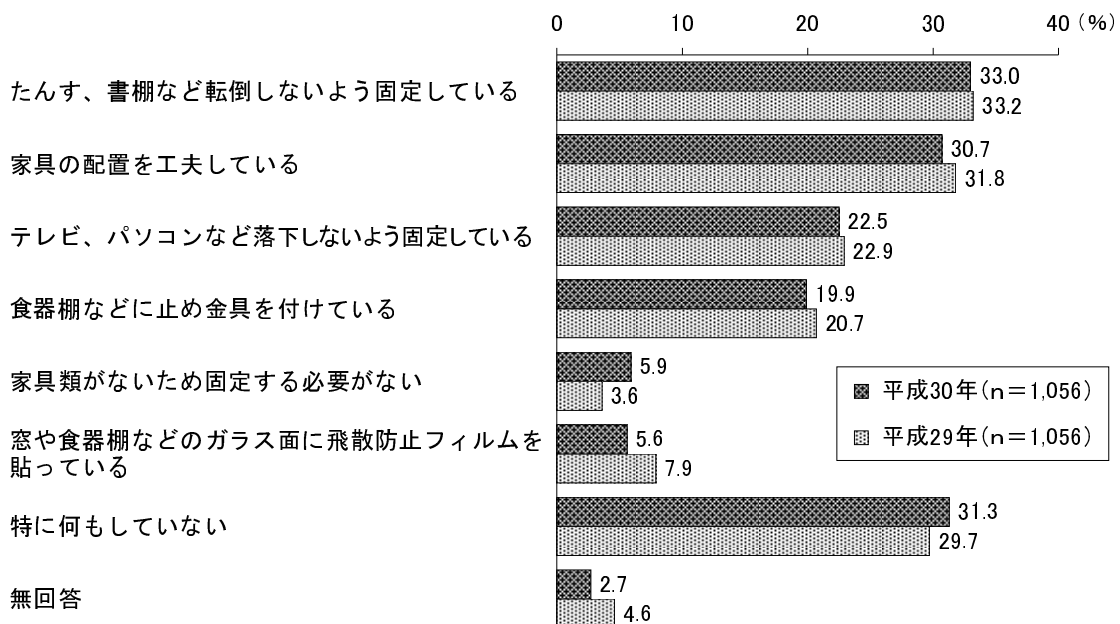
n = 1,056

1	たんす、書棚など転倒しないよう固定している	33.0%
2	テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	22.5
3	窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている	5.6
4	食器棚などに止め金具を付けている	19.9
5	家具の配置を工夫している	30.7
6	家具類がないため固定する必要がない	5.9
7	特に何もしていない	31.3
	(無回答)	2.7

家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えは、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(33.0%)が3割を超えている。次いで、「家具の配置を工夫している」(30.7%)、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(22.5%)、「食器棚などに止め金具を付けている」(19.9%)などとなっている。また、「特に何もしていない」(31.3%)は3割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「家具類がないため固定する必要がない」は2.3ポイント増加している。一方、「窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている」は2.3ポイント減少している。(図表2-2-1)

図表2-2-1 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」、「家具の配置を工夫している」および「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」が引き続き上位3項目となっている。(図表2-2-2)

図表2-2-2 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え一過年度比較

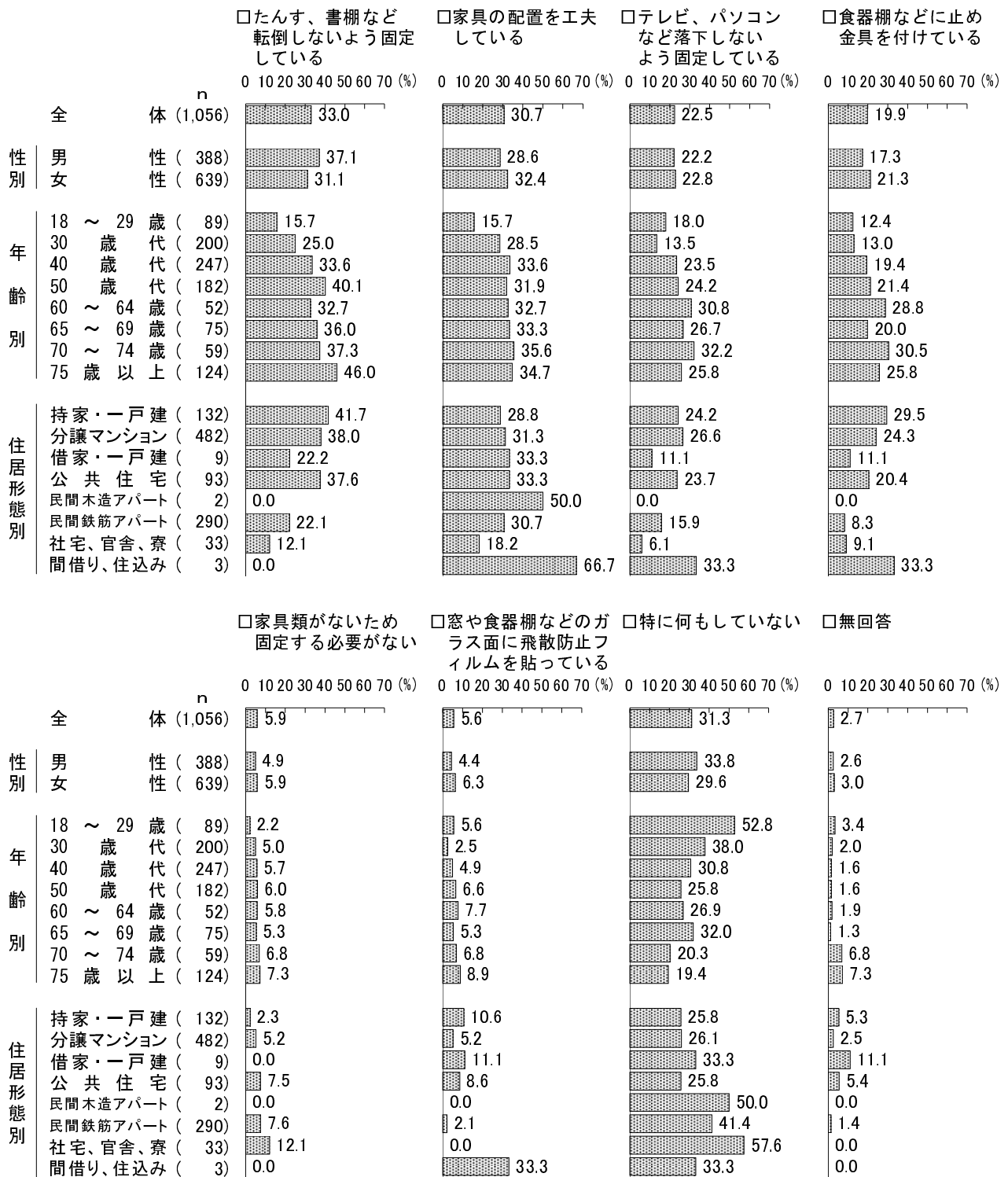
調査年	n	(%)							
		たんす、書棚など転倒しないよう固定している	家具の配置を工夫している	テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している	食器棚などに止め金具を付けている	家具類がないため固定する必要がある	窓や食器棚などのフィルムを貼っている	特に何もしていない	無回答
平成30年	1,056	33.0	30.7	22.5	19.9	5.9	5.6	31.3	2.7
平成29年	1,056	33.2	31.8	22.9	20.7	3.6	7.9	29.7	4.6
平成28年	1,036	31.2	32.5	21.8	18.5	2.7	6.9	33.6	1.9
平成27年	1,027	31.9	33.3	23.5	21.1	4.8	6.7	32.4	2.0
平成26年	1,041	32.4	31.8	25.0	21.8	4.9	9.3	27.4	3.6

性別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は男性の方が女性よりも6.0ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「食器棚などに止め金具を付けている」で4.0ポイント、「家具の配置を工夫している」で3.8ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は75歳以上で4割台半ばと高くなっている。「食器棚などに止め金具を付けている」は70～74歳で約3割と高くなっている。「特に何もしていない」は18～29歳で5割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」は持家・一戸建てで4割を超えて高くなっている。(図表2-2-3)

図表 2-2-3 家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備えー性別・年齢別・住居形態別



(3) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割を超える

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

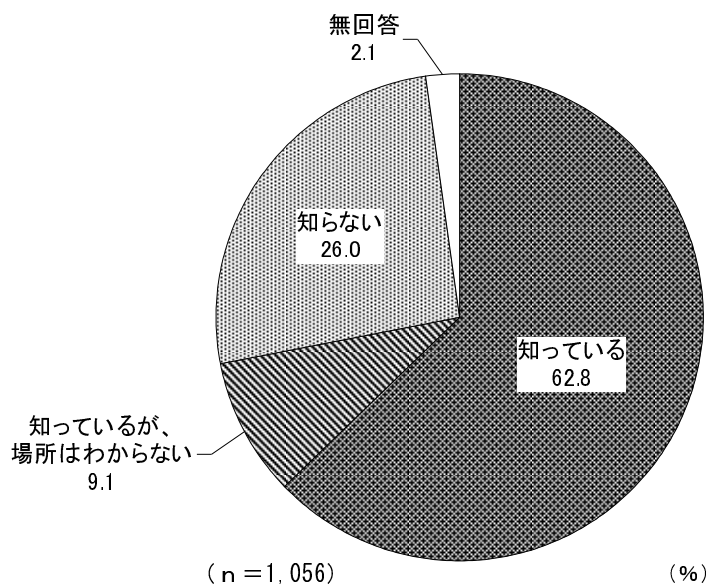
n = 1,056

1	知っている	62.8%	3	知らない	26.0
2	知っているが、場所はわからない	9.1		(無回答)	2.1

防災拠点の認知度は、「知っている」(62.8%)が6割を超えて高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(9.1%)は約1割で、「知らない」(26.0%)は2割台半ばとなっている。

(図表2-3-1)

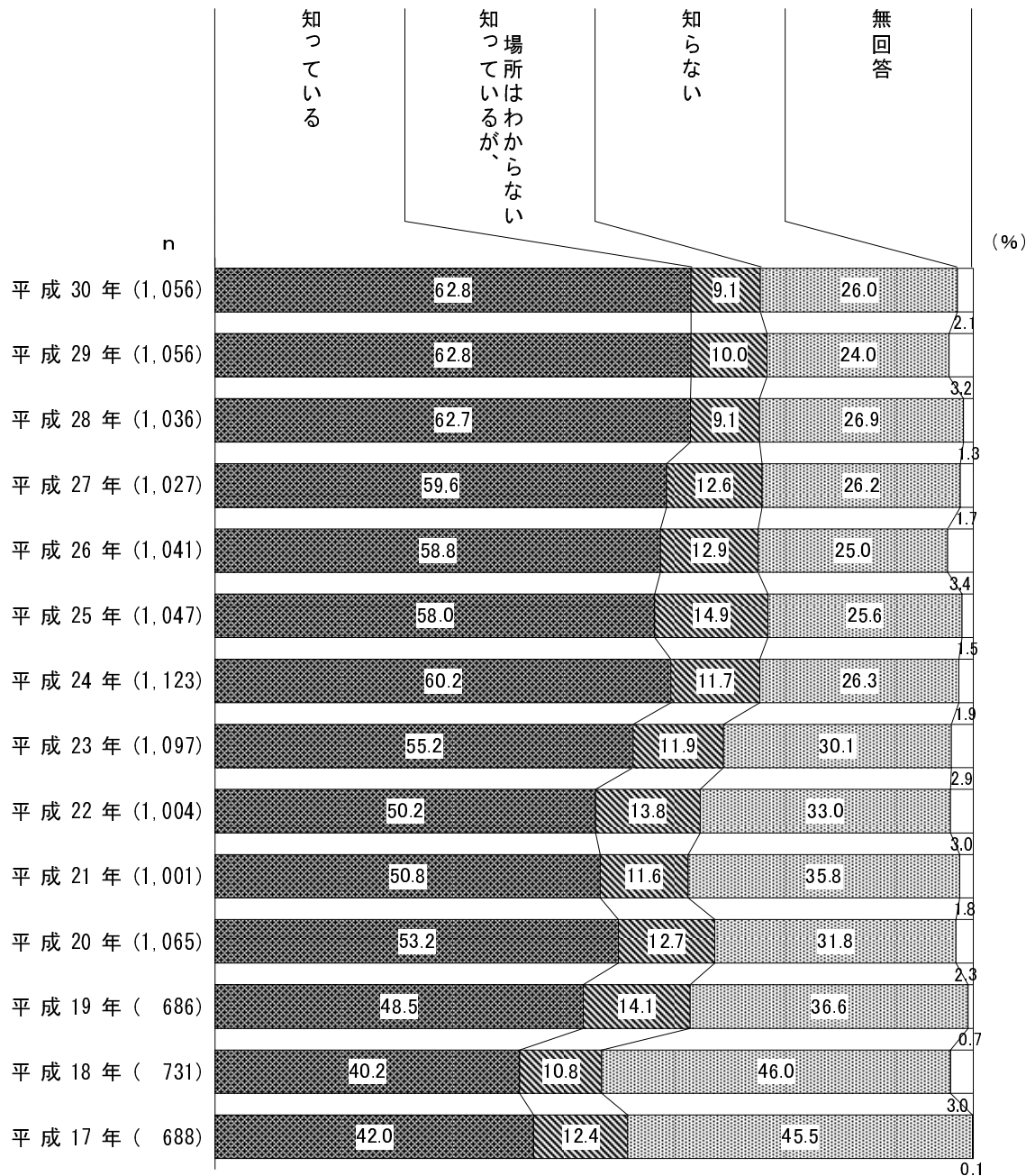
図表2-3-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成28年以降6割台で推移している。

(図表2-3-2)

図表2-3-2 防災拠点の認知度一過年度比較

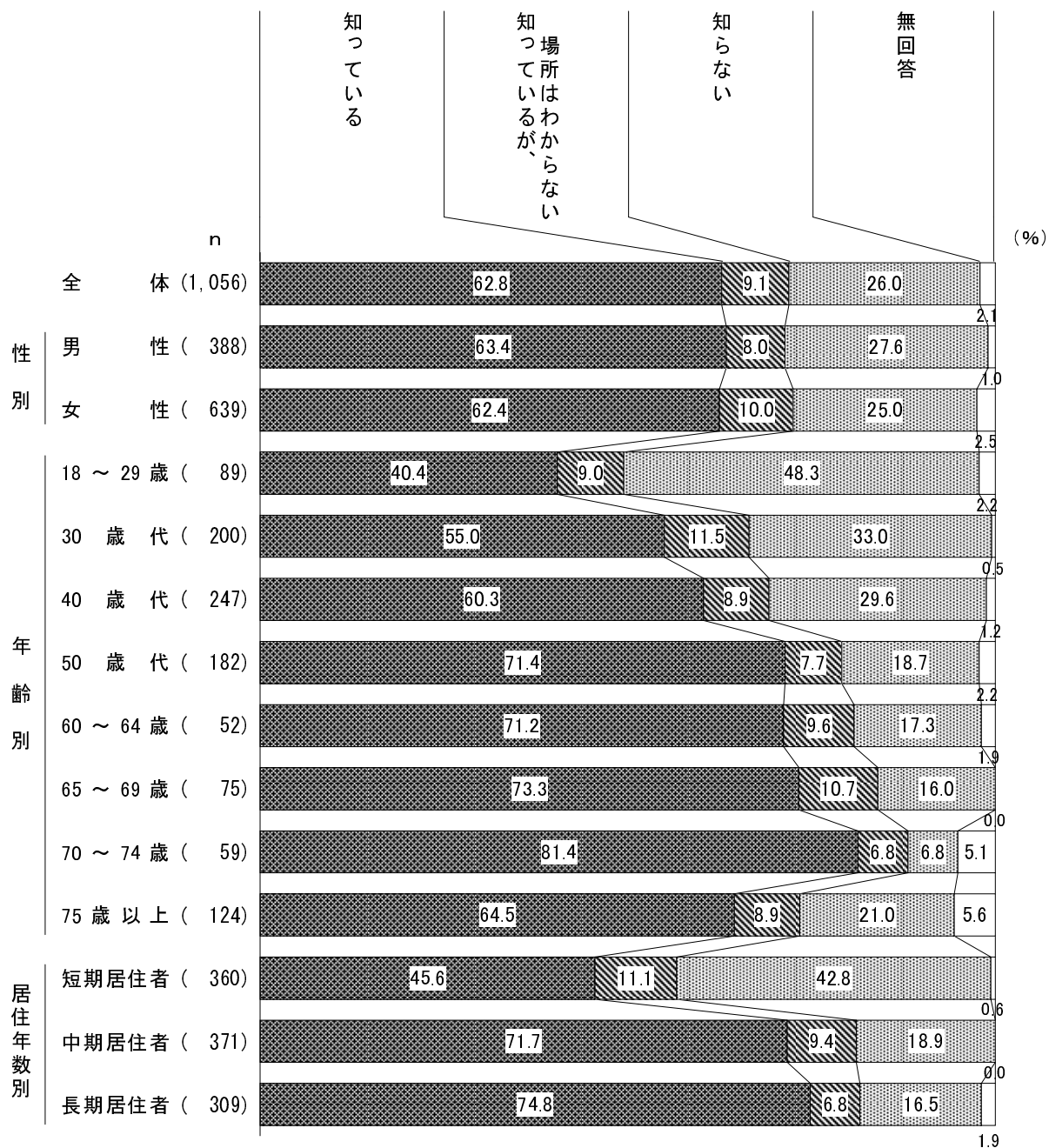


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別でみると、「知っている」は70～74歳で8割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は短期居住者では4割台半ばとなっているのに対し、中期居住者では7割を超え、長期居住者では7割台半ばと高くなっている。(図表2-3-3)

図表2-3-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



(4) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が2割台半ば

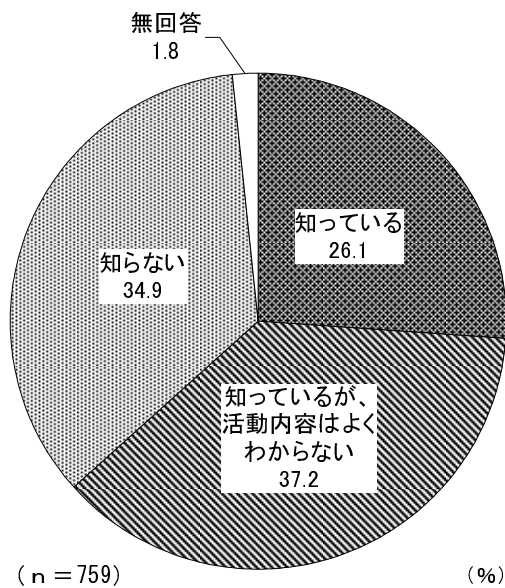
(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

n = 759

1 知っている	26.1%	3 知らない	34.9
2 知っているが、活動内容はよくわからない	37.2	(無回答)	1.8

問6で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(26.1%)が2割台半ばとなっている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(37.2%)は4割近くで、「知らない」(34.9%)は3割台半ばとなっている。(図表2-4-1)

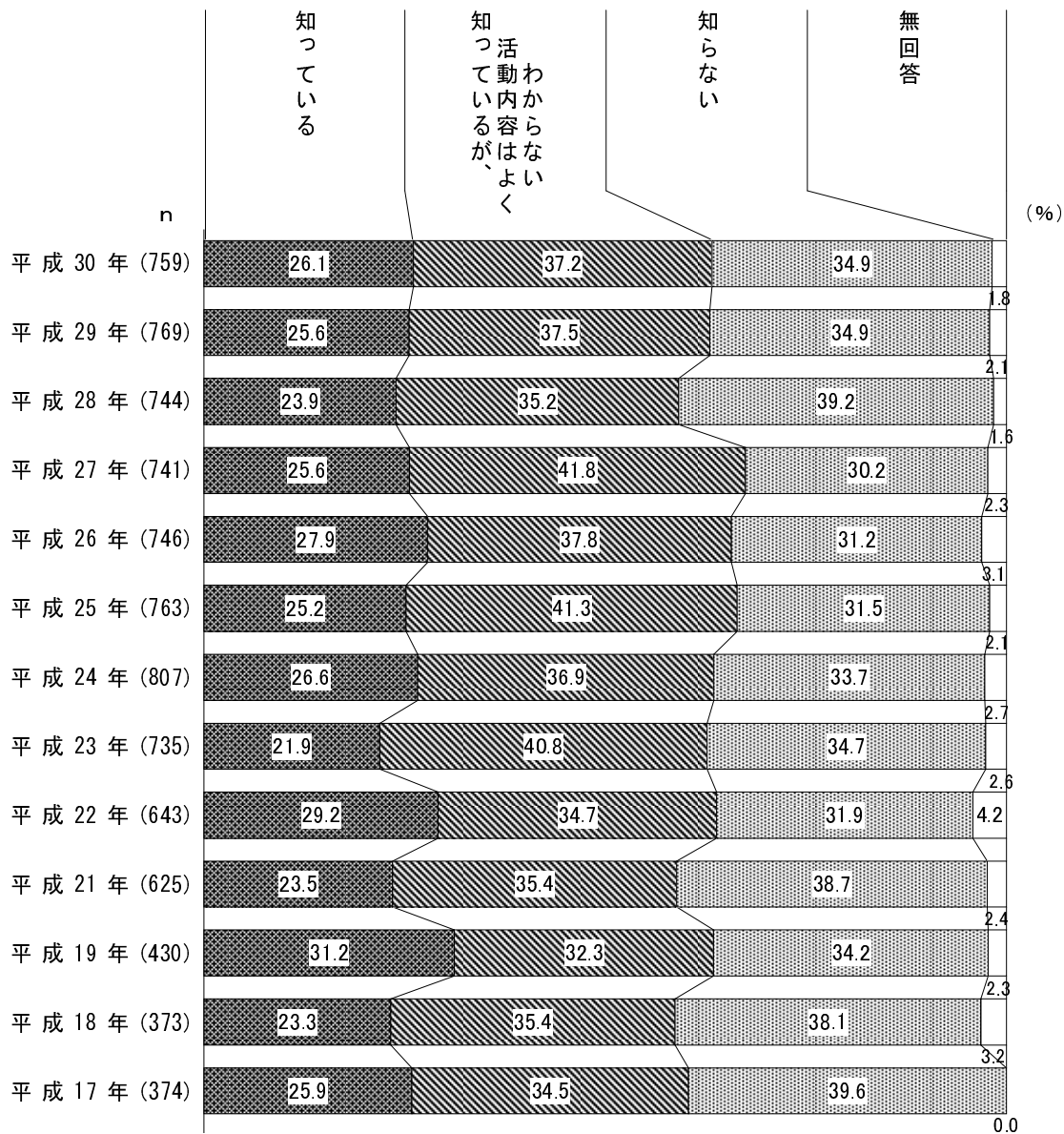
図表2-4-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、平成29年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

(図表 2-4-2)

図表 2-4-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(5) 避難の際に心配なこと

◇「トイレ」が8割近く

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

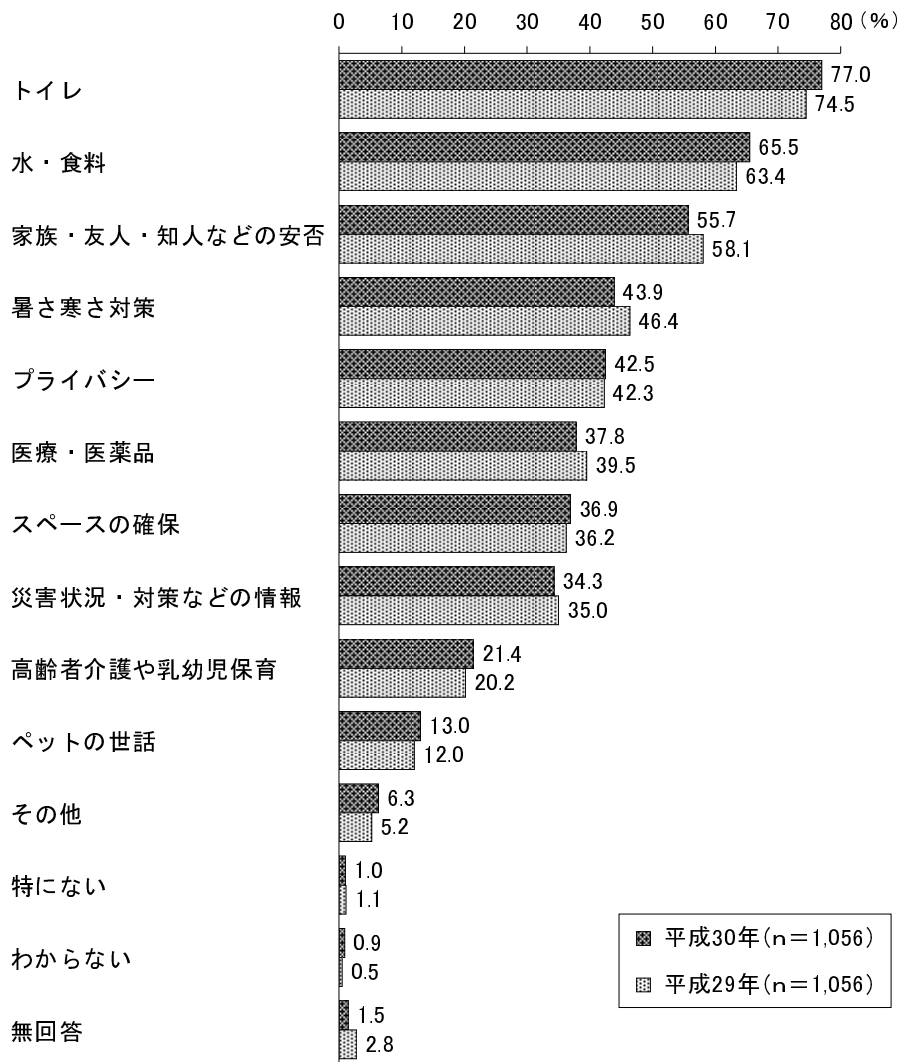
n = 1,056

1	水・食料	65.5%	8	スペースの確保	36.9
2	トイレ	77.0	9	暑さ寒さ対策	43.9
3	プライバシー	42.5	10	ペットの世話	13.0
4	家族・友人・知人などの安否	55.7	11	その他	6.3
5	災害状況・対策などの情報	34.3	12	特にない	1.0
6	医療・医薬品	37.8	13	わからない	0.9
7	高齢者介護や乳幼児保育	21.4		(無回答)	1.5

避難の際に心配なことは、「トイレ」(77.0%)が8割近くで最も高くなっている。次いで、「水・食料」(65.5%)、「家族・友人・知人などの安否」(55.7%)、「暑さ寒さ対策」(43.9%)、「プライバシー」(42.5%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「トイレ」は2.5ポイント、「水・食料」は2.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「暑さ寒さ対策」は2.5ポイント、「家族・友人・知人などの安否」は2.4ポイント、それぞれ減少している。(図表2-5-1)

図表2-5-1 避難の際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」、「水・食料」および「家族・友人・知人などの安否」が引き続き上位3項目となっている。

(図表2-5-2)

図表2-5-2 避難の際に心配なこと一過年度比較

(%)

調査年	n	トイレ	水・食料	家族・友人・知人などの安否	暑さ寒さ対策	プライバシー	医療・医薬品	スペースの確保	災害状況・対策などの情報	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答	避難スペースの確保や暑さ
平成30年	1,056	77.0	65.5	55.7	43.9	42.5	37.8	36.9	34.3	21.4	13.0	6.3	1.0	0.9	1.5	※
平成29年	1,056	74.5	63.4	58.1	46.4	42.3	39.5	36.2	35.0	20.2	12.0	5.2	1.1	0.5	2.8	※
平成28年	1,036	78.5	69.3	56.2	47.6	48.1	41.2	38.8	35.6	24.8	11.3	6.2	0.5	0.5	0.8	※
平成27年	1,027	75.5	67.7	61.1	46.1	38.3	42.7	31.5	35.9	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	62.4	46.2	38.9	45.9	31.8	40.1	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	62.6	47.7	40.4	43.9	30.3	37.5	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	64.8	44.5	37.1	38.7	29.0	38.3	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	55.1	53.2	45.7	43.4	33.2	37.9	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	56.8	36.7	27.0	43.1	37.6	33.2	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	50.2	39.8	34.6	41.1	40.1	33.0	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	60.4	40.3	29.8	46.9	41.4	34.2	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	62.0	※	25.9	48.4	※	40.7	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

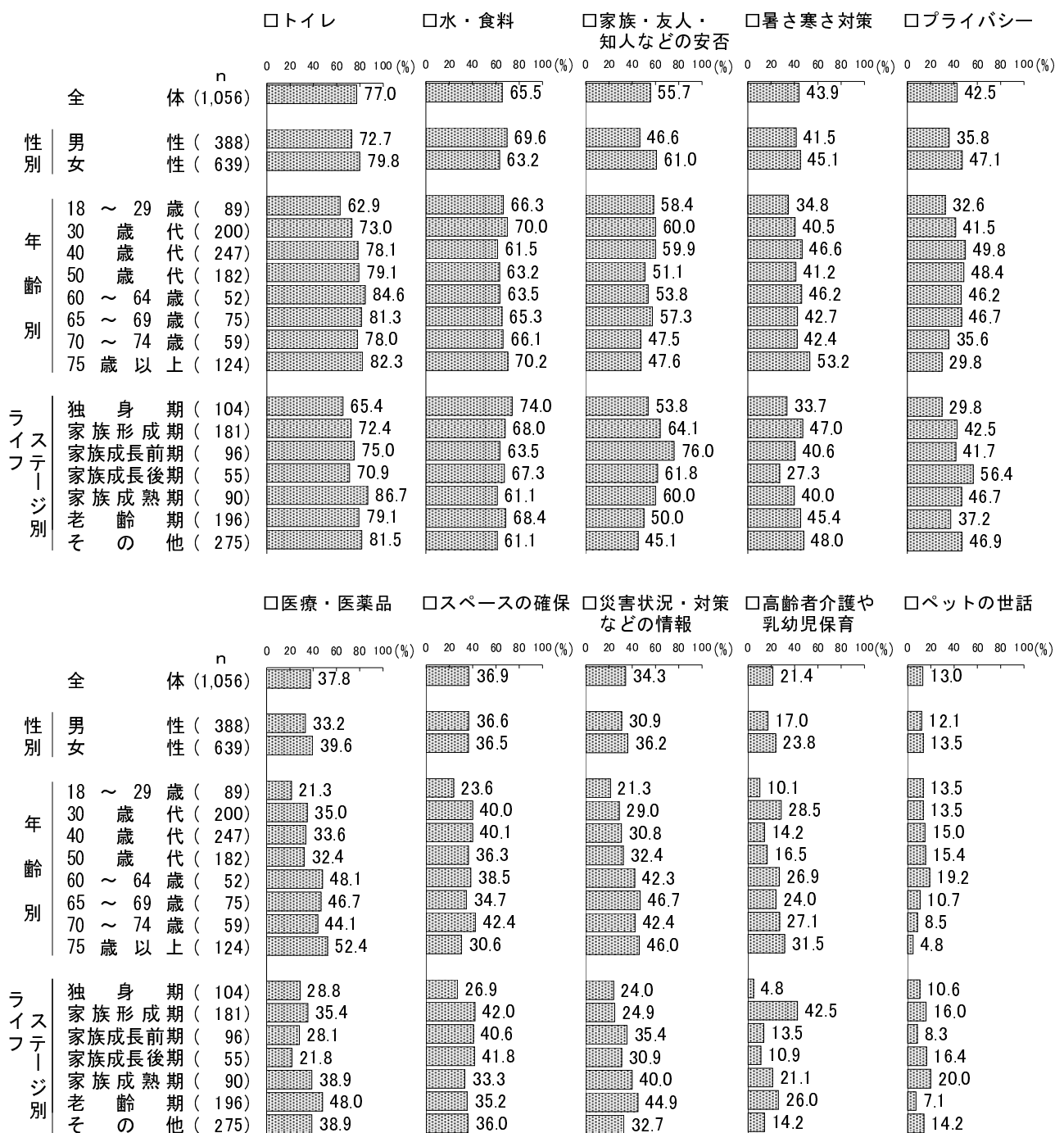
* 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「家族・友人・知人などの安否」で14.4ポイント、「プライバシー」で11.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は60～64歳で8割台半ばと高くなっている。「暑さ寒さ対策」は75歳以上で5割を超えて高くなっている。「医療・医薬品」は75歳以上で5割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「家族・友人・知人などの安否」は家族成長前期で7割台半ばと高くなっている。「プライバシー」は家族成長後期で5割台半ばと高くなっている。「高齢者介護や乳幼児保育」は家族形成期で4割を超えて高くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 避難の際に心配なことー性別・年齢別・ライフステージ別(上位10項目)



(6) 災害時に協力できる活動

◇「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」が5割を超える

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

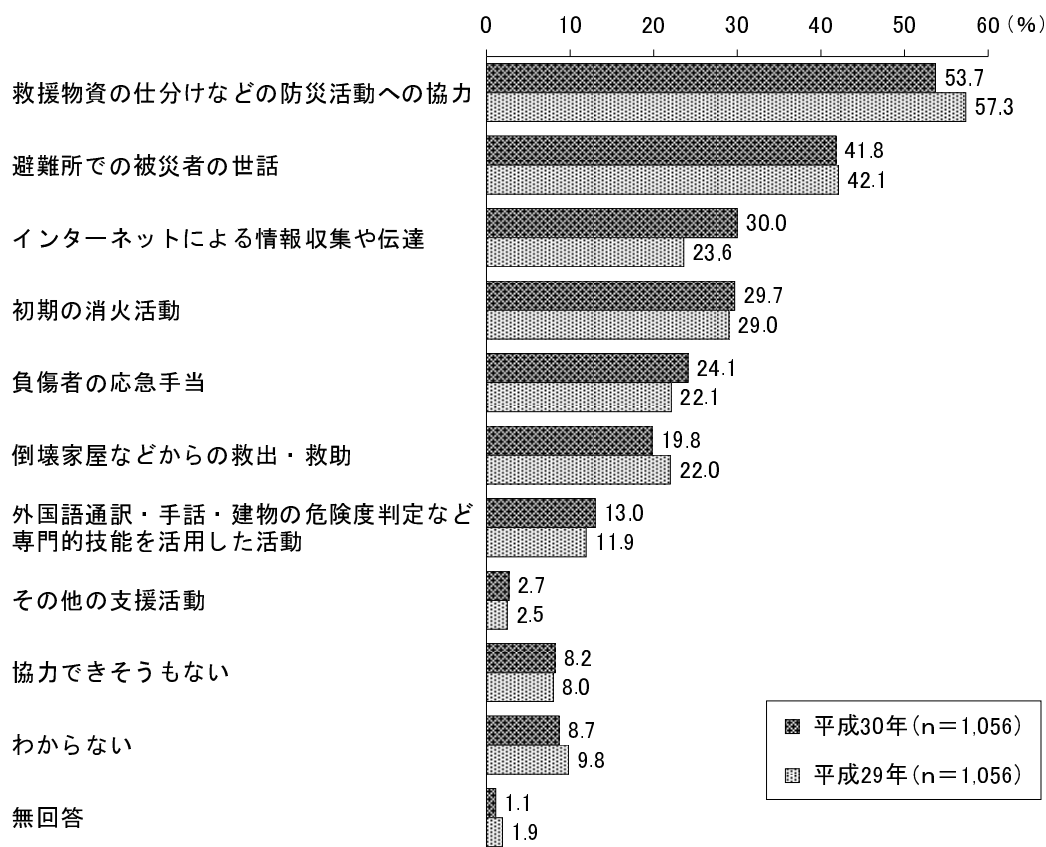
1	負傷者の応急手当	24.1%
2	倒壊家屋などからの救出・救助	19.8
3	初期の消火活動	29.7
4	避難所での被災者の世話	41.8
5	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	53.7
6	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	13.0
7	インターネットによる情報収集や伝達	30.0
8	その他の支援活動	2.7
9	協力できそうもない	8.2
10	わからない	8.7
	(無回答)	1.1

災害時に協力できる活動は、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」(53.7%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「避難所での被災者の世話」(41.8%)、「インターネットによる情報収集や伝達」(30.0%)、「初期の消火活動」(29.7%)、「負傷者の応急手当」(24.1%)、「倒壊家屋などからの救出・救助」(19.8%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「インターネットによる情報収集や伝達」は6.4ポイント増加している。一方、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は3.6ポイント減少している。

(図表2-6-1)

図表 2-6-1 災害時に協力できる活動（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」と「避難所での被災者の世話」が引き続き上位2項目となっている。（図表 2-6-2）

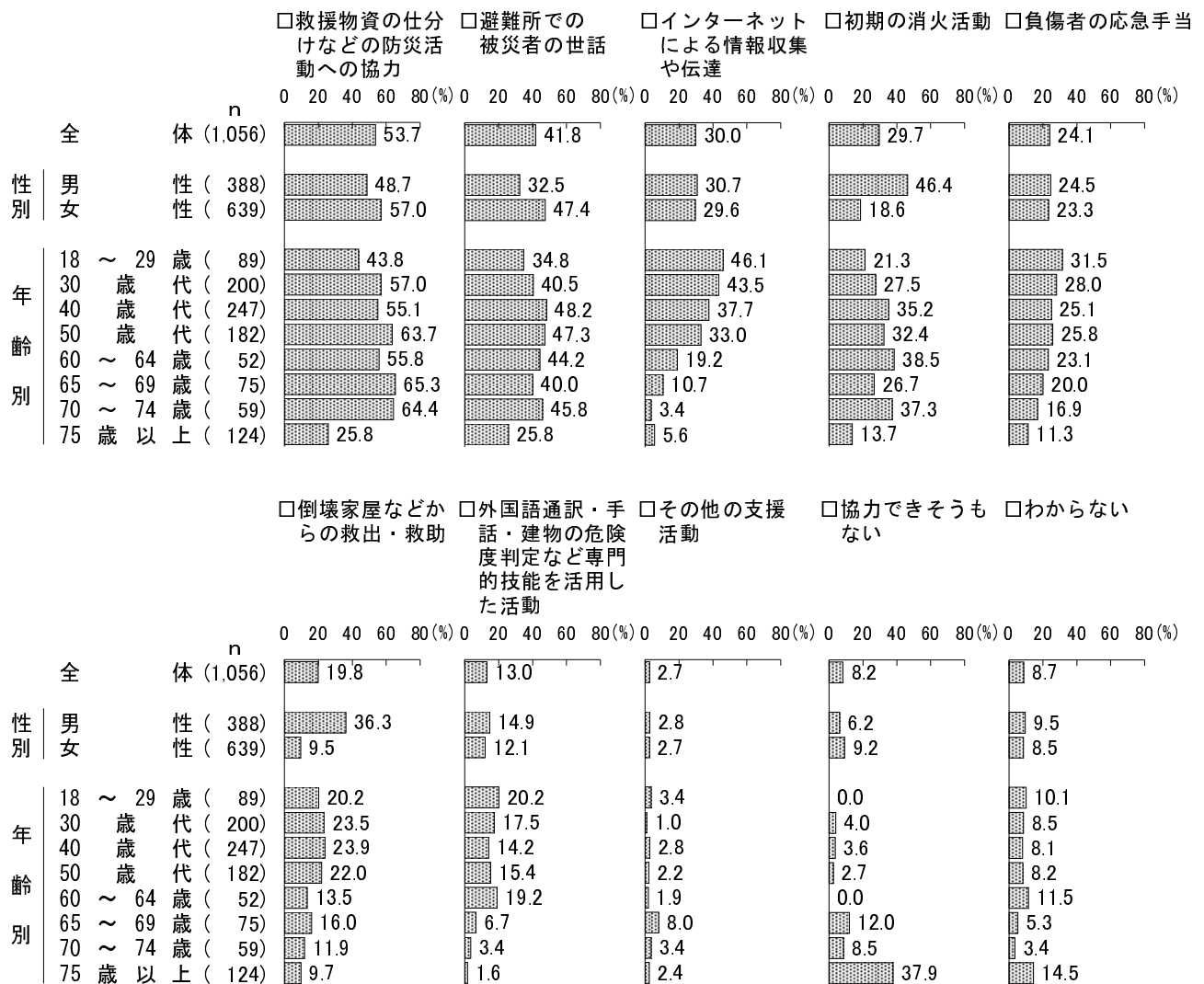
図表 2-6-2 災害時に協力できる活動—過年度比較

調査年	n	救援物資の仕分けなどの防災活動への協力	避難所での被災者の世話	インターネットによる情報収集や伝達	初期の消火活動	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
平成30年	1,056	53.7	41.8	30.0	29.7	24.1	19.8	13.0	2.7	8.2	8.7	1.1
平成29年	1,056	57.3	42.1	23.6	29.0	22.1	22.0	11.9	2.5	8.0	9.8	1.9
平成28年	1,036	59.6	42.6	24.1	33.0	23.7	23.4	11.3	4.3	8.6	7.3	1.3
平成27年	1,027	55.6	46.5	23.7	35.5	25.0	26.2	11.9	3.4	8.5	10.4	1.9
平成26年	1,041	54.9	46.2	26.1	34.7	23.2	23.7	10.1	4.0	6.8	8.3	2.8
平成25年	1,047	59.9	48.2	25.0	34.6	26.2	26.4	10.5	3.2	7.1	7.2	1.5
平成24年	1,123	55.2	45.2	23.1	34.6	25.4	25.7	9.9	3.8	6.7	7.1	2.0
平成23年	1,097	61.7	50.9	28.1	33.2	23.3	23.8	10.9	3.4	7.5	6.2	2.0
平成22年	1,004	49.0	41.9	19.1	35.7	27.0	23.6	8.6	1.9	11.1	8.3	1.9
平成21年	1,001	52.2	41.2	17.8	35.0	27.4	25.1	9.0	1.3	10.8	10.1	1.6
平成20年	1,065	52.2	39.3	15.9	33.4	22.4	24.5	7.8	1.5	8.5	11.2	2.5
平成19年	686	43.6	41.5	15.6	37.5	31.3	29.5	5.6	1.9	8.5	10.1	1.6

性別でみると、男性の方が女性よりも「初期の消火活動」で27.8ポイント、「倒壊家屋などからの救出・救助」で26.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「避難所での被災者の世話」で14.9ポイント、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」で8.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「救援物資の仕分けなどの防災活動への協力」は65～69歳と70～74歳でともに6割台半ばと高くなっている。「インターネットによる情報収集や伝達」と「負傷者の応急手当」はともにおおむね低い年代ほど割合が高くなっている。(図表2-6-3)

図表2-6-3 災害時に協力できる活動—性別・年齢別



(7) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割台半ば

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

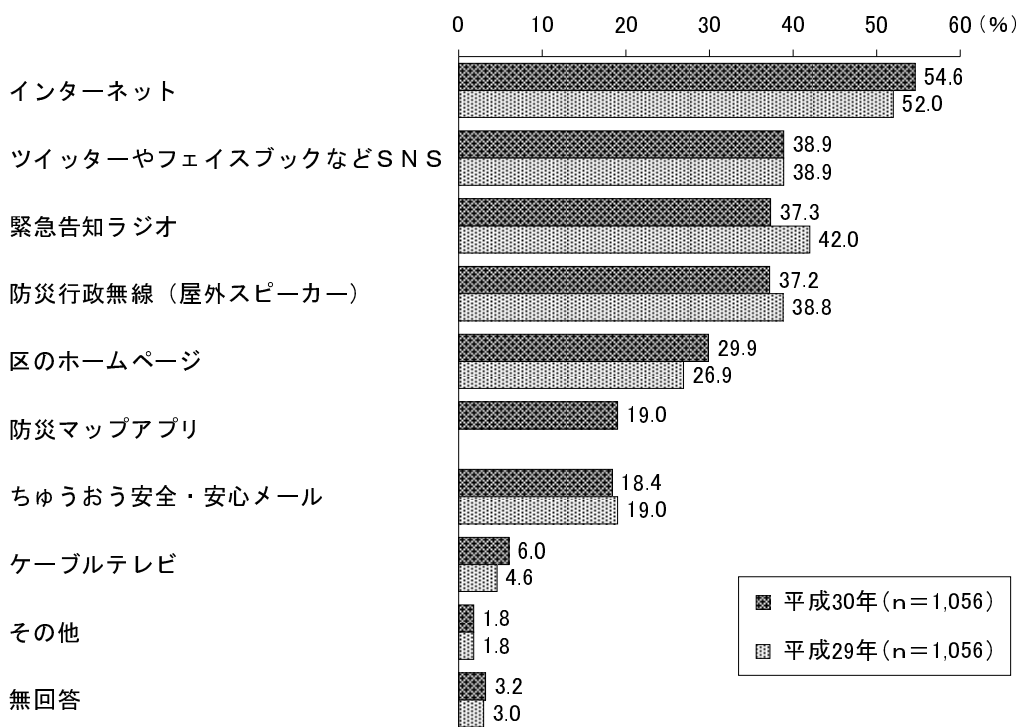
1	区のホームページ	29.9%
2	防災マップアプリ	19.0
3	ちゅうおう安全・安心メール	18.4
4	インターネット	54.6
5	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	38.9
6	防災行政無線(屋外スピーカー)	37.2
7	緊急告知ラジオ	37.3
8	ケーブルテレビ	6.0
9	その他	1.8
	(無回答)	3.2

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さまへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(54.6%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(38.9%)、「緊急告知ラジオ」(37.3%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(37.2%)、「区のホームページ」(29.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「緊急告知ラジオ」は4.7ポイント減少している。(図表2-7-1)

図表2-7-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの(複数回答)



* 「防災マップアプリ」の選択肢は、今回調査で追加した選択肢

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降5割以上で推移している。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は平成28年以降4割前後で推移している。(図表2-7-2)

図表2-7-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—過年度比較

(%)

調査年	n	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどSNS	緊急告知ラジオ	防災行政無線(屋外スピーカー)	区のホームページ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
平成30年	1,056	54.6	38.9	37.3	37.2	29.9	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	38.9	42.0	38.8	26.9	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	38.3	40.2	40.6	27.5	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	31.6	42.7	39.6	28.6	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	30.5	45.6	40.7	25.4	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	29.5	47.3	47.3	26.7	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	27.6	48.8	44.5	22.1	※	15.0	7.2	3.0	3.9

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

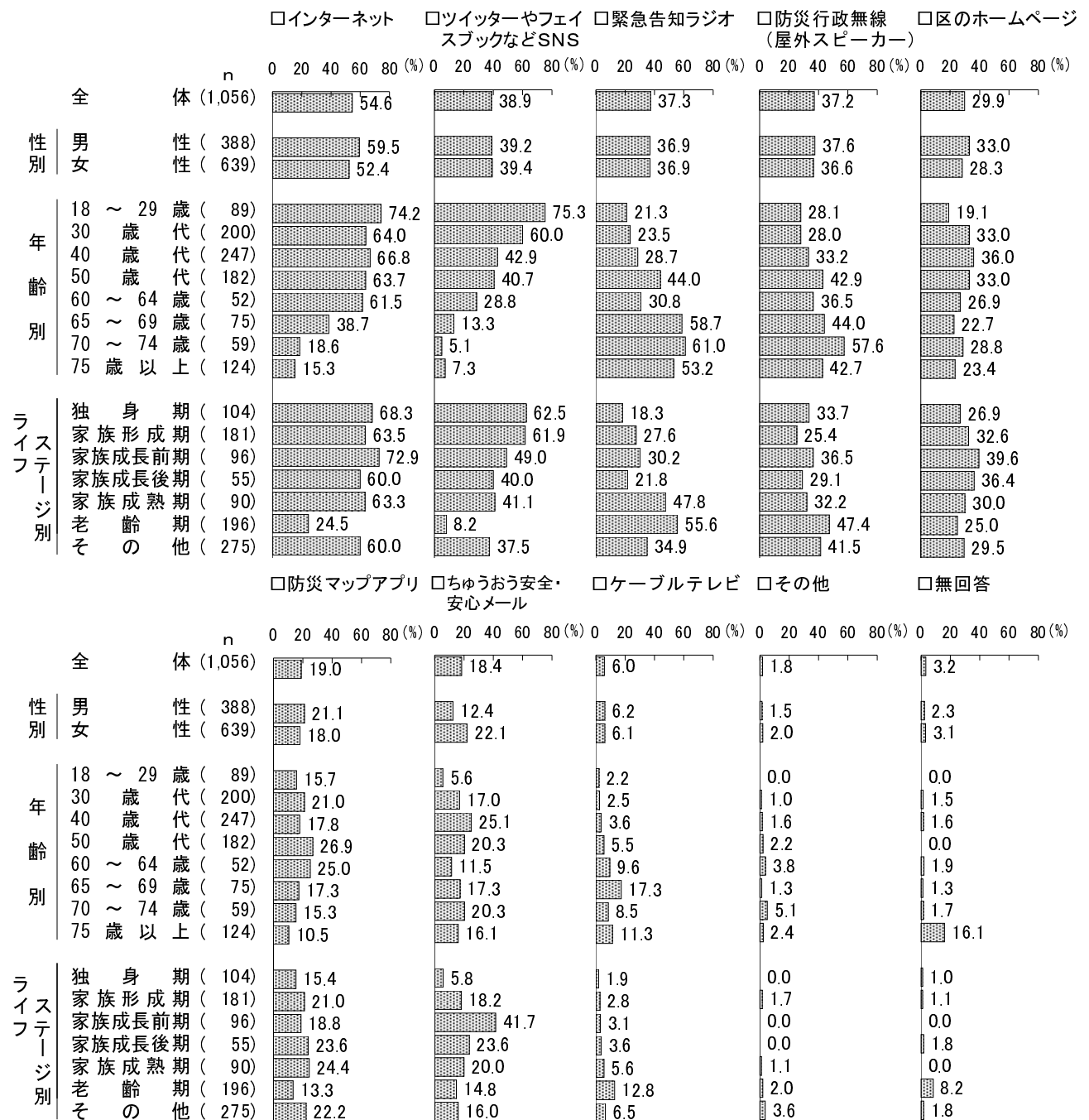
性別でみると、「ちゅうおう安全・安心メール」は女性の方が男性よりも9.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「インターネット」で7.1ポイント、「区のホームページ」で4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「インターネット」は18～29歳で7割台半ば、30歳代から60～64歳の年代でそれぞれ6割台と高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」はおおむね低い年代ほど割合が高くなっている。「緊急告知ラジオ」は70～74歳で6割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は独身期と家族形成期でともに6割を超えて高くなっている。「緊急告知ラジオ」は高齢期で5割台半ばと高くなっている。「ちゅうおう安全・安心メール」は家族成長前期で4割を超えて高くなっている。

(図表 2-7-3)

図表 2-7-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの－性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

(1) 加入している健康保険

◇「健康保険組合」が4割台半ば

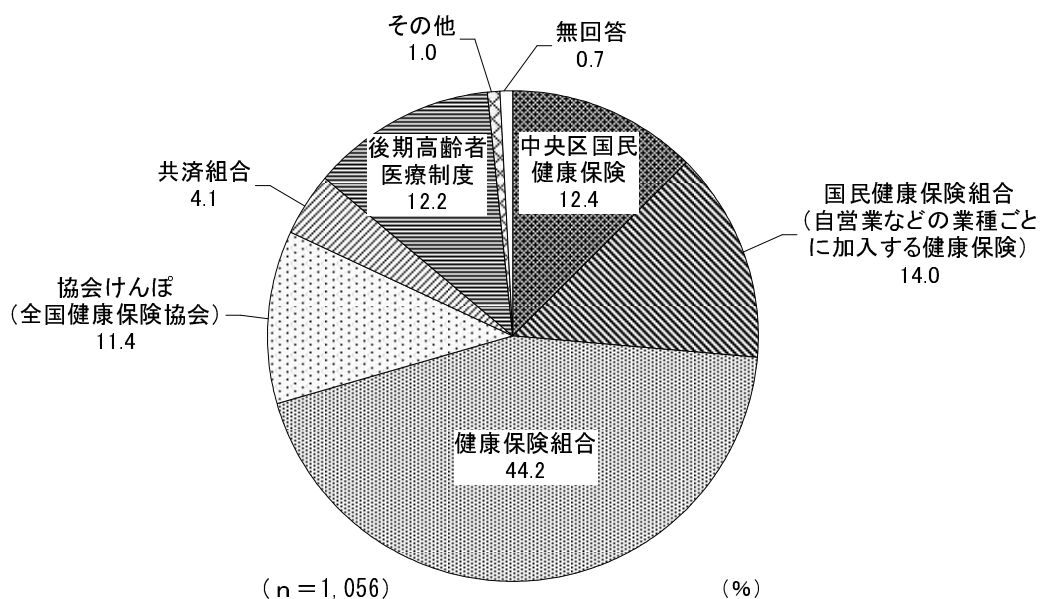
問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

n = 1,056

1	中央区国民健康保険	12.4%
2	国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）	14.0
3	健康保険組合	44.2
4	協会けんぽ（全国健康保険協会）	11.4
5	共済組合	4.1
6	後期高齢者医療制度	12.2
7	その他	1.0
	(無回答)	0.7

加入している健康保険は、「健康保険組合」（44.2%）が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）」（14.0%）、「中央区国民健康保険」（12.4%）、「後期高齢者医療制度」（12.2%）、「協会けんぽ（全国健康保険協会）」（11.4%）などとなっている。（図表3-1-1）

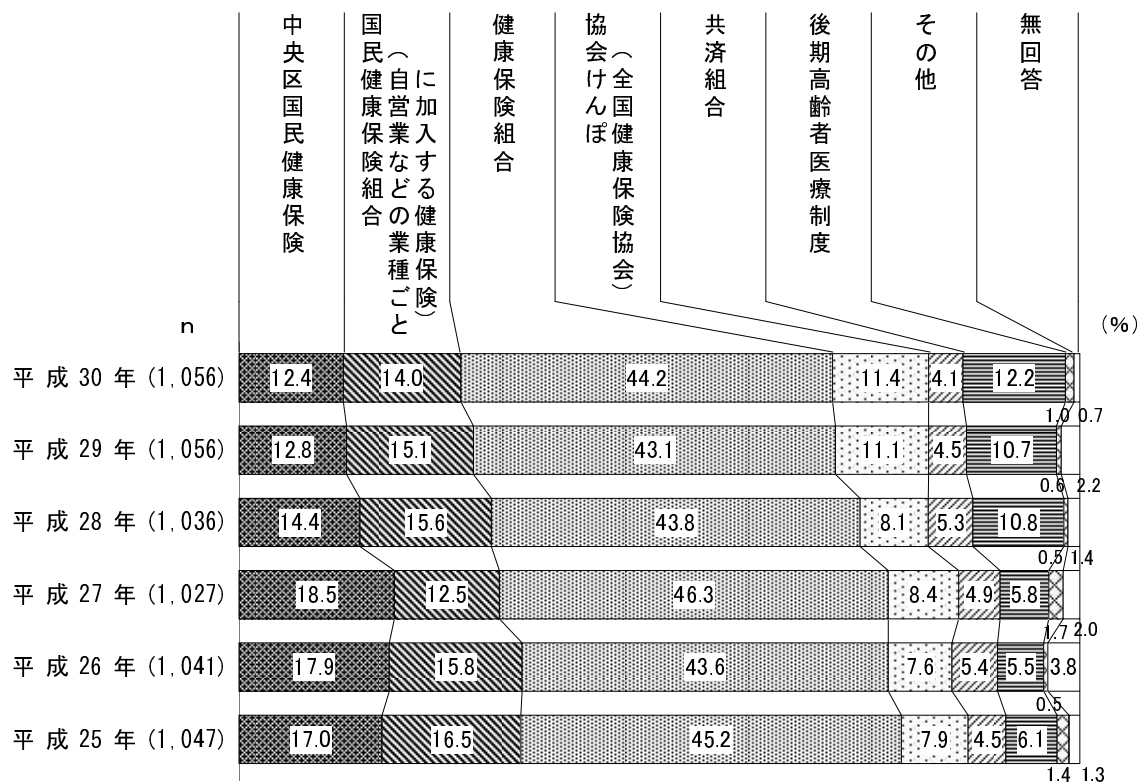
図表3-1-1 加入している健康保険



過去の調査結果と比較すると、「後期高齢者医療制度」は平成29年より1.5ポイント増加している。

(図表3-1-2)

図表3-1-2 加入している健康保険一過年度比較



(※注) 平成28年以降の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「75歳以上」と答えた方については、この質問で「その他」と回答した方を除いて、記入のいかんを問わず「後期高齢者医療制度」に振り替えて集計している。平成27年以前の調査では、回答者の年齢を聞く質問で「70～74歳」と「75歳以上」を区別せず、「70歳以上」の選択肢で質問していたため、前述のような処理は行っていない。

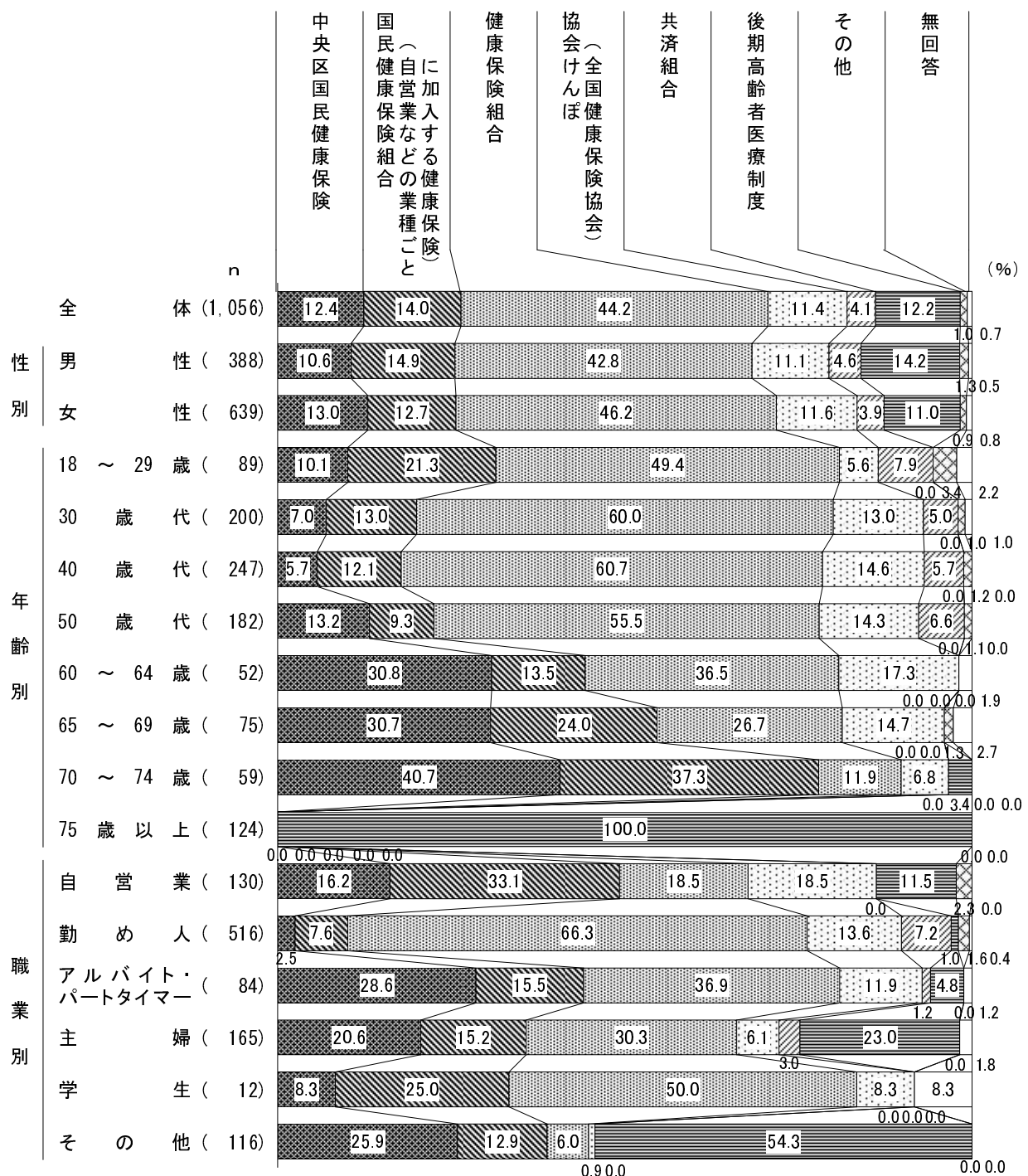
性別でみると、「健康保険組合」は女性の方が男性よりも3.4ポイント高くなっている。一方、「後期高齢者医療制度」は男性の方が女性よりも3.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「健康保険組合」は30歳代と40歳代でともに6割台と高くなっている。「中央区国民健康保険」は70～74歳で約4割、60～64歳と65～69歳でともに約3割と高くなっている。

職業別でみると、「健康保険組合」は勤め人で6割台半ばと高くなっている。「国民健康保険組合」は自営業で3割を超えて高くなっている。「中央区国民健康保険」はアルバイト・パートタイマーで3割近くと高くなっている。「後期高齢者医療制度」はその他で5割台半ばと高くなっている。

(図表3-1-3)

図表3-1-3 加入している健康保険－性別・年齢別・職業別



(2) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が4割台半ば

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

n = 1,056

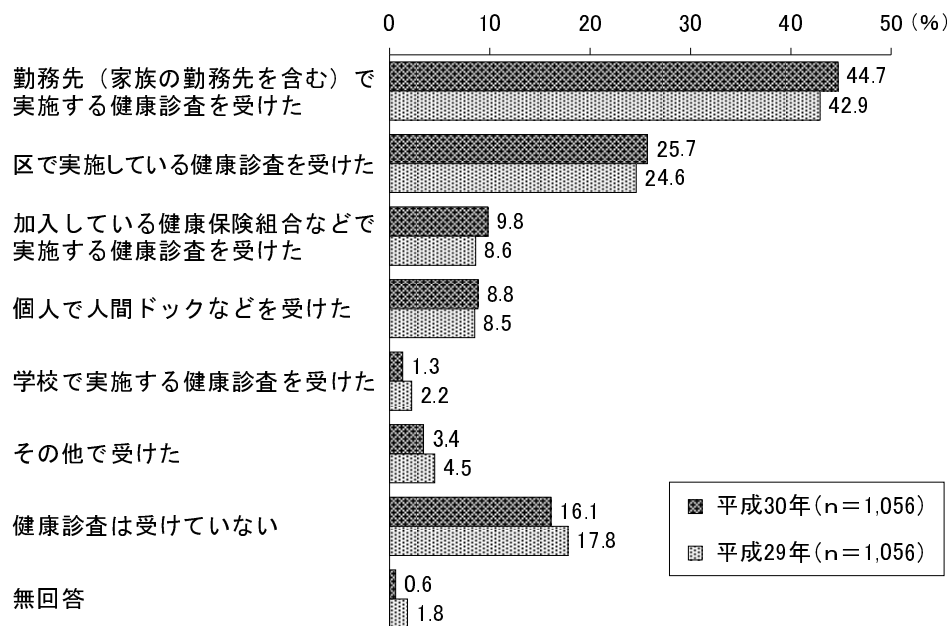
1	区で実施している健康診査を受けた	25.7%
2	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	44.7
3	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	9.8
4	個人で人間ドックなどを受けた	8.8
5	学校で実施する健康診査を受けた	1.3
6	その他で受けた	3.4
7	健康診査は受けていない	16.1
	（無回答）	0.6

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（44.7%）が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（25.7%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（9.8%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（8.8%）などとなっている。また、「健康診査は受けていない」（16.1%）は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は1.8ポイント増加している。一方、「健康診査は受けていない」は1.7ポイント減少している。

（図表3-2-1）

図表3-2-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-2-2）

図表3-2-2 健康診査の受診状況一過年度比較

調 査 年	n	(%)							
		勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
平成30年	1,056	44.7	25.7	9.8	8.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.6	8.5	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	8.9	9.0	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

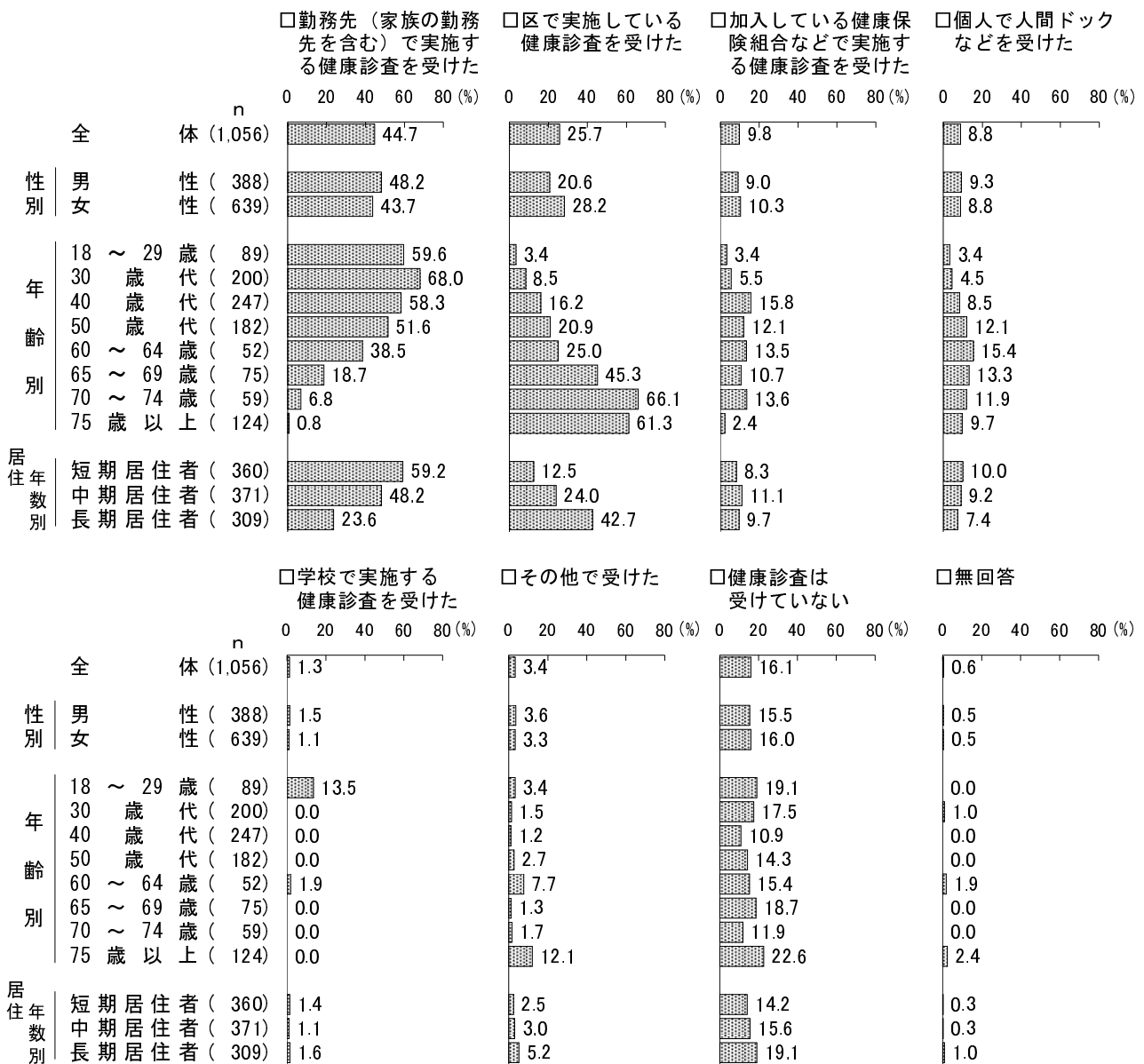
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、「区で実施している健康診査を受けた」は女性の方が男性よりも7.6ポイント高くなっている。一方、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は男性の方が女性よりも4.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で7割近くと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は70～74歳で6割台半ば、75歳以上で6割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で約6割と高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割を超えて高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査の受診状況一性別・年齢別・居住年数別



(3) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が3割近く

(問11で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

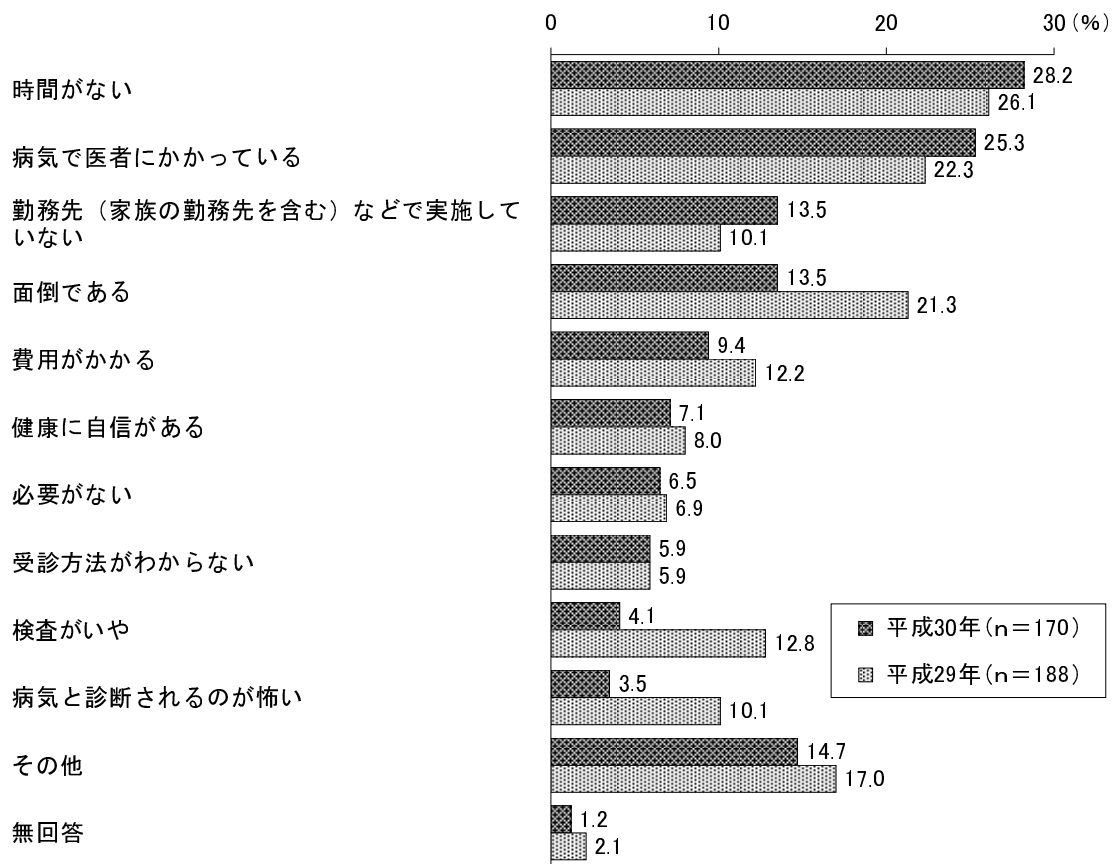
n = 170

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	13.5%
2 受診方法がわからない	5.9
3 必要がない	6.5
4 時間がない	28.2
5 面倒である	13.5
6 健康に自信がある	7.1
7 病気で医者にかかっている	25.3
8 検査がいや	4.1
9 病気と診断されるのが怖い	3.5
10 費用がかかる	9.4
11 その他	14.7
(無回答)	1.2

問11で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(28.2%)が3割近くで最も高くなっている。次いで、「病気で医者にかかっている」(25.3%)、「勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない」(13.5%)、「面倒である」(13.5%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「検査がいや」は8.7ポイント、「面倒である」は7.8ポイント、「病
気と診断されるのが怖い」は6.6ポイント、それぞれ減少している。(図表3-3-1)

図表3-3-1 健康診査を受けなかった理由(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」は引き続き第1位となっている。(図表3-3-2)

図表3-3-2 健康診査を受けなかった理由—過年度比較

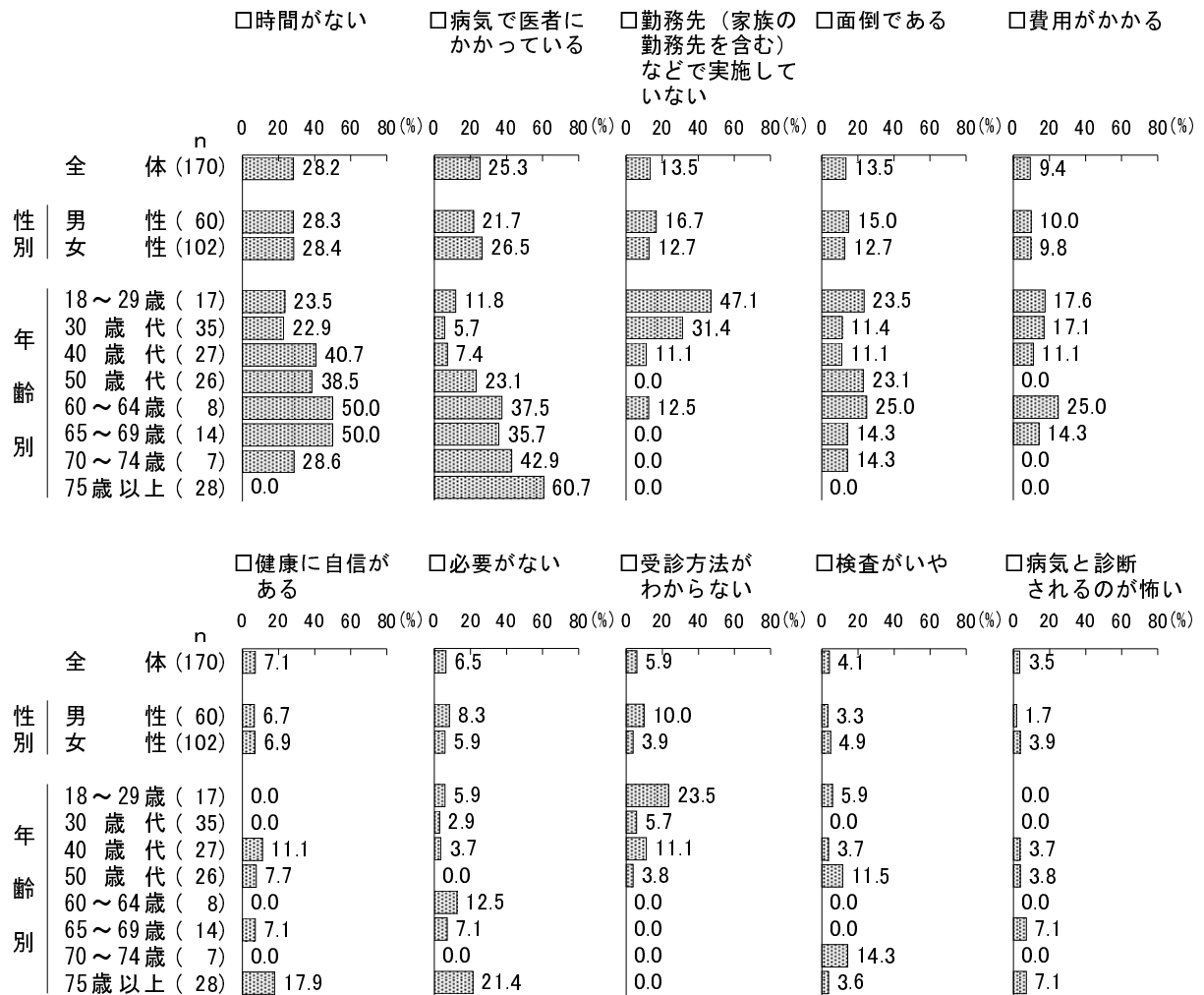
調査年	n	時間がない	病気で医者にかかっている	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	面倒である	費用がかかる	健康に自信がある	必要がない	受診方法がわからない	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	その他	無回答
平成30年	170	28.2	25.3	13.5	13.5	9.4	7.1	6.5	5.9	4.1	3.5	14.7	1.2
平成29年	188	26.1	22.3	10.1	21.3	12.2	8.0	6.9	5.9	12.8	10.1	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	16.9	14.6	19.1	12.9	8.4	6.7	4.5	14.6	6.2	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	15.6	9.9	23.4	14.6	9.4	7.3	6.3	14.1	9.9	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	18.2	15.0	14.5	14.1	4.1	5.9	6.4	12.3	6.8	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	16.6	12.6	17.1	9.5	7.0	7.5	6.5	7.5	6.0	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「受診方法がわからない」で6.1ポイント、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」で4.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「病気で医者にかかっている」は女性の方が男性よりも4.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「病気で医者にかかっている」は75歳以上で約6割と高くなっている。「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は18～29歳で5割近くと高くなっている。

(図表3-3-3)

図表3-3-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が3割台半ば

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

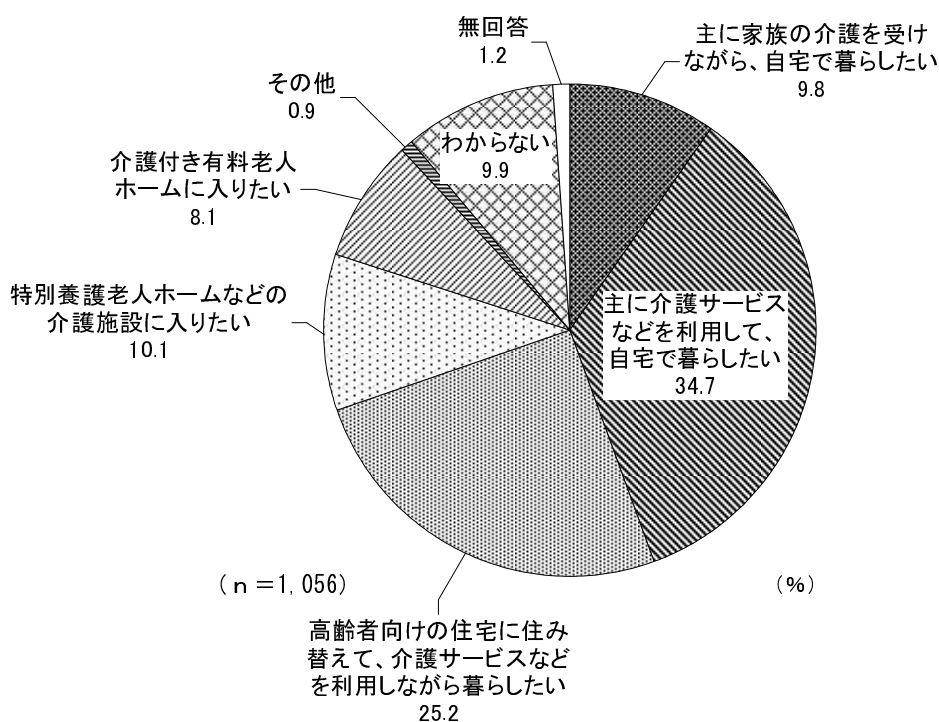
n = 1,056

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	9.8%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	34.7
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	25.2
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	10.1
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	8.1
6	その他	0.9
7	わからない	9.9
	(無回答)	1.2

要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(34.7%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(25.2%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」(10.1%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(9.8%)などとなっている。

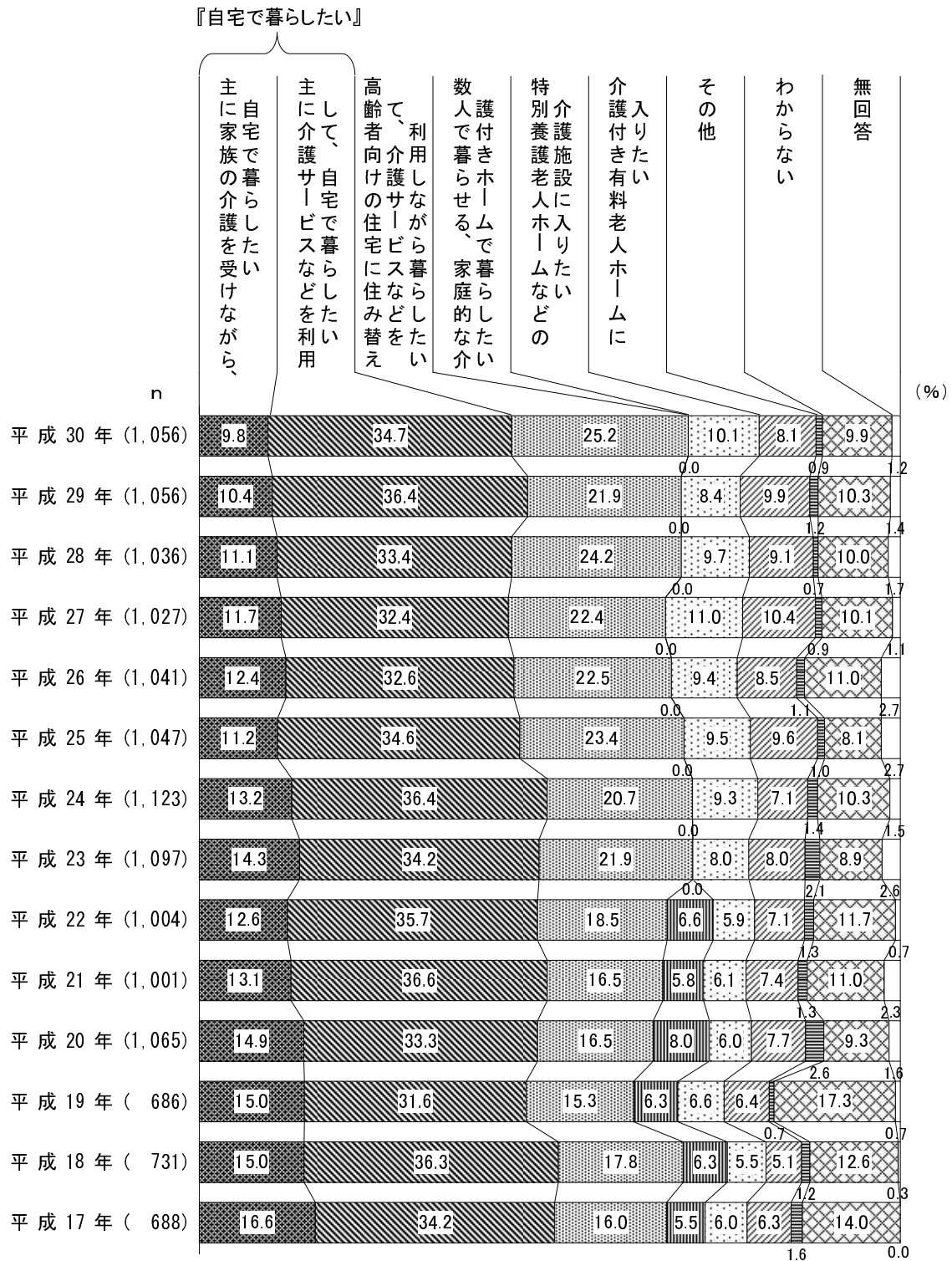
(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方



過去の調査結果と比較すると、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は平成29年より3.3ポイント増加している。(図表4-1-2)

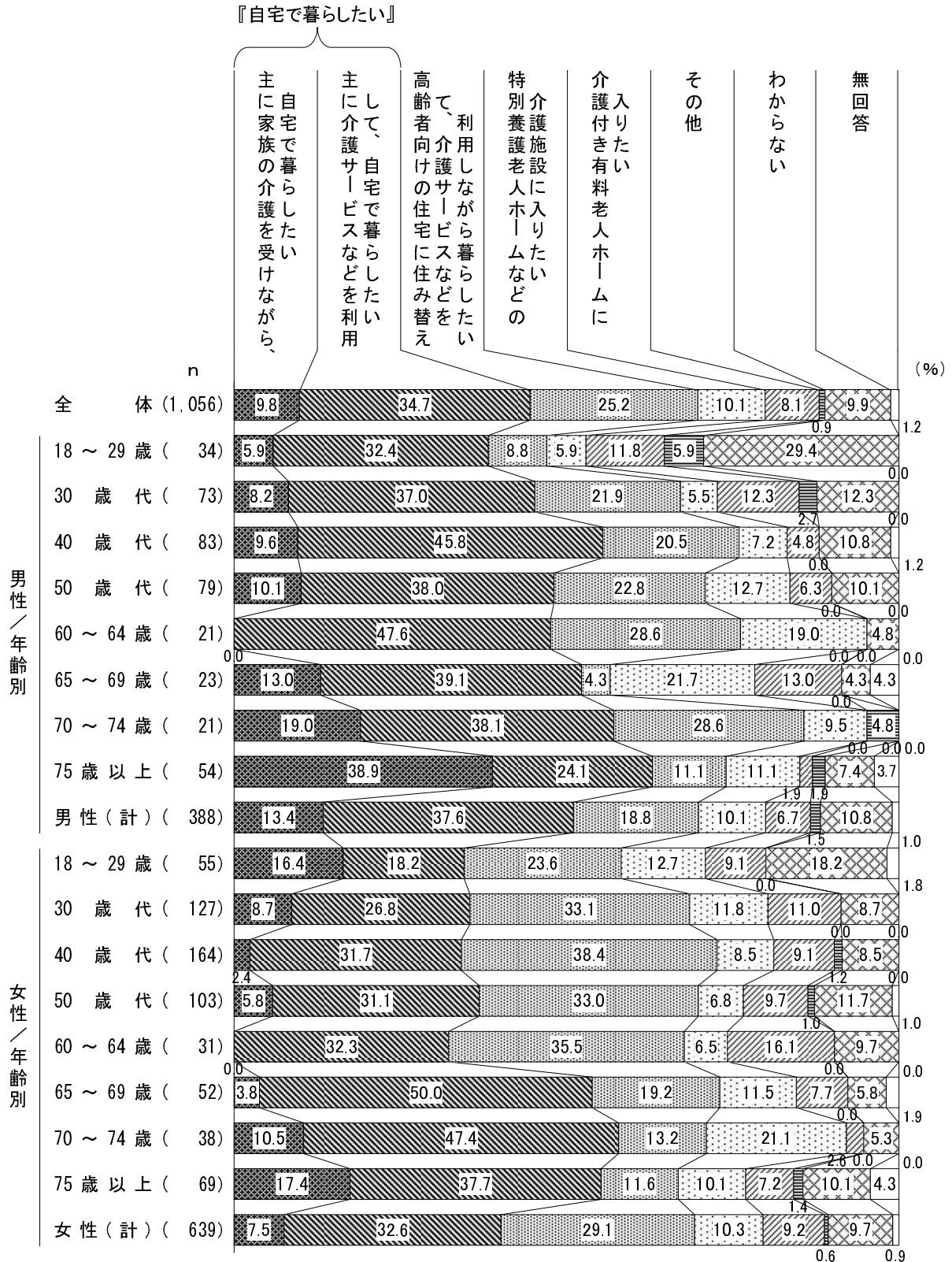
図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較



* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

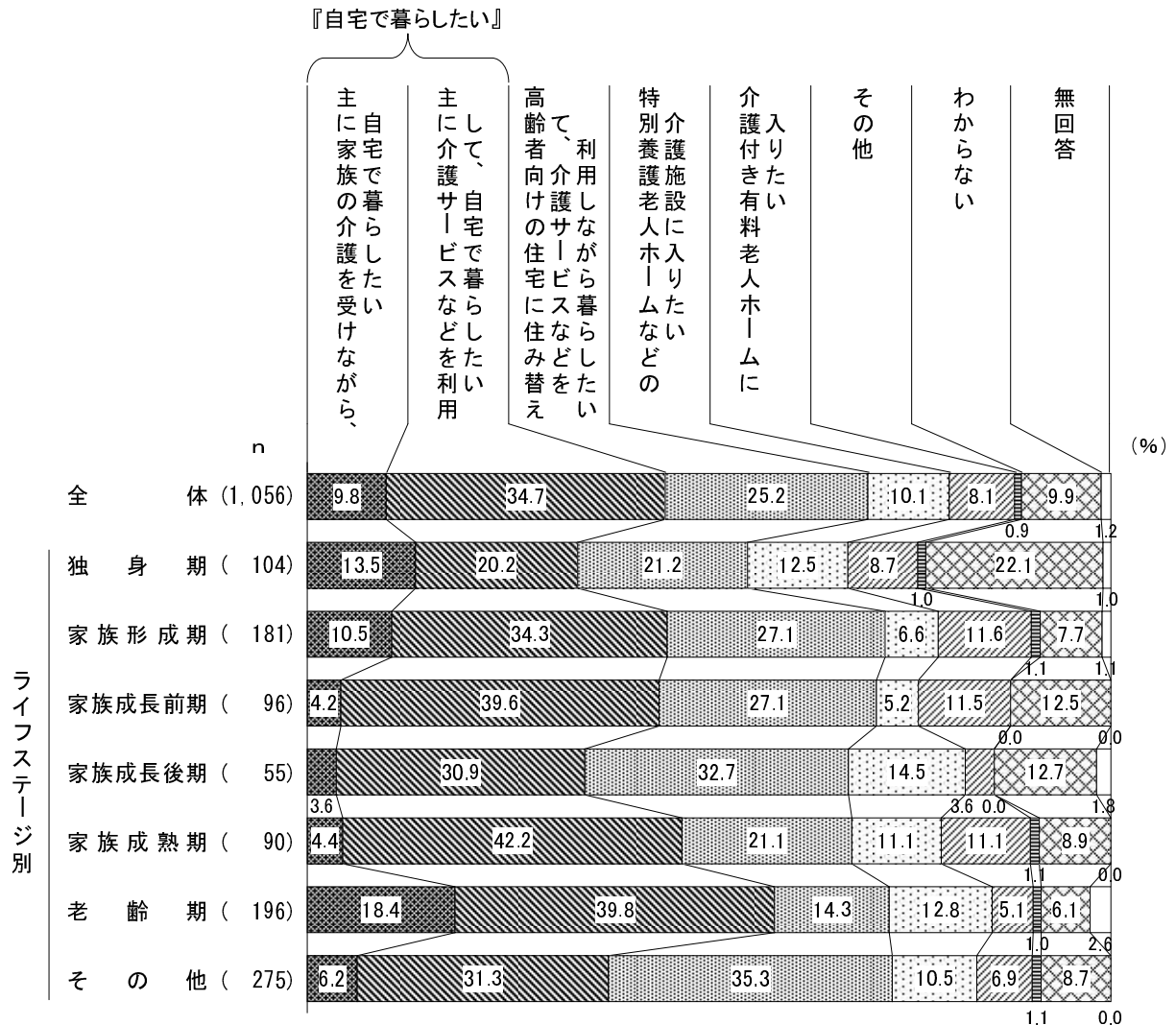
性／年齢別でみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性の65～69歳で5割、男性の60～64歳と女性の70～74歳とともに5割近くと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の40歳代で4割近くと高くなっている。「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の75歳以上で4割近くと高くなっている。(図表4-1-3)

図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別で見ると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は家族成熟期で4割を超えて高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」はその他で3割台半ばと高くなっている。「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は老齢期で2割近くと高くなっている。(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

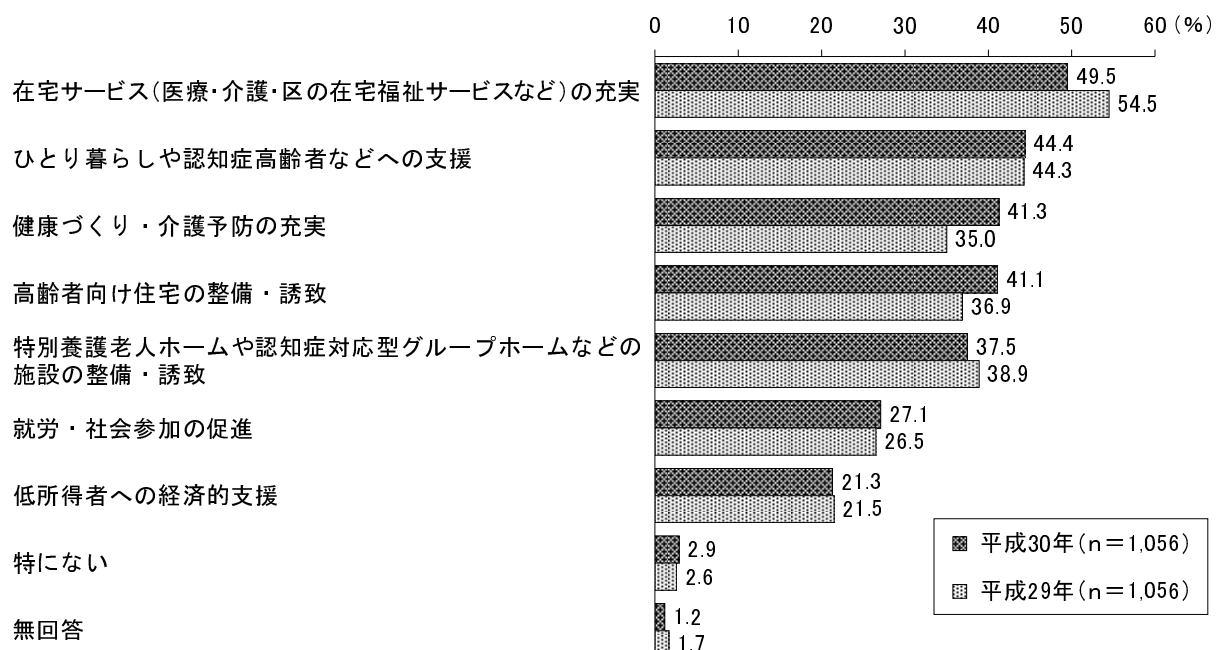
n = 1,056

1	健康づくり・介護予防の充実	41.3%
2	就労・社会参加の促進	27.1
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	49.5
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	37.5
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	41.1
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	44.4
7	低所得者への経済的支援	21.3
8	特にない	2.9
	（無回答）	1.2

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（49.5%）が5割で最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（44.4%）、「健康づくり・介護予防の充実」（41.3%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（41.1%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（37.5%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「健康づくり・介護予防の充実」は6.3ポイント、「高齢者向け住宅の整備・誘致」は4.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は5.0ポイント減少している。（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

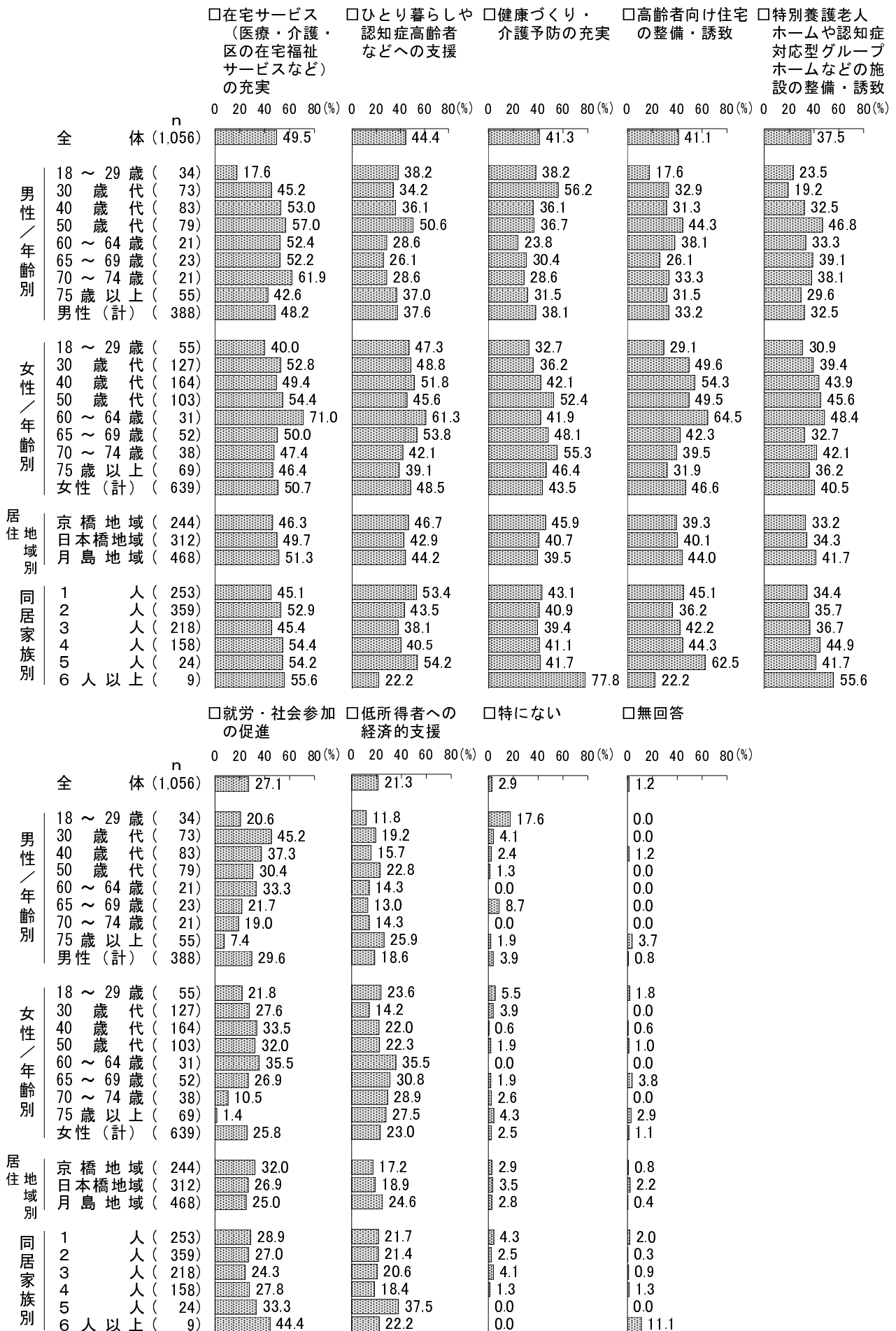
調査年	n	(%)								
		在宅福祉サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	健康づくり・介護予防の充実	高齢者向け住宅の整備・誘致	特別養護老人ホームや認知症対応の型グループホームなどの施設の整備・誘致	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.3	41.1	37.5	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	35.0	36.9	38.9	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	37.2	40.5	40.7	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	37.9	38.5	37.8	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	34.7	39.1	39.9	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は女性の60～64歳で7割を超えて高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の60～64歳で6割を超えて高くなっている。「健康づくり・介護予防の充実」は男性の30歳代と女性の70～74歳でともに5割台半ばと高くなっている。「高齢者向け住宅の整備・誘致」は女性の60～64歳で6割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「健康づくり・介護予防の充実」は京橋地域で4割台半ばと高くなっている。「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は月島地域で4割を超えて高くなっている。

同居家族別でみると、「高齢者向け住宅の整備・誘致」は同居家族5人で6割を超えて高くなっている。(図表4-2-3)

図表4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス一性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問13-1 問13で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、331人から延べ393件の回答が寄せられた。問13の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実 (38件)

- ・ 健康づくりのイベントを行ってほしい。
- ・ 海外にあるような、気軽にできるエクササイズマシンを公園などに設置してほしい。
- ・ スポーツ施設やいきいき館などを各地域に設置してほしい。健康で老いても自立していけるような施策をたくさん提供してほしい。

■就労・社会参加の促進 (54件)

- ・ 高齢者でも働ける環境があれば、社会との関わりがあり良いと思う。個々の能力を活かせる仕事ができる場を提供してほしい。
- ・ 若者や若い世帯と、ひとり暮らしなどの高齢者世帯の交流。
- ・ 高齢者の経験や潜在能力をうまく利用できるように、企業に働きかけ、意欲的に働ける環境を作してほしい。高齢者は、年金で静かに暮らしていれば良いと思う考え方を修正できればよいと思います。高齢者も役に立てる人がいると思います。リカレント教育を行い、高齢者が活躍できる環境をつくるように企業に働きかけてほしい。

■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実 (55件)

- ・ 介護者の人手不足対策。
- ・ ひとり暮らしの高齢者がバス・トイレ・ベランダなどの自宅の清掃や、ごみ出し、力仕事を有料で頼める制度の充実をお願いしたい。
- ・ 介護をする家族の雇用や収入の安定。自宅で介護をするために仕事を辞めたりすることがないように、どのような支援があるのか知りたい。

■特別養護老人ホームなどの施設の整備・誘致 (61件)

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の後、選手村などの再利用に高齢者向け住宅やグループホームを確保してほしい。
- ・ 特別養護老人ホームに入りやすくしてほしい。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（42件）

- ・ 高齢者がいる、というだけで賃貸物件の内覧をさせてもらえないのが社会の現実です。
- ・ もっと高齢者専門（50代後半入所可）の住宅を造ってほしい。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（34件）

- ・ ひとり暮らし高齢者のための相談員の充実。
- ・ ひとり暮らしの高齢者宅を定期的に訪問するなどの安否確認など、孤独死を防ぐ対策。

■低所得者への経済的支援（26件）

- ・ 「子ども食堂」がありますが、同じように安価でバランスのとれた食事を提供する「大人の食堂」があってもよいと思う。

■その他（83件）

- ・ 高齢者に向けて、介護に関する知識をより広める活動を行ってほしい。高齢の方ほど、家族の介護は他人の手を借りずに自身で行うべきだと考えている方が多いように思います。介護には専門家のサポートが不可欠です。
- ・ 信頼できる後見人制度の充実をお願いします。
- ・ まちなかや歩道のベンチの整備。海外では、どこでも気軽に座っておしゃべりできるベンチが公園や商店街通りに用意されている。
- ・ 医療機関での翻訳サービス。
- ・ 身寄りのない人のために、入院や賃貸住宅の入居などの保証人になってほしい。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が3割台半ば

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1,056

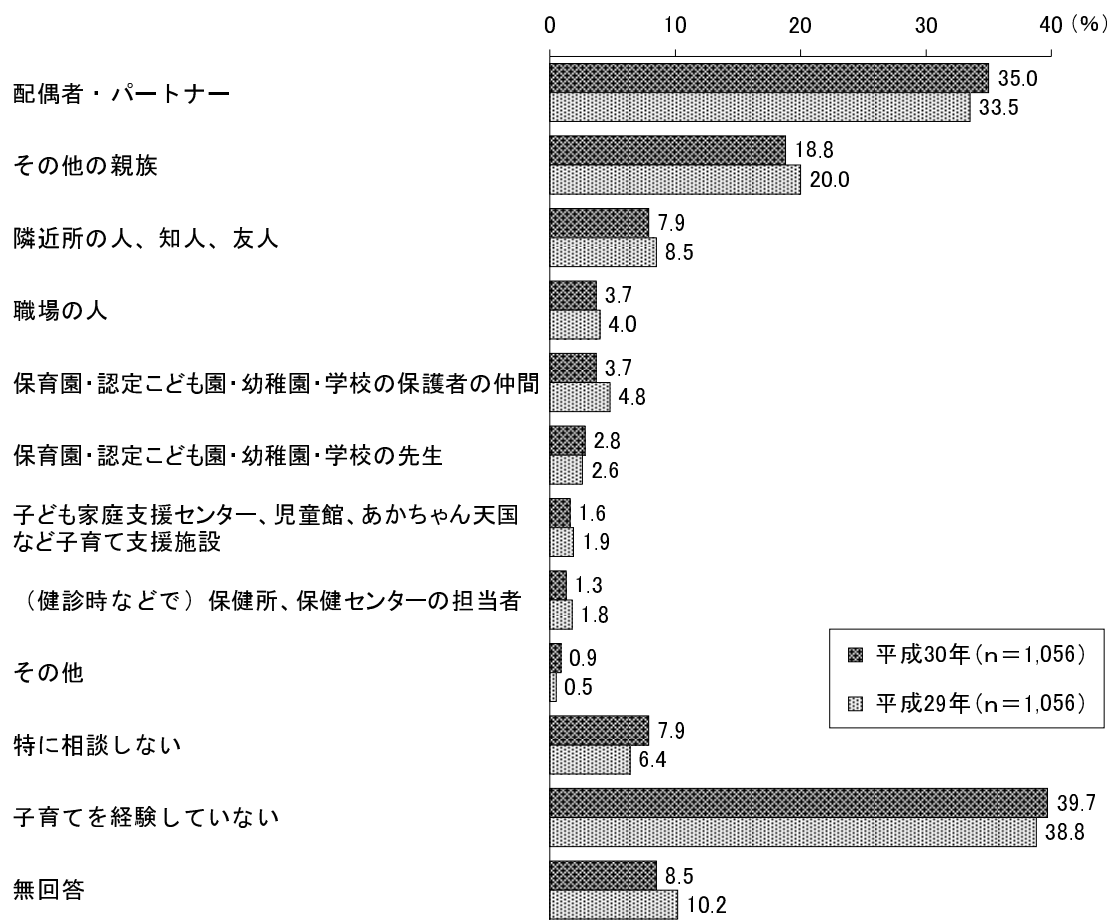
1	配偶者・パートナー	35.0%
2	その他の親族	18.8
3	職場の人	3.7
4	隣近所の人、知人、友人	7.9
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	3.7
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	2.8
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.6
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	1.3
9	その他	0.9
10	特に相談しない	7.9
11	子育てを経験していない	39.7
	(無回答)	8.5

(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(35.0%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(18.8%)、「隣近所の人、知人、友人」(7.9%)、「職場の人」(3.7%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(3.7%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 5-1-1)

図表 5-1-1 子育てに関する悩みの相談(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」、「その他の親族」および「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

調査年	n	(%)												
		配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	先生 保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	(健診などで)保健所、保健センターの担当者	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答	区役所など行政機関
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	3.7	2.8	1.6	1.3	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.0	4.8	2.6	1.9	1.8	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	4.2	3.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	4.4	5.7	4.2	1.9	2.7	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	2.2	4.9	3.6	1.2	2.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	2.7	4.6	3.2	2.5	2.1	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	2.2	5.1	2.4	1.5	1.3	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	3.0	5.7	2.6	0.9	1.5	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	3.1	4.9	3.1	1.2	1.8	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	2.5	3.8	3.0	※	2.5	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	1.3	4.2	2.9	※	2.7	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	2.2	8.0	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

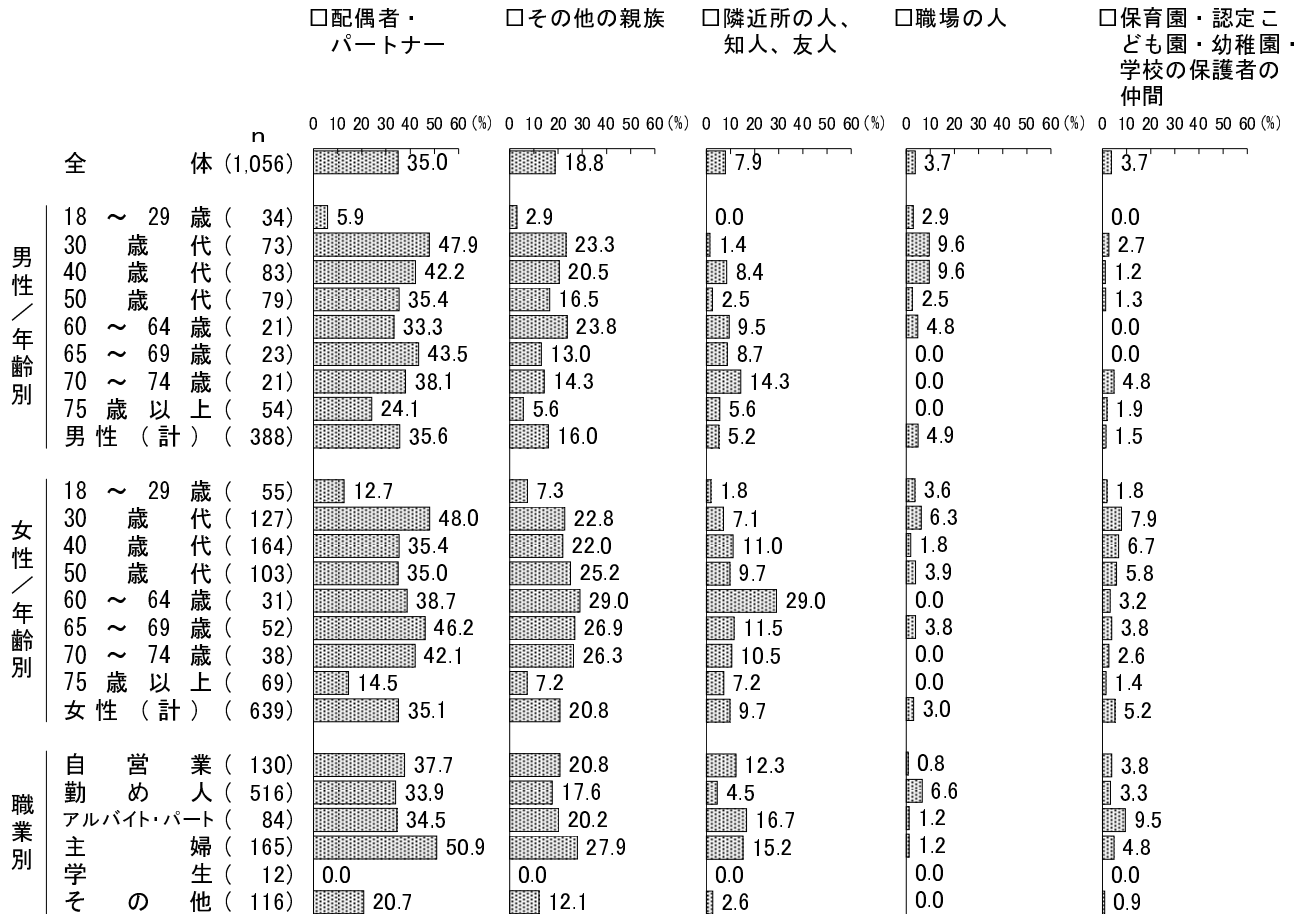
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は男女ともに30歳代で5割近く、女性の65～69歳で4割台半ばと高くなっている。「隣近所の人、知人、友人」は女性の60～64歳で約3割と高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は主婦で約5割と高くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談—性／年齢別・職業別（上位5項目）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が4割を超える

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 1,056

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	42.8%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	40.2
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3.0
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	8.5
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	11.3
6	情報の提供や相談サービス	2.8
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	11.3
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.6
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	14.6
10	児童虐待防止対策	6.6
11	経済的な支援	9.7
12	特にない	4.4
	(無回答)	15.8

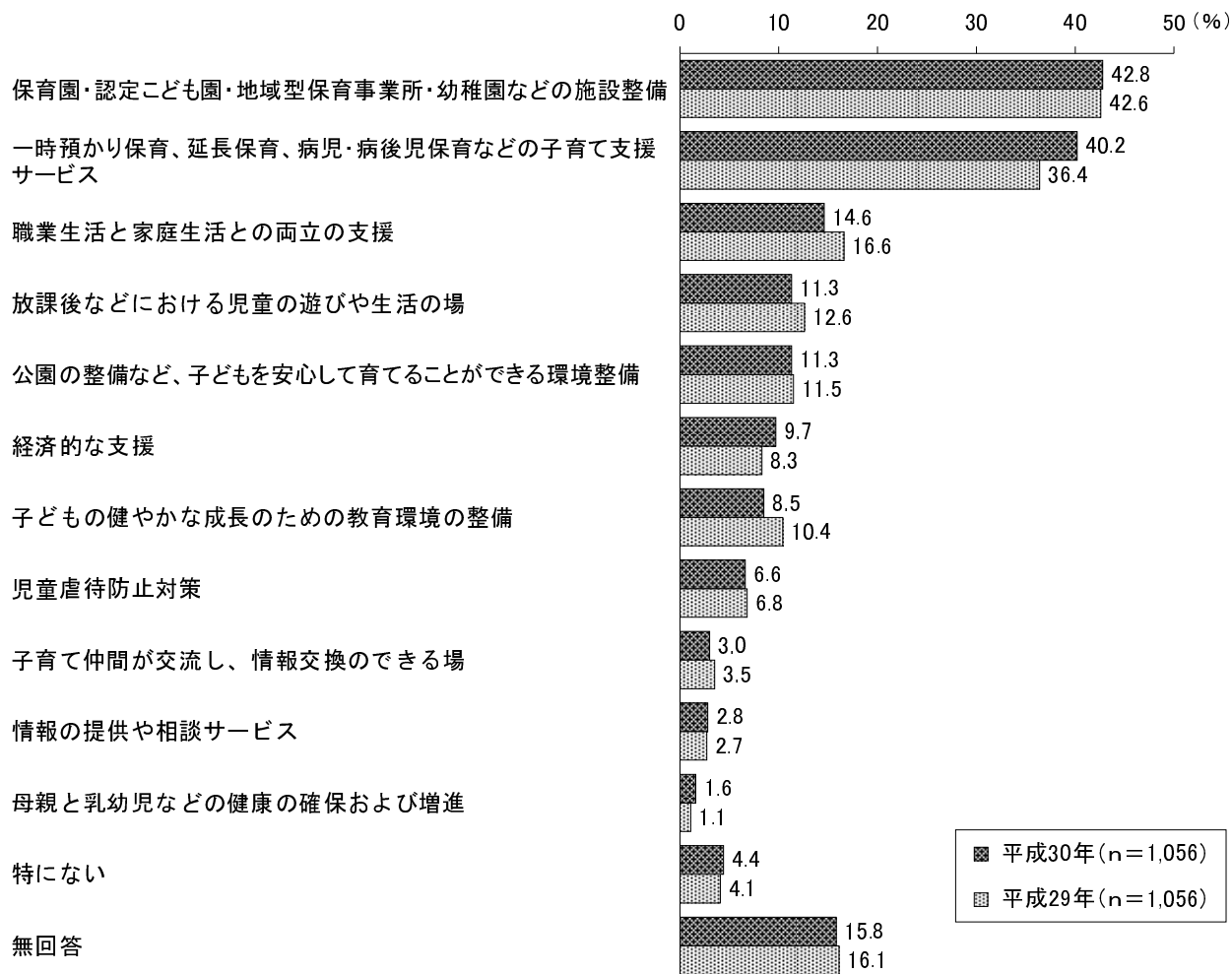
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(42.8%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(40.2%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(14.6%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(11.3%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(11.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は3.8ポイント増加している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」と「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

調査年	n	(%)													
		保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児	職業生活と家庭生活との両立の支援	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	公園の整備など、子どもを安心して育てる	経済的な支援	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特にない	無回答	その他
平成30年	1,056	42.8	40.2	14.6	11.3	11.3	9.7	8.5	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	42.6	36.4	16.6	12.6	11.5	8.3	10.4	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	44.3	36.0	15.9	12.4	11.3	10.2	8.8	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	41.1	38.9	19.7	※	17.7	10.4	14.3	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	40.6	42.5	14.4	※	12.3	8.0	11.9	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	46.2	43.7	12.4	※	12.4	9.0	10.7	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	53.7	※	28.6	※	15.3	15.9	17.2	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	52.4	※	30.5	※	14.7	15.5	19.7	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	59.4	※	31.9	※	15.7	15.4	19.9	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	42.9	※	30.0	※	13.2	26.1	15.4	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	39.6	※	31.4	※	18.6	22.3	20.2	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	34.1	※	30.3	※	20.6	24.6	20.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

* 太枠内が今回の調査の選択肢

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。

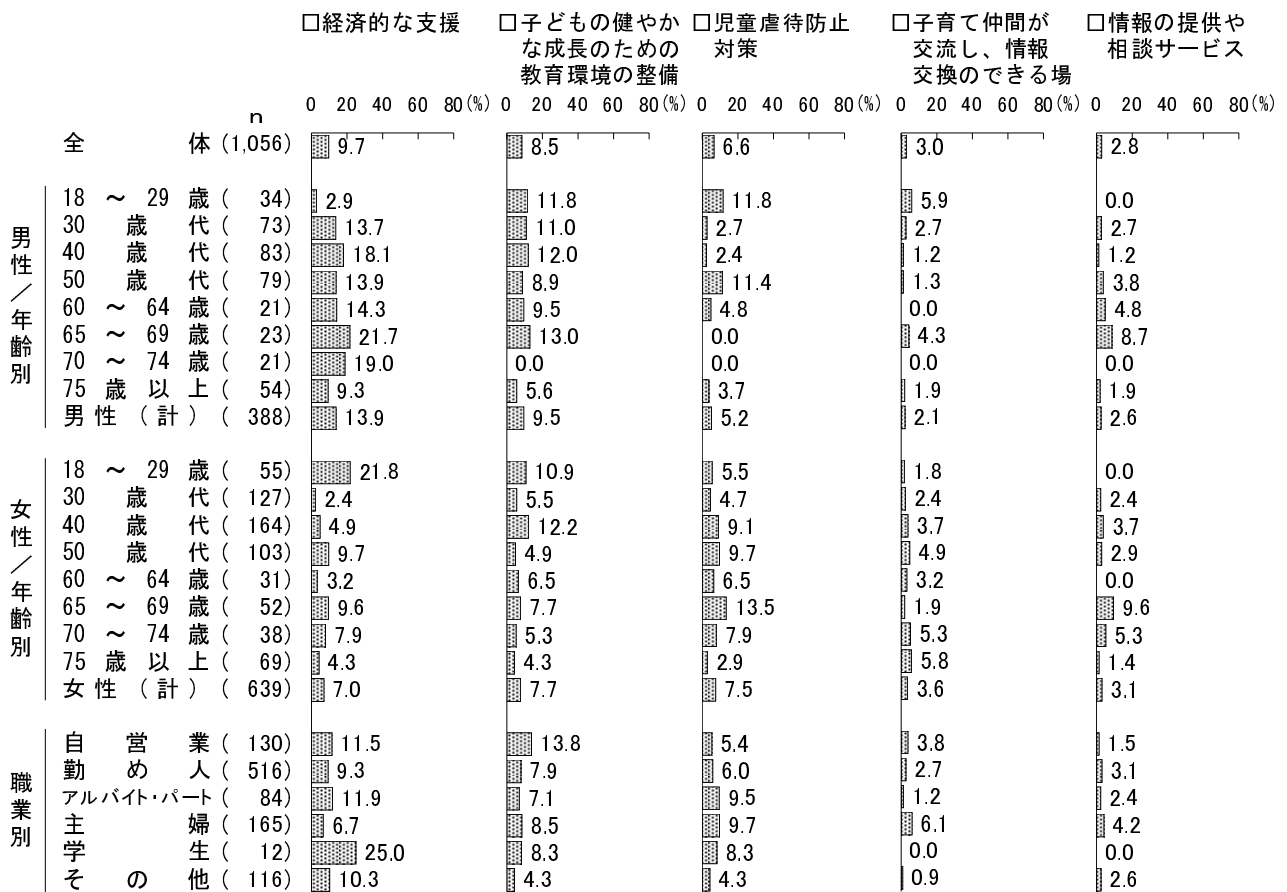
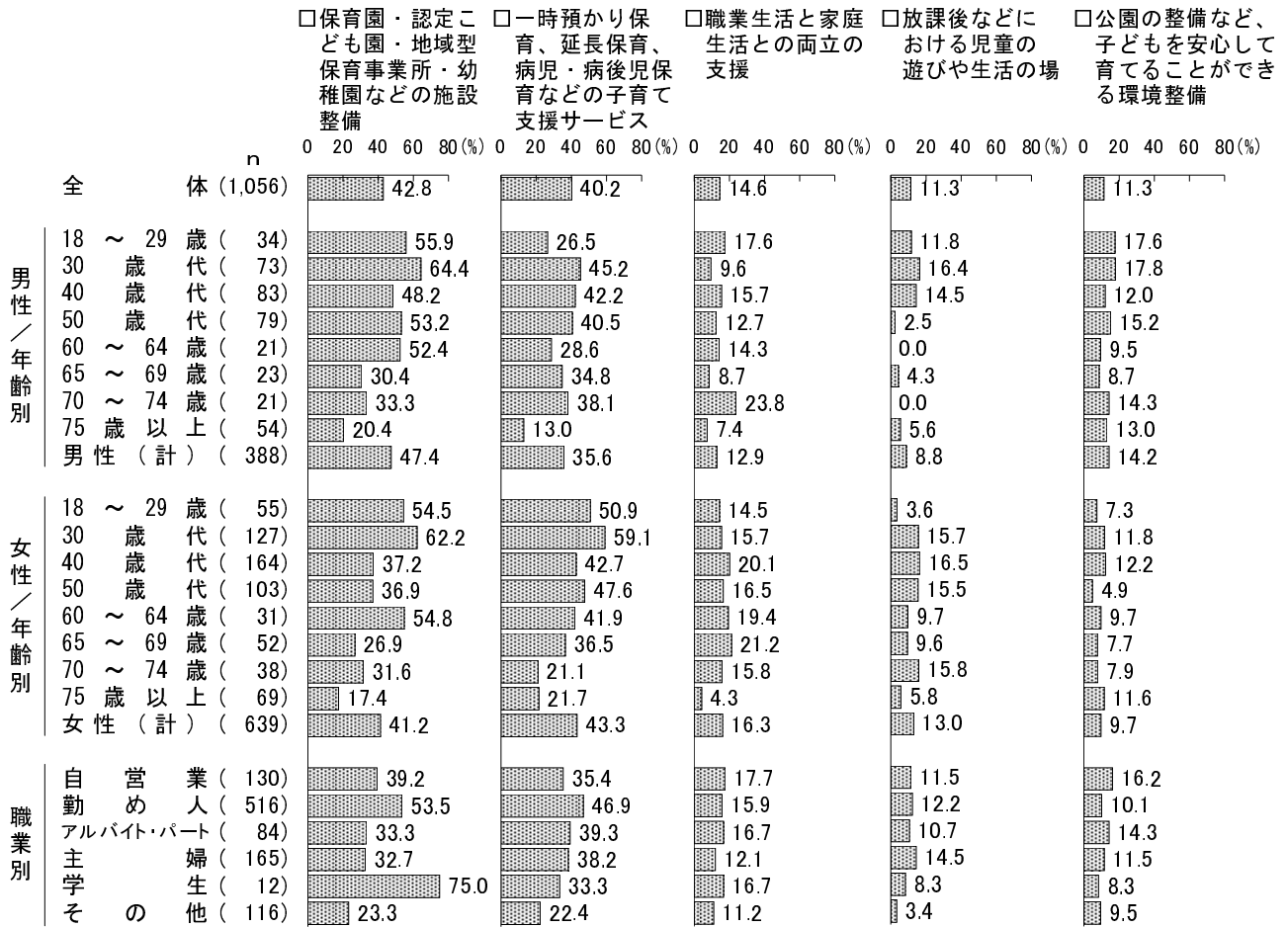
* 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。

* 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性／年齢別で見ると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男性の30歳代で6割台半ば、女性の30歳代で6割を超えて高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の30歳代で約6割と高くなっている。

職業別で見ると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で5割を超えて高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は勤め人で5割近くと高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割を超える

問15 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

n = 1,056

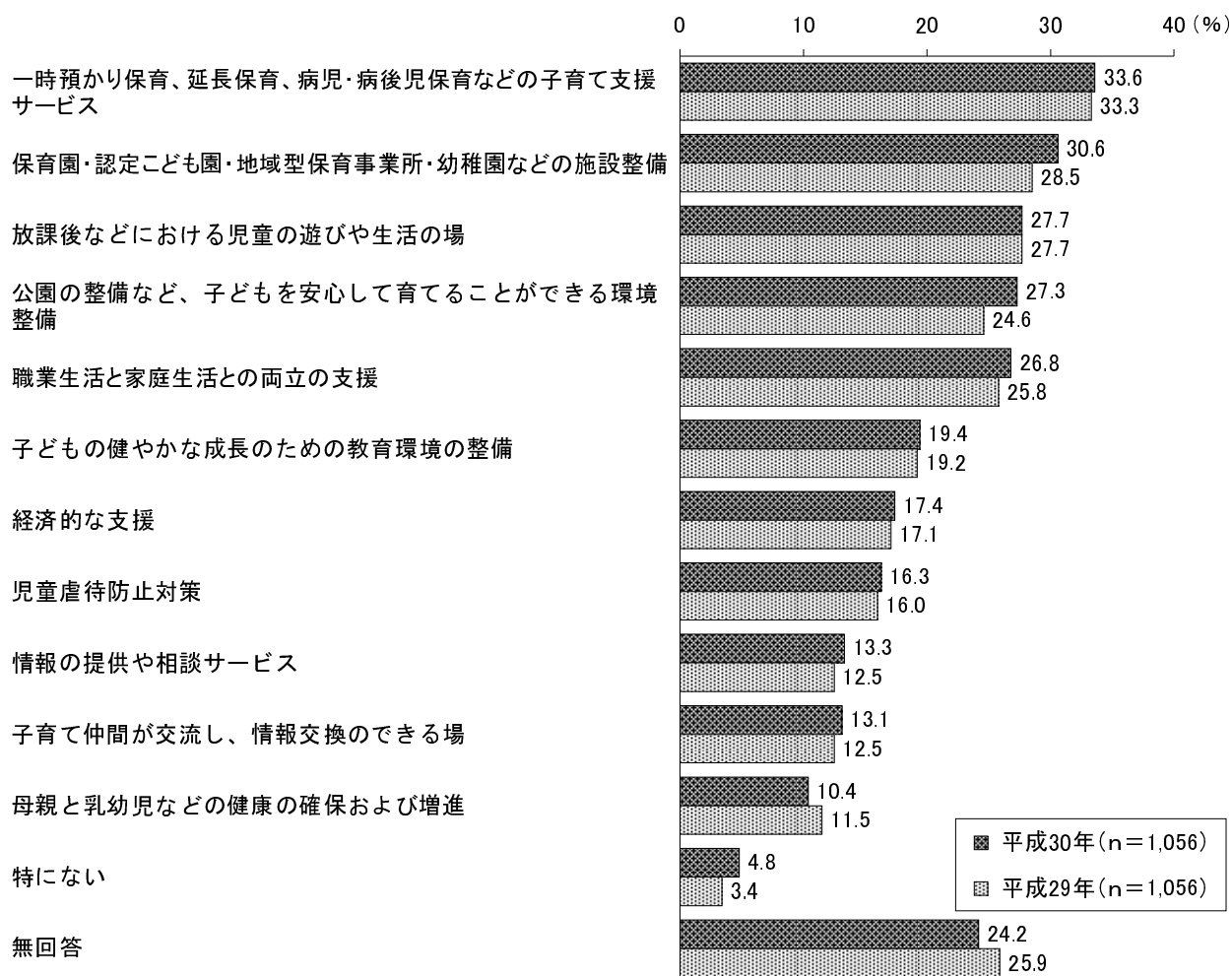
1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	30.6%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	33.6
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	13.1
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	19.4
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	27.7
6	情報の提供や相談サービス	13.3
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	27.3
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	10.4
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	26.8
10	児童虐待防止対策	16.3
11	経済的な支援	17.4
12	特にない	4.8
	(無回答)	24.2

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(33.6%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(30.6%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(27.7%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(27.3%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(26.8%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は2.7ポイント、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は2.1ポイント、それぞれ増加している。(図表5-3-1)

図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が引き続き第1位となっており、次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」および「職業生活と家庭生活との両立の支援」の4項目が続いている。(図表5-3-2)

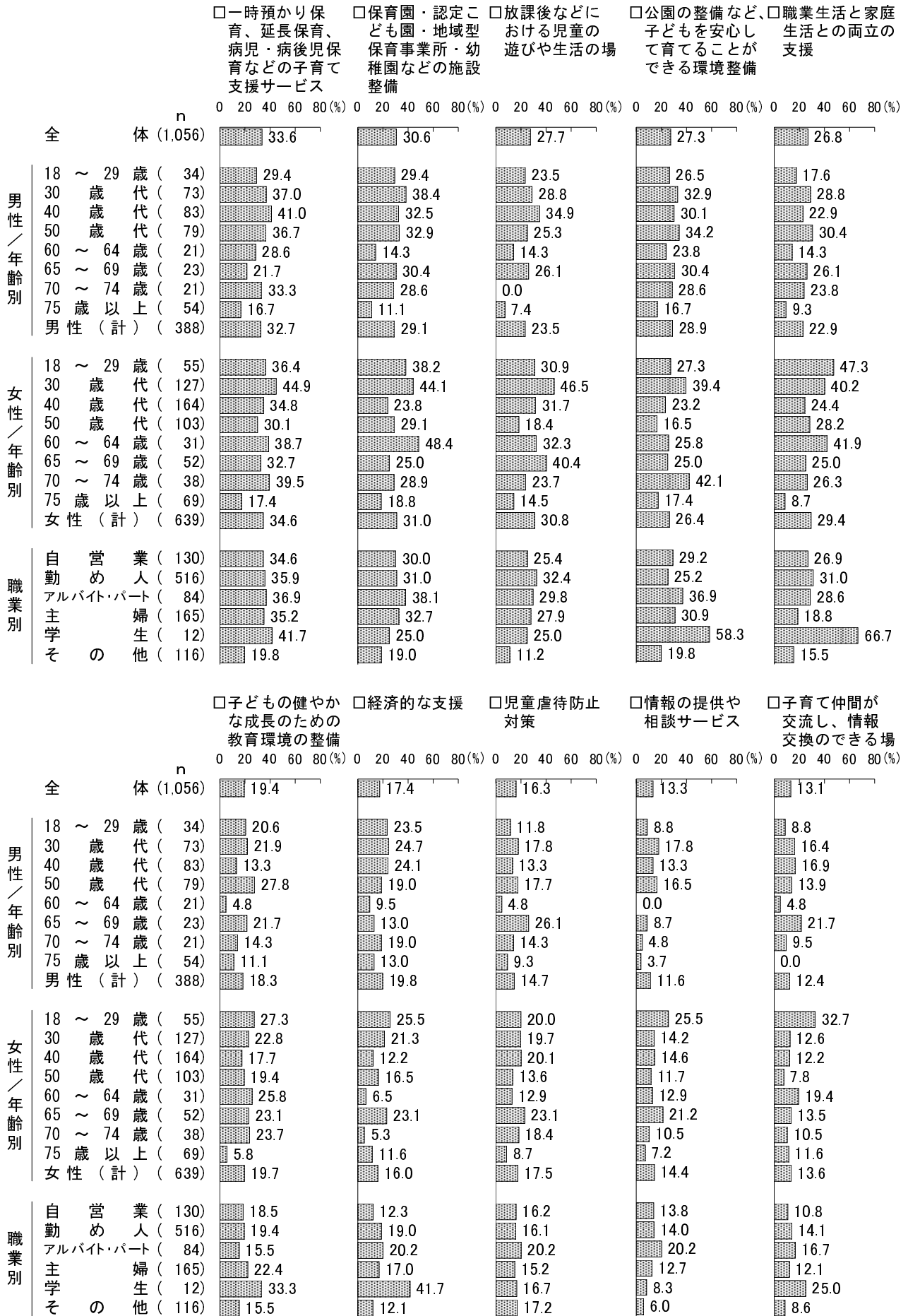
図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策—過年度比較

調査年	n	(%)												
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	職業生活と家庭生活との両立の支援	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	経済的な支援	児童虐待防止対策	情報の提供や相談サービス	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特になし	無回答
平成30年	1,056	33.6	30.6	27.7	27.3	26.8	19.4	17.4	16.3	13.3	13.1	10.4	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	28.5	27.7	24.6	25.8	19.2	17.1	16.0	12.5	12.5	11.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	32.4	26.4	26.7	28.3	20.7	16.4	20.0	13.8	12.2	11.1	3.7	26.3

性／年齢別で見ると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の30歳代で4割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の60～64歳で5割近くと高くなっている。「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」は女性の30歳代で5割近くと高くなっている。「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は女性の70～74歳で4割を超えて高くなっている。「職業生活と家庭生活との両立の支援」は女性の18～29歳で5割近くと高くなっている。

職業別で見ると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」はアルバイト・パートタイマーで4割近くと高くなっている。(図表5-3-3)

図表 5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問15-1 あなたが問15で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、293人から延べ365件の回答が寄せられた。問15の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備（89件）

- ・ 保育園の増設、認証保育所などに預けた場合の支援・助成。
- ・ 幼稚園の預かり保育をすべての幼稚園で実施してほしい。年少から年長までの子どもが幼稚園の預かり保育に移動した分、0歳～2歳の受け入れを増やしてほしい。
- ・ 大変な仕事の割に保育園の先生方の待遇が低く、逆に、利用者の金銭的な負担が軽く感じました。もう少し先生方の労働環境が良くなればよいと思います。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス（49件）

- ・ 延長保育は現状ですばらしいが、時間が短い。20時～21時までであるとよい。
- ・ 病後児保育が不足しているので充実してほしい。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場（7件）

- ・ 親や子どもが安心してのびのびと過ごせ、子ども目線でわくわく、夢中になることがたくさんある空間の提供。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備（20件）

- ・ 教育相談、スクールカウンセラーなどの心理的ケアの充実。お金よりも心を大切にできるような施策。
- ・ 安全に登下校できるよう、特認校はすべてバスを出してほしい。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場（33件）

- ・ 両親が仕事をしている小学校低学年の児童の17時～21時くらいの居場所、夕食サービス。
- ・ 放課後、マンションの前の道路で遊んでいる子どもが目立ちます。とても危ないと感じます。保護者への指導と施設の充実が大事です。

■情報の提供や相談サービス（11件）

- ・ 地域での子育て支援はニーズが多様なので、SNSでいろいろな情報が見られるとよい。
- ・ ちゅうおう安全・安心メール等の不審者情報は、区立以外の学校に通わせていても登録できるとありがたいです。区立小学校から発信されるメールのようにスピード感があるとより安心です。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（31件）

- ・ 昔のように、自然環境や公園などで安全に遊ぶスペース、のびのびと子どもが過ごせる場所を少しでも増やしてほしい。
- ・ 公園でボール遊びができないなど規制が多いと思います。自由に遊べる公園があるとよいと思います。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（12件）

- ・ 働く母親の家庭の夕食をサポートし、子どもが1人でも訪れ、夕食が食べられる「子ども食堂」はボランティアでは運営が難しい。区のサポートが必要。
- ・ 夜間・休日での子どもの救急病院を増やしてほしい。小児科が少ない。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（22件）

- ・ 仕事と家庭の両立は、女性だけの問題でなくみんなの問題であるという意識を持つよう、講座や講演会などにより啓発を行う。
- ・ 一般に保育園のサポートが手厚いだけに、小学校に通うと戸惑うとよく耳にします。保護者会などの案内が前の週に入ることもあるようです。入学前に年間行事予定をいただくことは難しいのでしょうか。また、PTA活動も働く母親にとっては怖い存在なので、仕組みを変えられないものかと思っています。全国に先がけてその改革をできれば非常に評判になると思います。

■児童虐待防止対策（9件）

- ・ 児童虐待防止対策の強化。児童を救うためには、プライバシー等の配慮よりもっと踏み込んで対策してほしいと思います。

■経済的な支援（32件）

- ・ ひとり親世帯で子育てをしている人のサポートと金銭的な支援。

■その他（50件）

- ・ 勝どき地域は交通の便が悪く、雨の日にベビーカーでバスに乗るのはとても大変です。
- ・ 障害のある子どもを受け入れる保育園を増やしてほしい。自閉症スペクトラムなど、現行の障害者認定が難しい障害の子どもに広く対応できる施設を増やしてほしい。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

(1) 男女の地位の平等感

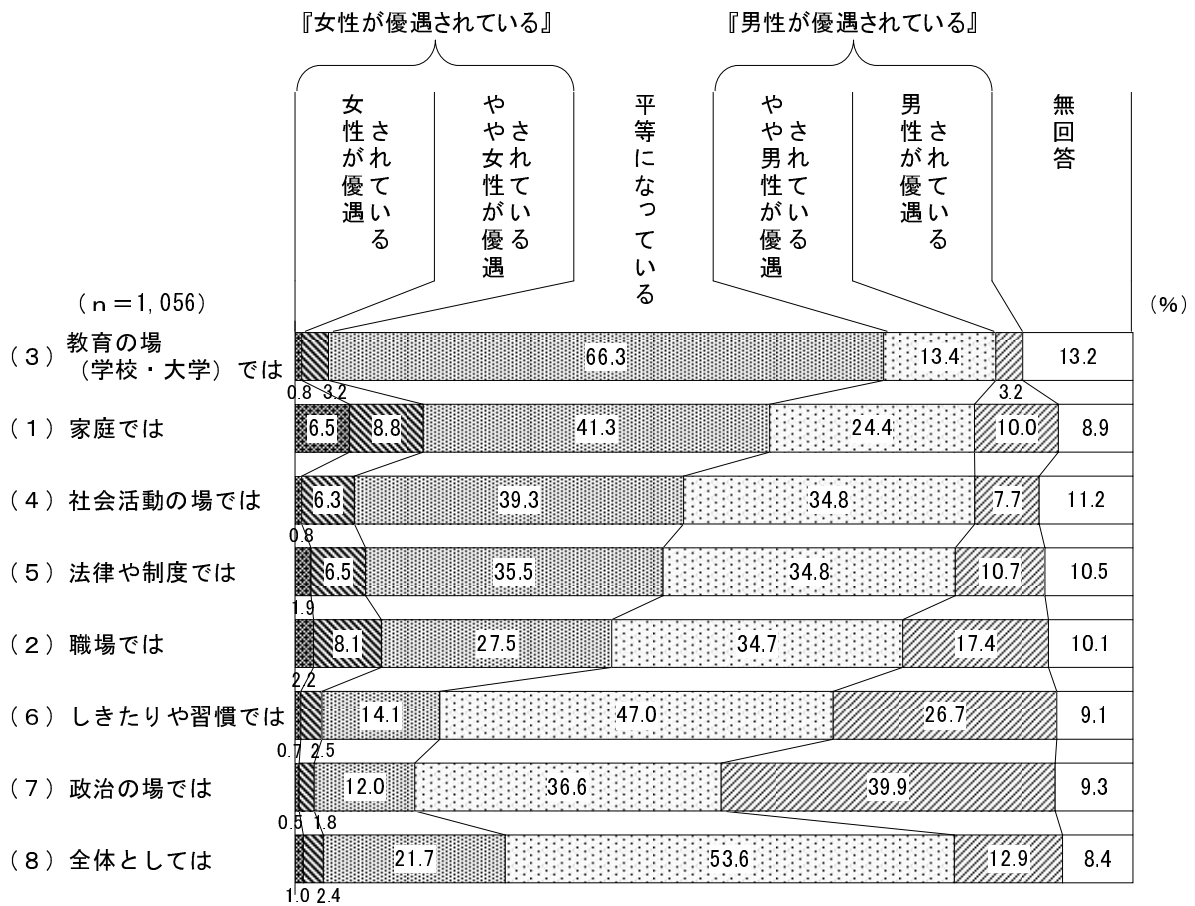
◇「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”で6割台半ば
「男性が優遇されている」、「やや男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で8割近く

	問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。 (○はそれぞれ1つずつ)					無回答
	1 女性が優遇 されている	2 やや女性が 優遇されている	3 平等に なっている	4 やや男性が 優遇されている	5 男性が優遇 されている	
n = 1, 056						
(1) 家庭では	6.5	8.8	41.3	24.4	10.0	8.9
(2) 職場では	2.2	8.1	27.5	34.7	17.4	10.1
(3) 教育の場（学校・大学）では	0.8	3.2	66.3	13.4	3.2	13.2
(4) 社会活動の場では	0.8	6.3	39.3	34.8	7.7	11.2
(5) 法律や制度では	1.9	6.5	35.5	34.8	10.7	10.5
(6) しきたりや習慣では	0.7	2.5	14.1	47.0	26.7	9.1
(7) 政治の場では	0.5	1.8	12.0	36.6	39.9	9.3
(8) 全体としては	1.0	2.4	21.7	53.6	12.9	8.4

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”（66.3%）で6割台半ばと最も高く、次いで“家庭では”（41.3%）で4割を超えている。

「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（76.5%）で8割近くと最も高く、次いで“しきたりや習慣では”（73.7%）で7割を超えている。（図表6-1-1）

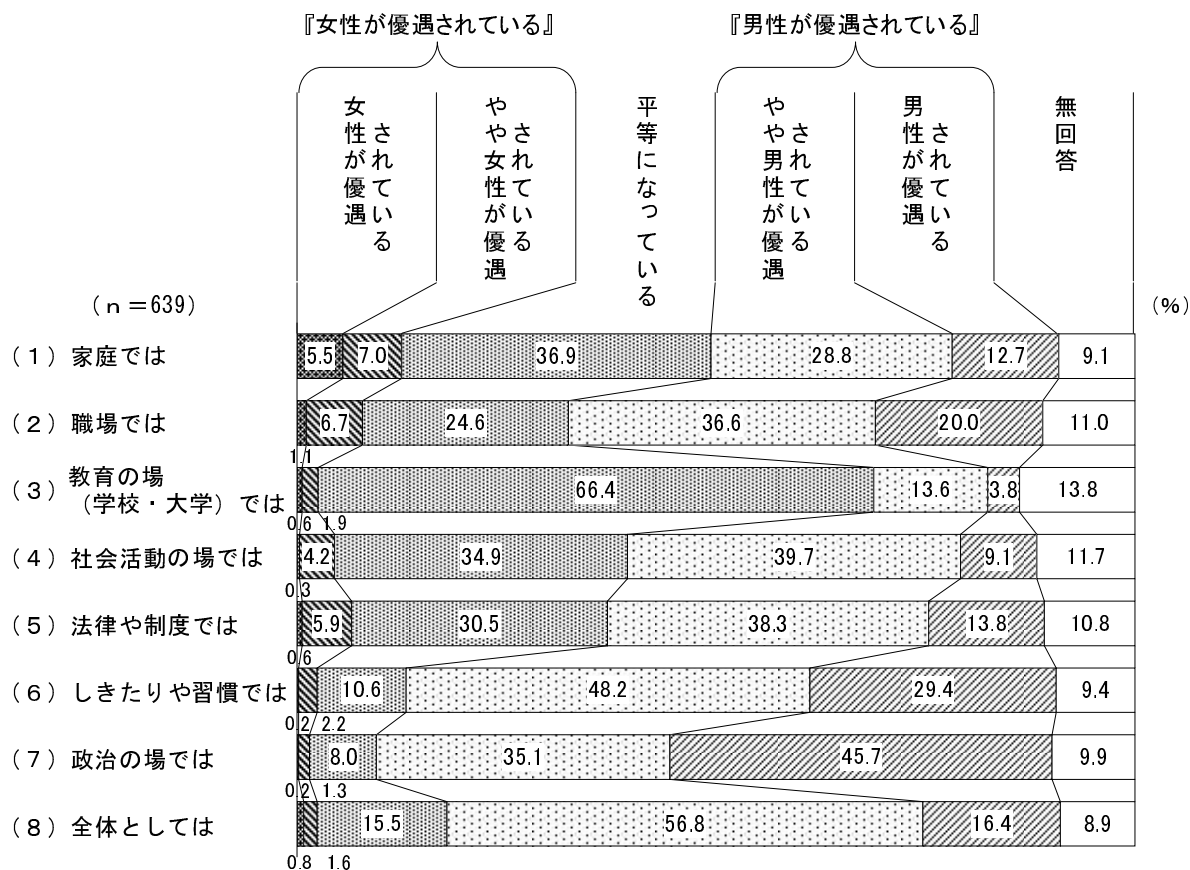
図表6-1-1 男女の地位の平等感



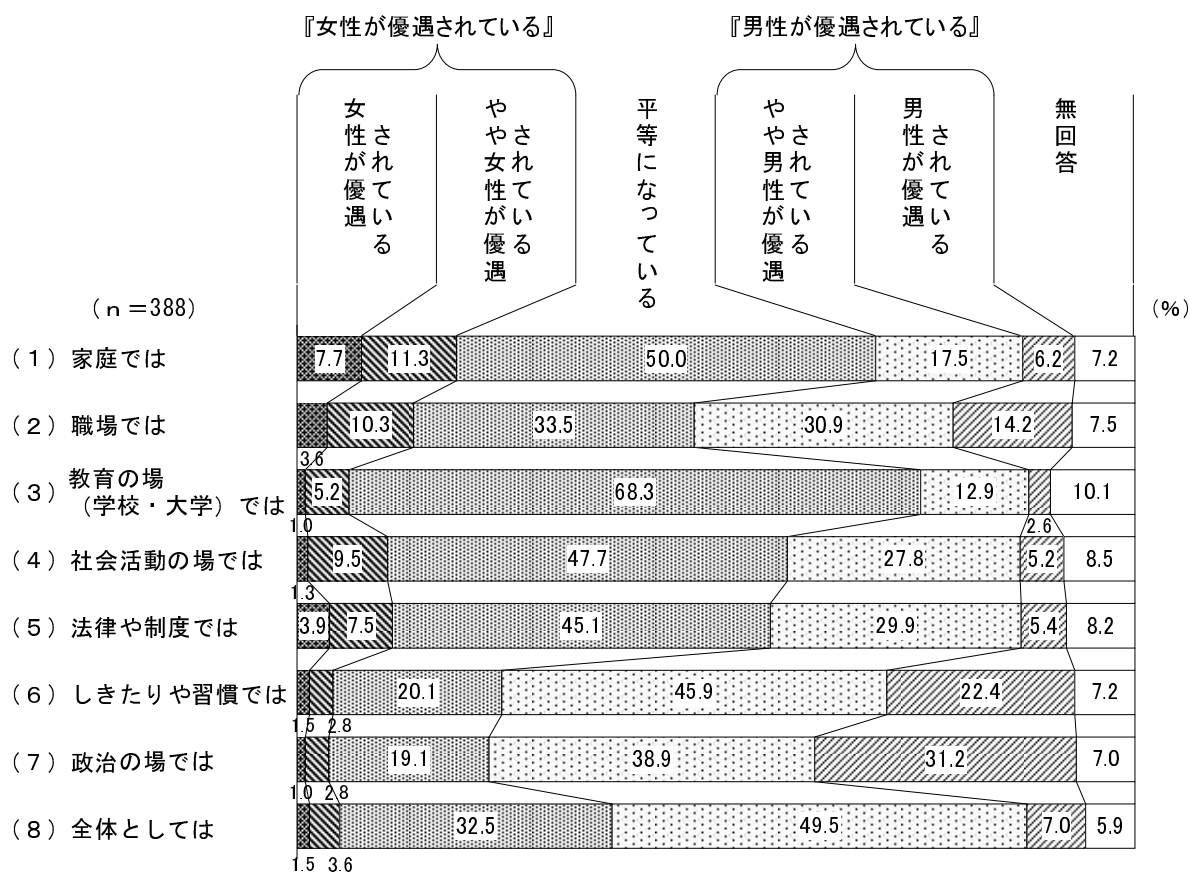
性別でみると、「平等になっている」と感じる割合は、“法律や制度では”で男性の方が女性よりも14.6ポイント高く、次いで“家庭では”で男性の方が女性よりも13.1ポイント高くなっている。一方、『男性が優遇されている』と感じる割合はすべての項目で女性の方が男性よりも高くなっており、“家庭では”で17.8ポイント、“法律や制度では”で16.8ポイント、“社会活動の場では”で15.8ポイント、それぞれ高くなっている。

また、“全体としては”では、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも16.7ポイント高くなっている。（図表6-1-2、図表6-1-3）

図表 6-1-2 男女の地位の平等感—女性



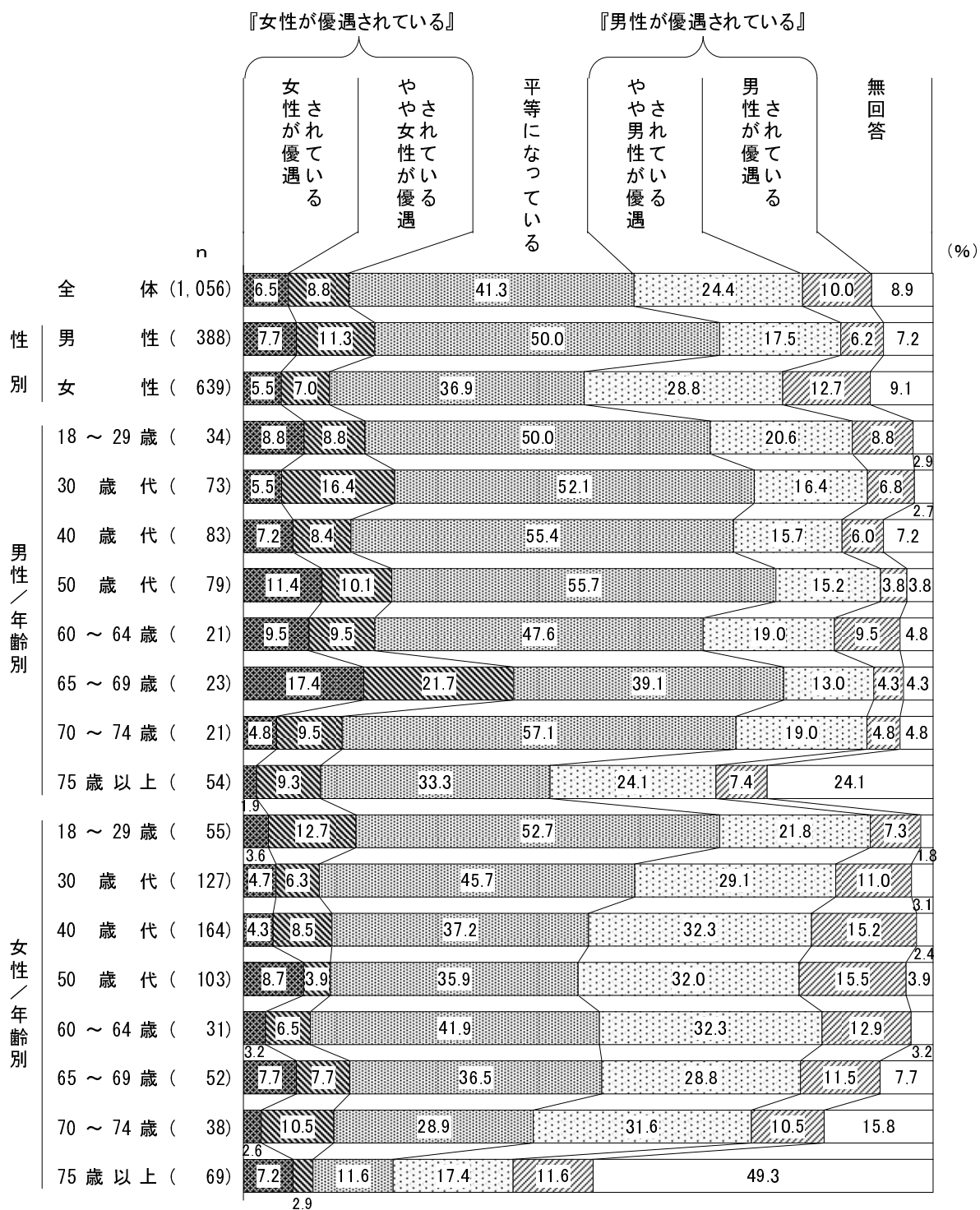
図表 6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも17.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも13.1ポイント高くなっている。

“家庭では”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代と50歳代でともに5割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の70～74歳で6割近くと高くなっている。(図表6-1-4)

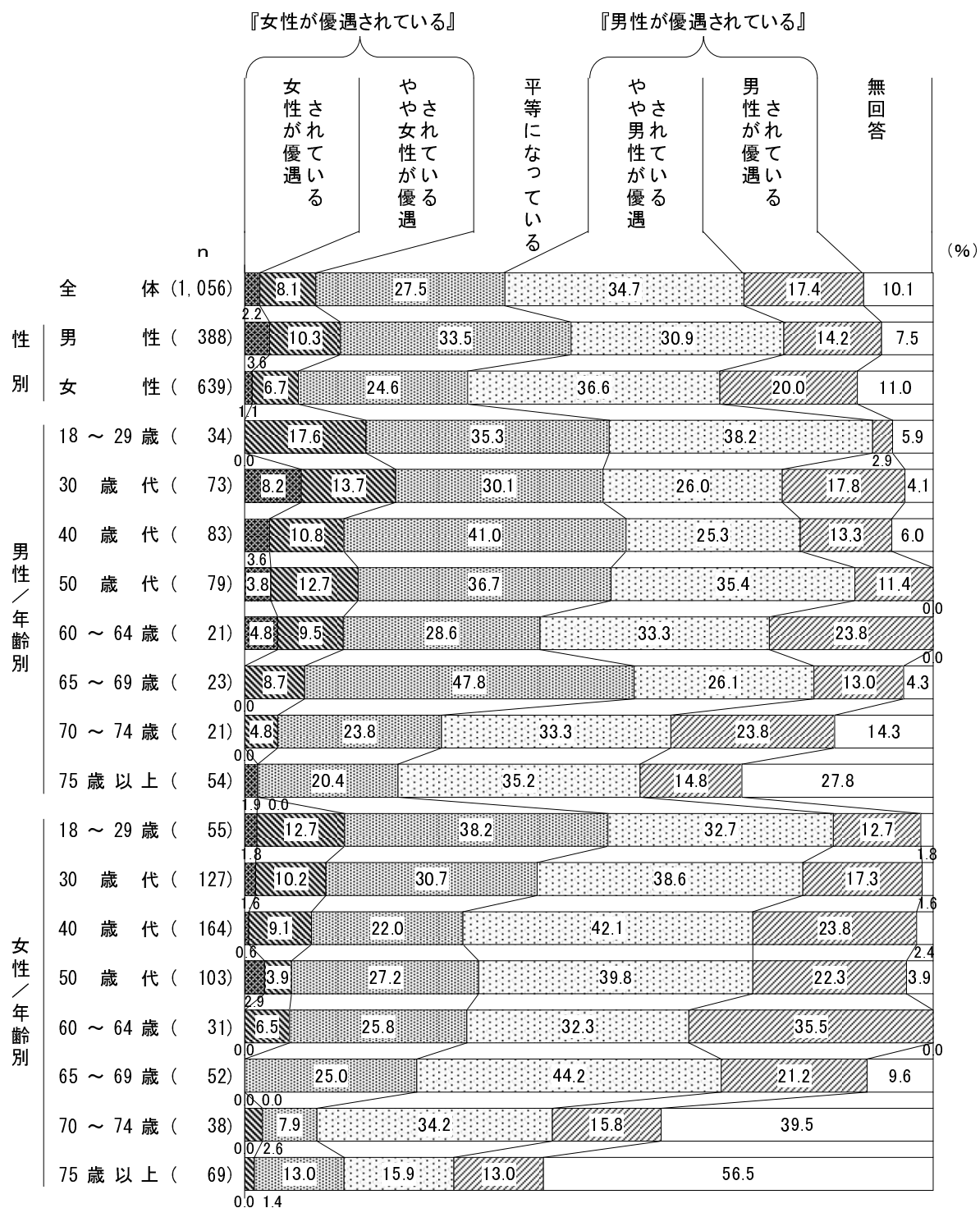
図表6-1-4 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(1) 家庭では」



“職場では”について性別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも11.5ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも8.9ポイント高くなっている。

“職場では”について性/年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割近く、女性の40歳代と65～69歳でともに6割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の65～69歳で5割近くと高くなっている。(図表6-1-5)

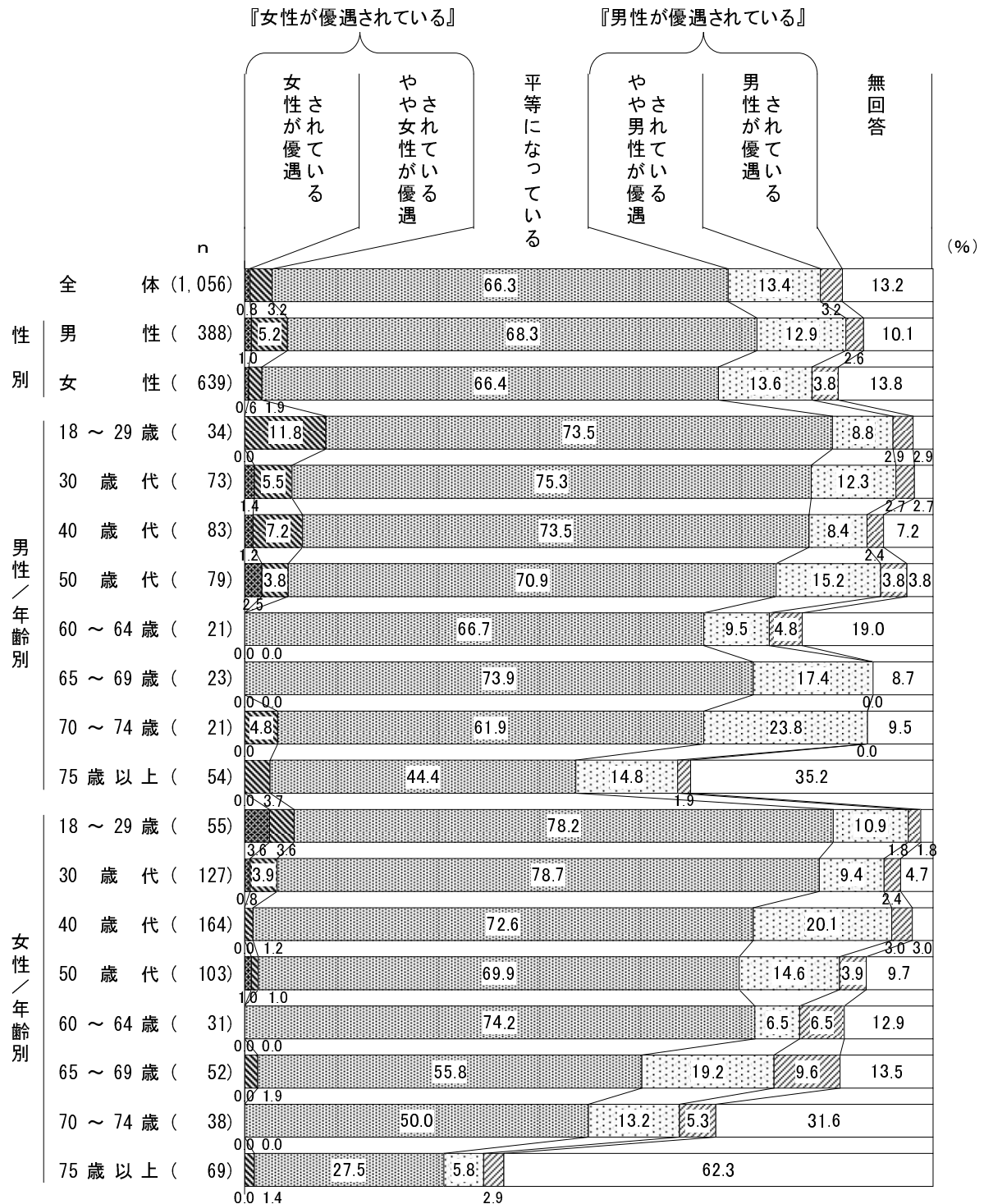
図表6-1-5 男女の地位の平等感—性別・性/年齢別「(2) 職場では」



“教育の場（学校・大学）では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも1.9ポイント高くなっている。一方、『女性が優遇されている』と感じる割合は男性の方が女性よりも3.7ポイント高くなっている。

“教育の場（学校・大学）では”について性／年齢別でみると、「平等になっている」と感じる割合は女性の18～29歳と30歳代でともに8割近くと高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で3割近くと高くなっている。（図表6－1－6）

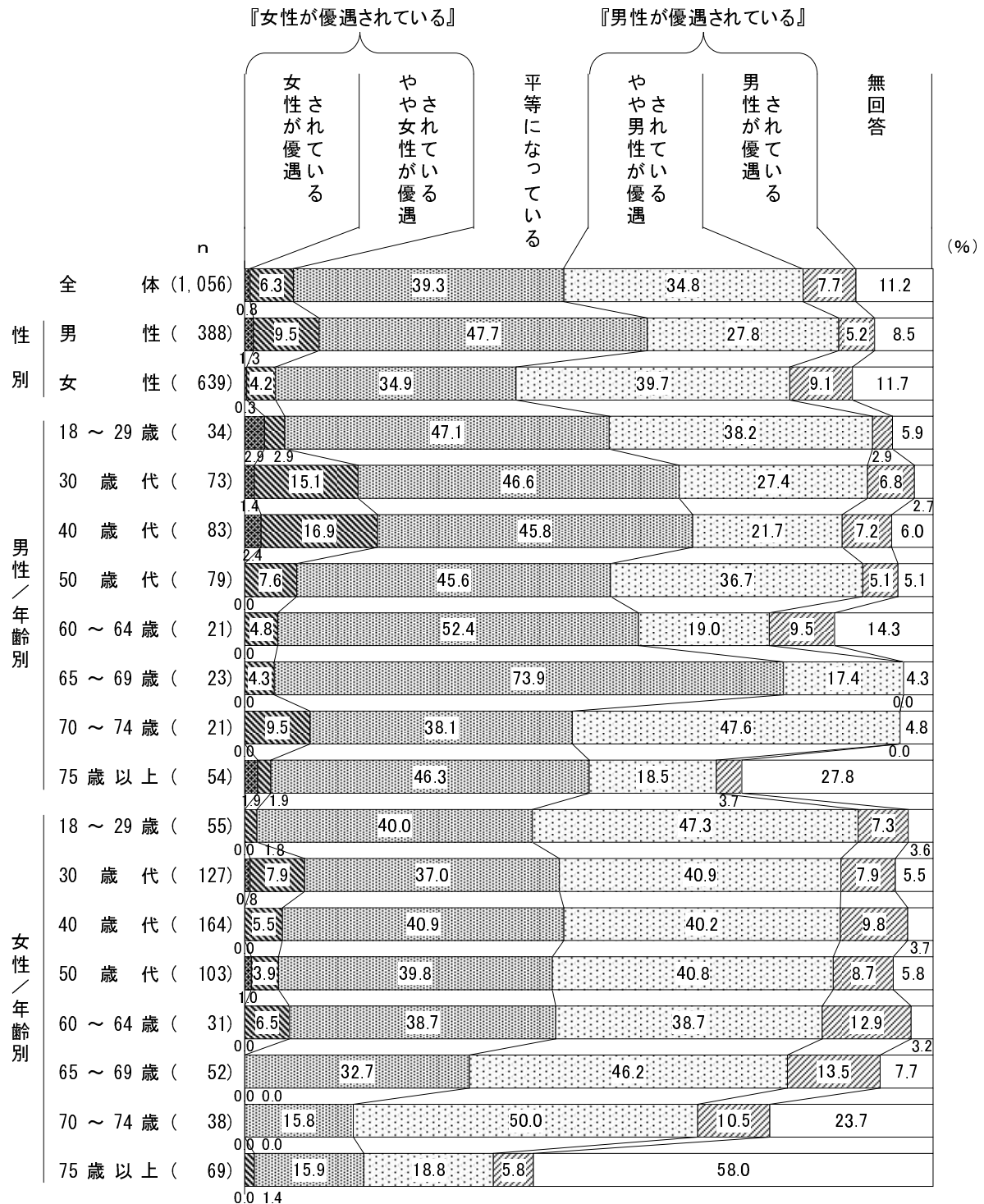
図表6－1－6 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(3) 教育の場（学校・大学）では」



“社会活動の場では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも15.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも12.8ポイント高くなっている。

“社会活動の場では”について性／年齢別でみると、「平等になっている」と感じる割合は男性の65～69歳で7割を超えて高くなっている。『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳と70～74歳でともに6割前後と高くなっている。(図表6-1-7)

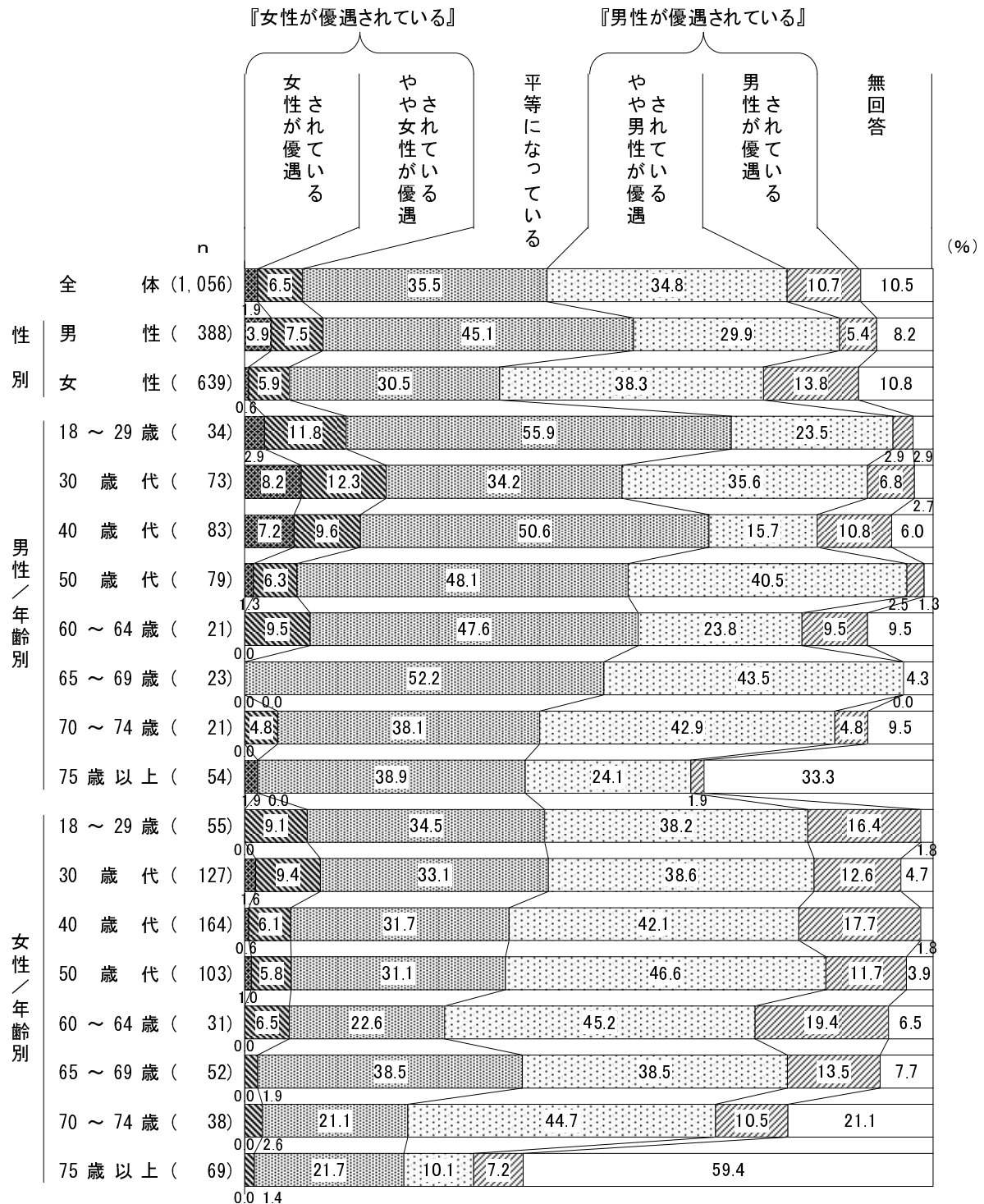
図表6-1-7 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(4) 社会活動の場では」



“法律や制度では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも16.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも14.6ポイント高くなっている。

“法律や制度では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で6割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で5割台半ばと高くなっている。(図表6-1-8)

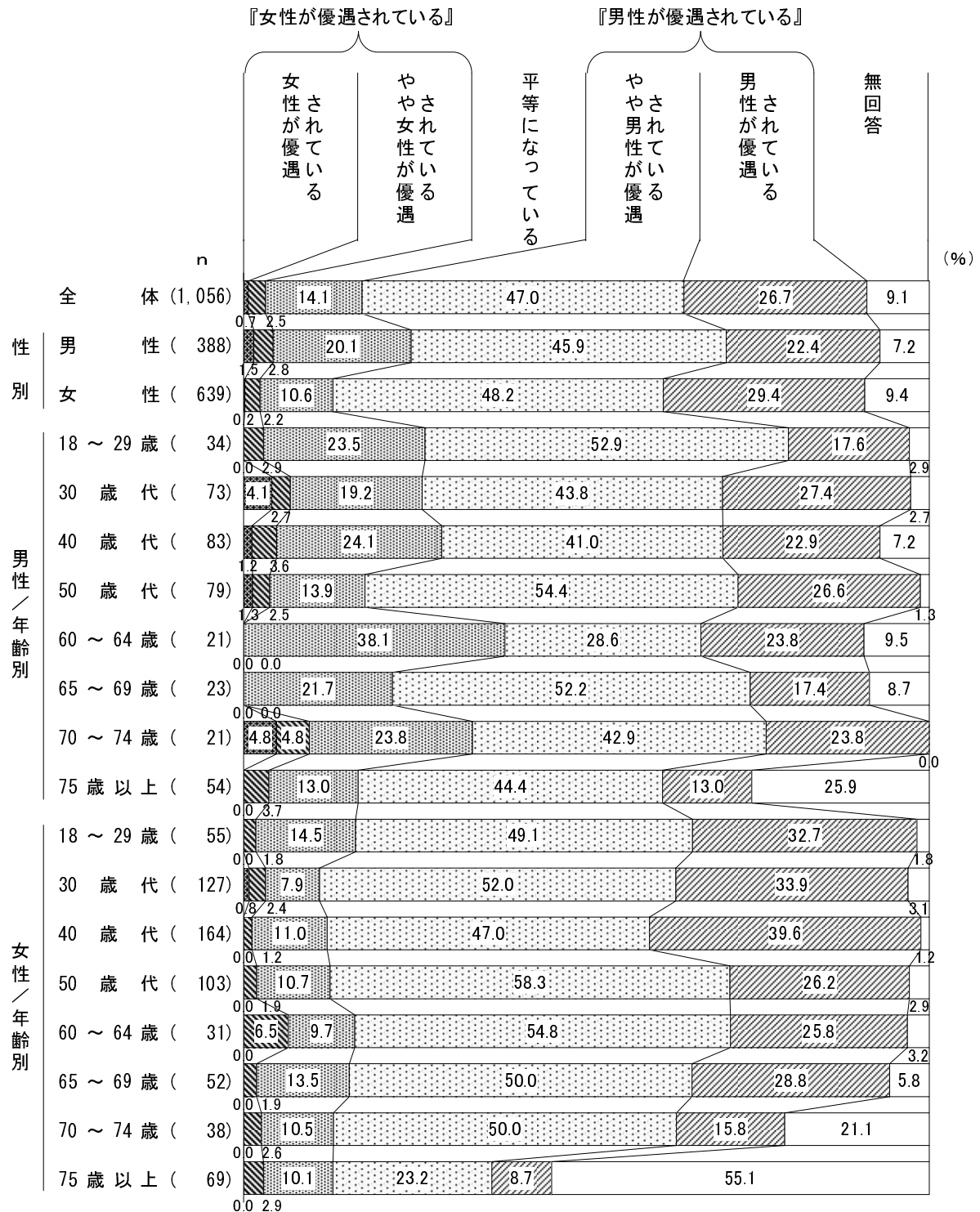
図表6-1-8 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」



“しきたりや習慣では”について性別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも9.3ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも9.5ポイント高くなっている。

“しきたりや習慣では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代で9割近く、女性の30歳代と50歳代とともに8割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の60～64歳で4割近くと高くなっている。(図表6-1-9)

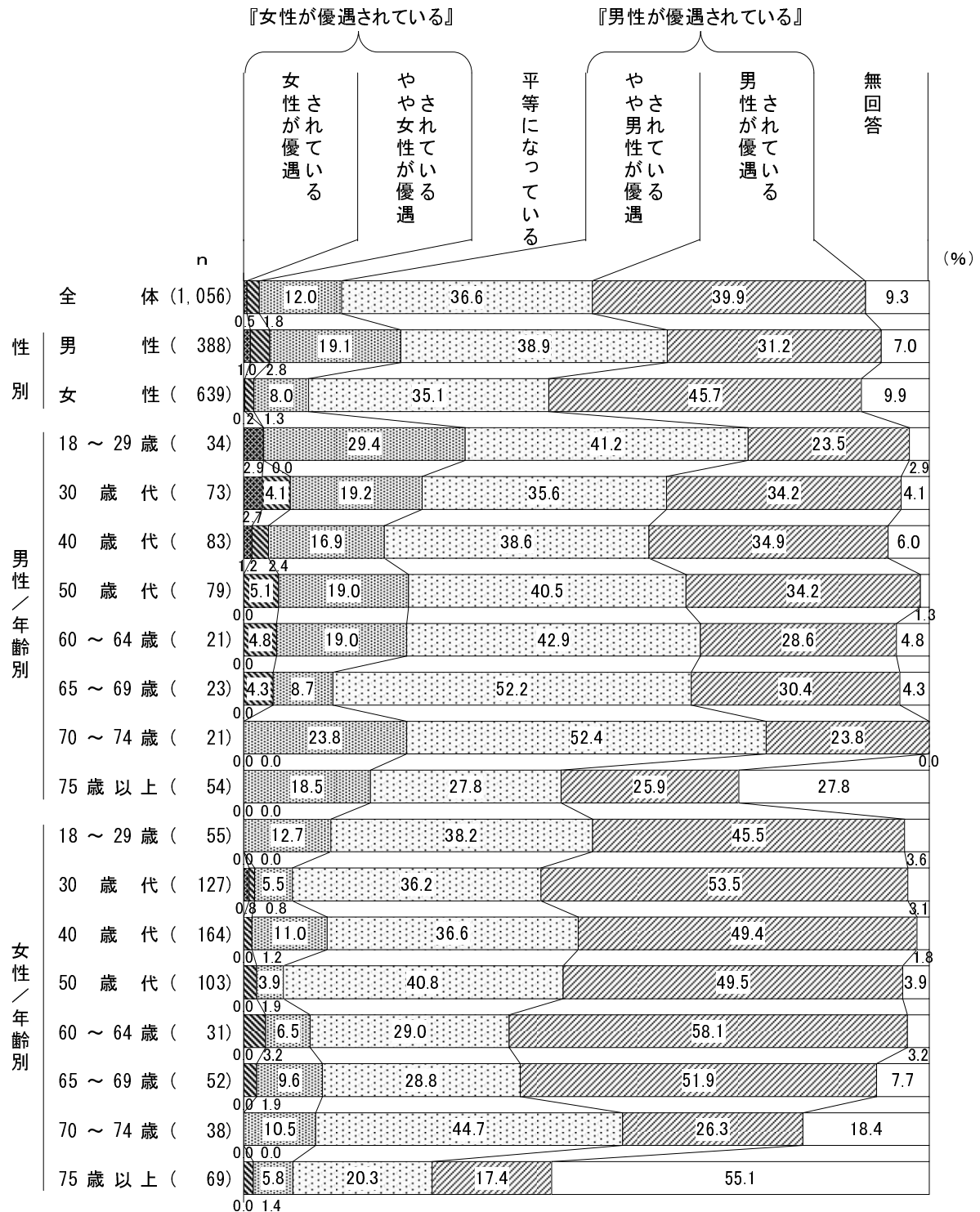
図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) しきたりや習慣では」



“政治の場では”について性別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも10.7ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも11.1ポイント高くなっている。

“政治の場では”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の30歳代と50歳代でともに9割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で約3割と高くなっている。(図表6-1-10)

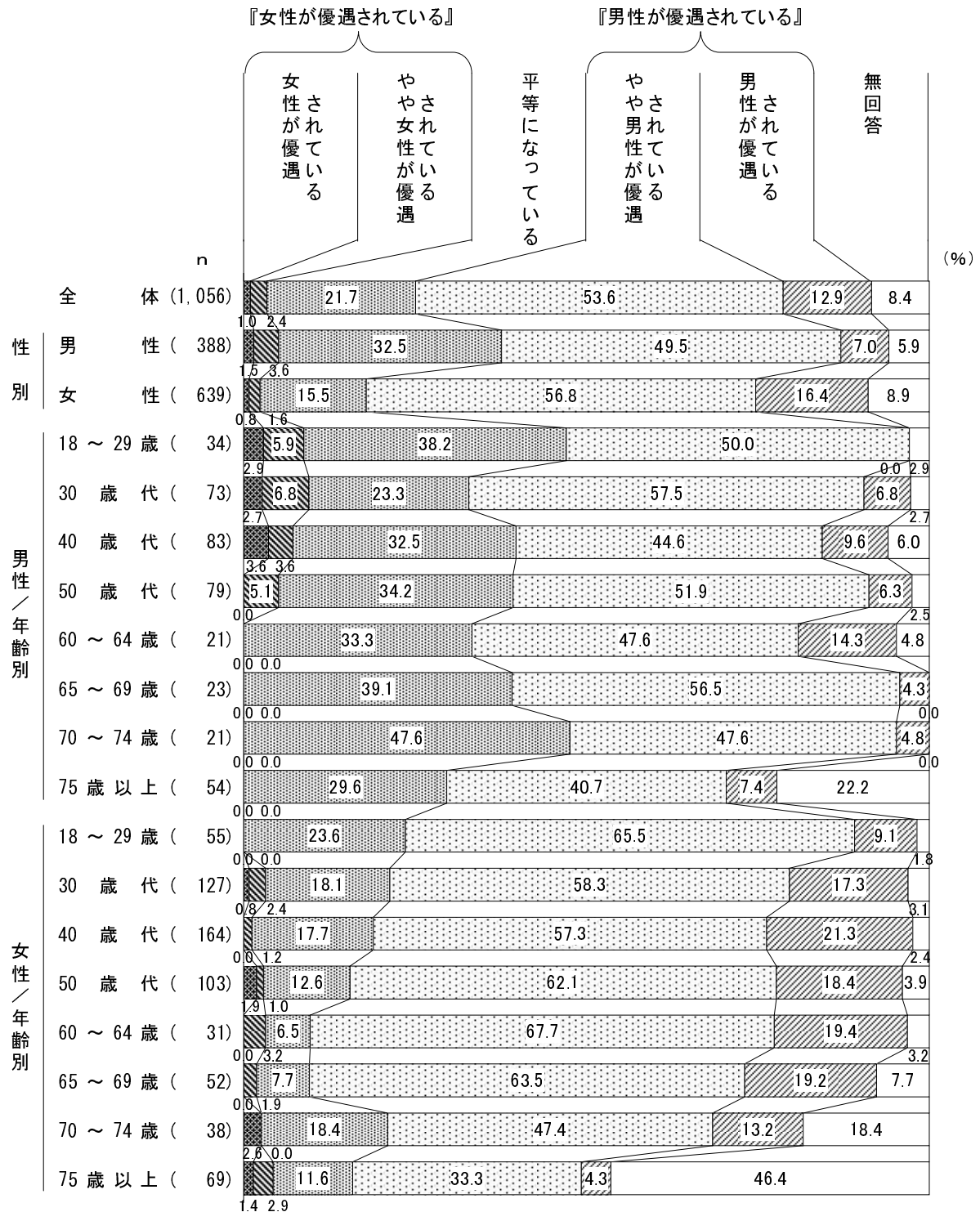
図表6-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(7) 政治の場では」



“全体としては”について性別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の方が男性よりも16.7ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」と感じる割合は男性の方が女性よりも17.0ポイント高くなっている。

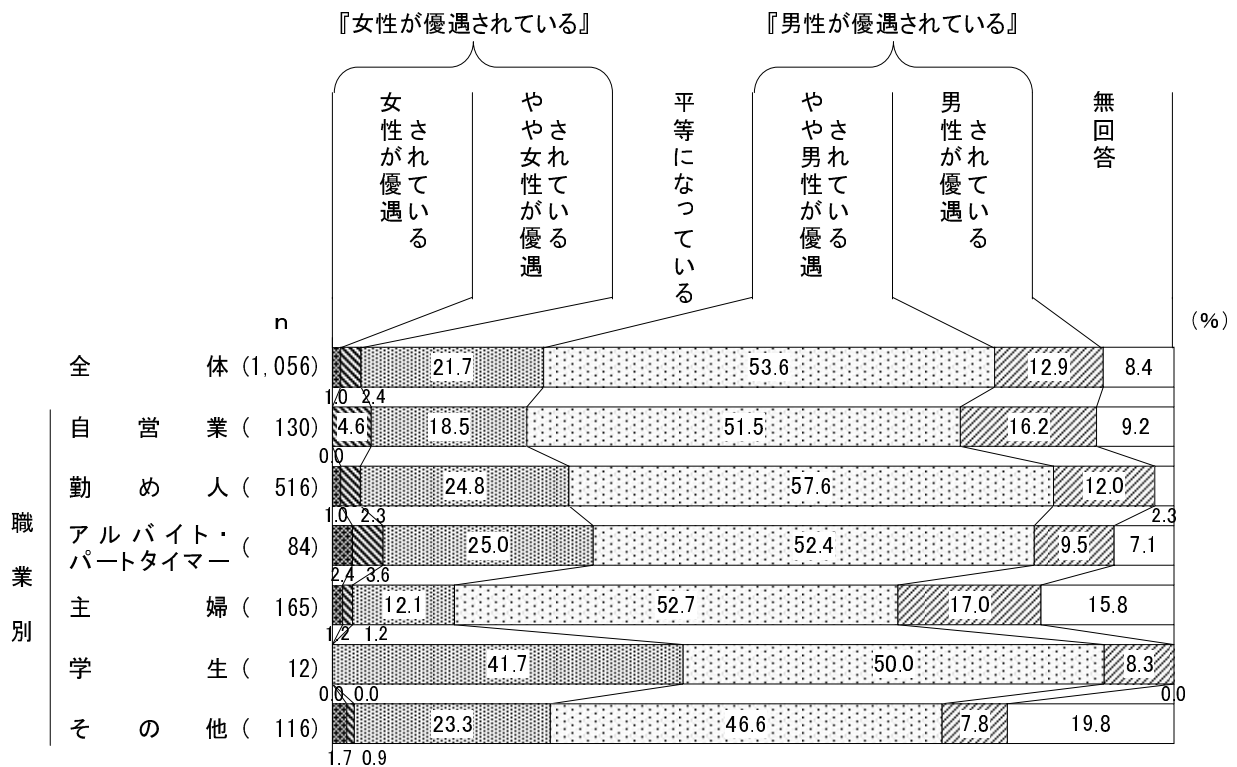
“全体としては”について性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で9割近く、女性の65～69歳で8割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の70～74歳で5割近くと高くなっている。(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(8) 全体としては」



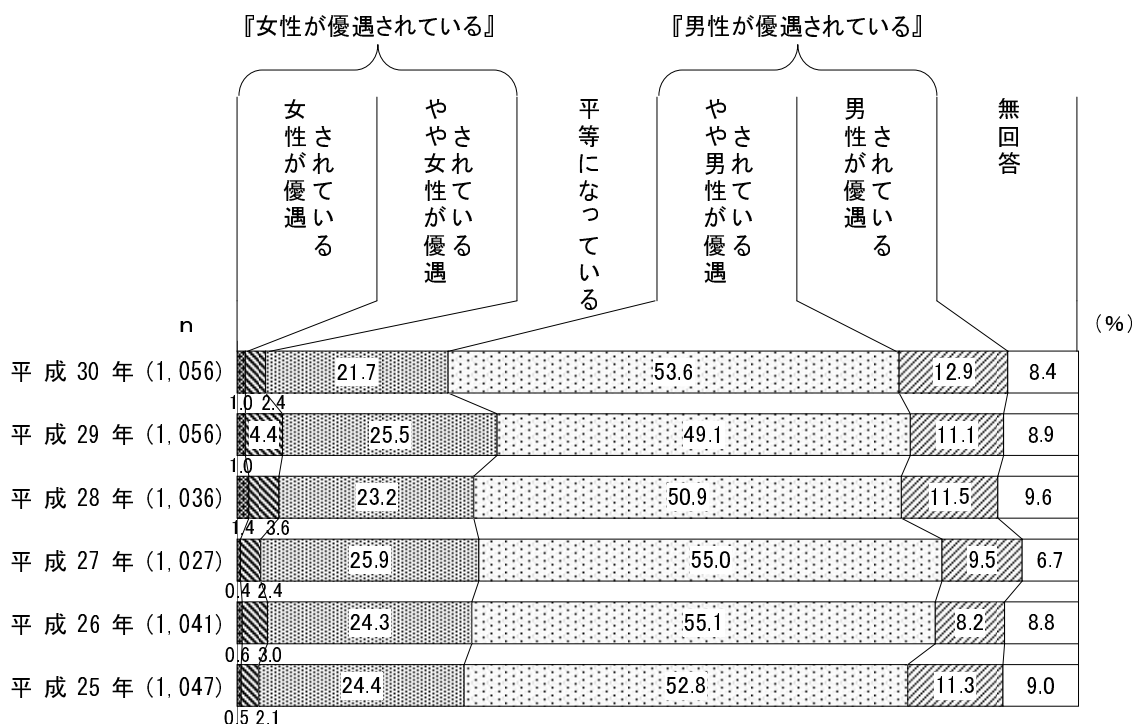
“全体としては”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は勤め人と主婦でともに7割と高くなっている。(図表6-1-12)

図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 全体としては」



“全体としては”について過去の調査と比較すると、「平等になっている」と感じる割合は平成29年より3.8ポイント減少している。一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は平成29年より6.3ポイント増加している。(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感—過年度比較「(8) 全体としては」



(2) ワーク・ライフ・バランスについての考え方

◇「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」が5割を超える

問17 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

(※) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

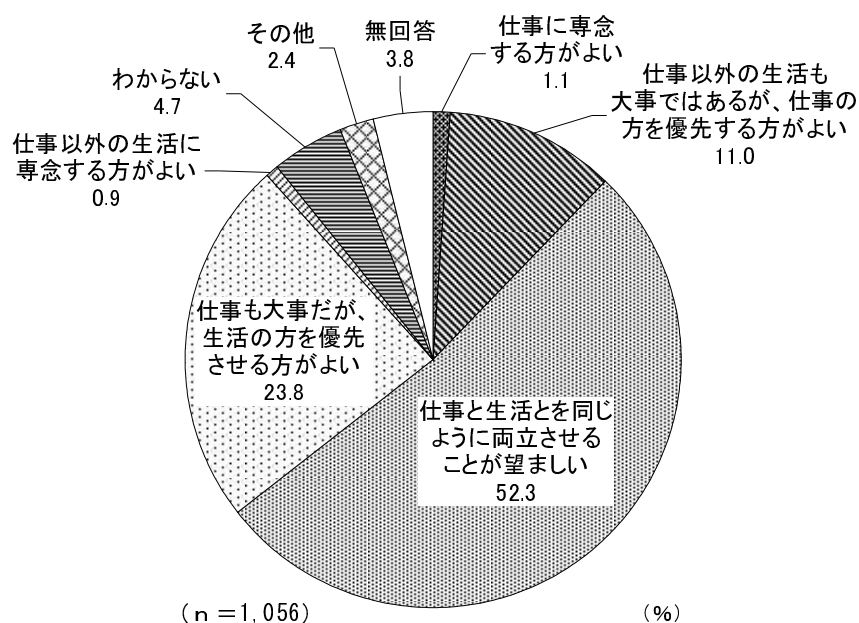
仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

n = 1,056

1	仕事に専念する方がよい	1.1%
2	仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい	11.0
3	仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい	52.3
4	仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい	23.8
5	仕事以外の生活に専念する方がよい	0.9
6	わからない	4.7
7	その他	2.4
	(無回答)	3.8

ワーク・ライフ・バランスについての考え方は、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」(52.3%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」(23.8%)、「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」(11.0%)などとなっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスについての考え方



過去の調査と比較すると、平成29年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスについての考え方ー過年度比較

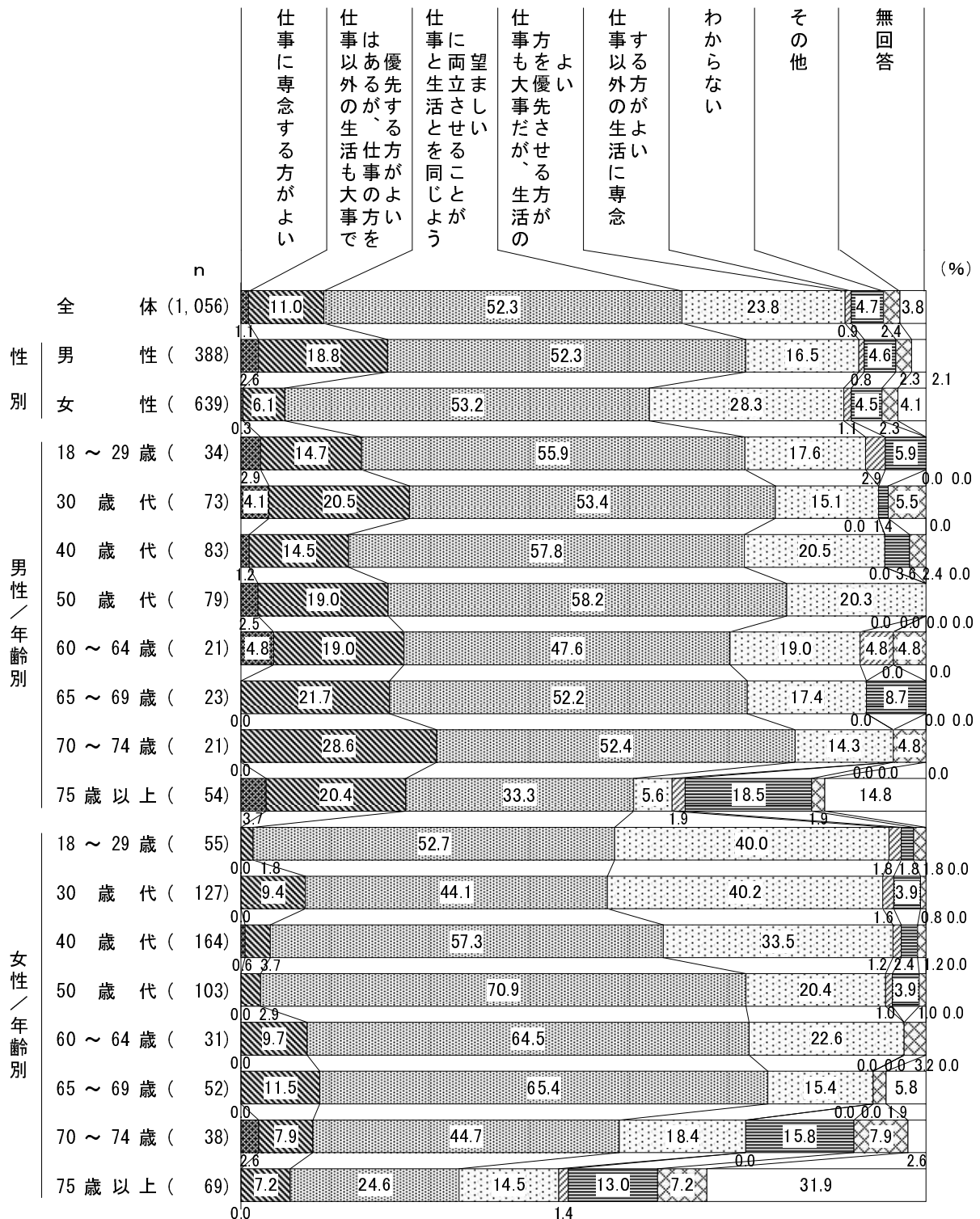
(%)

調査年	n	仕事に専念する方がよい	仕事は優先する方がよい （仕事以外の生活も大事）	仕事に両立させたい （望ましい）	仕事も優先だが、生活の方がよい	仕事以外の生活に専念する方がよい	わからない	その他	無回答
平成30年	1,056	1.1	11.0	52.3	23.8	0.9	4.7	2.4	3.8
平成29年	1,056	0.9	10.6	52.7	23.8	1.9	4.1	0.9	5.2
平成28年	1,036	1.7	12.3	53.3	20.5	1.7	4.0	1.9	4.6
平成27年	1,027	1.2	12.6	54.3	19.3	1.8	4.2	3.0	3.7
平成26年	1,041	1.8	12.1	52.4	21.4	1.8	4.9	1.7	3.7
平成25年	1,047	2.0	14.6	51.8	19.6	1.2	5.0	1.0	4.9

性別でみると、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は女性の方が男性よりも11.8ポイント高くなっている。一方、「仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい」は男性の方が女性よりも12.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は女性の50歳代で約7割と高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は女性の18～29歳と30歳代でともに4割と高くなっている。(図表6-2-3)

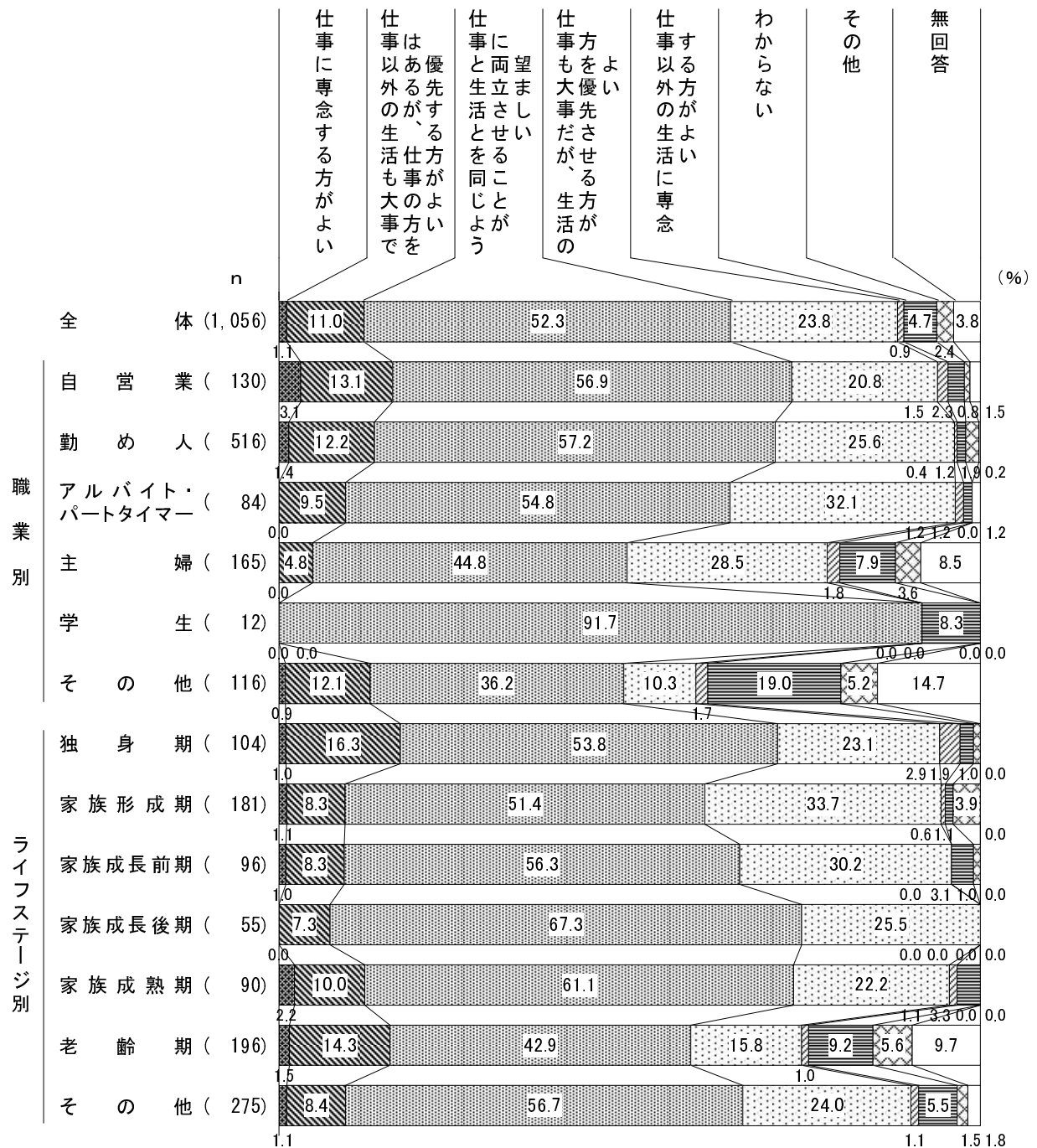
図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスについての考え方－性別・性／年齢別



職業別でみると、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」はアルバイト・パートタイマーで3割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」は家族成長後期で7割近くと高くなっている。「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスについての考え方—職業別・ライフステージ別



(3) 望ましい位置づけに対しての現在の状況

◇「どちらかといえば、仕事の方を優先している」が3割

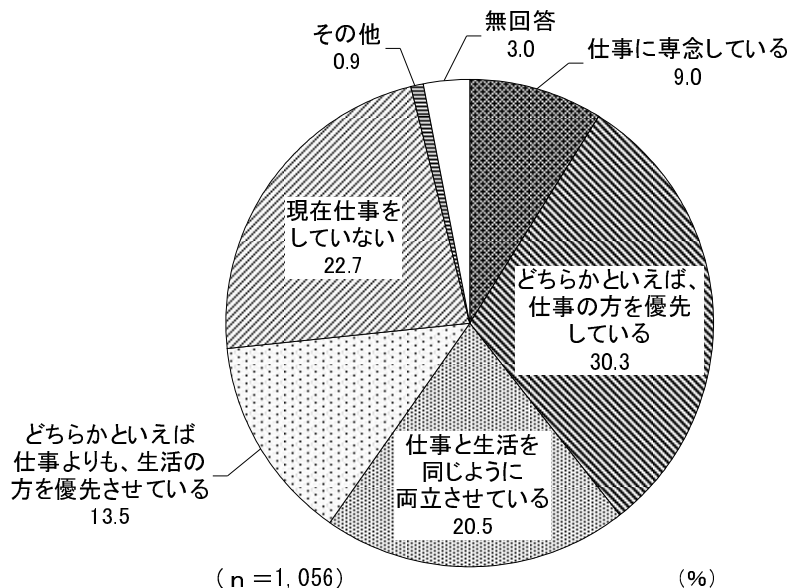
問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

n = 1,056

1	仕事に専念している	9.0%
2	どちらかといえば、仕事の方を優先している	30.3
3	仕事と生活を同じように両立させている	20.5
4	どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている	13.5
5	現在仕事をしていない	22.7
6	その他	0.9
	(無回答)	3.0

望ましい位置づけに対しての現在の状況は、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」(30.3%)が3割で最も高くなっている。次いで、「現在仕事をしていない」(22.7%)、「仕事と生活を同じように両立させている」(20.5%)、「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」(13.5%)、「仕事に専念している」(9.0%)などとなっている。(図表6-3-1)

図表6-3-1 望ましい位置づけに対しての現在の状況



過去の調査結果と比較すると、「仕事と生活を同じように両立させている」は平成29年より3.4ポイント減少している。(図表6-3-2)

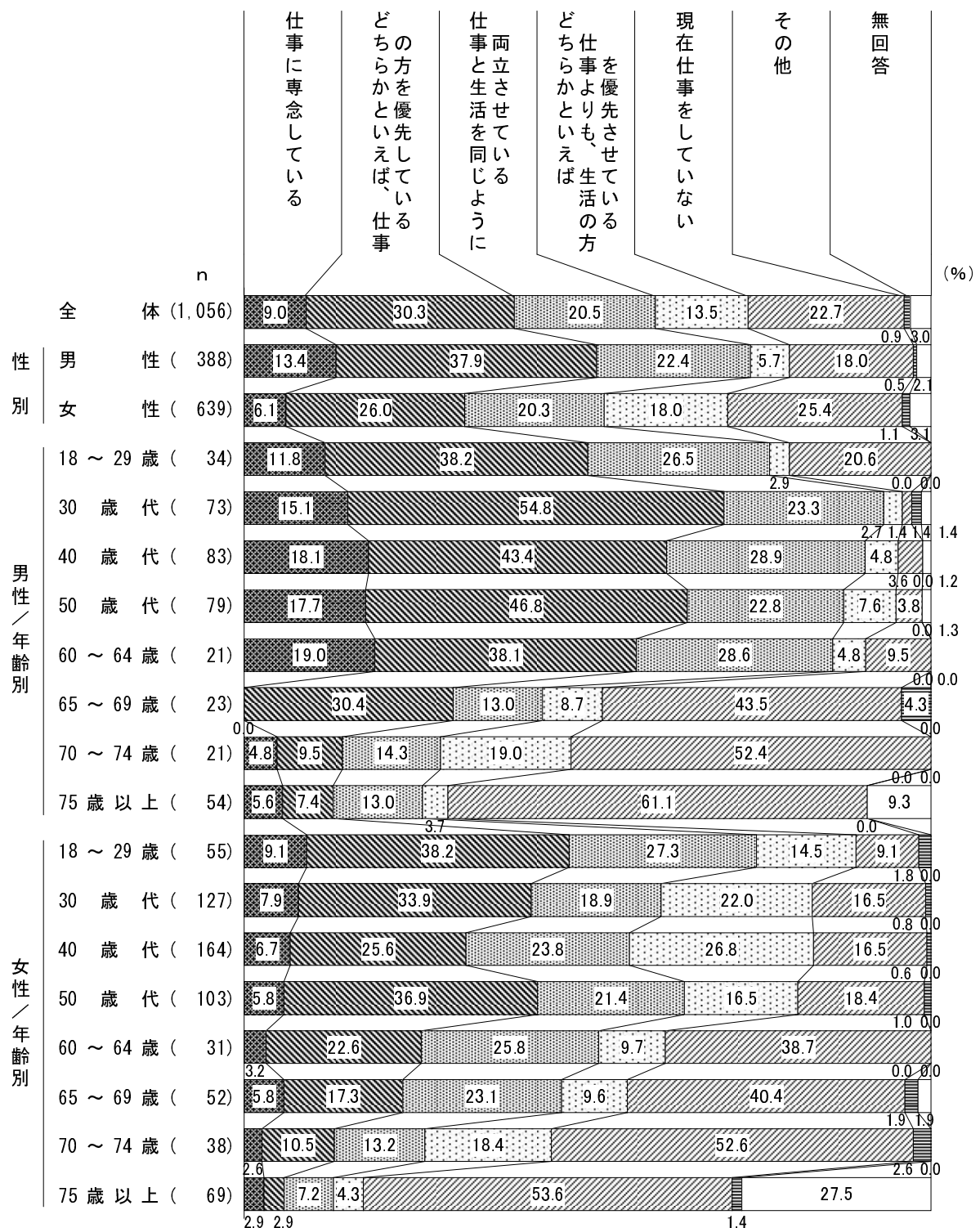
図表6-3-2 望ましい位置づけに対する現在の状況一過年度比較

調査年	n	(%)						
		仕事に専念している	どちらかといえ、仕事を優先している	仕事と生活を同じように両立させている	どちらかといえ、優先させている、生活の方を優先させている	現在仕事をしていない	その他	無回答
平成30年	1,056	9.0	30.3	20.5	13.5	22.7	0.9	3.0
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

性別でみると、男性の方が女性よりも「どちらかといえば、仕事の方を優先している」で11.9ポイント、「仕事に専念している」で7.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」で12.3ポイント、「現在仕事をしていない」で7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は男性の30歳代で5割台半ばと高くなっている。「仕事と生活を同じように両立させている」は男性の40歳代と60～64歳とともに3割近くと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は女性の40歳代で3割近くと高くなっている。(図表6-3-3)

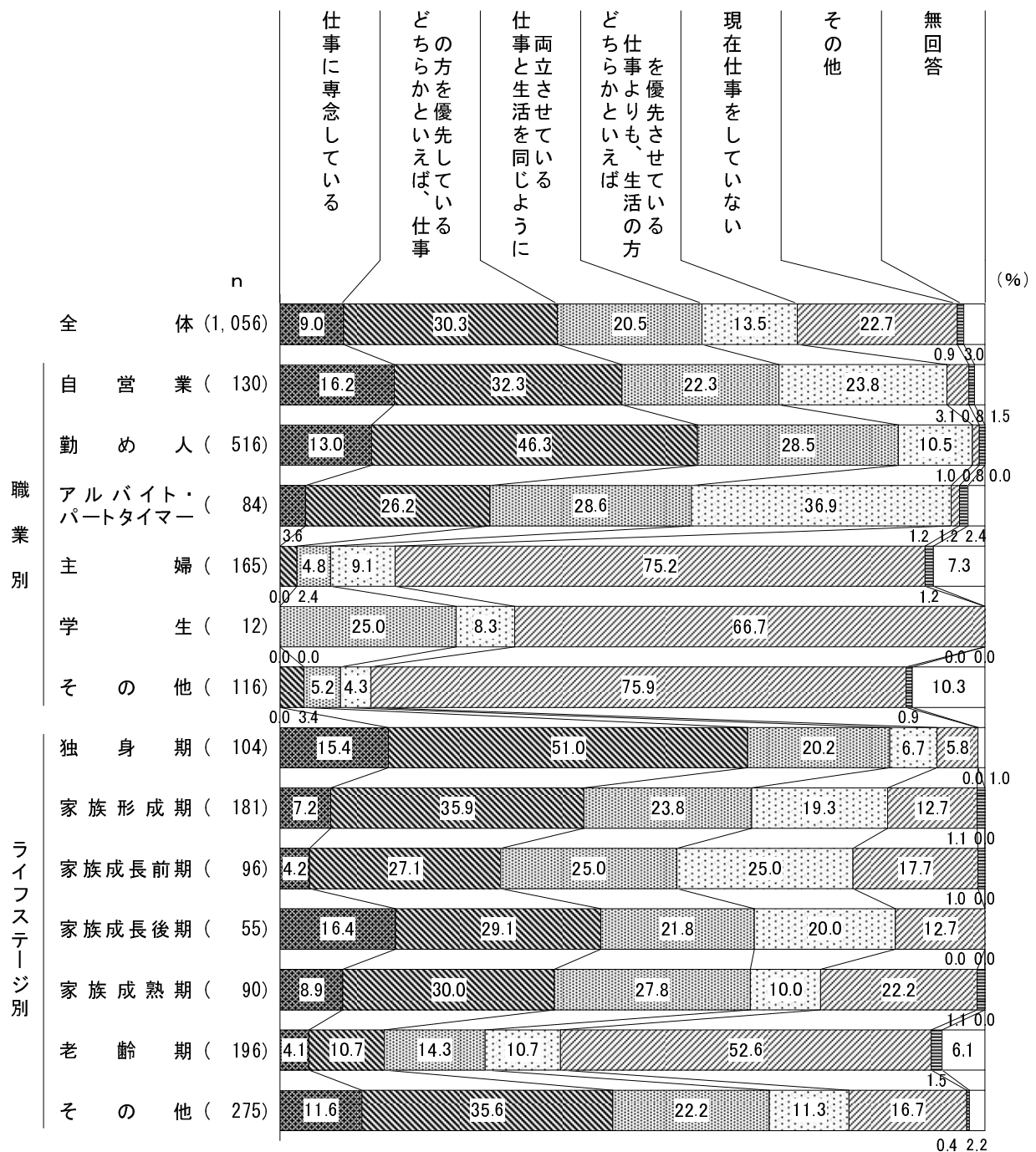
図表6-3-3 望ましい位置づけに対しての現在の状況－性別・性／年齢別



職業別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は勤め人で4割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」はアルバイト・パートタイマーで4割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「どちらかといえば、仕事の方を優先している」は独身期で5割を超えて高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」は家族成長前期で2割台半ばと高くなっている。(図表6-3-4)

図表6-3-4 望ましい位置づけに対しての現在の状況－職業別・ライフステージ別



(4) 女性センター「ブーケ21」の認知度

◇『知っている』は4割を超える

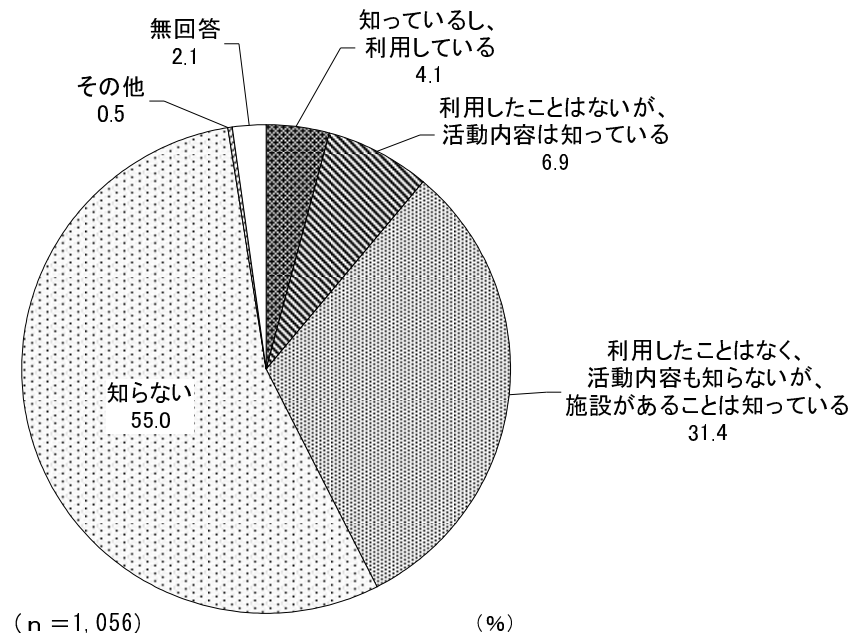
問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。(○は1つ)

n = 1,056

1	知っているし、利用している	4.1%
2	利用したことはないが、活動内容は知っている	6.9
3	利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている	31.4
4	知らない	55.0
5	その他 (無回答)	0.5 2.1

女性センター「ブーケ21」の認知度は、「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」(31.4%)が3割を超え、これに「利用したことはないが、活動内容は知っている」(6.9%)と「知っているし、利用している」(4.1%)を合わせた『知っている』(42.4%)は4割を超えている。一方、「知らない」(55.0%)は5割台半ばとなっている。(図表6-4-1)

図表6-4-1 女性センター「ブーケ21」の認知度



過去の調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表6-4-2)

図表6-4-2 女性センター「ブーケ21」の認知度一過年度比較

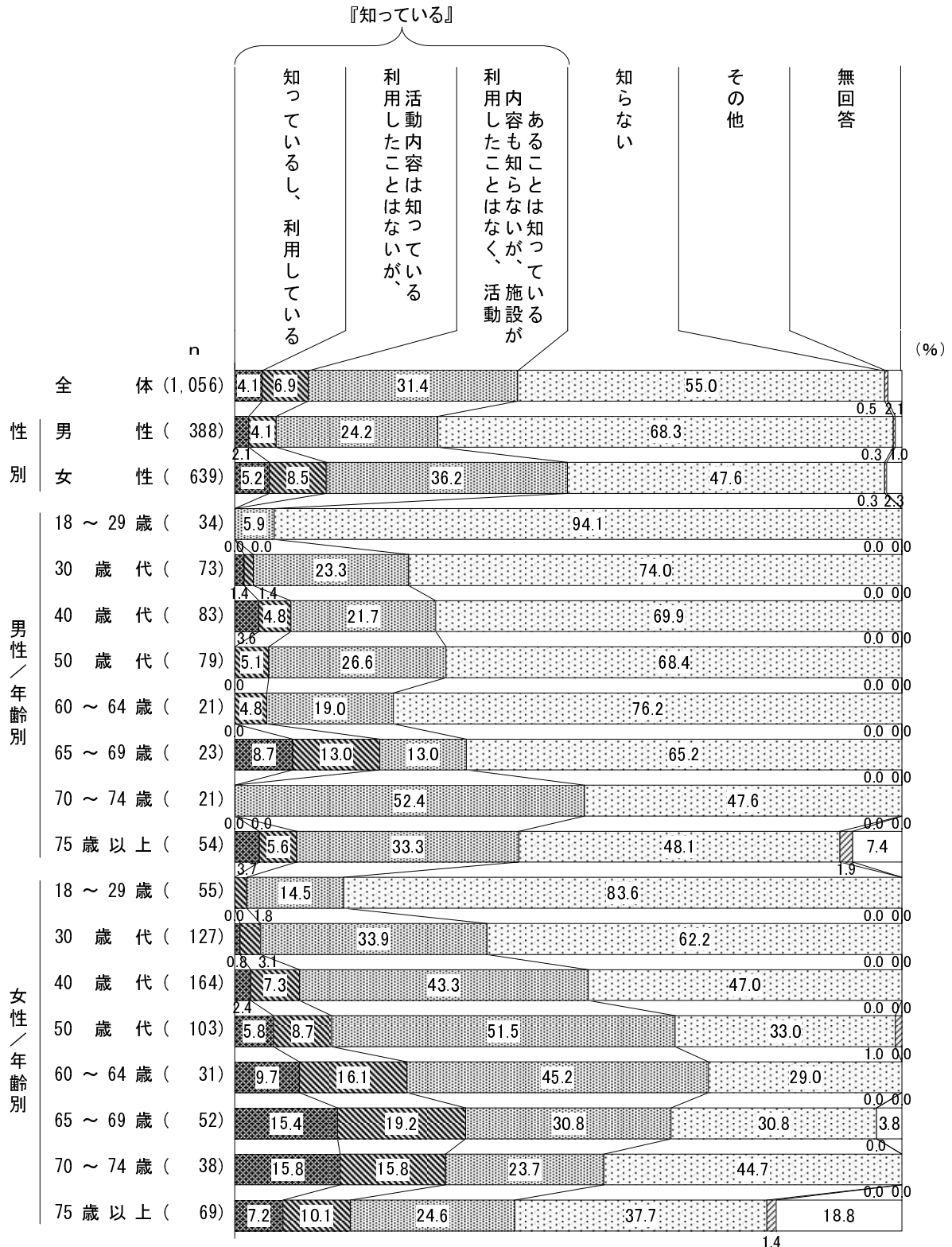
(%)

調査年	n	知っているし、利用している	利用した内容は知っているが、	利用内容もあることは知っているが、内容は知らないが、施設が	知らない	その他	無回答
平成30年	1,056	4.1	6.9	31.4	55.0	0.5	2.1
平成29年	1,056	2.2	7.9	32.2	54.1	0.2	3.5
平成28年	1,036	3.3	7.7	30.9	55.1	0.3	2.7
平成27年	1,027	3.2	9.5	29.7	54.1	0.5	2.9
平成26年	1,041	4.1	8.2	28.5	55.0	0.5	3.7
平成25年	1,047	2.9	9.4	29.7	52.7	1.0	4.4

性別でみると、「知らない」は男性の方が女性よりも20.7ポイント高くなっている。一方、「利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている」は女性の方が男性よりも12.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知っているし、利用している」は女性の65～69歳と70～74歳でともに1割台半ばとなっている。一方、「知らない」は男性の18～29歳で9割台半ば、女性の18～29歳で8割を超えて高くなっている。(図表6-4-3)

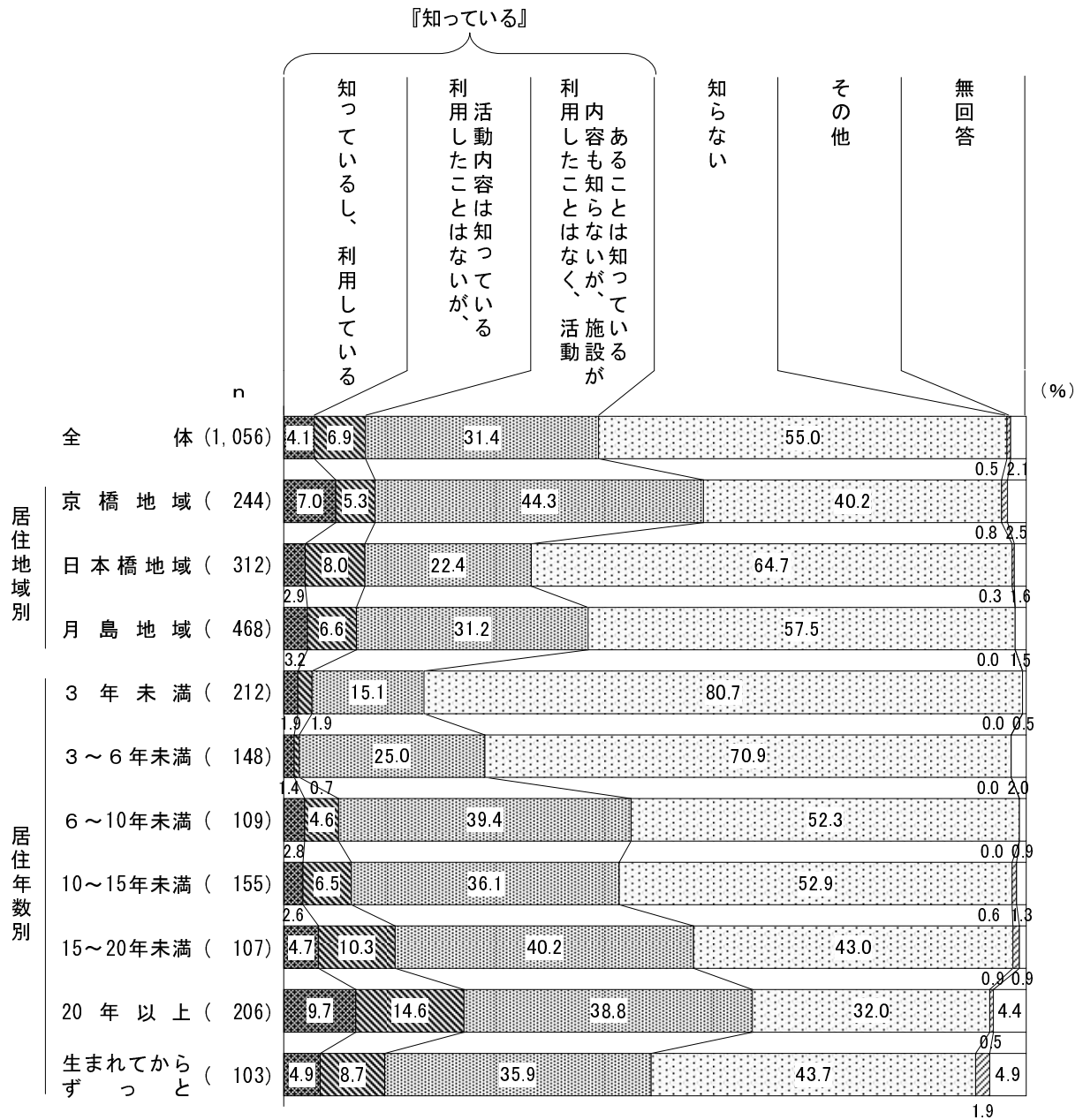
図表6-4-3 女性センター「ブーケ21」の認知度－性別・性／年齢別



居住地域別でみると、『知っている』は京橋地域で6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は日本橋地域で6割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『知っている』は居住年数20年以上の人で6割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は居住年数3年未満の人で約8割と高くなっている。(図表6-4-4)

図表6-4-4 女性センター「ブーケ21」の認知度—居住地域別・居住年数別



【7 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇「空き巣」が2割を超える

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(〇は2つまで)

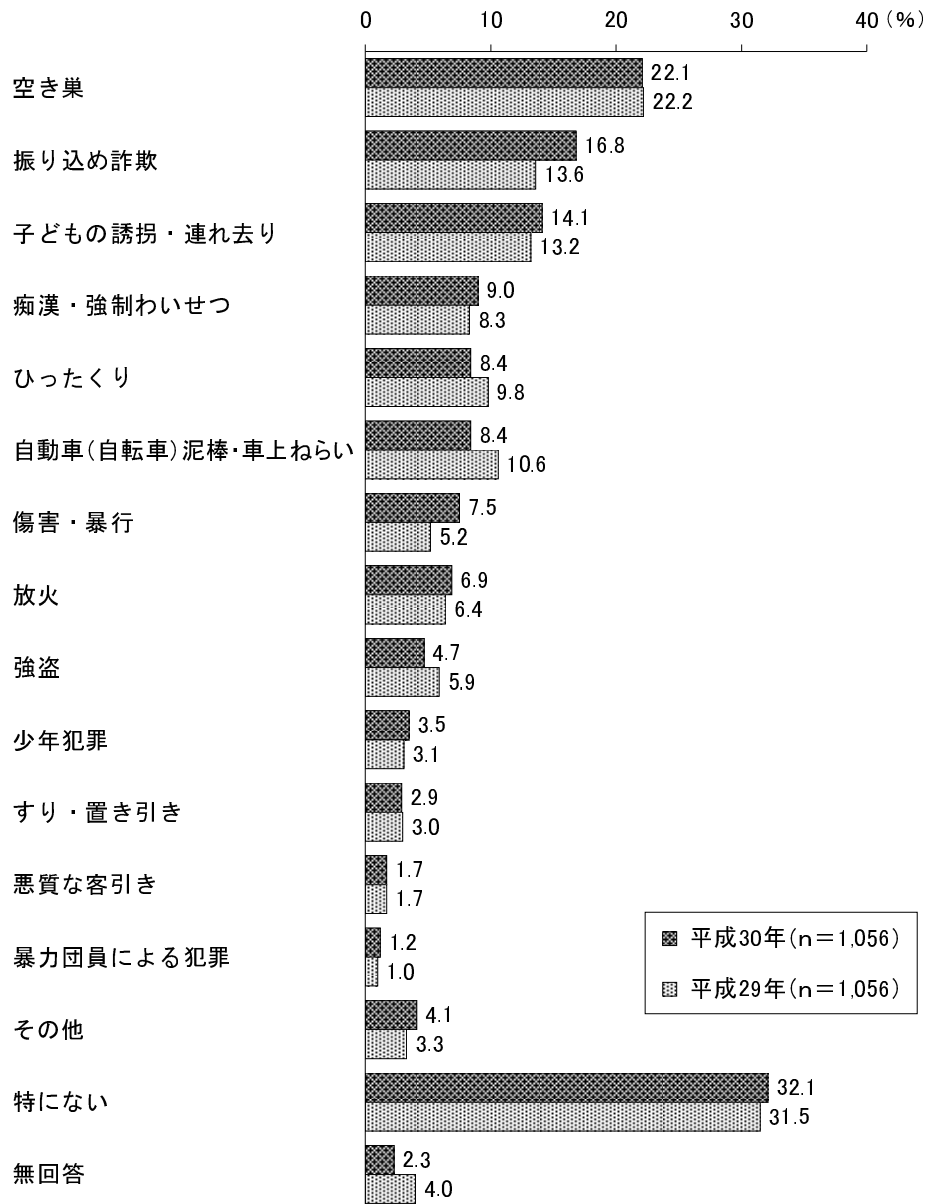
n = 1,056

1	ひったくり	8.4%	9	痴漢・強制わいせつ	9.0
2	空き巣	22.1	10	少年犯罪	3.5
3	強盗	4.7	11	子どもの誘拐・連れ去り	14.1
4	すり・置き引き	2.9	12	暴力団員による犯罪	1.2
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	8.4	13	悪質な客引き	1.7
6	振り込め詐欺	16.8	14	その他	4.1
7	傷害・暴行	7.5	15	特にない	32.1
8	放火	6.9		(無回答)	2.3

不安を感じる犯罪は、「空き巣」(22.1%)が2割を超えて最も高くなっている。次いで、「振り込め詐欺」(16.8%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(14.1%)、「痴漢・強制わいせつ」(9.0%)、「ひったくり」(8.4%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(8.4%)などとなっている。また、「特にない」(32.1%)は3割を超えている。

昨年との調査結果と比較すると、「振り込め詐欺」は3.2ポイント増加している。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「空き巣」が引き続き第1位となっている。(図表7-1-2)

図表7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

(%)

調査年	n	空き巣	振り込め詐欺	子どもの誘拐・連れ去り	痴漢・強制わいせつ	ひったくり	自動車(自転車)泥棒・上ねらい	傷害・暴行	放火	強盗	少年犯罪	すり・置き引き	悪質な客引き	暴力団員による犯罪	その他	特にない	無回答
平成30年	1,056	22.1	16.8	14.1	9.0	8.4	8.4	7.5	6.9	4.7	3.5	2.9	1.7	1.2	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	22.2	13.6	13.2	8.3	9.8	10.6	5.2	6.4	5.9	3.1	3.0	1.7	1.0	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	21.7	12.4	14.0	10.0	6.0	12.2	6.0	5.2	6.4	3.6	2.7	1.4	2.0	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	26.4	15.1	14.1	7.4	7.7	10.8	6.5	8.7	6.5	7.6	3.8	0.8	1.7	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	40.1	21.4	16.9	11.8	16.0	17.5	11.1	13.8	11.9	8.8	8.4	※	3.9	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	37.8	21.5	11.4	11.4	22.6	22.1	11.9	16.4	12.0	7.6	8.2	※	4.7	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	41.7	13.1	11.9	10.5	21.5	21.1	16.8	17.8	16.9	10.2	7.5	※	8.2	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	43.6	14.2	12.8	9.9	23.4	23.2	11.9	15.6	15.4	7.8	7.5	※	5.7	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	41.8	17.1	13.9	10.3	20.3	20.9	12.2	16.7	12.8	11.3	6.5	※	7.0	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	44.8	12.2	14.2	10.2	27.7	21.1	9.7	21.9	17.7	9.5	6.3	※	4.8	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	42.6	18.0	16.9	18.6	19.8	13.9	17.7	18.9	18.1	15.0	4.5	※	10.4	5.9	※	7.6
平成19年	686	43.7	18.4	16.5	15.9	20.6	16.0	14.0	22.6	20.6	16.3	5.0	※	8.7	1.9	※	5.4

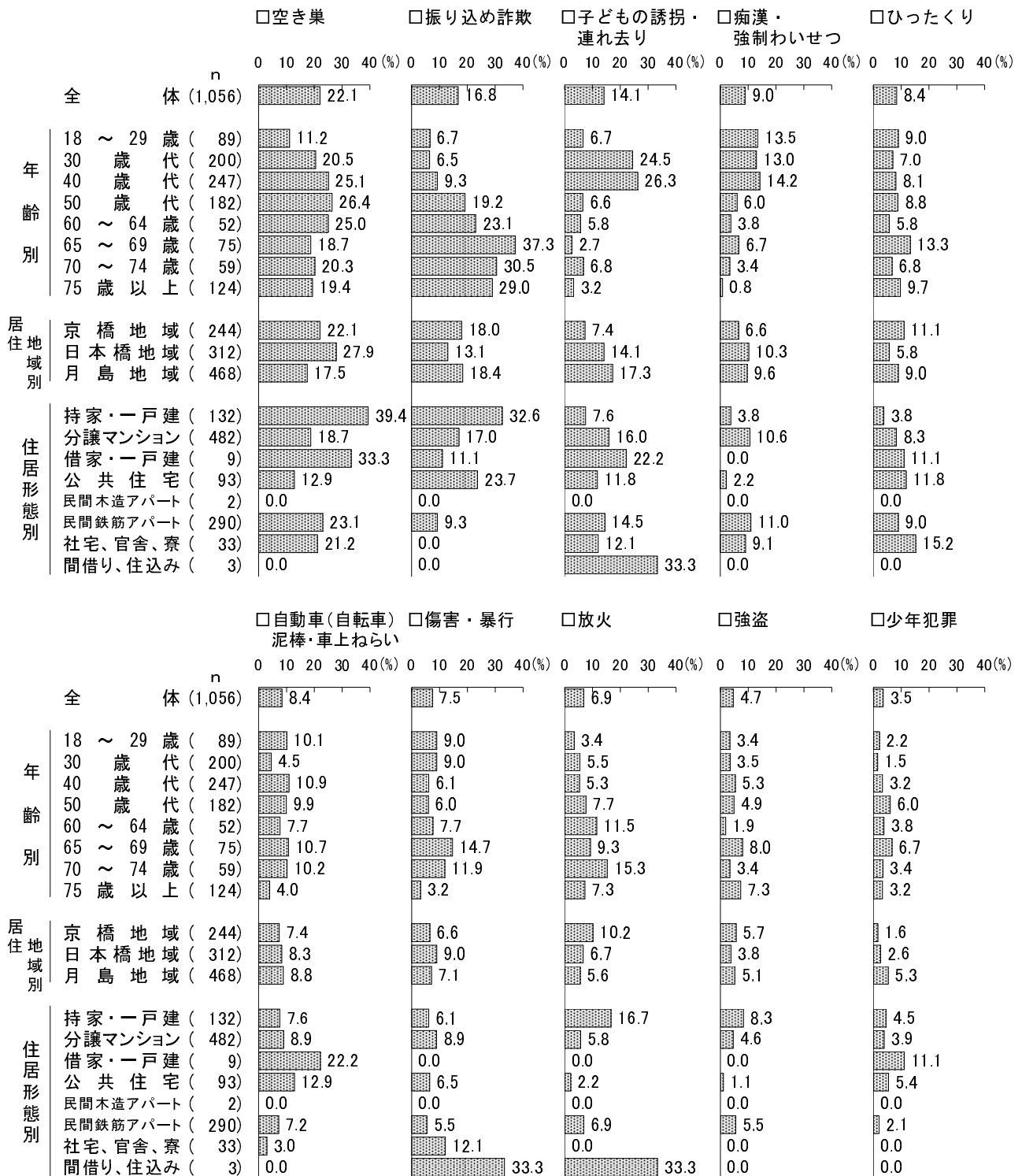
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢
- * 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

年齢別でみると、「振り込め詐欺」は65～69歳で4割近くと高くなっている。「子どもの誘拐・連れ去り」は30歳代と40歳代でともに2割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「空き巣」は日本橋地域で3割近くと高くなっている。「子どもの誘拐・連れ去り」は月島地域で2割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「空き巣」は持家・一戸建で約4割と高くなっている。「振り込め詐欺」は持家・一戸建で3割を超えて高くなっている。(図表7-1-3)

図表 7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」がともに2割

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

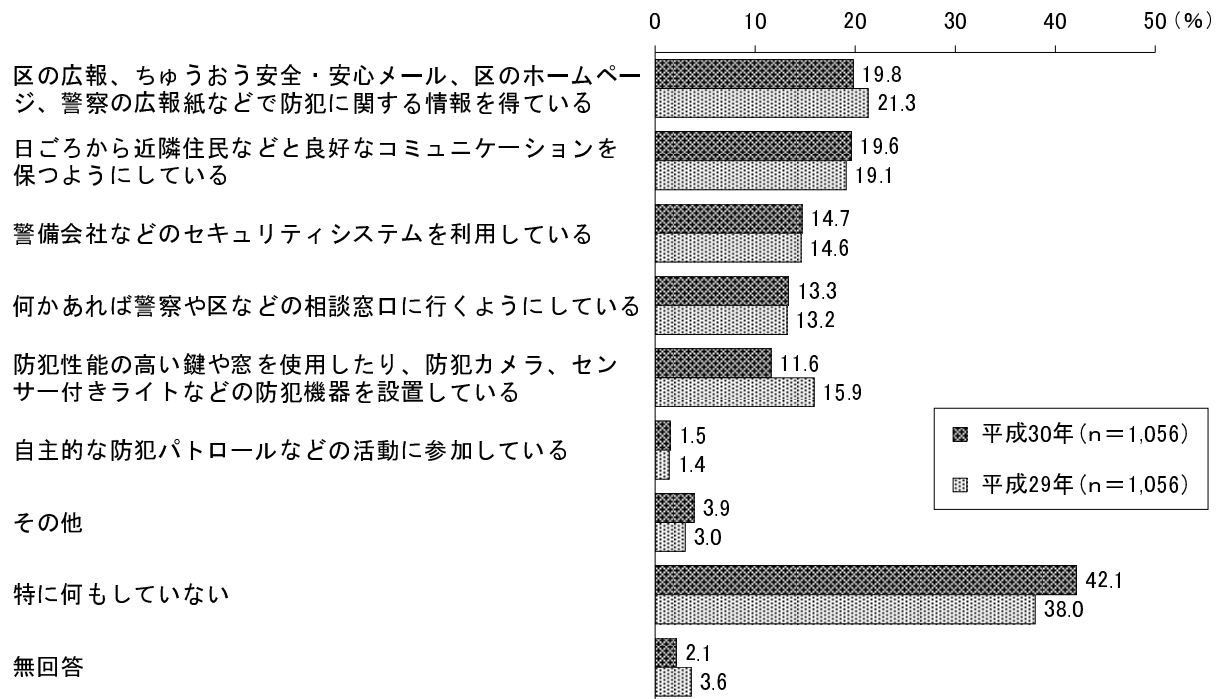
n = 1,056

1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.5%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	19.8
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	13.3
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	19.6
5	防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	11.6
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.7
7	その他	3.9
8	特に何もしていない	42.1
	(無回答)	2.1

防犯のために行っていることは、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(19.8%)と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(19.6%)がともに2割と高くなっている。次いで、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.7%)、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」(13.3%)、「防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(11.6%)などとなっている。また、「特に何もしていない」(42.1%)は4割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」は4.3ポイント減少している。一方、「特に何もしていない」は4.1ポイント増加している。(図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯のために行っていること(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は、平成22年以降引き続き上位2項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

(%)

調査年	n	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	何かあれば警察や区などに行くとしている	防犯性能の高い鍵や窓を	使用センサー付きカメラなどの防犯機器を設置している	自主的に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
平成30年	1,056	19.8	19.6	14.7	13.3	11.6	1.5	3.9	42.1	2.1	
平成29年	1,056	21.3	19.1	14.6	13.2	15.9	1.4	3.0	38.0	3.6	
平成28年	1,036	19.8	20.3	15.2	13.5	15.5	1.2	2.2	41.0	2.6	
平成27年	1,027	20.0	20.1	14.2	13.0	14.1	1.6	3.0	41.6	1.9	
平成26年	1,041	17.5	19.5	13.6	14.4	14.9	1.2	3.7	41.6	3.2	
平成25年	1,047	18.4	22.3	11.9	15.2	16.1	2.1	3.9	36.8	4.7	
平成24年	1,123	19.6	20.1	12.0	16.3	15.2	1.6	2.8	40.5	2.4	
平成23年	1,097	17.7	22.0	11.9	15.3	14.8	1.8	3.2	39.7	3.4	
平成22年	1,004	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1	
平成21年	1,001	13.7	26.8	15.4	16.2	19.4	2.6	3.5	35.2	2.2	
平成20年	1,065	12.7	29.8	14.1	17.2	19.7	3.4	3.3	36.2	2.3	
平成19年	686	9.0	27.7	10.5	13.0	19.2	2.9	2.5	41.5	2.0	

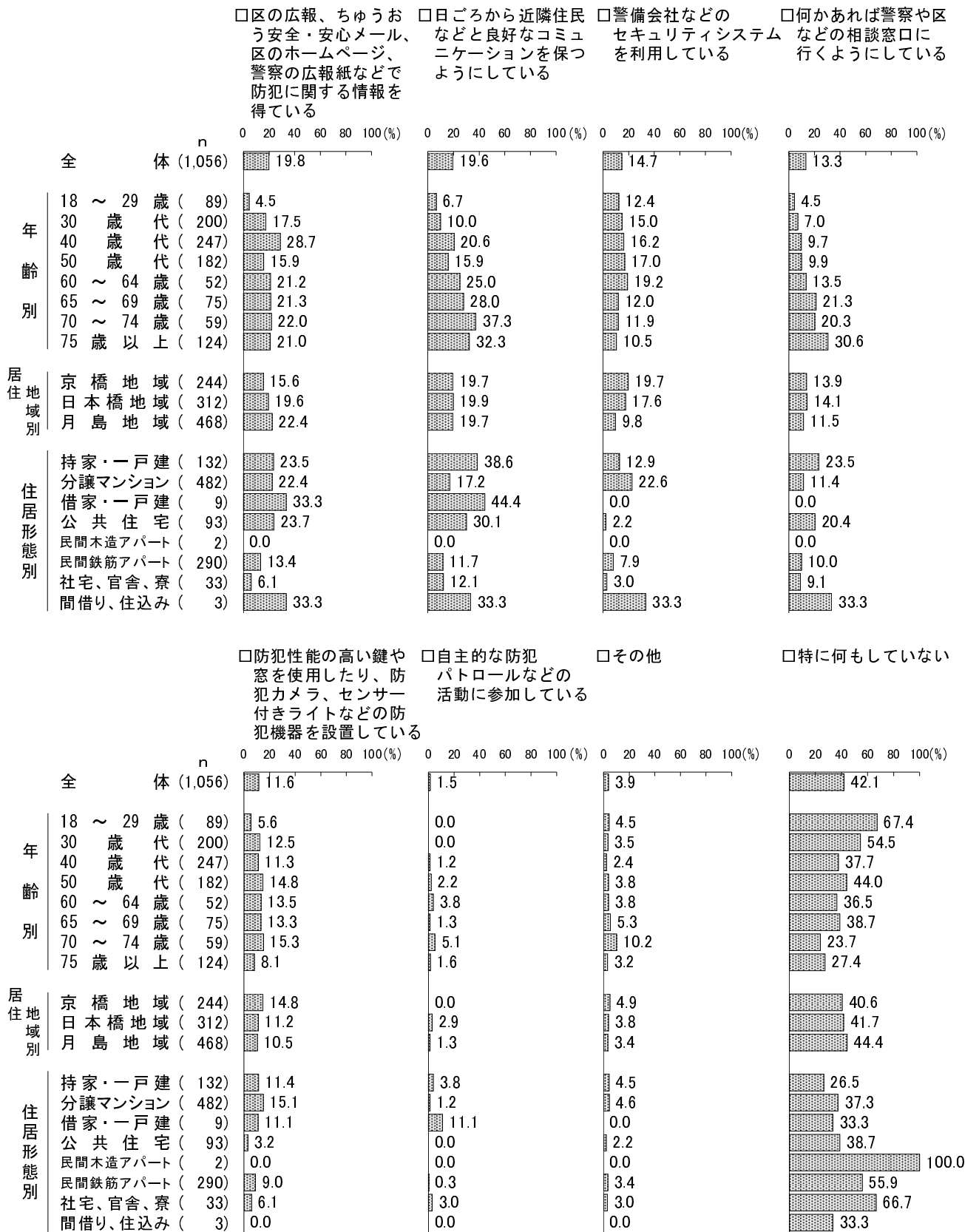
* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

年齢別でみると、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」は40歳代で3割近くと高くなっている。「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は70～74歳で4割近くと高くなっている。「特に何もしていない」は18～29歳で7割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」は京橋地域で2割と高くなっている。

住居形態別でみると、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は持家・一戸建てで4割近くと高くなっている。(図表7-2-3)

図表 7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が5割を超える

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

n = 1,056

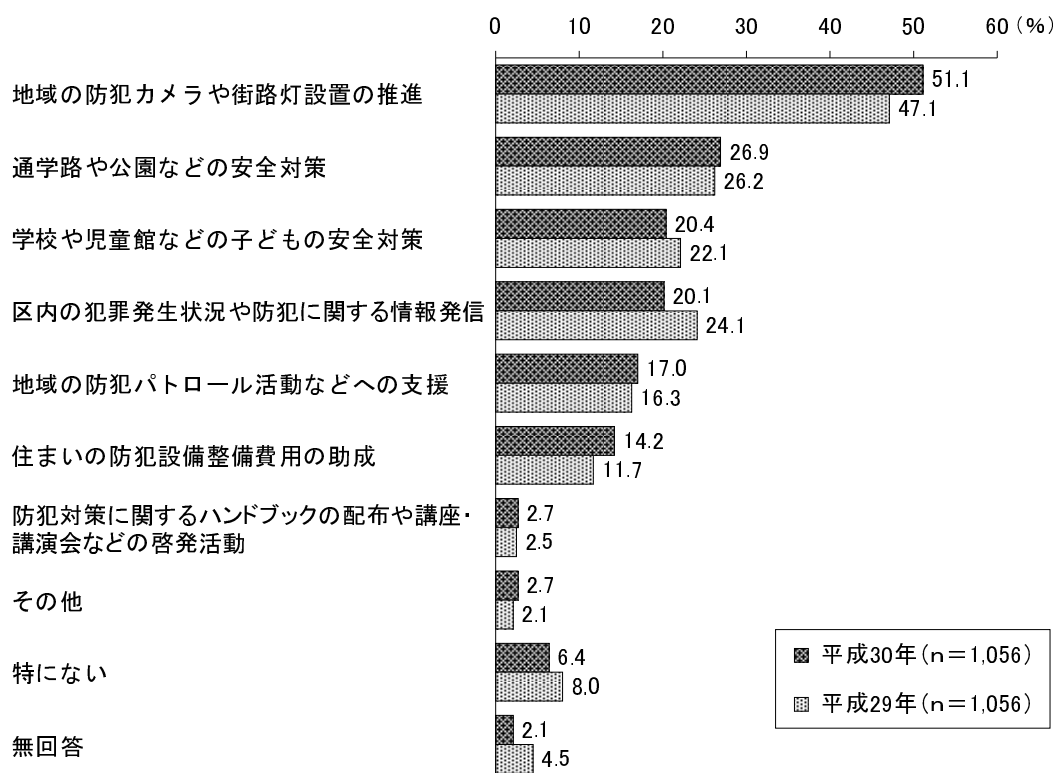
1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	20.1%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	14.2
3	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	51.1
4	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.7
5	学校や児童館などの子どもの安全対策	20.4
6	通学路や公園などの安全対策	26.9
7	地域の防犯パトロール活動などへの支援	17.0
8	その他	2.7
9	特にない	6.4
	(無回答)	2.1

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(51.1%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(26.9%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(20.4%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(20.1%)、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」(17.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は4.0ポイント増加している。一方、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は4.0ポイント減少している。

(図表 7-3-1)

図表 7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。また、「通学路や公園などの安全対策」は平成26年以前は第1位となっており、平成27年以降は第2位となっている。

(図表 7-3-2)

図表 7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

(%)

調査年	n	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子どもの安全対策	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	地域の防犯パトロール活動などへの支援	住まいの防犯設備整備費用の助成	防犯配布活動に関する講座・講演会などの啓発活動	その他	特にない	無回答
平成30年	1,056	51.1	26.9	20.4	20.1	17.0	14.2	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	26.2	22.1	24.1	16.3	11.7	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	25.5	22.0	24.0	18.8	11.5	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	30.1	23.5	21.3	22.1	12.8	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	22.9	14.6	22.4	21.3	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	19.5	14.9	21.0	23.3	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	24.0	20.7	28.9	11.0	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	24.2	15.6	30.8	12.4	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	29.3	14.9	31.1	10.8	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	23.6	14.5	28.6	11.4	5.0	7.1	※	9.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

* 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。

* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。

* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

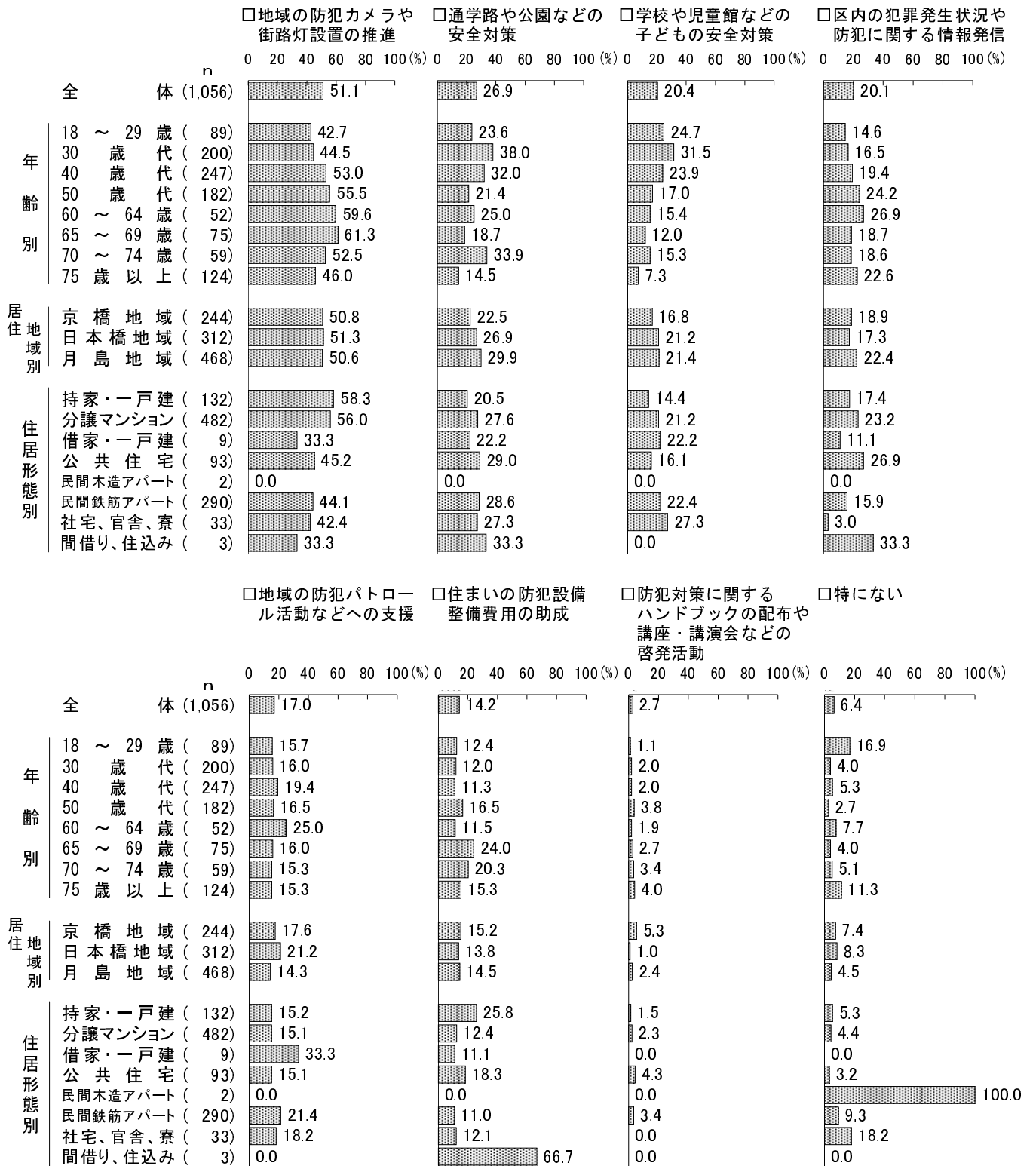
* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は65～69歳で6割を超えて高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で4割近くと高くなっている。「学校や児童館などの子どもの安全対策」は30歳代で3割を超えて高くなっている。

居住地域別で見ると、「通学路や公園などの安全対策」は月島地域で3割と高くなっている。

住居形態別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は持家・一戸建てで6割近くと高くなっている。「住まいの防犯設備整備費用の助成」は持家・一戸建てで2割台半ばと高くなっている。(図表 7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩」が6割近く

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

(※) 運動の量や時間の条件はありません。

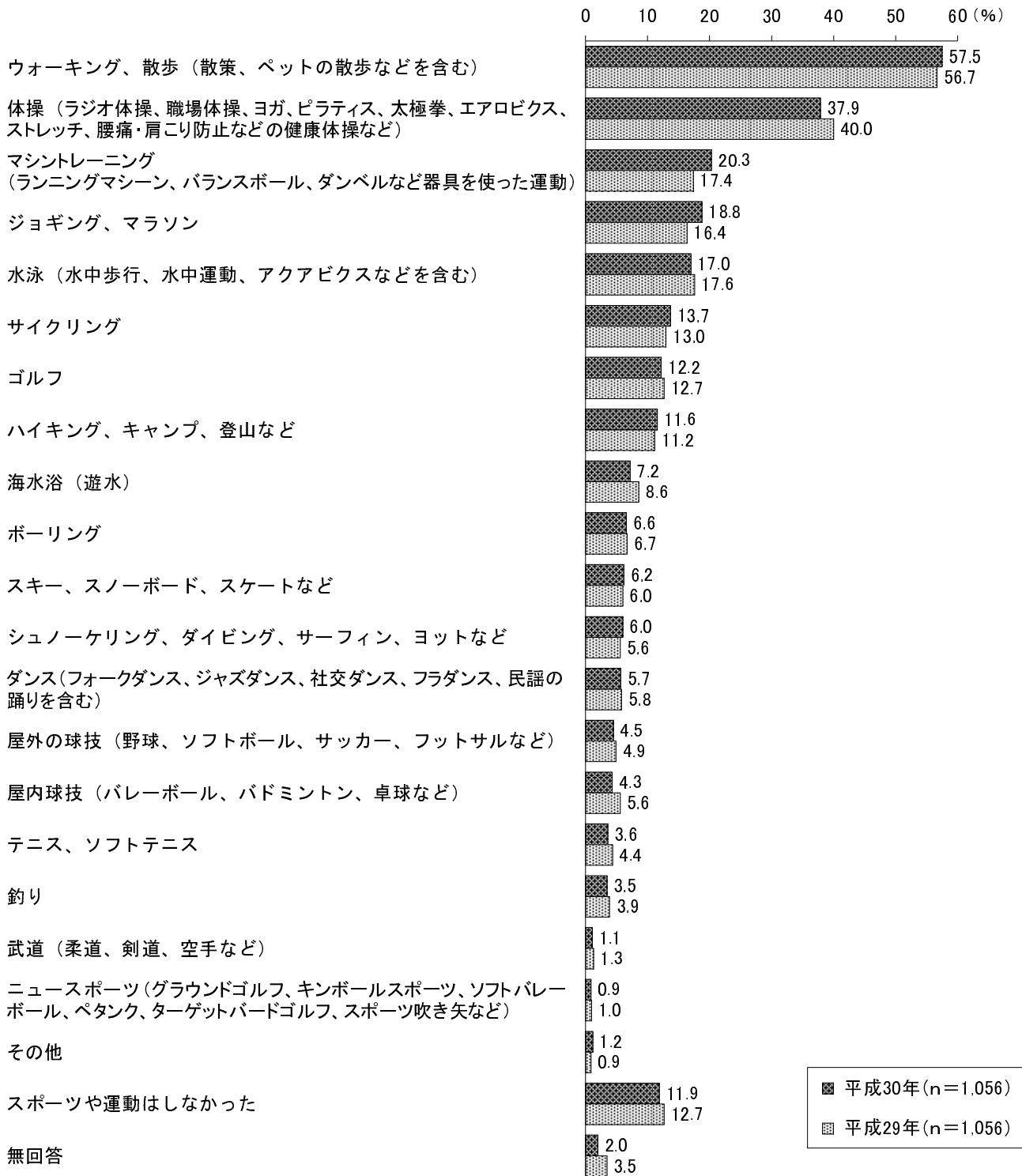
n = 1,056

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	17.0%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	37.9
3	ジョギング、マラソン	18.8
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	57.5
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	20.3
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.1
7	テニス、ソフトテニス	3.6
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	4.3
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	4.5
10	ゴルフ	12.2
11	ハイキング、キャンプ、登山など	11.6
12	スキー、スノーボード、スケートなど	6.2
13	海水浴（遊水）	7.2
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	6.0
15	釣り	3.5
16	ボーリング	6.6
17	サイクリング	13.7
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.9
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	5.7
20	その他	1.2
21	スポーツや運動はしなかった (無回答)	11.9 2.0

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」(57.5%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」(37.9%)、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」(20.3%)、「ジョギング、マラソン」(18.8%)、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」(17.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」は2.9ポイント、「ジョギング、マラソン」は2.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は2.1ポイント減少している。（図表8-1-1）

図表8-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



* 「ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など）」としていた。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類一過年度比較

(%)

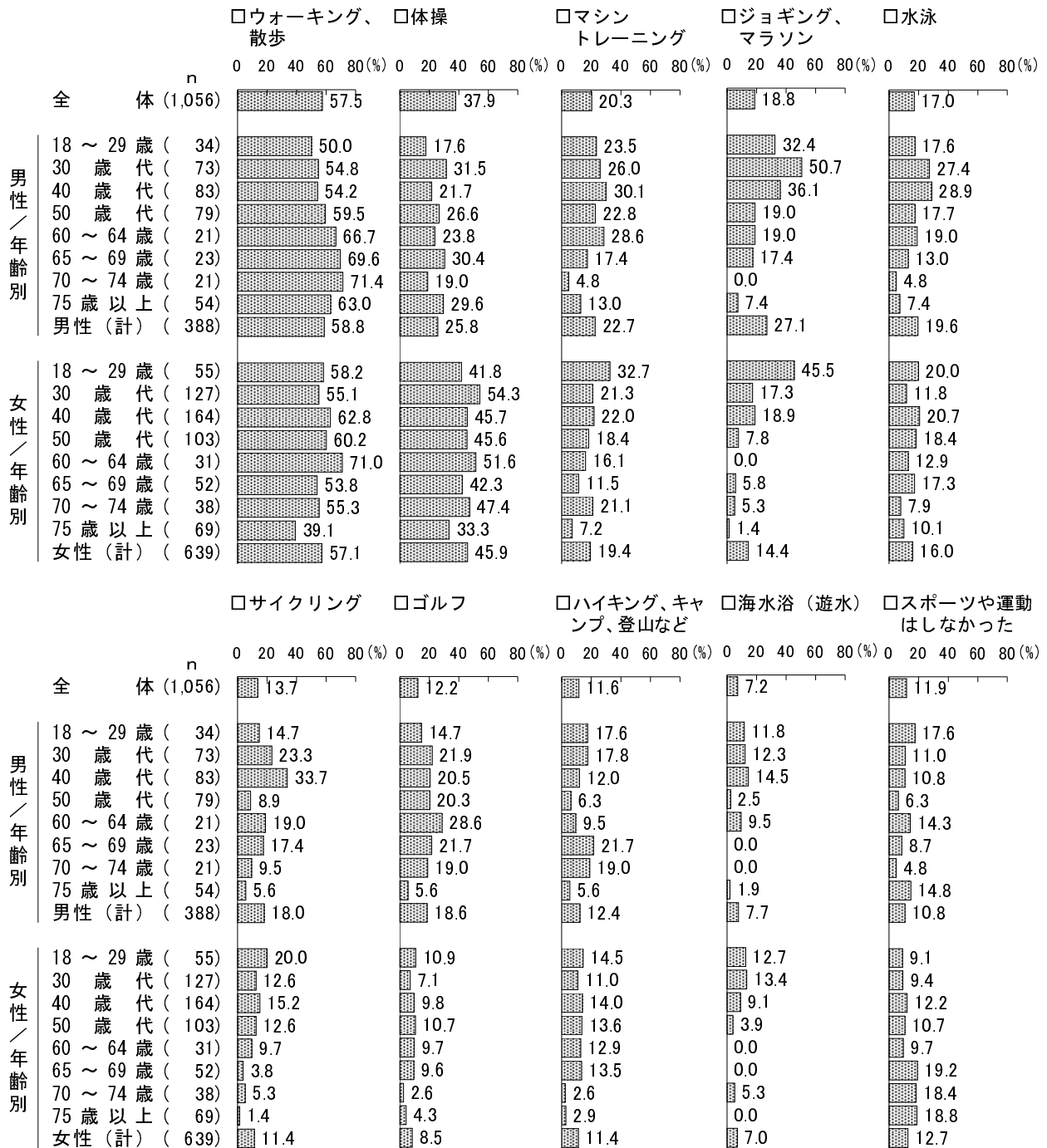
調査年	n	ウォーキング、散歩	体操	マシントレーニング	ジョギング、マラソン	水泳	サイクリング	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	海水浴(遊水)	ボーリング	スキー、スノーボード、スケートなど	シン、ヨットなど シュノーケリング、ダイビング、サーフィ	ダンス	屋外の球技	屋内球技	テニス、ソフトテニス	釣り	武道(柔道、剣道、空手など)	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
平成30年	1,056	57.5	37.9	20.3	18.8	17.0	13.7	12.2	11.6	7.2	6.6	6.2	6.0	5.7	4.5	4.3	3.6	3.5	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	17.4	16.4	17.6	13.0	12.7	11.2	8.6	6.7	6.0	5.6	5.8	4.9	5.6	4.4	3.9	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	18.8	20.6	21.9	15.9	14.3	11.3	11.0	8.7	6.9	7.4	5.3	5.5	5.3	5.4	4.7	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	14.0	16.8	16.9	10.2	15.1	8.3	6.2	4.6	7.4	5.1	3.3	3.9	3.3	3.8	3.1	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	15.0	17.2	21.3	14.6	13.9	11.6	8.5	7.3	7.4	3.7	5.0	5.2	5.2	4.2	4.9	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	14.3	15.6	20.9	12.3	13.0	9.6	7.6	7.1	5.9	4.9	5.3	5.2	4.8	5.3	4.2	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	9.8	17.7	20.1	※	13.2	11.2	※	※	※	※	※	4.0	5.3	4.1	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)」としていた。

性／年齢別でみると、「ウォーキング、散歩」は男性の70～74歳と女性の60～64歳とともに7割を超えて高くなっている。「体操」は女性の30歳代で5割台半ばと高くなっている。「マシントレーニング」は女性の18～29歳で3割を超えて高くなっている。「ジョギング、マラソン」は男性の30歳代で約5割、女性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。「サイクリング」は男性の40歳代で3割を超えて高くなっている。(図表8-1-3)

図表8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類
一性／年齢別（上位9項目＋「スポーツや運動はしなかった」）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割台半ば

(問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

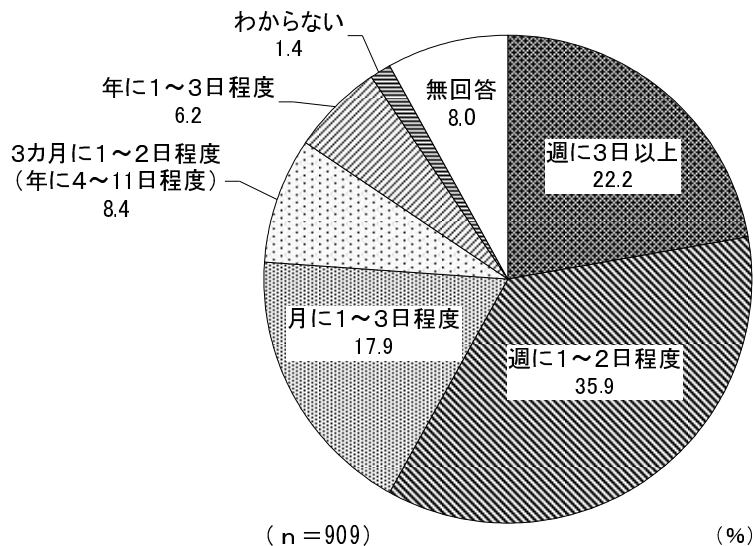
問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 909

1 週に3日以上	22.2%
2 週に1～2日程度	35.9
3 月に1～3日程度	17.9
4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	8.4
5 年に1～3日程度	6.2
6 わからない	1.4
(無回答)	8.0

問23で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(35.9%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(22.2%)、「月に1～3日程度」(17.9%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(8.4%)などとなっている。(図表8-2-1)

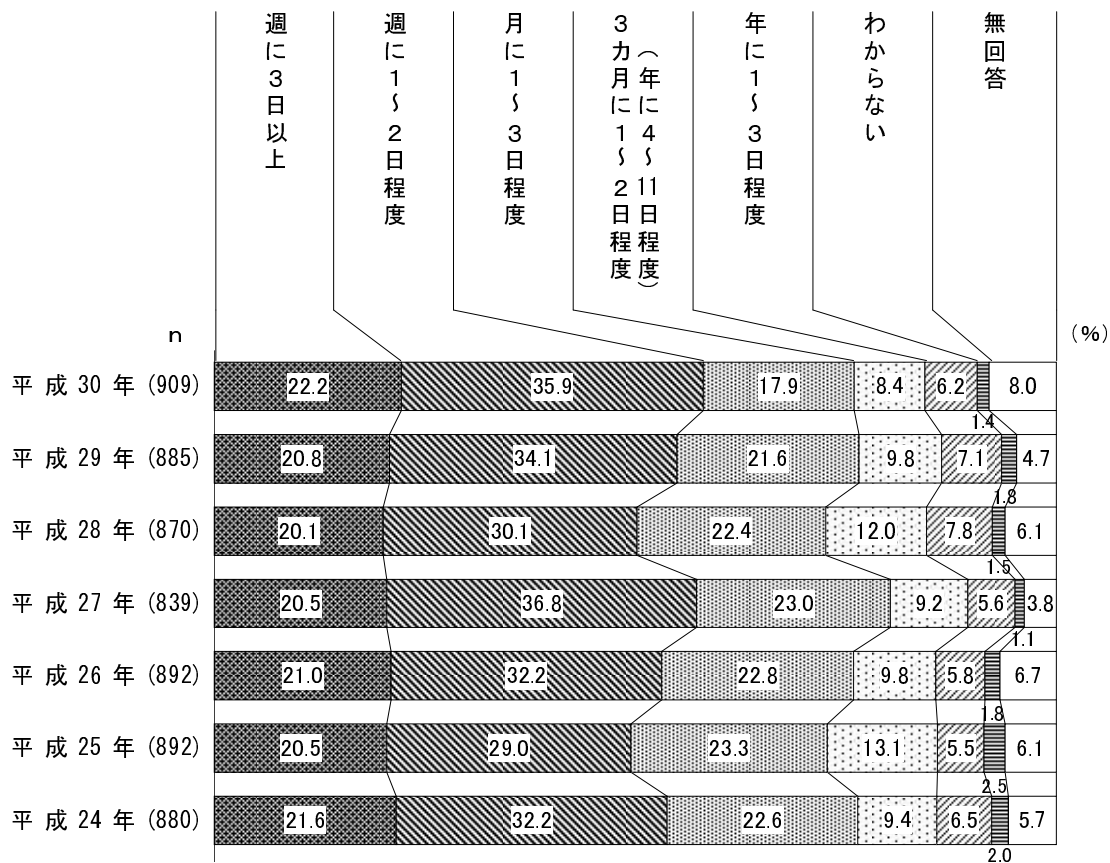
図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、「月に1～3日程度」は平成29年より3.7ポイント減少している。

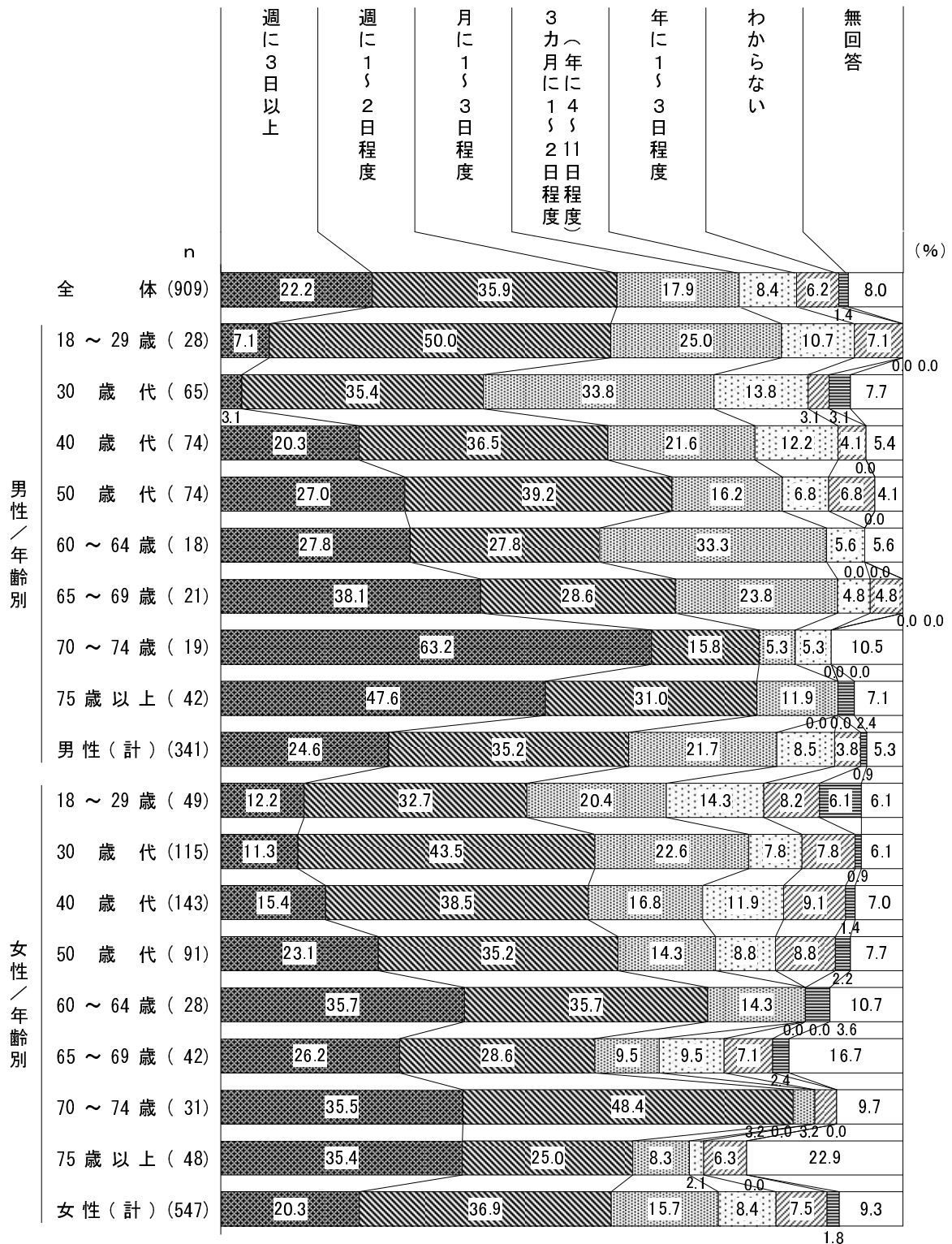
(図表8-2-2)

図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度—過年度比較



性／年齢別でみると、「週に3日以上」は男性の75歳以上で5割近くと高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の70～74歳で5割近く、女性の30歳代で4割を超えて高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で3割を超えて高くなっている。(図表8-2-3)

図表8-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別



(3) スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

◇「スポーツ施設の増設・充実」が4割台半ば

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

n = 1,056

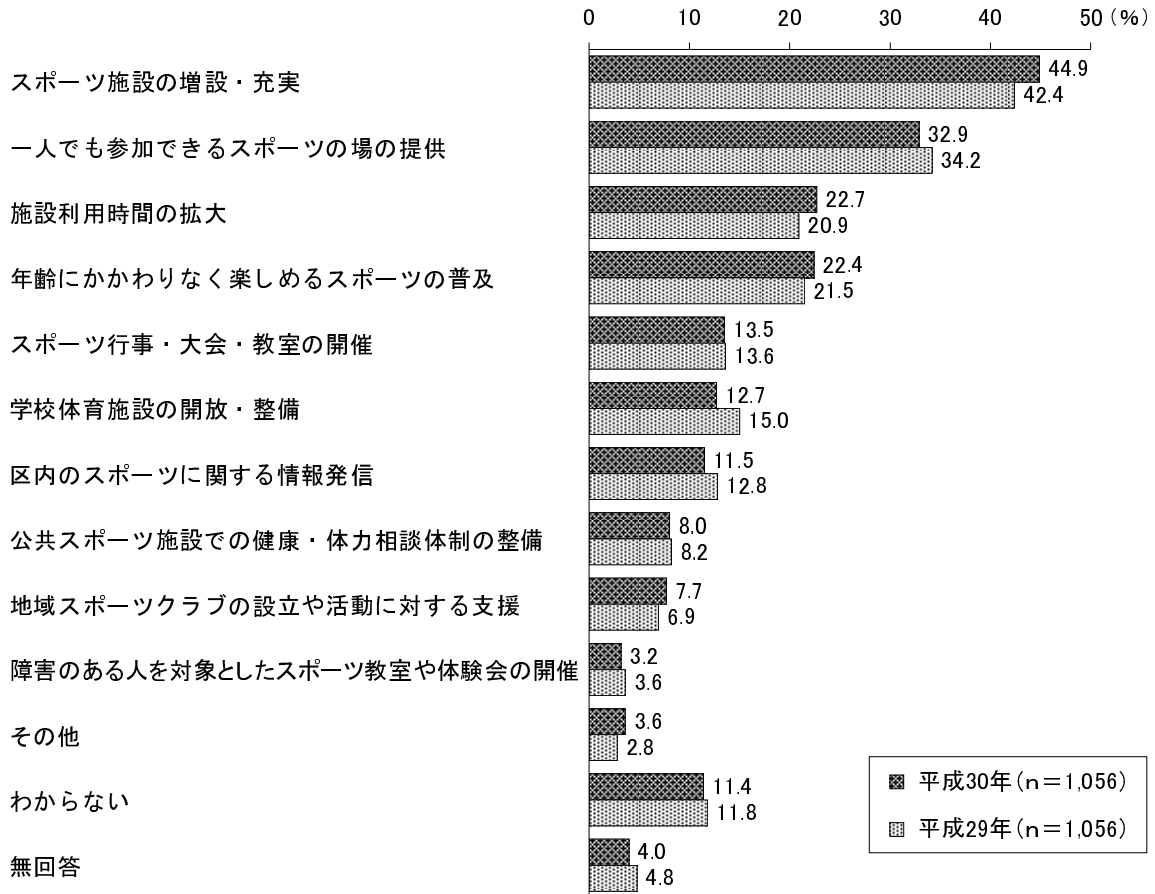
1	スポーツ施設の増設・充実	44.9%
2	学校体育施設の開放・整備	12.7
3	施設利用時間の拡大	22.7
4	スポーツ行事・大会・教室の開催	13.5
5	障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	3.2
6	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	7.7
7	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	22.4
8	一人でも参加できるスポーツの場の提供	32.9
9	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	8.0
10	区内のスポーツに関する情報発信	11.5
11	その他	3.6
12	わからない	11.4
	(無回答)	4.0

(※) 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことは、「スポーツ施設の増設・充実」(44.9%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(32.9%)、「施設利用時間の拡大」(22.7%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(22.4%)、「スポーツ行事・大会・教室の開催」(13.5%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「スポーツ施設の増設・充実」は2.5ポイント増加している。一方、「学校体育施設の開放・整備」は2.3ポイント減少している。(図表8-3-1)

図表 8-3-1 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「スポーツ施設の増設・充実」、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」、「施設利用時間の拡大」および「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」が引き続き上位4項目となっている。(図表 8-3-2)

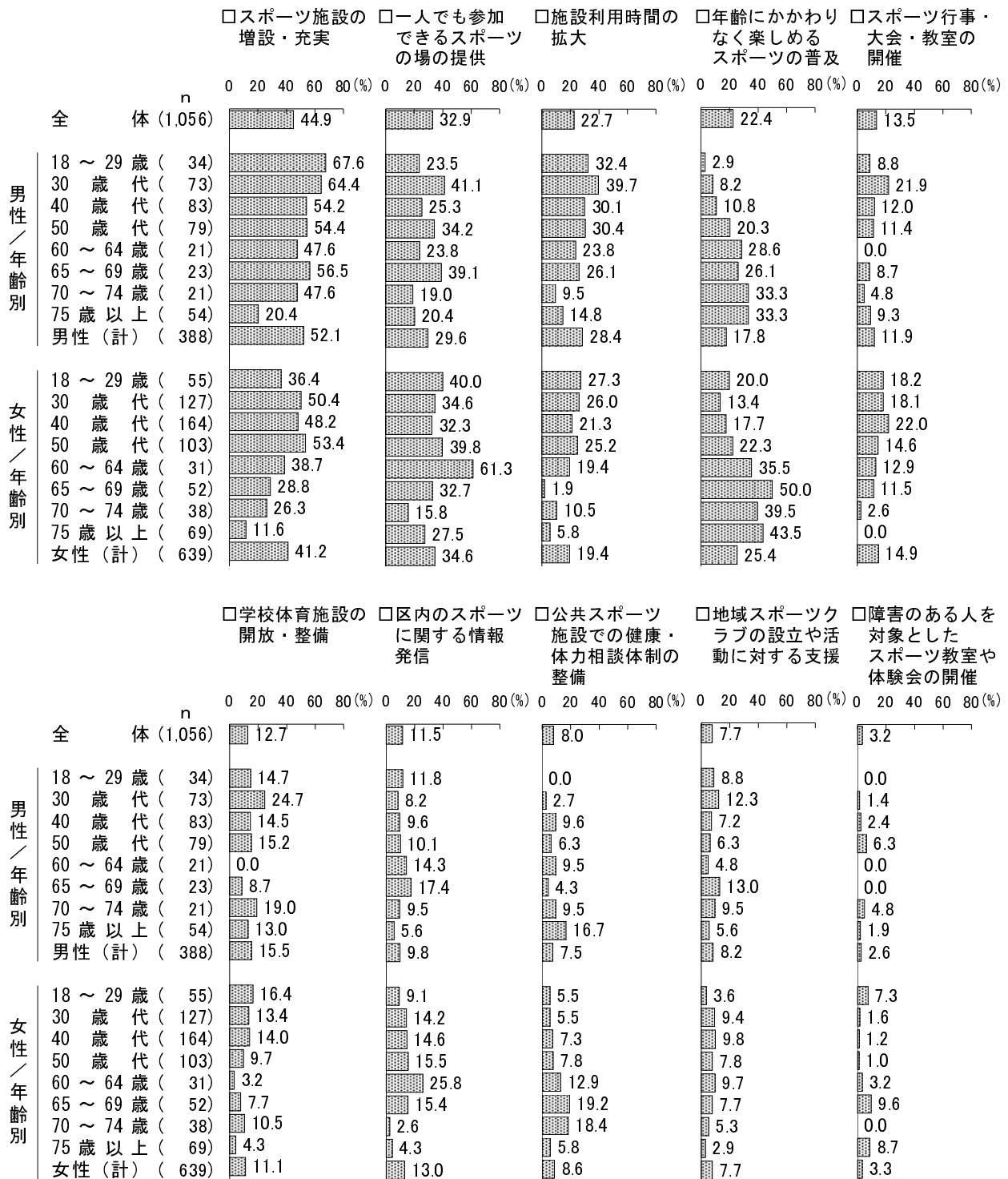
図表 8-3-2 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと－過年度比較

調査年	n	スポーツ施設の増設・充実	一人でも参加できるスポーツの場の提供	施設利用時間の拡大	年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及	スポーツ行事・大会・教室の開催	学校体育施設の開放・整備	区内のスポーツに関する情報発信	公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備	地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援	障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催	その他	わからない	無回答
平成30年	1,056	44.9	32.9	22.7	22.4	13.5	12.7	11.5	8.0	7.7	3.2	3.6	11.4	4.0
平成29年	1,056	42.4	34.2	20.9	21.5	13.6	15.0	12.8	8.2	6.9	3.6	2.8	11.8	4.8
平成28年	1,036	36.6	31.9	23.8	20.1	17.7	13.1	15.4	7.7	7.9	4.0	3.0	13.8	4.2
平成27年	1,027	44.4	31.5	23.1	21.1	12.4	14.2	13.7	8.7	7.6	2.1	3.9	11.6	4.5
平成26年	1,041	43.1	32.6	24.0	22.4	13.9	13.7	11.5	8.6	8.3	2.3	4.6	11.0	3.9
平成25年	1,047	44.8	31.6	26.1	22.5	12.3	14.6	11.3	8.4	9.6	2.1	3.2	10.3	5.3
平成24年	1,123	44.3	30.9	20.7	20.7	11.4	12.4	11.2	9.8	※	※	3.3	11.4	5.3

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

性／年齢別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は男性の18～29歳で7割近く、男性の30歳代で6割台半ばと高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」は女性の60～64歳で6割を超えて高くなっている。「施設利用時間の拡大」は男性の30歳代で4割と高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」は女性の65～69歳で5割、女性の75歳以上で4割を超えて高くなっている。(図表8-3-3)

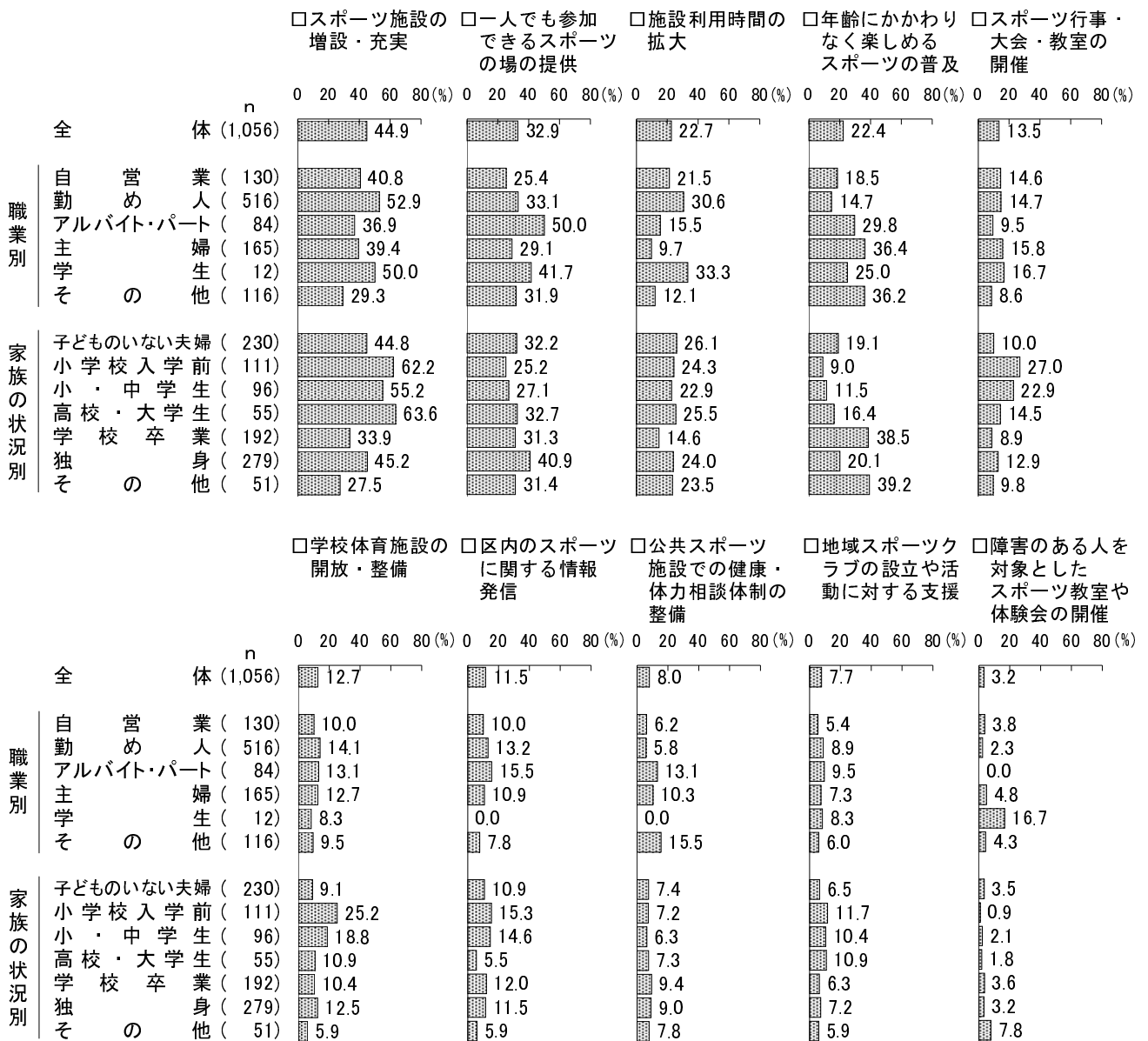
図表8-3-3 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと一性／年齢別（上位10項目）



職業別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は勤め人で5割を超えて高くなっている。「一人でも参加できるスポーツの場の提供」はアルバイト・パートタイマーで5割と高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」は主婦とその他でともに3割台半ばと高くなっている。

家族の状況別でみると、「スポーツ施設の増設・充実」は一番上の子どもが小学校入学前の家族と高校・大学生の家族でともに6割を超えて高くなっている。「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」はその他で約4割、一番上の子どもが学校卒業の家族で4割近くと高くなっている。「スポーツ行事・大会・教室の開催」は一番上の子どもが小学校入学前の家族で3割近くと高くなっている。「学校体育施設の開放・整備」は一番上の子どもが小学校入学前の家族で2割台半ばと高くなっている。(図表8-3-4)

図表8-3-4 スポーツへの参加機会を増やすために区に望むことー職業別・家族の状況別 (上位10項目)



【9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会】

(1) 東京2020大会への思い

◇『大会への期待』が7割近く

問25 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。（○は1つ）

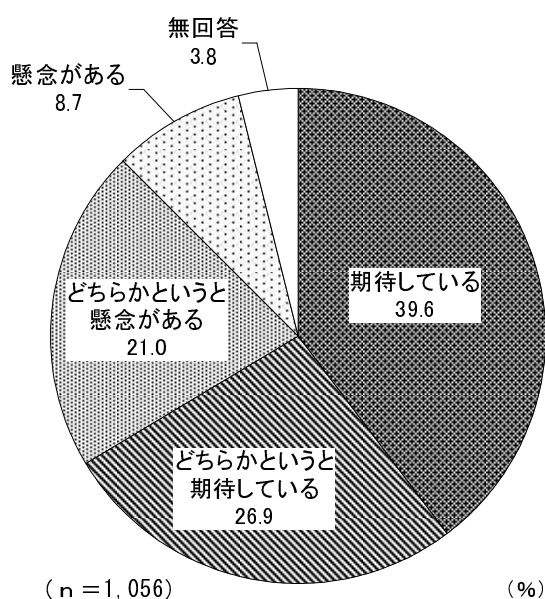
n = 1,056

1	期待している	39.6%	3	どちらかという懸念がある	21.0
2	どちらかという期待している	26.9	4	懸念がある	8.7
				(無回答)	3.8

東京2020大会への思いは、「期待している」(39.6%)が最も高くなっており、「どちらかという期待している」(26.9%)と合わせた『大会への期待』(66.5%)が7割近くとなっている。

一方、「どちらかという懸念がある」(21.0%)と「懸念がある」(8.7%)を合わせた『大会への懸念』(29.7%)は3割となっている。(図表9-1-1)

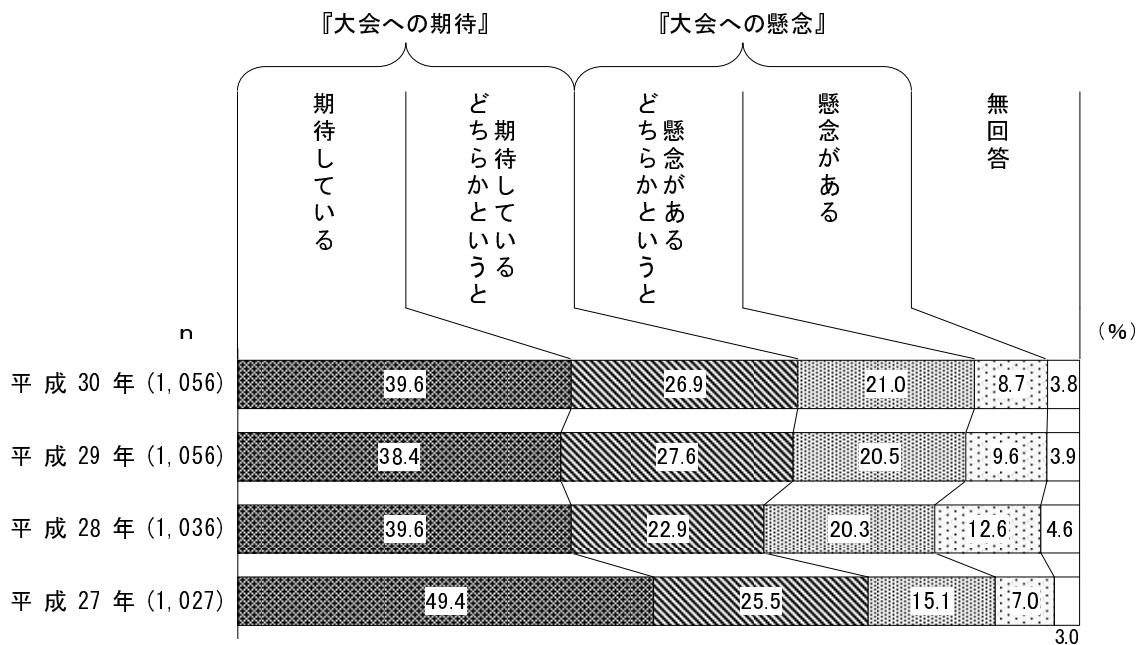
図表9-1-1 東京2020大会への思い



過去の調査結果と比較すると、平成29年と比べて大きな傾向の違いはみられない。

(図表 9-1-2)

図表 9-1-2 東京2020大会への思い一過年度比較

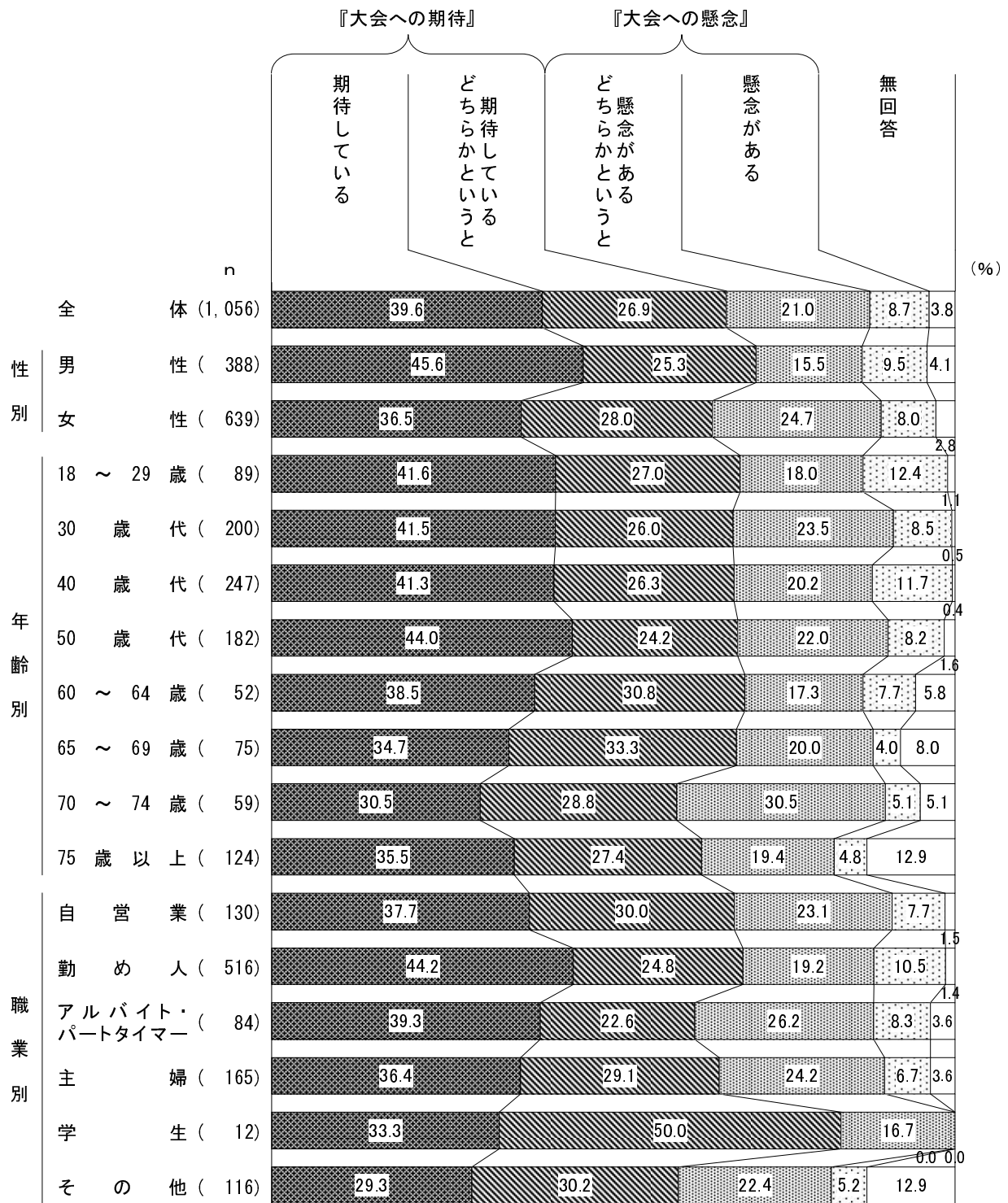


性別でみると、「期待している」は男性の方が女性よりも9.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『大会への懸念』は70～74歳で3割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、『大会への懸念』はアルバイト・パートタイマーで3割台半ばと高くなっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 東京2020大会への思い—性別・年齢別・職業別



(2) 東京2020大会の開催に伴い期待していること

◇「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」が3割を超える

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。(〇は3つまで)

n = 1,056

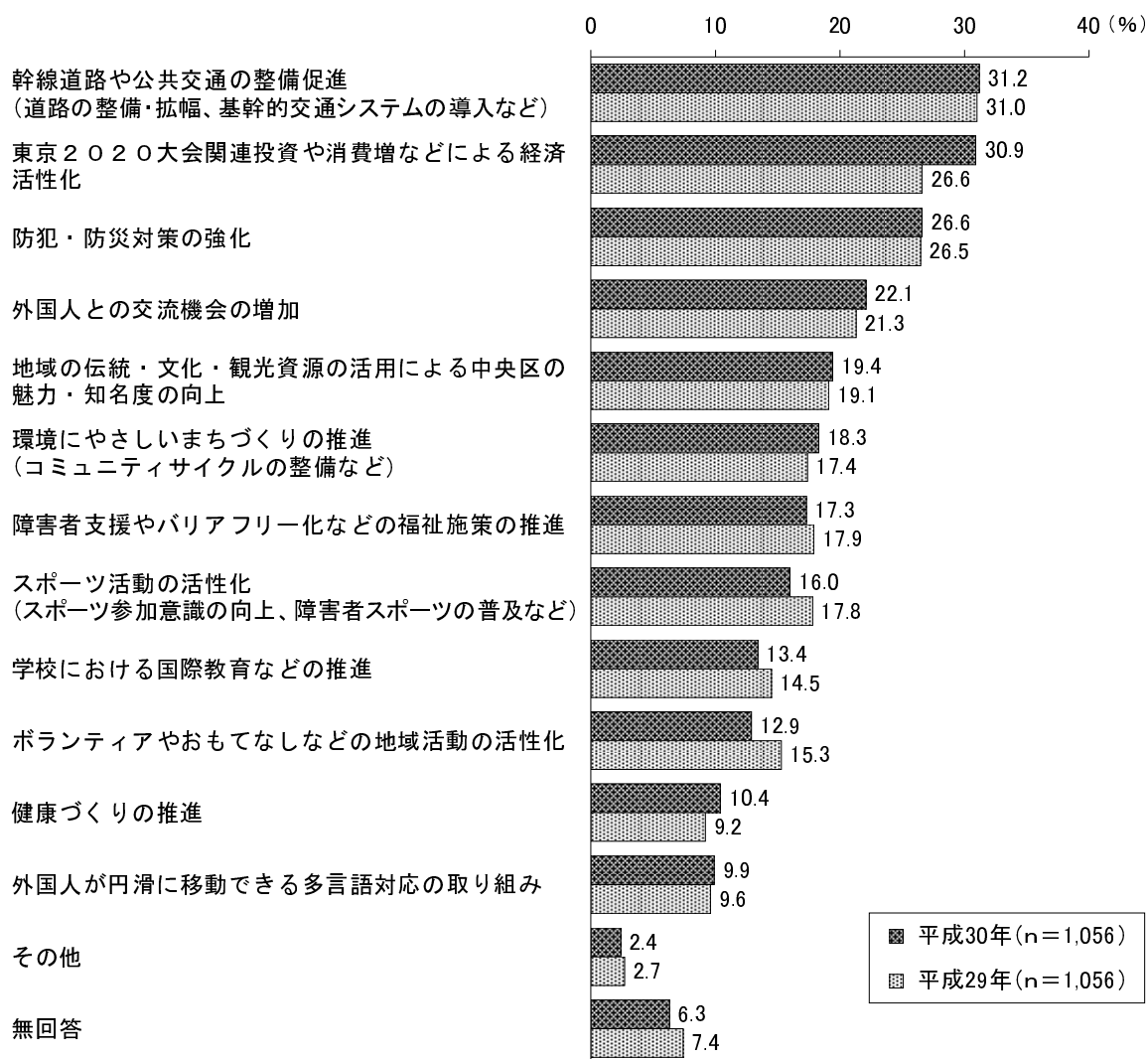
1	スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など）	16.0%
2	健康づくりの推進	10.4
3	外国人との交流機会の増加	22.1
4	学校における国際教育などの推進	13.4
5	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	17.3
6	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	12.9
7	地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上	19.4
8	東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化	30.9
9	防犯・防災対策の強化	26.6
10	幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）	31.2
11	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み	9.9
12	環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティサイクルの整備など）	18.3
13	その他	2.4
	（無回答）	6.3

(※) コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点（サイクルポート）を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

東京2020大会の開催に伴い期待していることは、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」（31.2%）が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」（30.9%）、「防犯・防災対策の強化」（26.6%）、「外国人との交流機会の増加」（22.1%）、「地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上」（19.4%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」は4.3ポイント増加している。(図表9-2-1)

図表9-2-1 東京2020大会の開催に伴い期待していること(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）」、「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」および「防犯・防災対策の強化」が引き続き上位3項目となっている。（図表9-2-2）

図表9-2-2 東京2020大会の開催に伴い期待していること一過年度比較

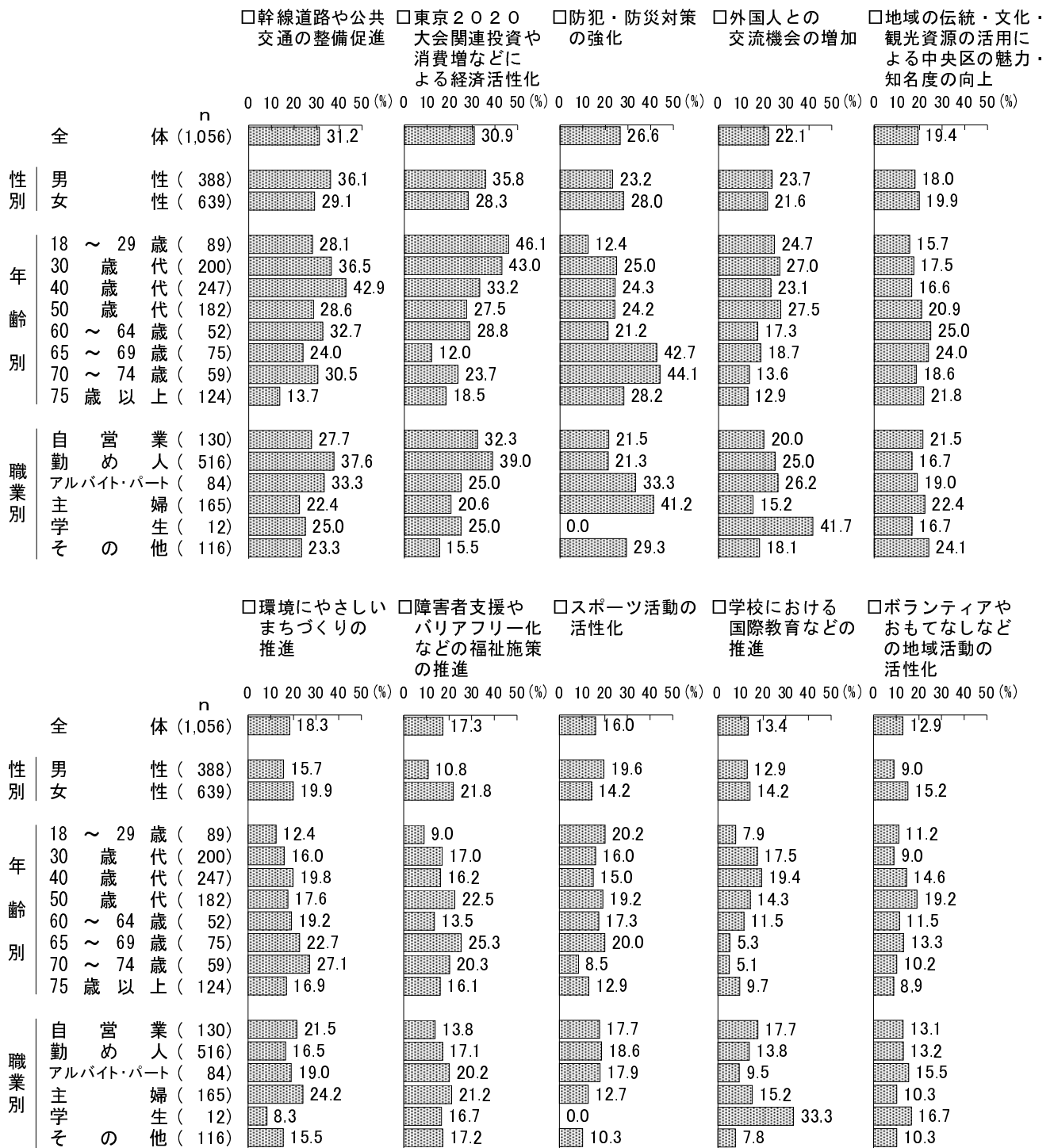
調査年	n	(%)													
		幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など）	東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化	防犯・防災対策の強化	外国人との交流機会の増加	地域の魅力・知名度の向上 （文化・観光資源の活用による中央	環境にやさしいまちづくりの推進 （コミュニティサイクルの整備など）	障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進	スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など）	学校における国際教育などの推進	ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化	健康づくりの推進	外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み	その他	無回答
平成30年	1,056	31.2	30.9	26.6	22.1	19.4	18.3	17.3	16.0	13.4	12.9	10.4	9.9	2.4	6.3
平成29年	1,056	31.0	26.6	26.5	21.3	19.1	17.4	17.9	17.8	14.5	15.3	9.2	9.6	2.7	7.4
平成28年	1,036	31.8	28.0	27.7	24.1	20.1	15.0	14.3	16.3	14.3	15.9	8.5	10.9	1.4	7.1
平成27年	1,027	33.1	30.7	25.7	26.7	21.8	17.1	14.6	18.3	18.1	14.7	10.3	8.9	2.5	5.3

性別でみると、男性の方が女性よりも「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」で7.5ポイント、「幹線道路や公共交通の整備促進」で7.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進」は女性の方が男性よりも11.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進」は40歳代で4割を超えて高くなっている。「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」は18～29歳で4割台半ば、30歳代で4割を超えて高くなっている。「防犯・防災対策の強化」は70～74歳で4割台半ば、65～69歳で4割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「幹線道路や公共交通の整備促進」は勤め人で4割近くと高くなっている。「東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化」は勤め人で約4割と高くなっている。「防犯・防災対策の強化」は主婦で4割を超えて高くなっている。（図表9-2-3）

図表 9-2-3 東京2020大会の開催に伴い期待していること一性別・年齢別・職業別(上位10項目)



(3) 東京2020大会の開催に伴い懸念していること

◇「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」が7割台半ば

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。(〇は3つまで)

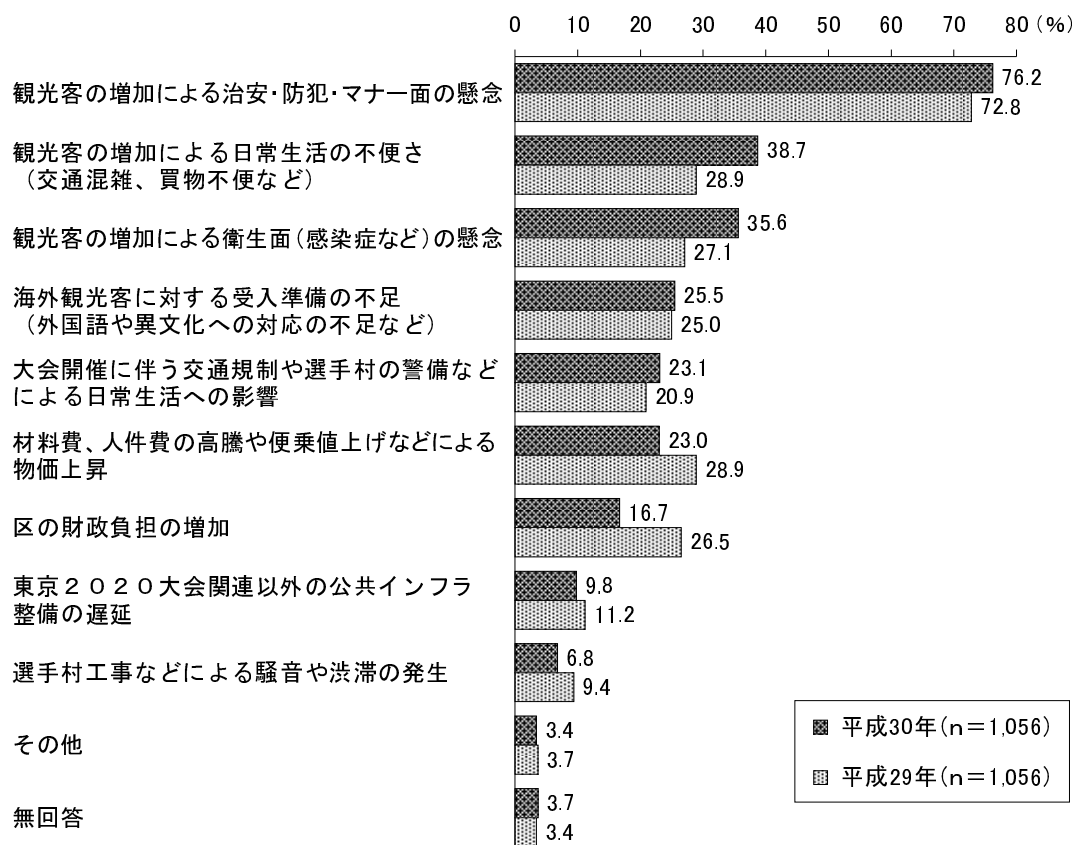
n = 1,056

1	海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）	25.5%
2	観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）	38.7
3	観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	76.2
4	観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念	35.6
5	大会開催に伴う交通規制や選手村の警備などによる日常生活への影響	23.1
6	選手村工事などによる騒音や渋滞の発生	6.8
7	東京2020大会関連以外の公共インフラ整備の遅延	9.8
8	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇	23.0
9	区の財政負担の増加	16.7
10	その他	3.4
	（無回答）	3.7

東京2020大会の開催に伴い懸念していることは、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」(76.2%)が7割台半ばで最も高くなっている。次いで、「観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）」(38.7%)、「観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念」(35.6%)、「海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など）」(25.5%)、「大会開催に伴う交通規制や選手村の警備などによる日常生活への影響」(23.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など）」は9.8ポイント、「観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念」は8.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「区の財政負担の増加」は9.8ポイント、「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」は5.9ポイント、それぞれ減少している。（図表9-3-1）

図表9-3-1 東京2020大会の開催に伴い懸念していること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念」が第1位となっている傾向に変化はみられない。(図表9-3-2)

図表9-3-2 東京2020大会の開催に伴い懸念していること一過年度比較

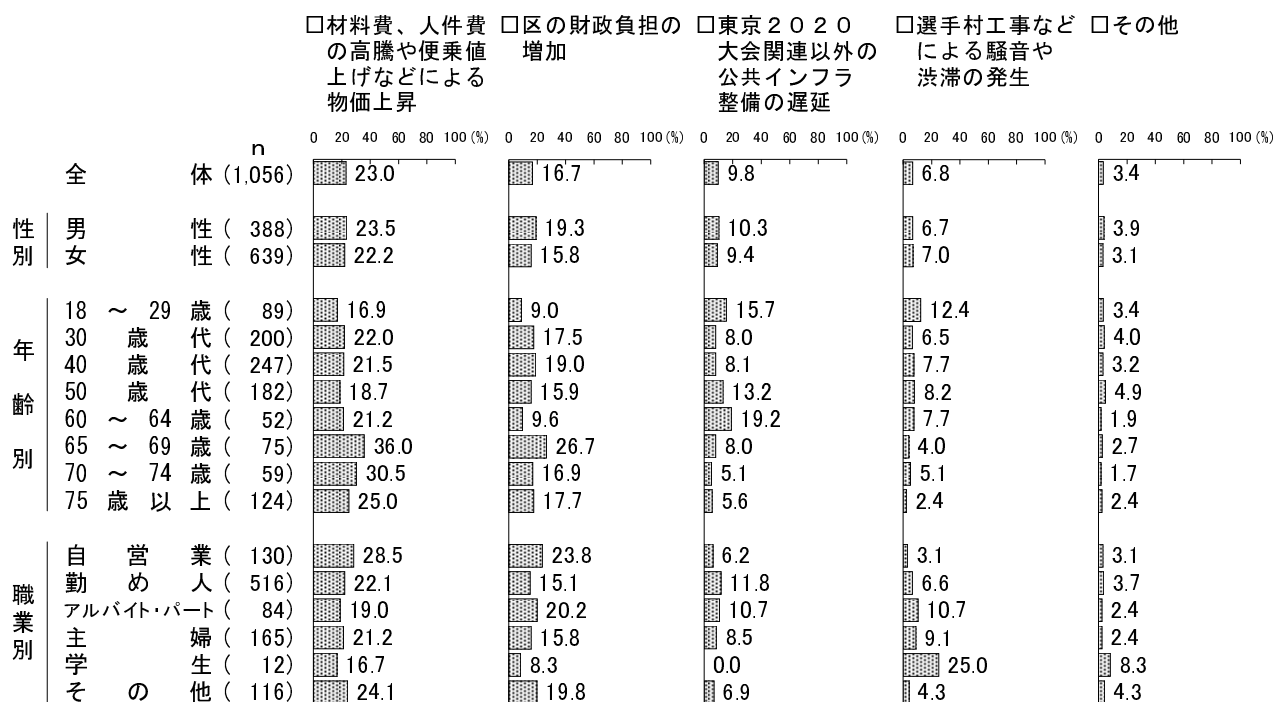
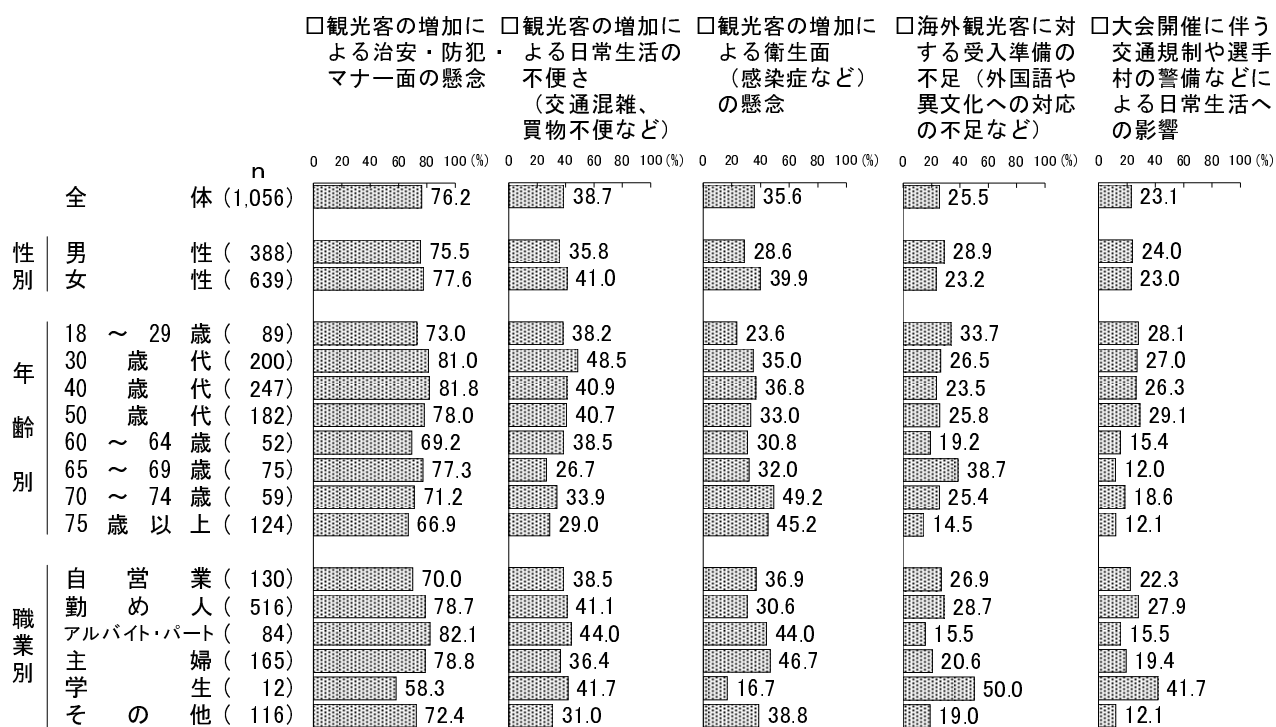
調査年	n	(%)										
		観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)	観光客の増加による衛生面(感染症など)	海外観光客に対する受入準備の不足(外国語や異文化への対応の不足など)	大会開催に伴う交通規制や日常手配への影響	材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇	区の財政負担の増加	東京2020大会関連の遅延	選手村滞りなどによる騒音や	その他	無回答
平成30年	1,056	76.2	38.7	35.6	25.5	23.1	23.0	16.7	9.8	6.8	3.4	3.7
平成29年	1,056	72.8	28.9	27.1	25.0	20.9	28.9	26.5	11.2	9.4	3.7	3.4
平成28年	1,036	72.8	31.1	28.8	29.5	19.7	27.9	22.8	9.7	9.0	3.2	4.3
平成27年	1,027	68.5	31.0	29.8	24.3	19.9	32.2	22.2	10.1	11.0	4.3	4.1

性別でみると、女性の方が男性よりも「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」で11.3ポイント、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」で5.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「海外観光客に対する受入準備の不足(外国語や異文化への対応の不足など)」は男性の方が女性よりも5.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「観光客の増加による日常生活の不便さ(交通混雑、買物不便など)」は30歳代で5割近くと高くなっている。「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」は70~74歳で約5割、75歳以上で4割台半ばと高くなっている。「海外観光客に対する受入準備の不足(外国語や異文化への対応の不足など)」は65~69歳で4割近くと高くなっている。「材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇」は65~69歳で3割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念」は主婦で5割近くと高くなっている。(図表9-3-3)

図表 9-3-3 東京2020大会の開催に伴い懸念していることー性別・年齢別・職業別



【10 築地魚河岸】

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロである54の事業者が厳選した高品質の水産物や青果物を販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が4割を超える

問28 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

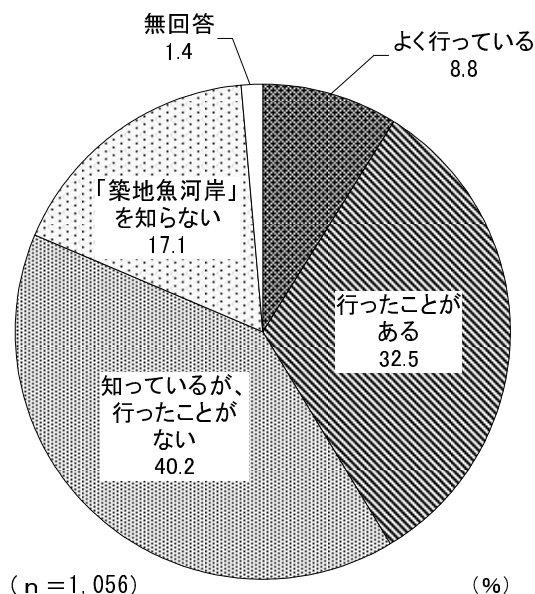
n = 1,056

1	よく行っている	8.8%	3	知っているが、行ったことがない	40.2
2	行ったことがある	32.5	4	「築地魚河岸」を知らない	17.1
				(無回答)	1.4

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(8.8%)と「行ったことがある」(32.5%)を合わせた『来場経験あり』(41.3%)が4割を超えている。

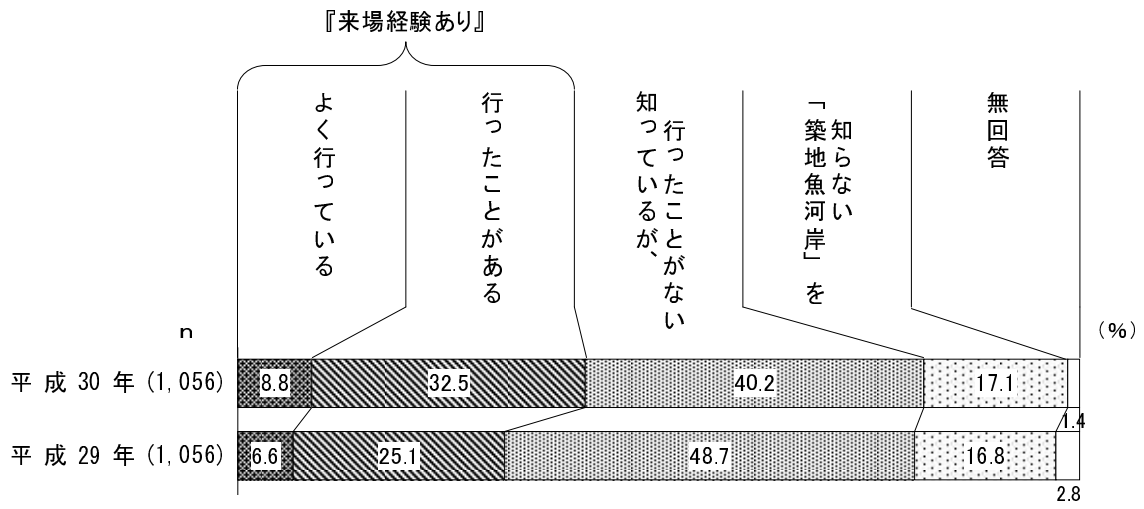
一方、「知っているが、行ったことがない」(40.2%)は4割で、『築地魚河岸』を知らない(17.1%)は2割近くとなっている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



昨年(平成29年)の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は9.6ポイント増加している。(図表10-1-2)

図表10-1-2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較



【11 広報】

(1) 区政情報を得る手段

◇「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」が7割

問29 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。
(〇はいくつでも)

n = 1,056

1	区の広報紙「区のおしらせ 中央」	70.2%
2	わたしの便利帳	10.3
3	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	21.9
4	区のホームページ	27.2
5	区の広報掲示板	9.7
6	町会・自治会の掲示板や回覧板など	16.6
7	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」	2.7
8	コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」	1.3
9	区の公式SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）	2.0
10	スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」、「マチイロ」	1.9
11	その他	2.5
	(無回答)	7.2

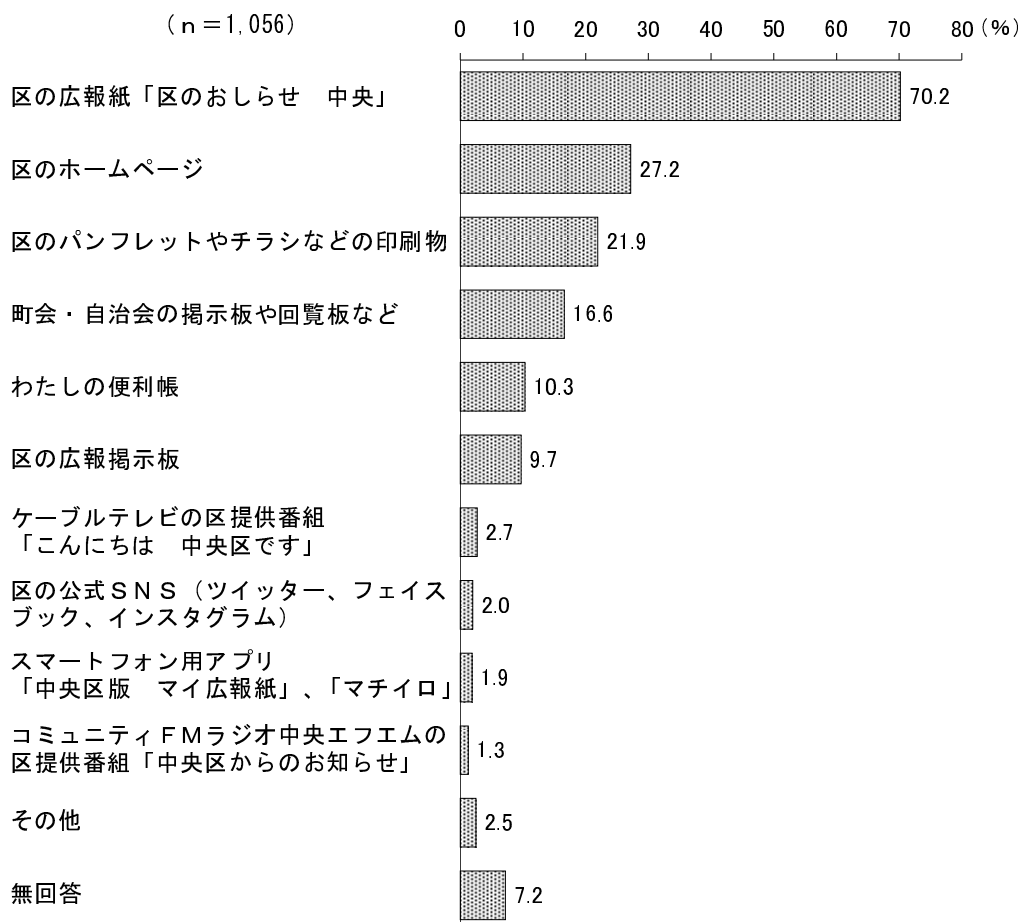
(※) 中央区版 マイ広報紙 広報紙を記事ごとに文字データ化しているため、読みたい記事を簡単に探すことができます。

(※) マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

区政情報を得る手段は、「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」(70.2%)が7割で最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(27.2%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(21.9%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(16.6%)、「わたしの便利帳」(10.3%)などとなっている。

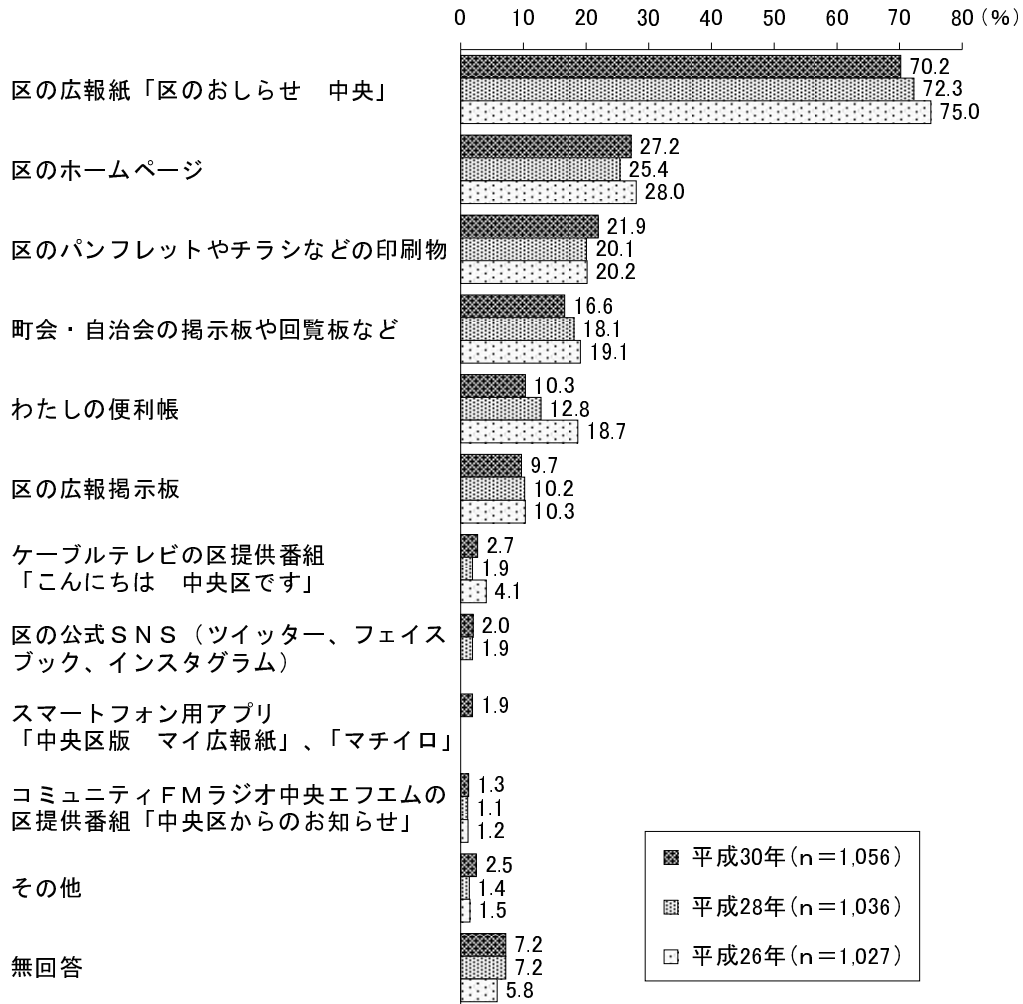
(図表11-1-1)

図表11-1-1 区政情報を得る手段（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」、「わたしの便利帳」および「区の広報掲示板」はそれぞれ減少傾向にある。（図表11-1-2）

図表11-1-2 区政情報を得る手段一過年度比較



* スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」、「マチイロ」の選択肢は、今回調査で追加した選択肢

* 「区の公式SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）」の選択肢は、平成28年調査で追加した選択肢であり、平成28年では「区のツイッターやフェイスブック」としていた。

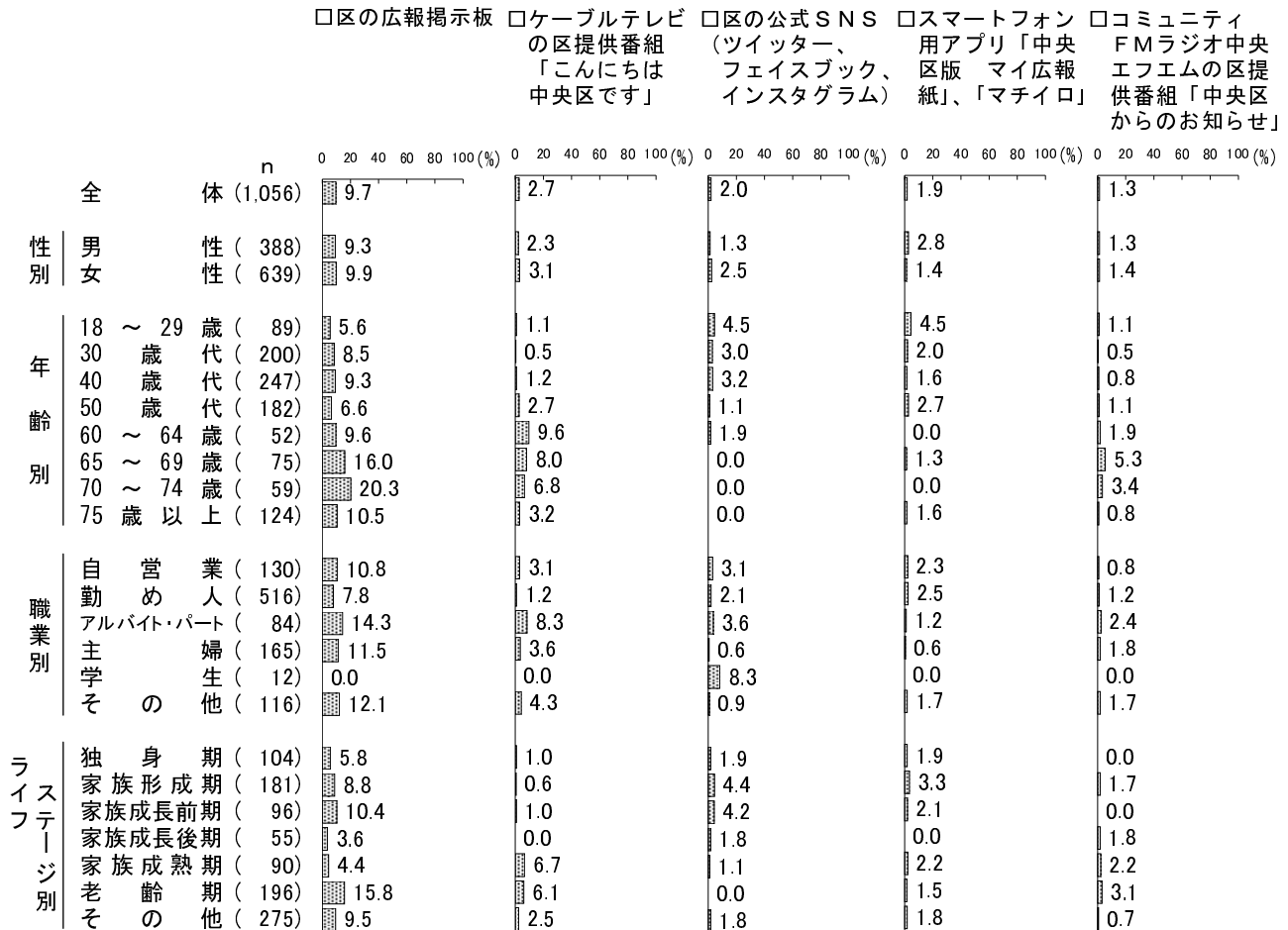
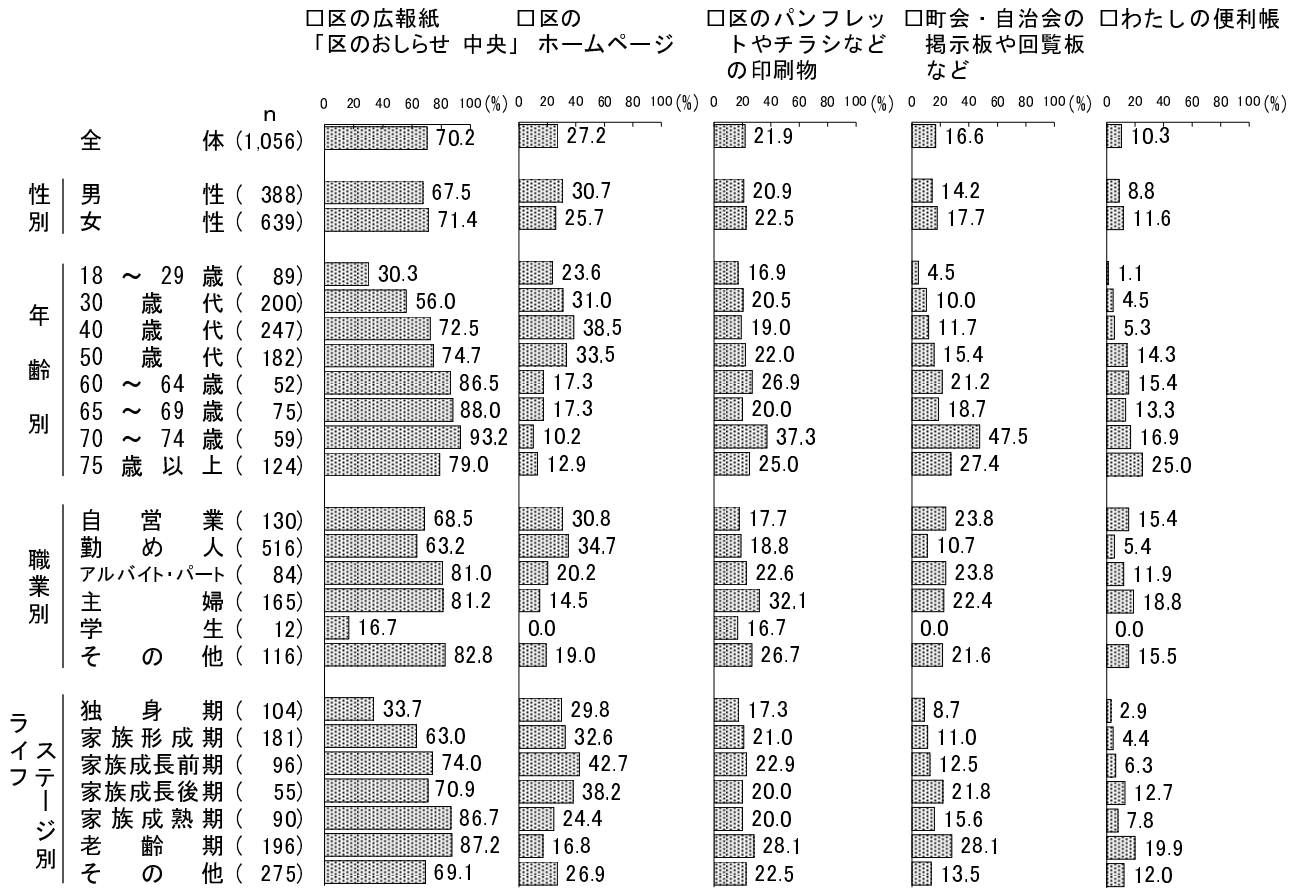
性別でみると、「区のホームページ」は男性の方が女性よりも5.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」は70～74歳で9割を超えて高くなっている。「区のホームページ」は40歳代で4割近くと高くなっている。「町会・自治会の掲示板や回覧板など」は70～74歳で5割近くと高くなっている。

職業別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」はアルバイト・パートタイマーと主婦、その他でそれぞれ8割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」は家族成熟期と高齢期でともに9割近くと高くなっている。「区のホームページ」は家族成長前期で4割を超えて高くなっている。（図表11-1-3）

図表11-1-3 区政情報を得る手段－性別・年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



【12 緑・公園】

(1) 公園や緑に望む役割

◇「のんびり休息できる場所」が6割を超える

問30 あなたが公園や緑に望む役割は何ですか。(〇はいくつでも)

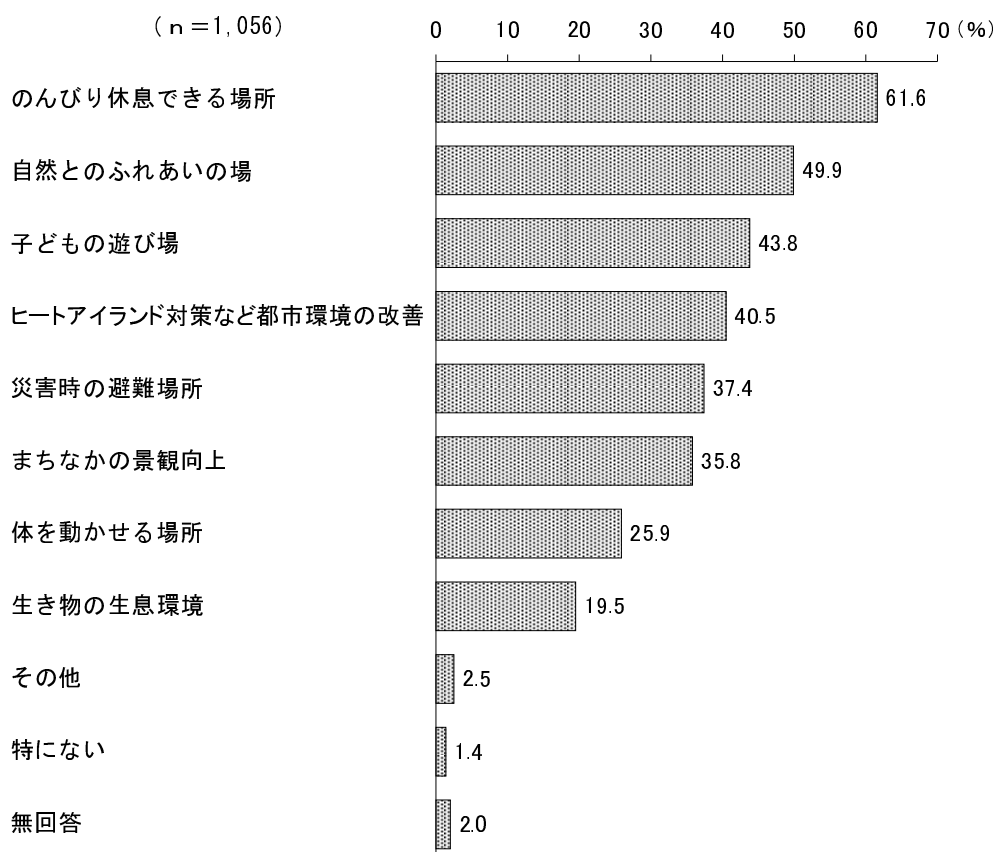
n = 1,056

1	生き物の生息環境	19.5%
2	ヒートアイランド対策など都市環境の改善	40.5
3	自然とのふれあいの場	49.9
4	体を動かせる場所	25.9
5	のんびり休息できる場所	61.6
6	子どもの遊び場	43.8
7	災害時の避難場所	37.4
8	まちなかの景観向上	35.8
9	その他	2.5
10	特にない	1.4
	(無回答)	2.0

公園や緑に望む役割は、「のんびり休息できる場所」(61.6%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「自然とのふれあいの場」(49.9%)、「子どもの遊び場」(43.8%)、「ヒートアイランド対策など都市環境の改善」(40.5%)、「災害時の避難場所」(37.4%)などとなっている。

(図表12-1-1)

図表12-1-1 公園や緑に望む役割（複数回答）

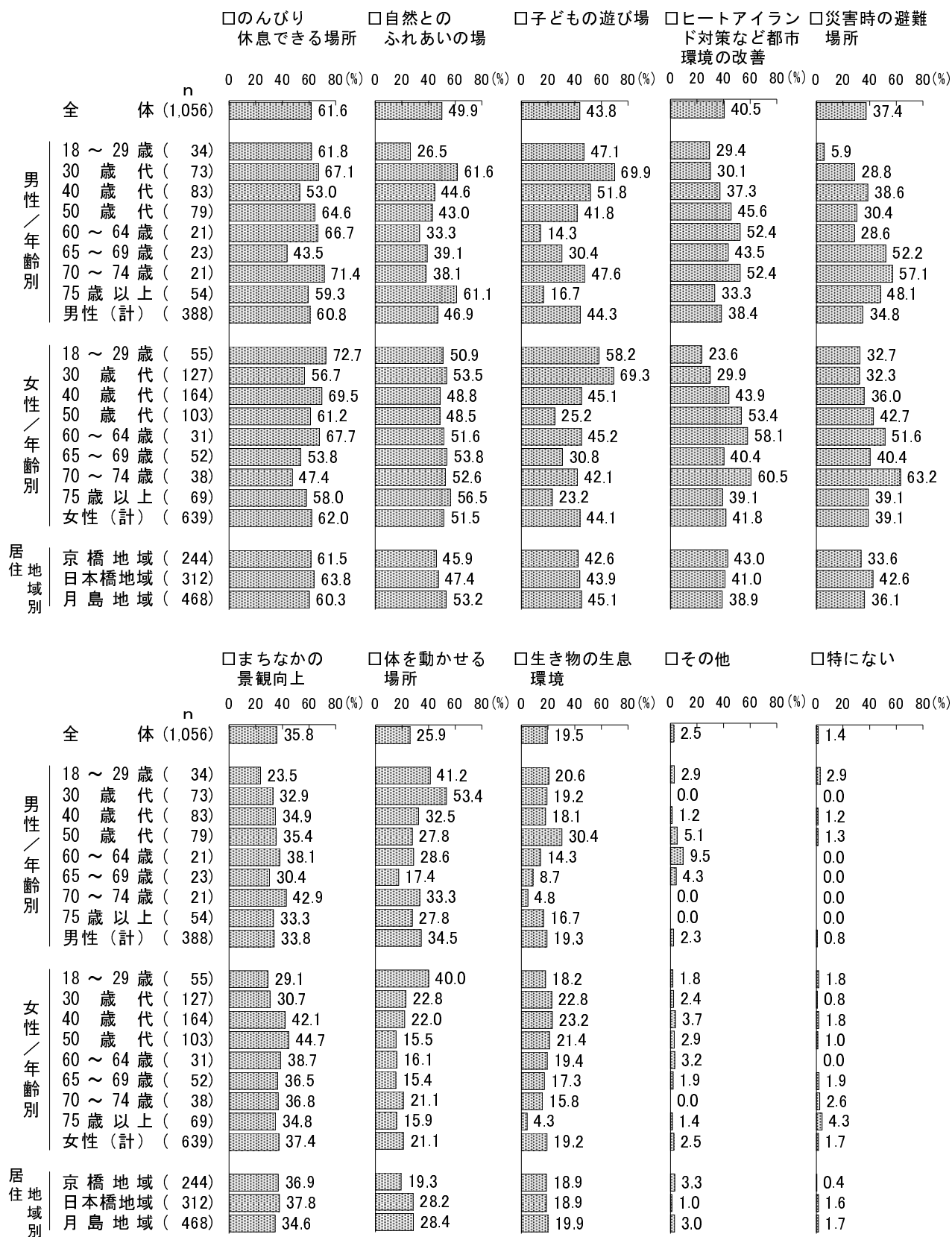


性／年齢別で見ると、「のんびり休息できる場所」は女性の18～29歳で7割を超えて高くなっている。「自然とのふれあいの場」は男性の30歳代と75歳以上でともに6割を超えて高くなっている。

「子どもの遊び場」は男女ともに30歳代で約7割と高くなっている。「ヒートアイランド対策など都市環境の改善」は女性の70～74歳で約6割と高くなっている。「災害時の避難場所」は女性の70～74歳で6割を超えて高くなっている。

居住地域別で見ると、「自然とのふれあいの場」は月島地域で5割を超えて高くなっている。「災害時の避難場所」は日本橋地域で4割を超えて高くなっている。（図表12-1-2）

図表12-1-2 公園や緑に望む役割一性／年齢別・居住地域別



(2) 区に望む緑のまちづくり

◇「道路上の街路樹や緑地の整備」が5割近く

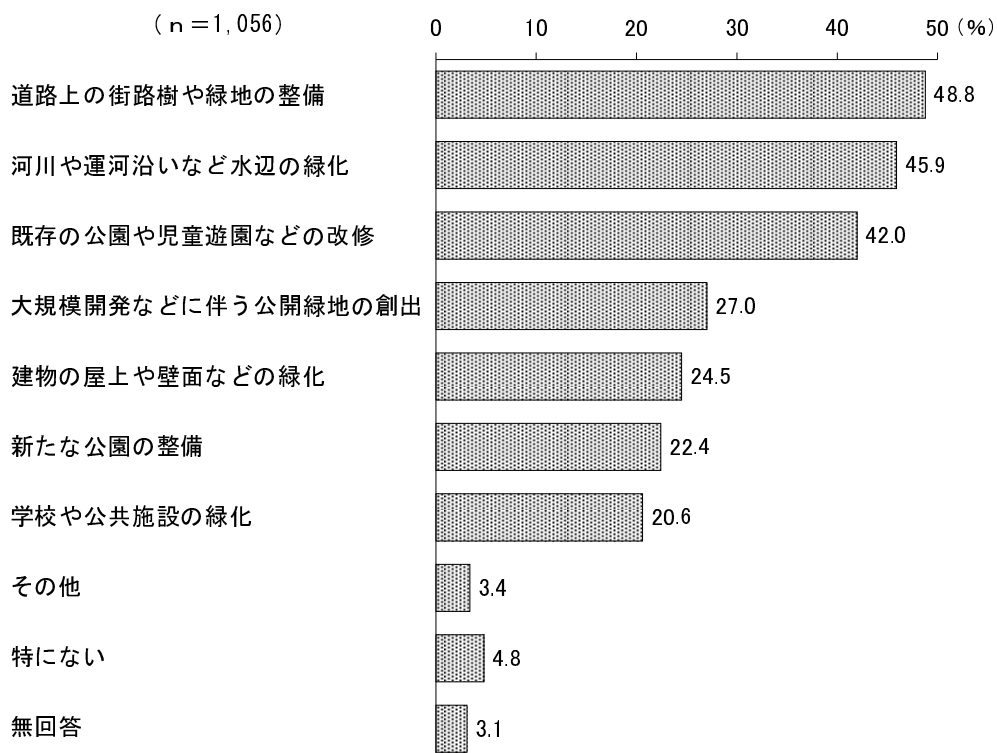
問31 あなたは、緑のまちづくりを進める上で、今後どのようなことに重点をおくとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

1	新たな公園の整備	22.4%
2	既存の公園や児童遊園などの改修	42.0
3	道路上の街路樹や緑地の整備	48.8
4	学校や公共施設の緑化	20.6
5	河川や運河沿いなど水辺の緑化	45.9
6	建物の屋上や壁面などの緑化	24.5
7	大規模開発などに伴う公開緑地の創出	27.0
8	その他	3.4
9	特にない	4.8
	(無回答)	3.1

区に望む緑のまちづくりは、「道路上の街路樹や緑地の整備」(48.8%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「河川や運河沿いなど水辺の緑化」(45.9%)、「既存の公園や児童遊園などの改修」(42.0%)、「大規模開発などに伴う公開緑地の創出」(27.0%)、「建物の屋上や壁面などの緑化」(24.5%)などとなっている。(図表12-2-1)

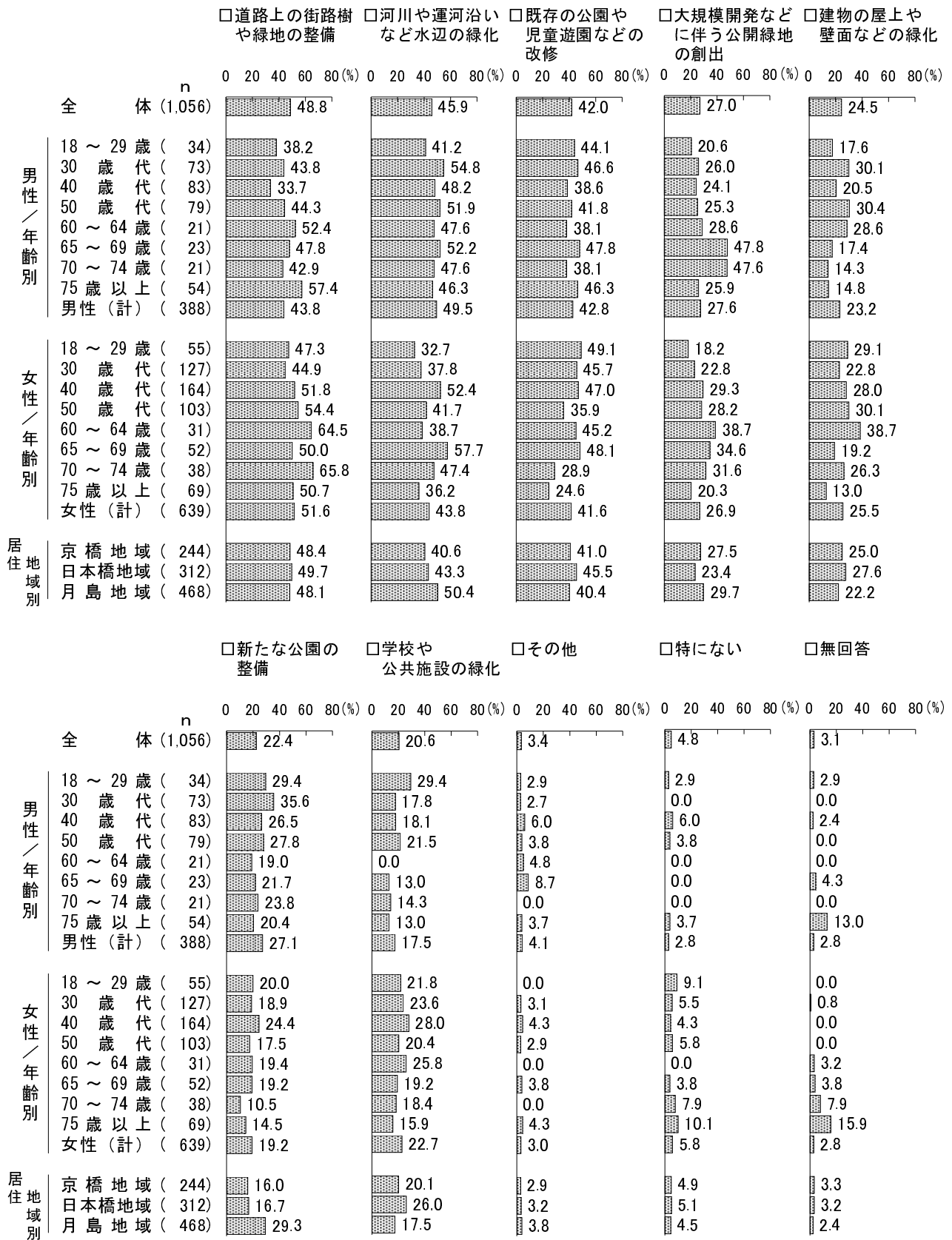
図表12-2-1 区に望む緑のまちづくり(複数回答)



性／年齢別でみると、「道路上の街路樹や緑地の整備」は女性の60～64歳と70～74歳でともに6割台半ばと高くなっている。「河川や運河沿いなど水辺の緑化」は女性の65～69歳で6割近くと高くなっている。「建物の屋上や壁面などの緑化」は女性の60～64歳で4割近くと高くなっている。「新たな公園の整備」は男性の30歳代で3割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「河川や運河沿いなど水辺の緑化」は月島地域で5割と高くなっている。「新たな公園の整備」は月島地域で約3割と高くなっている。(図表12-2-2)

図表12-2-2 区に望む緑のまちづくり／年齢別・居住地域別



(3) 緑に関し行っていることや興味

◇「庭やベランダなどでの緑や花の育成」が4割を超える

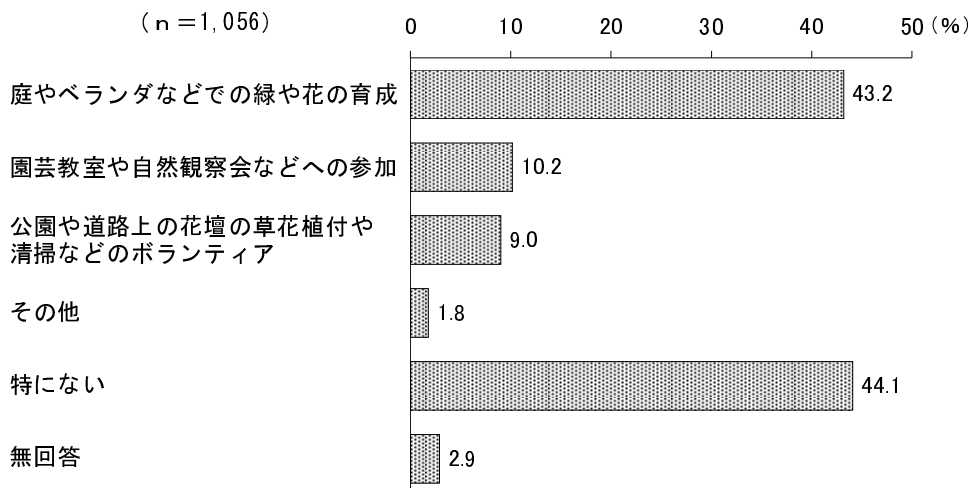
問32 緑に関することで、あなたが現在行っている、あるいは今後行ってみたいことはありますか。(〇はいくつでも)

n = 1,056

1 庭やベランダなどでの緑や花の育成	43.2%
2 公園や道路上の花壇の草花植付や清掃などのボランティア	9.0
3 園芸教室や自然観察会などへの参加	10.2
4 その他	1.8
5 特にない	44.1
(無回答)	2.9

緑に関することで現在行っていることや今後行ってみたいことは、「庭やベランダなどでの緑や花の育成」(43.2%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「園芸教室や自然観察会などへの参加」(10.2%)、「公園や道路上の花壇の草花植付や清掃などのボランティア」(9.0%)などとなっている。(図表12-3-1)

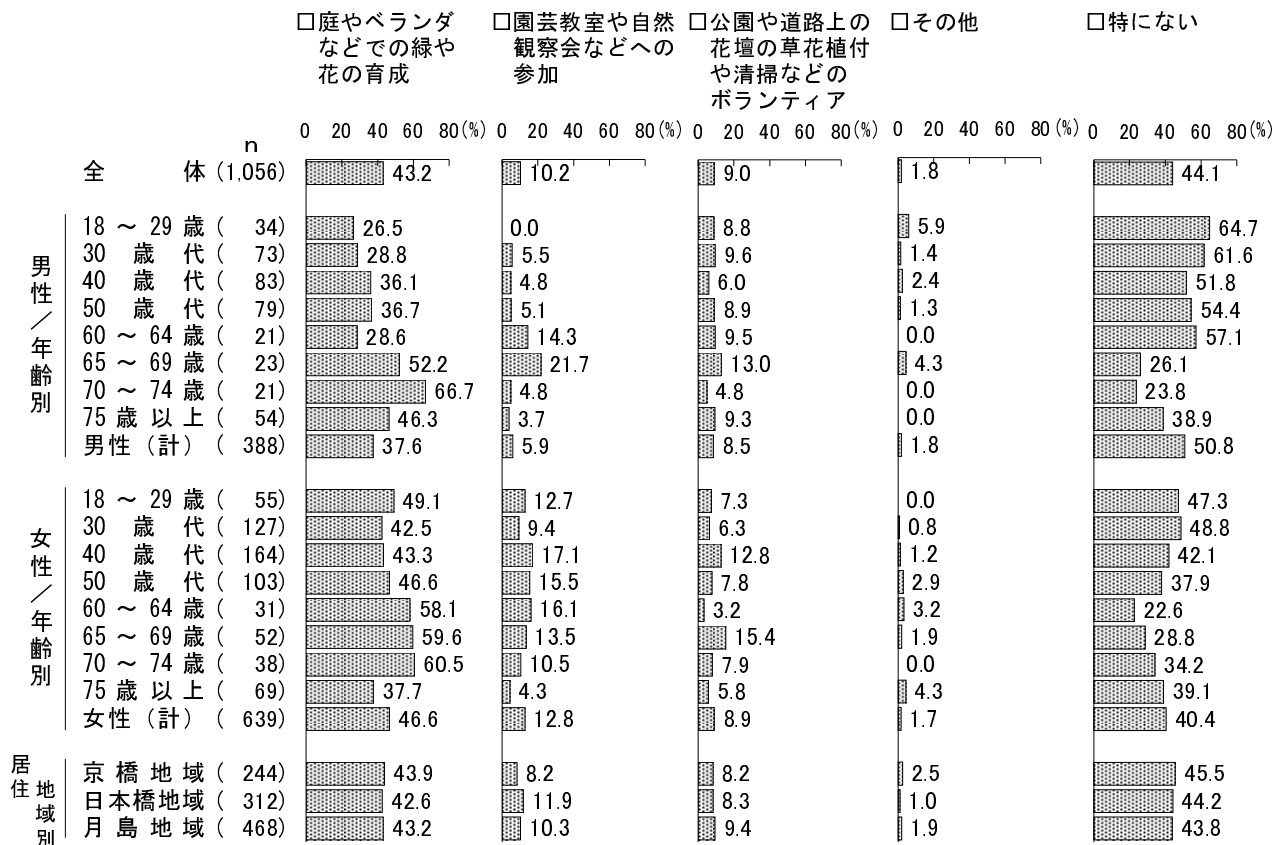
図表12-3-1 緑に関し行っていることや興味 (複数回答)



性／年齢別で見ると、「庭やベランダなどでの緑や花の育成」は男性の70～74歳で7割近く、女性の65～69歳と70～74歳とともに6割前後と高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。(図表12-3-2)

図表12-3-2 緑に関し行っていることや興味—性／年齢別・居住地域別



(4) ボランティア活動への参加状況

◇『知っている』が3割台半ば

問33 中央区では、公園や道路上の花壇管理や清掃などのボランティア活動を推進しています。このような活動を知っていますか。(○は1つ)

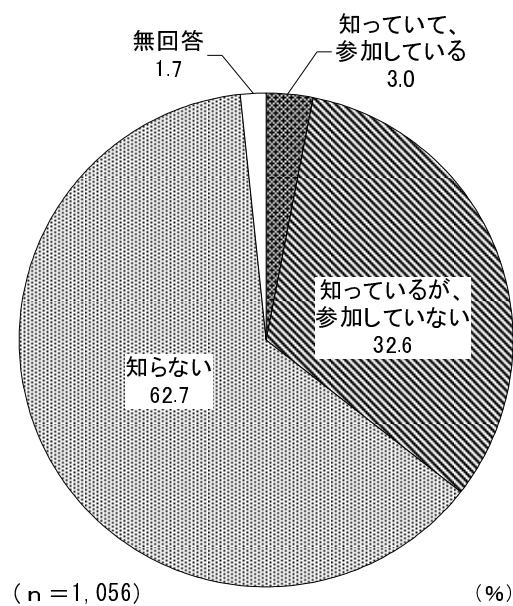
n = 1,056

1 知っていて、参加している	3.0%
2 知っているが、参加していない	32.6
3 知らない	62.7
(無回答)	1.7

公園や道路上の花壇管理や清掃などのボランティア活動への参加状況は、「知っていて、参加している」(3.0%)と「知っているが、参加していない」(32.6%)の2つを合わせた『知っている』(35.6%)が3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(62.7%)は6割を超えている。

(図表12-4-1)

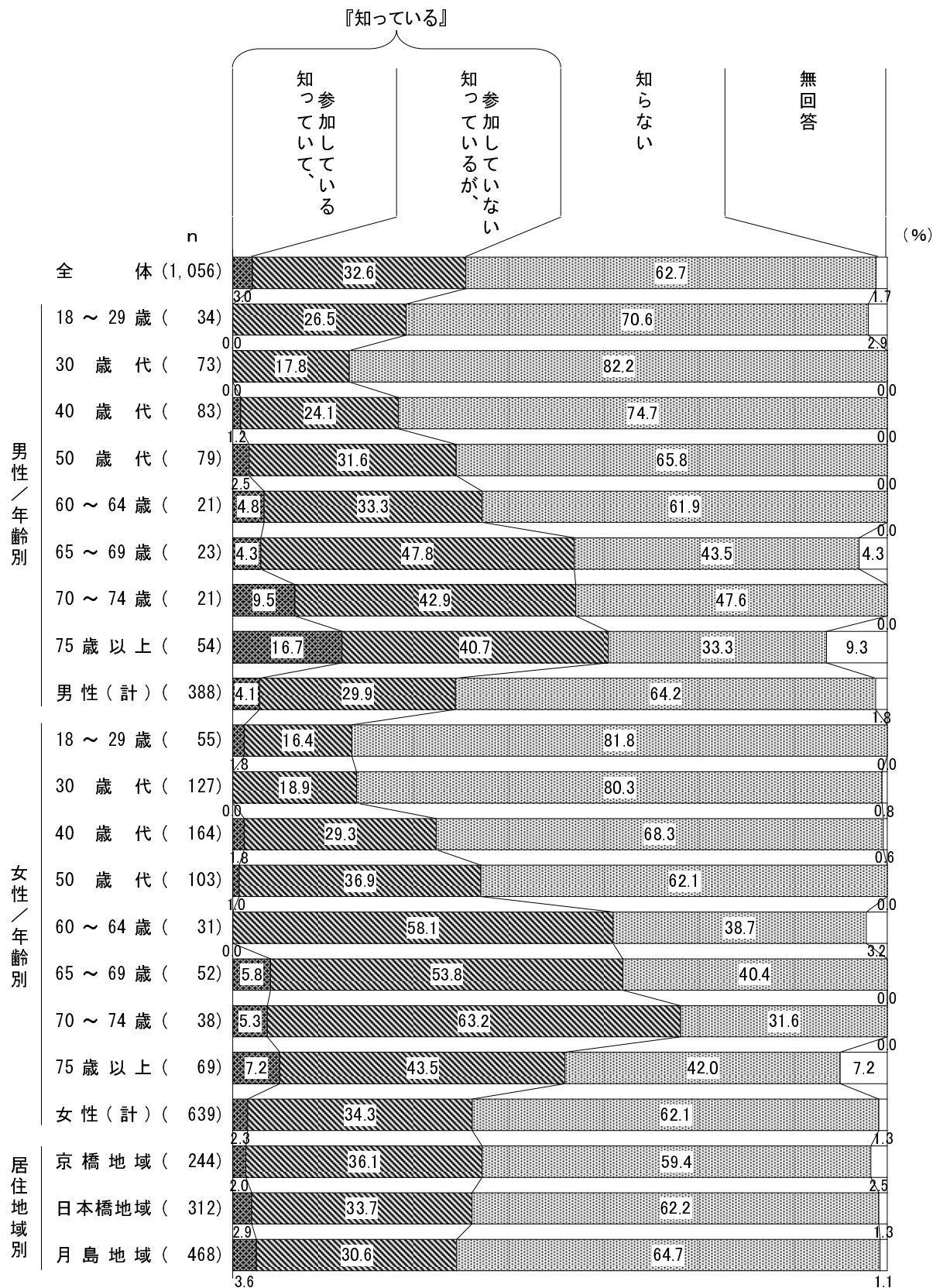
図表12-4-1 ボランティア活動への参加状況



性／年齢別でみると、「知っている、参加している」は男性の75歳以上で2割近くと高くなっている。「知らない」は男性の30歳代、女性の18～29歳および30歳代でそれぞれ8割台と高くなっている。

居住地域別でみると、「知らない」は月島地域で6割台半ばと高くなっている。(図表12-4-2)

図表12-4-2 ボランティア活動への参加状況－性／年齢別・居住地域別



【13 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

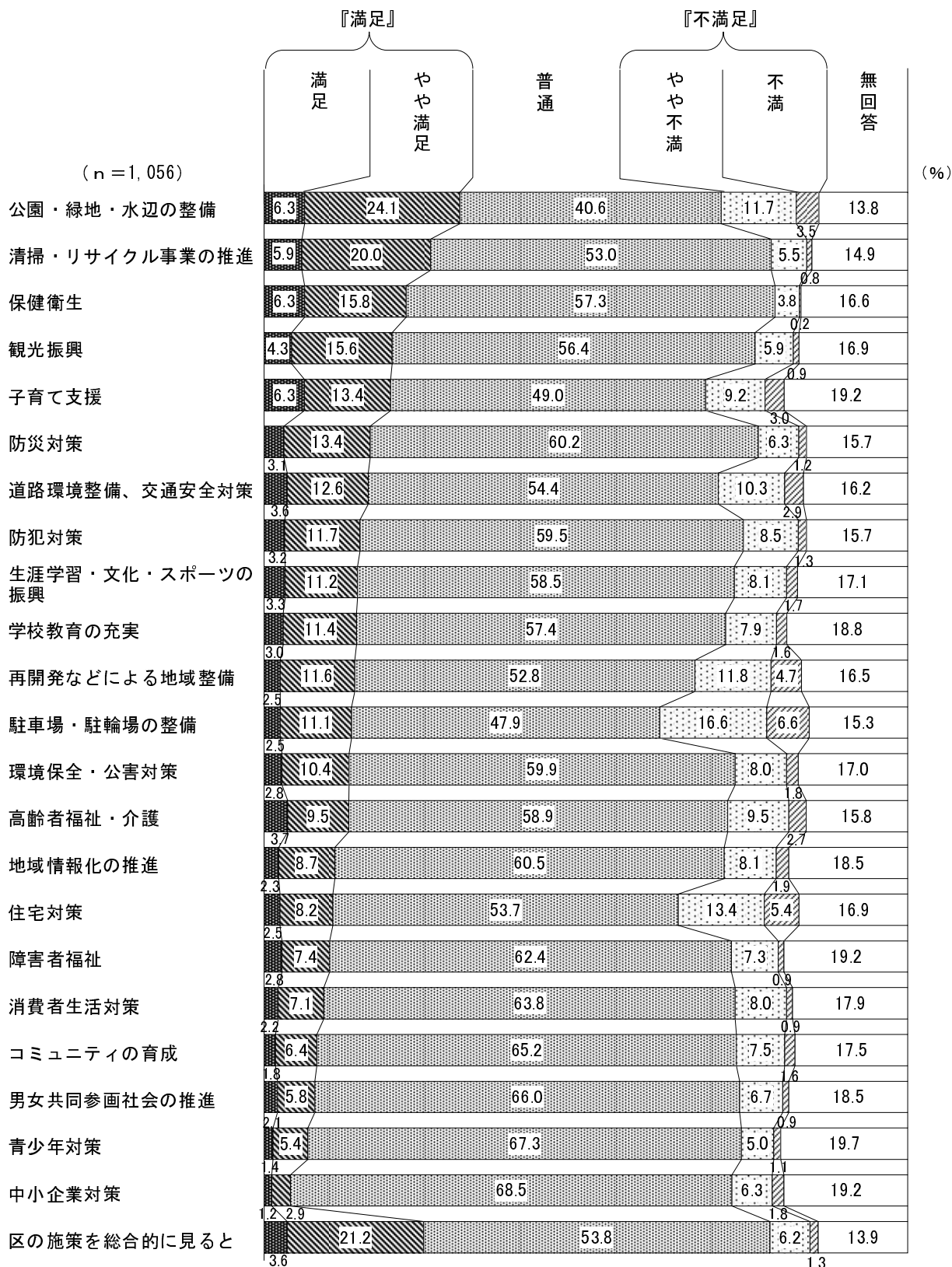
◇重要度が高いのは「防災対策」、低いのは「中小企業対策」

問34 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度					重要度 (%)				
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	無回答	1 たいへん重要	2 比較的重要	3 普通	無回答
n = 1, 056										
(1) 子育て支援	6.3	13.4	49.0	9.2	3.0	19.2	45.5	17.0	12.4	25.0
(2) 障害者福祉	2.8	7.4	62.4	7.3	0.9	19.2	27.8	27.6	18.7	25.9
(3) 高齢者福祉・介護	3.7	9.5	58.9	9.5	2.7	15.8	40.3	22.3	13.9	23.5
(4) 保健衛生	6.3	15.8	57.3	3.8	0.2	16.6	25.7	28.4	20.7	25.2
(5) 男女共同参画社会の推進	2.1	5.8	66.0	6.7	0.9	18.5	9.2	27.1	37.6	26.1
(6) 住宅対策	2.5	8.2	53.7	13.4	5.4	16.9	18.8	27.5	28.8	25.0
(7) 公園・緑地・水辺の整備	6.3	24.1	40.6	11.7	3.5	13.8	22.0	31.7	22.6	23.7
(8) 消費者生活対策	2.2	7.1	63.8	8.0	0.9	17.9	12.9	27.6	33.2	26.3
(9) 環境保全・公害対策	2.8	10.4	59.9	8.0	1.8	17.0	21.9	29.8	22.6	25.7
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	5.9	20.0	53.0	5.5	0.8	14.9	17.5	32.5	25.0	25.0
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.5	11.1	47.9	16.6	6.6	15.3	15.2	29.7	30.9	24.2
(12) 道路環境整備、交通安全対策	3.6	12.6	54.4	10.3	2.9	16.2	21.2	29.9	24.1	24.7
(13) 防災対策	3.1	13.4	60.2	6.3	1.2	15.7	39.5	23.6	13.6	23.3
(14) 防犯対策	3.2	11.7	59.5	8.5	1.3	15.7	36.5	25.8	14.3	23.5
(15) 再開発などによる地域整備	2.5	11.6	52.8	11.8	4.7	16.5	16.8	27.0	31.1	25.2
(16) 中小企業対策	1.2	2.9	68.5	6.3	1.8	19.2	9.4	24.1	39.8	26.8
(17) 学校教育の充実	3.0	11.4	57.4	7.9	1.6	18.8	25.4	25.1	23.4	26.1
(18) 青少年対策	1.4	5.4	67.3	5.0	1.1	19.7	15.3	27.3	30.5	26.9
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	3.3	11.2	58.5	8.1	1.7	17.1	12.8	27.6	34.7	25.0
(20) コミュニティの育成	1.8	6.4	65.2	7.5	1.6	17.5	10.5	26.5	37.7	25.3
(21) 観光振興	4.3	15.6	56.4	5.9	0.9	16.9	11.7	28.6	34.5	25.2
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	2.3	8.7	60.5	8.1	1.9	18.5	10.8	28.8	34.2	26.2
(23) 区の施策を総合的に見ると	3.6	21.2	53.8	6.2	1.3	13.9				

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(30.4%)が3割で最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(23.2%)が2割を超えて最も高くなっている。(図表13-1-1)

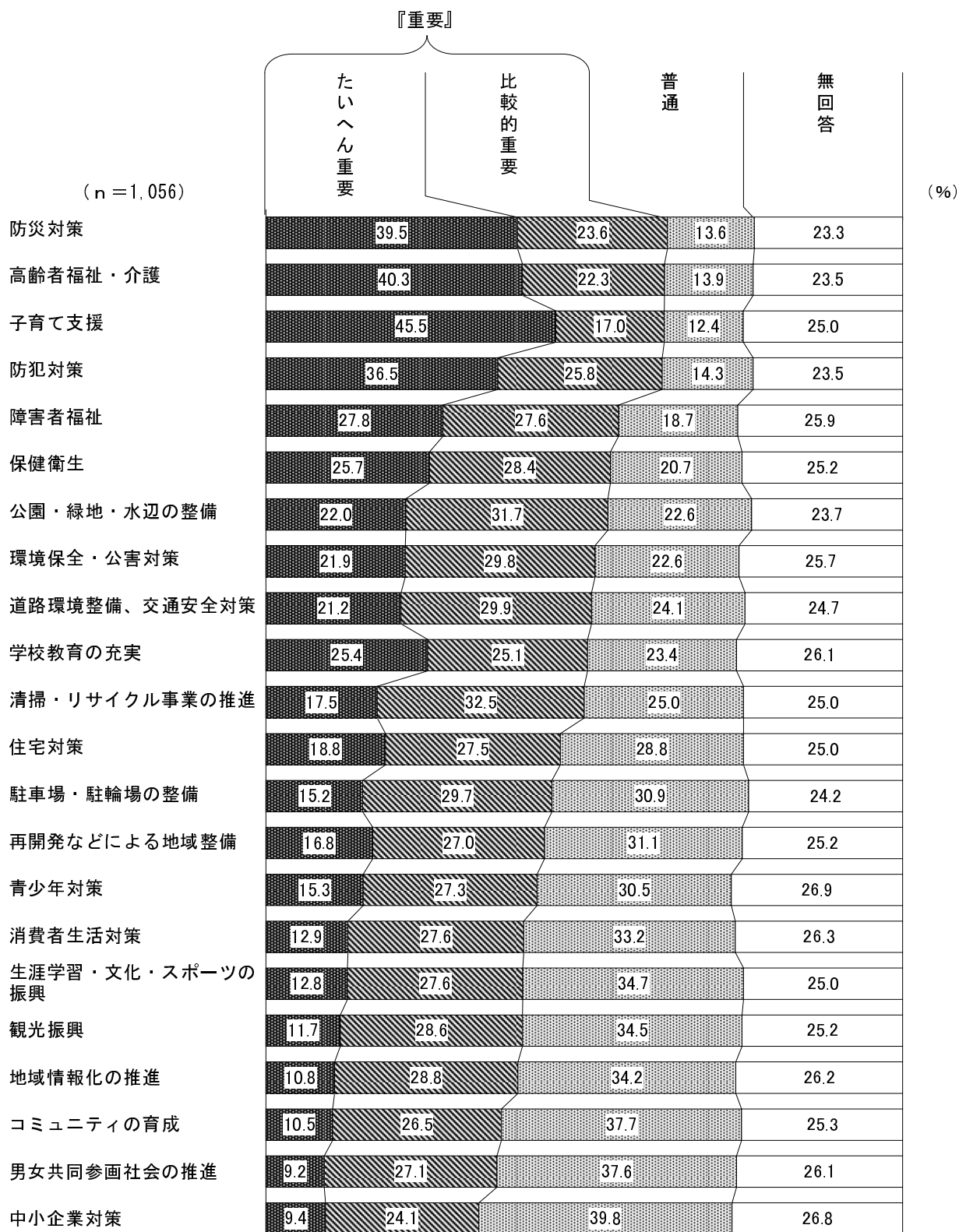
図表13-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「防災対策」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(63.1%)が6割を超えて最も高くなっている。一方、「中小企業対策」は、「普通」(39.8%)が4割で最も高くなっている。

(図表13-1-2)

図表13-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①公園・緑地・水辺の整備	(30.4%)	①駐車場・駐輪場の整備	(23.2%)
②清掃・リサイクル事業の推進	(25.9%)	②住宅対策	(18.8%)
③保健衛生	(22.1%)	③再開発などによる地域整備	(16.5%)
④観光振興	(19.9%)	④公園・緑地・水辺の整備	(15.2%)
⑤子育て支援	(19.7%)	⑤道路環境整備、交通安全対策	(13.2%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①防災対策	(63.1%)	①中小企業対策	(33.5%)
②高齢者福祉・介護	(62.6%)	②男女共同参画社会の推進	(36.3%)
③子育て支援	(62.5%)	③コミュニティの育成	(37.0%)
④防犯対策	(62.3%)	④地域情報化の推進	(39.6%)
⑤障害者福祉	(55.4%)	⑤観光振興	(40.3%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①保健衛生	(1.46)	①駐車場・駐輪場の整備	(-0.82)
②清掃・リサイクル事業の推進	(1.45)	②住宅対策	(-0.66)
③公園・緑地・水辺の整備	(1.03)	③再開発などによる地域整備	(-0.28)
④観光振興	(0.99)	中小企業対策	(-0.28)
⑤子育て支援	(0.66)	⑤コミュニティの育成	(-0.04)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.21)	①中小企業対策	(2.92)
②高齢者福祉・介護	(6.73)	②男女共同参画社会の推進	(3.08)
③防災対策	(6.69)	③コミュニティの育成	(3.18)
④防犯対策	(6.45)	④地域情報化の推進	(3.41)
⑤障害者福祉	(5.62)	⑤観光振興	(3.48)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「保健衛生」(1.32)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.27)、「公園・緑地・水辺の整備」(1.24)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.35)、「中小企業対策」(-0.88)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「保健衛生」(1.80)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.58)、「観光振興」(1.24)、「公園・緑地・水辺の整備」(1.00)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.65)、「住宅対策」(-0.60)が比較的低くなっている。

月島地域では、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.45)、「保健衛生」(1.31)が比較的高くなっている。また、「住宅対策」(-0.79)、「再開発などによる地域整備」(-0.65)、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.63)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、京橋地域と月島地域では「子育て支援」が第1位、「高齢者福祉・介護」が第2位、「防災対策」が第3位となっている。日本橋地域では「子育て支援」が第1位、「防災対策」が第2位、「防犯対策」が第3位となっている。(図表13-1-3)

図表13-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点一居住地域別

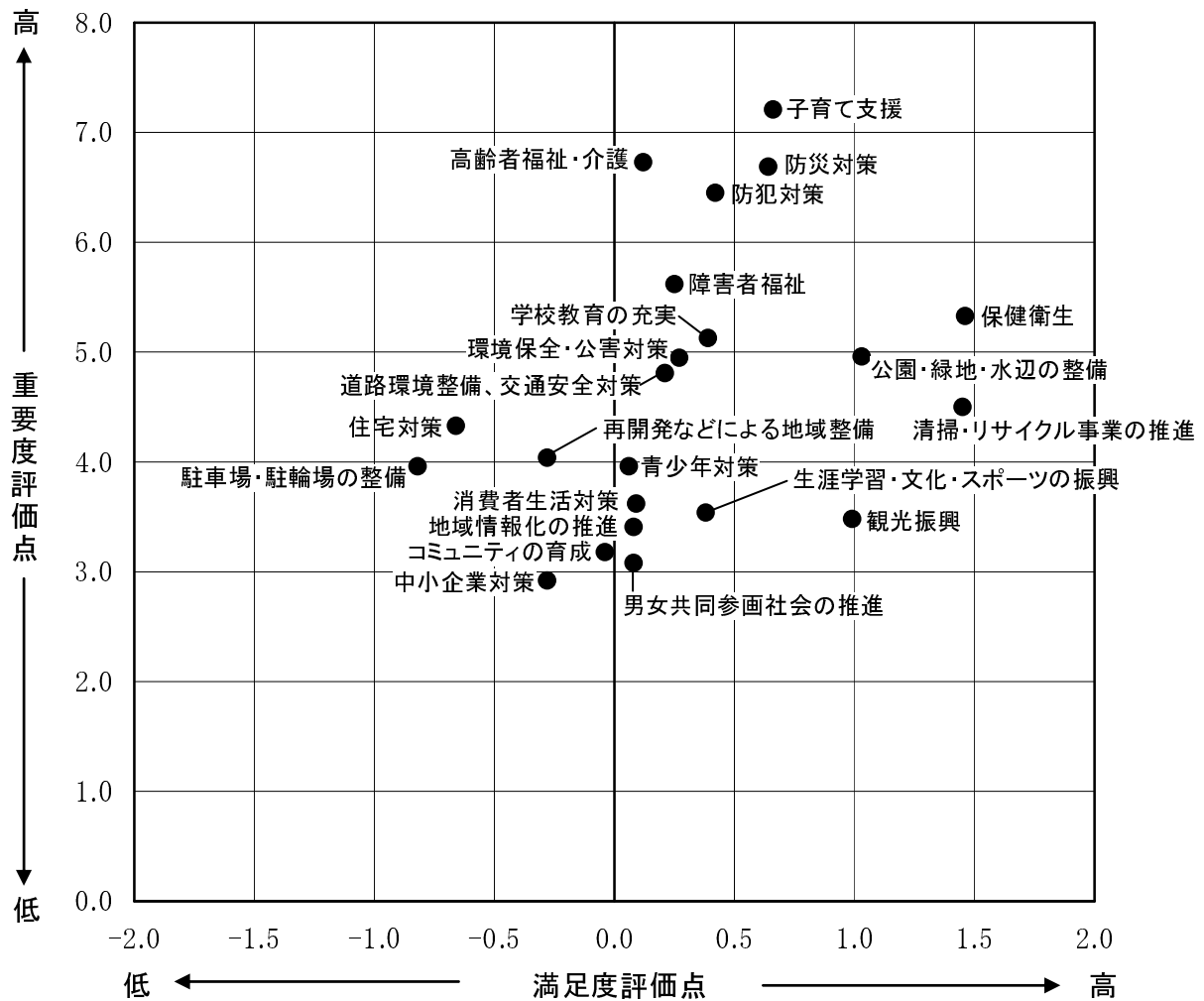
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.66	0.26	0.72	0.81	7.21	6.99	7.30	7.25
(2) 障害者福祉	0.25	0.41	0.50	0.01	5.62	5.22	5.46	5.94
(3) 高齢者福祉・介護	0.12	-0.10	0.60	-0.05	6.73	6.28	6.50	7.11
(4) 保健衛生	1.46	1.32	1.80	1.31	5.33	4.87	5.73	5.26
(5) 男女共同参画社会の推進	0.08	0.08	0.22	-0.01	3.08	2.92	3.03	3.19
(6) 住宅対策	-0.66	-0.50	-0.60	-0.79	4.33	3.76	4.15	4.76
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1.03	1.24	1.00	0.93	4.96	4.74	4.78	5.22
(8) 消費者生活対策	0.09	0.08	0.11	0.10	3.62	3.02	3.92	3.71
(9) 環境保全・公害対策	0.27	0.10	0.35	0.31	4.95	4.51	5.24	4.97
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.45	1.27	1.58	1.45	4.50	4.03	5.10	4.33
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-0.82	-1.35	-0.65	-0.63	3.96	3.83	4.13	3.90
(12) 道路環境整備、交通安全対策	0.21	0.00	0.86	-0.10	4.81	4.21	4.80	5.13
(13) 防災対策	0.64	0.44	0.80	0.64	6.69	6.18	7.29	6.53
(14) 防犯対策	0.42	0.12	0.52	0.50	6.45	5.80	6.84	6.50
(15) 再開発などによる地域整備	-0.28	-0.10	0.09	-0.65	4.04	3.54	3.75	4.54
(16) 中小企業対策	-0.28	-0.88	0.02	-0.18	2.92	2.79	3.18	2.81
(17) 学校教育の充実	0.39	0.48	0.43	0.31	5.13	4.62	5.48	5.16
(18) 青少年対策	0.06	0.05	0.30	-0.10	3.96	3.31	4.17	4.18
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.38	0.25	0.75	0.20	3.54	3.31	3.99	3.35
(20) コミュニティの育成	-0.04	-0.35	0.22	-0.06	3.18	2.98	3.41	3.14
(21) 観光振興	0.99	0.86	1.24	0.88	3.48	3.01	3.62	3.65
(22) 地域情報化の推進	0.08	-0.05	0.33	-0.01	3.41	2.97	3.67	3.48

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表13-1-4)

図表13-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「高齢者福祉・介護」が3割台半ば

問35 問34の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

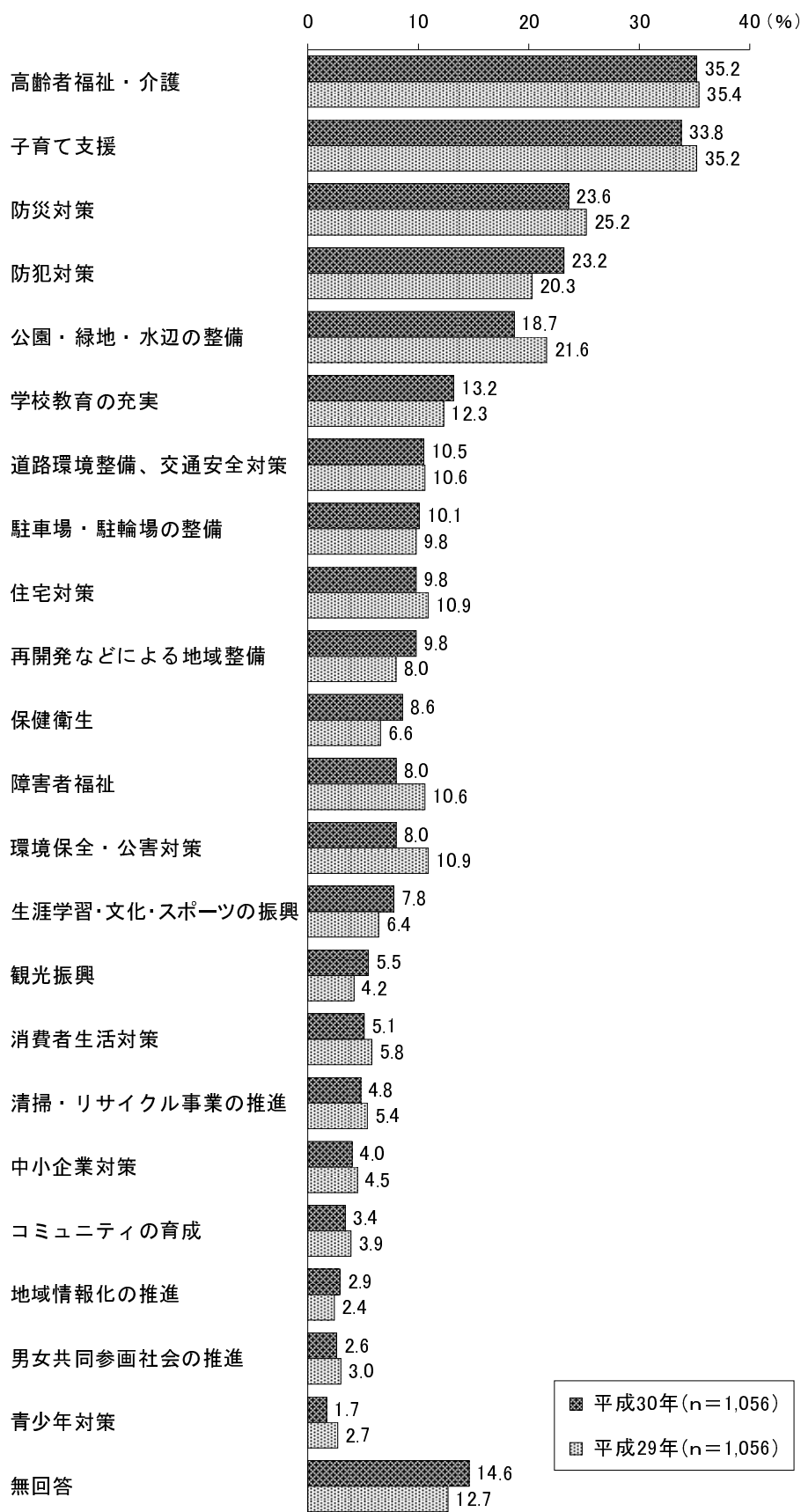
n = 1, 056	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
(1) 子育て支援	20.7	7.0	6.1	33.8
(2) 障害者福祉	2.3	3.6	2.2	8.0
(3) 高齢者福祉・介護	17.8	10.1	7.3	35.2
(4) 保健衛生	2.2	2.9	3.5	8.6
(5) 男女共同参画社会の推進	0.6	0.9	1.0	2.6
(6) 住宅対策	2.5	4.6	2.7	9.8
(7) 公園・緑地・水辺の整備	6.3	7.3	5.1	18.7
(8) 消費者生活対策	1.2	1.8	2.1	5.1
(9) 環境保全・公害対策	2.1	2.5	3.5	8.0
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	0.8	2.1	2.0	4.8
(11) 駐車場・駐輪場の整備	2.8	4.2	3.1	10.1
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.1	4.7	3.7	10.5
(13) 防災対策	7.4	8.6	7.6	23.6
(14) 防犯対策	5.7	7.6	9.9	23.2
(15) 再開発などによる地域整備	3.0	2.2	4.5	9.8
(16) 中小企業対策	1.4	1.1	1.4	4.0
(17) 学校教育の充実	3.0	5.5	4.6	13.2
(18) 青少年対策	0.2	1.0	0.5	1.7
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.2	2.2	4.4	7.8
(20) コミュニティの育成	0.6	0.9	2.0	3.4
(21) 観光振興	0.6	2.2	2.7	5.5
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.0	0.9	1.0	2.9
(無回答)	14.6	16.1	18.9	14.6

* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「高齢者福祉・介護」(35.2%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「子育て支援」(33.8%)、「防災対策」(23.6%)、「防犯対策」(23.2%)、「公園・緑地・水辺の整備」(18.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「防犯対策」は2.9ポイント、「保健衛生」は2.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「公園・緑地・水辺の整備」と「環境保全・公害対策」はともに2.9ポイント、「障害者福祉」は2.6ポイント、それぞれ減少している。(図表13-2-1)

図表13-2-1 区の施策への要望(複数回答)



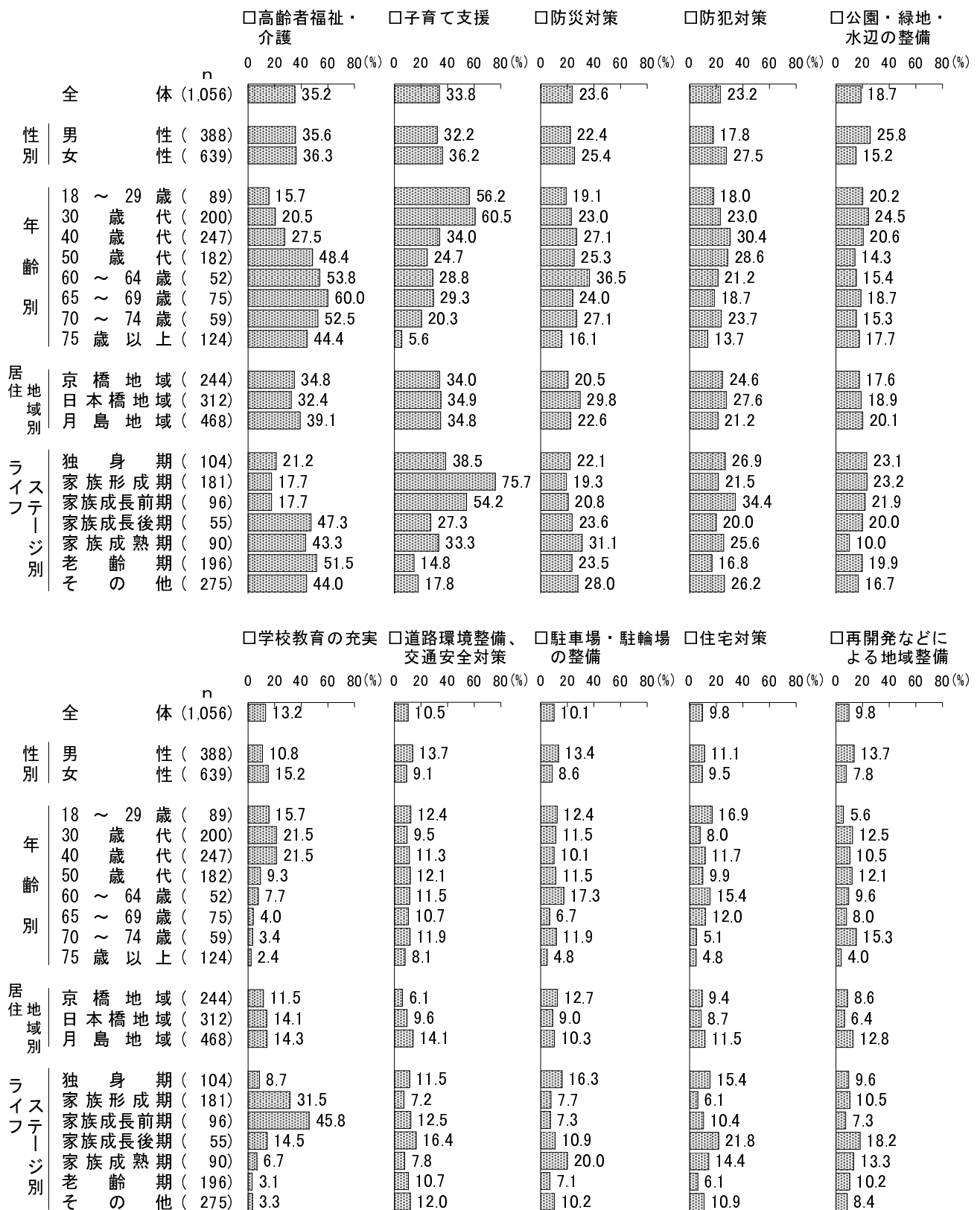
性別で見ると、男性の方が女性よりも「公園・緑地・水辺の整備」で10.6ポイント、「再開発などによる地域整備」で5.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「防犯対策」は女性の方が男性よりも9.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「高齢者福祉・介護」は65～69歳で6割と高くなっている。「子育て支援」は30歳代で約6割、18～29歳で5割台半ばと高くなっている。「防災対策」は60～64歳で4割近くと高くなっている。

居住地域別で見ると、「防災対策」は日本橋地域で3割と高くなっている。

ライフステージ別で見ると、「高齢者福祉・介護」は高齢期で5割を超えて高くなっている。「子育て支援」は家族形成期で7割台半ば、家族成長前期で5割台半ばと高くなっている。「防犯対策」は家族成長前期で3割台半ばと高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で4割台半ばと高くなっている。(図表13-2-2)

図表13-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、男女ともに「高齢者福祉・介護」が第1位、「子育て支援」が第2位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、「高齢者福祉・介護」は京橋地域と月島地域で第1位となっており、「子育て支援」は日本橋地域で第1位となっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は独身期と家族形成期、家族成長前期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成長後期と家族成熟期、老齢期、その他で第1位となっている。(図表13-2-3)

図表13-2-3 区の施策への要望－性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位5項目）

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体			1,056	高齢者福祉・介護 35.2	子育て支援 33.8	防災対策 23.6	防犯対策 23.2	公園・緑地・水辺の整備 18.7
性別	男性		388	高齢者福祉・介護 35.6	子育て支援 32.2	公園・緑地・水辺の整備 25.8	防犯対策 22.4	防犯対策 17.8
	女性		639	高齢者福祉・介護 36.3	子育て支援 36.2	防犯対策 27.5	防犯対策 25.4	公園・緑地・水辺の整備 /学校教育の充実15.2
年齢別	18～29歳		89	子育て支援 56.2	公園・緑地・水辺の整備 20.2	防災対策 19.1	防犯対策 18.0	住宅対策 16.9
	30歳代		200	子育て支援 60.5	公園・緑地・水辺の整備 24.5	防災対策/防犯対策 23.0		学校教育の充実 21.5
	40歳代		247	子育て支援 34.0	防犯対策 30.4	高齢者福祉・介護 27.5	防災対策 27.1	学校教育の充実 21.5
	50歳代		182	高齢者福祉・介護 48.4	防犯対策 28.6	防災対策 25.3	子育て支援 24.7	公園・緑地・水辺の整備 14.3
	60～64歳		52	高齢者福祉・介護 53.8	防災対策 36.5	子育て支援 28.8	防犯対策 21.2	駐車場・駐輪場の整備 17.3
	65～69歳		75	高齢者福祉・介護 60.0	子育て支援 29.3	防災対策 24.0	防犯対策/公園・緑地・水辺の整備 18.7	
	70～74歳		59	高齢者福祉・介護 52.5	防災対策 27.1	防犯対策 23.7	子育て支援 20.3	公園・緑地・水辺の整備/再開 発などによる地域整備 /環境保全・公害対策15.3
	75歳以上		124	高齢者福祉・介護 44.4	公園・緑地・水辺の整備 17.7	防災対策 16.1	防犯対策 13.7	保健衛生 9.7
居住地域別	京橋地域		244	高齢者福祉・介護 34.8	子育て支援 34.0	防犯対策 24.6	防災対策 20.5	公園・緑地・水辺の整備 17.6
	日本橋地域		312	子育て支援 34.9	高齢者福祉・介護 32.4	防災対策 29.8	防犯対策 27.6	公園・緑地・水辺の整備 18.9
	月島地域		468	高齢者福祉・介護 39.1	子育て支援 34.8	防災対策 22.6	防犯対策 21.2	公園・緑地・水辺の整備 20.1
ライフステージ別	独身期		104	子育て支援 38.5	防犯対策 26.9	公園・緑地・水辺の整備 23.1	防災対策 22.1	高齢者福祉・介護 21.2
	家族形成期		181	子育て支援 75.7	学校教育の充実 31.5	公園・緑地・水辺の整備 23.2	防犯対策 21.5	防災対策 19.3
	家族成長前期		96	子育て支援 54.2	学校教育の充実 45.8	防犯対策 34.4	公園・緑地・水辺の整備 21.9	防災対策 20.8
	家族成長後期		55	高齢者福祉・介護 47.3	子育て支援 27.3	防災対策 23.6	住宅対策 21.8	防犯対策/公園・緑地・水辺の整備 20.0
	家族成熟期		90	高齢者福祉・介護 43.3	子育て支援 33.3	防災対策 31.1	防犯対策 25.6	駐車場・駐輪場の整備 20.0
	老齢期		196	高齢者福祉・介護 51.5	防災対策 23.5	公園・緑地・水辺の整備 19.9	防犯対策 16.8	子育て支援 14.8
	その他		275	高齢者福祉・介護 44.0	防災対策 28.0	防犯対策 26.2	子育て支援 17.8	公園・緑地・水辺の整備 16.7

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 10 年 未 満	10 ～ 15 年 未 満	15 ～ 20 年 未 満	20 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	短 期 居 住 者	中 期 居 住 者	長 期 居 住 者
1,056	212	148	109	155	107	206	103	16	360	371	309
100.0	20.1	14.0	10.3	14.7	10.1	19.5	9.8	1.5	34.1	35.1	29.3

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(〇は1つ)

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
1,056	418	448	92	31	46	21
100.0	39.6	42.4	8.7	2.9	4.4	2.0

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(〇は1つ)

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
1,056	557	336	32	9	103	19
100.0	52.7	31.8	3.0	0.9	9.8	1.8

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

全 体	食 料 の 備 蓄 (1人1日3食分)	飲 料 水 の 備 蓄 (1人1日3ℓ分)	簡 易 ト イ レ の 備 蓄	家 具 類 の 転 倒 防 止	消 火 器 ・ 救 急 セ ツ ト な ど の 備 え	バ ー ル や ハ ン マ ー な ど の 救 助 工 具 の 備 え	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置 き	救 命 救 助 の 講 習 会 へ の 参 加	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 防 災 訓 練 へ の 参 加	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の 話 し 合 い	建 物 の 補 強	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,056	572	670	395	386	492	116	198	192	120	160	348	290	53	24	132	19
100.0	54.2	63.4	37.4	36.6	46.6	11.0	18.8	18.2	11.4	15.2	33.0	27.5	5.0	2.3	12.5	1.8

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。
(〇はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全体	水・食料	トイレ	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	災害状況・対策などの情報	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答
1,056	692	813	449	588	362	399	226	390	464	137	66	11	9	16
100.0	65.5	77.0	42.5	55.7	34.3	37.8	21.4	36.9	43.9	13.0	6.3	1.0	0.9	1.5

問8 大震災などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(〇はいくつでも)

全体	負傷者の応急手当	倒壊家屋などからの救出・救助	初期の消火活動	避難所での被災者の世話	救援物資の仕分けなどの防	外国危険能を活動した活動	インターネットによる情報	その他の支援活動	協力できそうもない	わからない	無回答
1,056	254	209	314	441	567	137	317	29	87	92	12
100.0	24.1	19.8	29.7	41.8	53.7	13.0	30.0	2.7	8.2	8.7	1.1

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	区のホームページ	防災マップアプリ	ちゅうメール	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどSNS	防炎行政無線	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
1,056	316	201	194	577	411	393	394	63	19	34
100.0	29.9	19.0	18.4	54.6	38.9	37.2	37.3	6.0	1.8	3.2

3 健康診査

問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	中央 区 国民 健康 保険	国民 健康 保険 組合 (自営 業 など の 業 種 ご と に 加 入 す る 健 康 保 険)	健康 保 険 組 合	協 会 け ん ぽ (全 国 健 康 保 険 協 会)	共 済 組 合	後 期 高 齢 者 医 療 制 度	そ の 他	無 回 答
1,056 100.0	131 12.4	148 14.0	467 44.2	120 11.4	43 4.1	129 12.2	11 1.0	7 0.7

問11 あなたは、この1年間に健康診査(健康診断)を受けましたか。(〇はいくつでも)

全 体	区 で 実 施 し て い る 健 康 診 査 を 受 け た	勤 務 先 (家 族 の 勤 務 先 を 含 む) で 実 施 す る 健 康 診 査 を 受 け た	加 入 し て い る 健 康 保 険 組 合 な ど で 実 施 す る 健 康 診 査 を 受 け た	個 人 で 人 間 ド ク な ど を 受 け た	学 校 で 実 施 す る 健 康 診 査 を 受 け た	そ の 他 で 受 け た	健 康 診 査 は 受 け て い な い	無 回 答
1,056 100.0	271 25.7	472 44.7	103 9.8	93 8.8	14 1.3	36 3.4	170 16.1	6 0.6

(問11で、「健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	勤 務 先 (家 族 の 勤 務 先 を 含 む) な ど で 実 施 し て い な い	受 診 方 法 が わ か ら な い	必 要 が な い	時 間 が な い	面 倒 で あ る	健 康 に 自 信 が あ る	病 気 い る で 医 者 に か か っ て	検 査 が い や	病 気 と 診 断 さ れ る の が 怖 い	費 用 が か か る	そ の 他	無 回 答
170 100.0	23 13.5	10 5.9	11 6.5	48 28.2	23 13.5	12 7.1	43 25.3	7 4.1	6 3.5	16 9.4	25 14.7	2 1.2

4 高齢者施策

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。
(もっとも近い考え1つに○)

上段：件数
下段：%

全体	主に、自宅で暮らしたいが、家族の介護を受けたくない	主に介護サービスなどを利用	高齢者向け住宅に住み替え	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
1,056 100.0	103 9.8	366 34.7	266 25.2	107 10.1	86 8.1	10 0.9	105 9.9	13 1.2

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

全体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	在宅サービス(医療・介護・福祉サービスなど)	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
1,056 100.0	436 41.3	286 27.1	523 49.5	396 37.5	434 41.1	469 44.4	225 21.3	31 2.9	13 1.2

5 子育て支援

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

全体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など	(健診センターの担当者、保健所、保健師など)	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
1,056 100.0	370 35.0	199 18.8	39 3.7	83 7.9	39 3.7	30 2.8	17 1.6	14 1.3	10 0.9	83 7.9	419 39.7	90 8.5

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。
 (○は2つまで) また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んで
 ください。(○はいくつでも)

上段：件数
 下段：%

重要と考えるもの (○は2つまで)

全 体	保育園・認定こども園・幼稚園など	一時預かり保育、延長保育、子育て支援サービス	病児・病後児保育などの子	子育て仲間が交流し、情報交	換のできる場	子どもの教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊	びや生活の場	情報の提供や相談サービス	公園の整備など、子どもを安	心して育てることができ	環境整備	母親と乳幼児などの健康の確	保および増進	職業生活と家庭生活との両立	児童虐待防止対策	経済的な支援	特 に な い	無 回 答
1,056	452	424	32	90	119	30	119	17	154	70	102	46	167						
100.0	42.8	40.2	3.0	8.5	11.3	2.8	11.3	1.6	14.6	6.6	9.7	4.4	15.8						

さらに充実を図る必要があると考えるもの (○はいくつでも)

全 体	保育園・認定こども園・幼稚園など	一時預かり保育、延長保育、子育て支援サービス	病児・病後児保育などの子	子育て仲間が交流し、情報交	換のできる場	子どもの教育環境の整備	放課後などにおける児童の遊	びや生活の場	情報の提供や相談サービス	公園の整備など、子どもを安	心して育てることができ	環境整備	母親と乳幼児などの健康の確	保および増進	職業生活と家庭生活との両立	児童虐待防止対策	経済的な支援	特 に な い	無 回 答
1,056	323	355	138	205	292	140	288	110	283	172	184	51	256						
100.0	30.6	33.6	13.1	19.4	27.7	13.3	27.3	10.4	26.8	16.3	17.4	4.8	24.2						

6 男女共同参画社会

問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

	全 体	女性が優遇されている	やや女性が優遇されて	や や い る	平等になっ て い る	やや男性が優遇されて	男性が優遇されている	無 回 答
(1) 家庭では	1,056 100.0	69 6.5	93 8.8	436 41.3	258 24.4	106 10.0	94 8.9	
(2) 職場では	1,056 100.0	23 2.2	86 8.1	290 27.5	366 34.7	184 17.4	107 10.1	
(3) 教育の場(学校・大学)では	1,056 100.0	8 0.8	34 3.2	700 66.3	141 13.4	34 3.2	139 13.2	
(4) 社会活動の場では	1,056 100.0	8 0.8	67 6.3	415 39.3	367 34.8	81 7.7	118 11.2	
(5) 法律や制度では	1,056 100.0	20 1.9	69 6.5	375 35.5	368 34.8	113 10.7	111 10.5	
(6) しきたりや習慣では	1,056 100.0	7 0.7	26 2.5	149 14.1	496 47.0	282 26.7	96 9.1	
(7) 政治の場では	1,056 100.0	5 0.5	19 1.8	127 12.0	386 36.6	421 39.9	98 9.3	
(8) 全体としては	1,056 100.0	11 1.0	25 2.4	229 21.7	566 53.6	136 12.9	89 8.4	

問17 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

上段：件数
下段：%

全 体	仕事に専念する方がよい	仕事の方がよいが、生活の方も優先する	仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい	仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい	仕事以外の生活に専念する方がよい	わからない	その他	無回答
1,056 100.0	12 1.1	116 11.0	552 52.3	251 23.8	10 0.9	50 4.7	25 2.4	40 3.8

問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

全 体	仕事に専念している	どちらかを優先している	仕事と生活を同じように両立させている	どちらか、生活の方を優先させている	現在仕事をしていない	その他	無回答
1,056 100.0	95 9.0	320 30.3	217 20.5	143 13.5	240 22.7	9 0.9	32 3.0

問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。（○は1つ）

全 体	知っているし、利用している	利用したことは知っているが、活動	利用したことは知らないが、施設内	知らない	その他	無回答
1,056 100.0	43 4.1	73 6.9	332 31.4	581 55.0	5 0.5	22 2.1

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的な犯罪は何ですか。(〇は2つまで)

上段：件数
下段：%

全体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
1,056	89	233	50	31	89	177	79	73	95	37	149	13	18	43	339	24
100.0	8.4	22.1	4.7	2.9	8.4	16.8	7.5	6.9	9.0	3.5	14.1	1.2	1.7	4.1	32.1	2.3

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(〇はいくつでも)

全体	自主的な防犯活動に参加しているなど	区の安心ペーじ、広報、ちゅうおうのホーム・ページ、警察の広報紙などを得ている	何か相談窓口にいくようにしている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションをとっている	防犯性能の高い鍵や窓を使用	警備会社などのセキュリティ	その他	特に何もしていない	無回答
1,056	16	209	140	207	122	155	41	445	22
100.0	1.5	19.8	13.3	19.6	11.6	14.7	3.9	42.1	2.1

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

全体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住ま助の防犯設備整備費用の助成	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	防犯クワの配布や講座・講演会などに関するハンドブック	学校安全対策や児童館などの子どもの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域への防犯パトロール活動な	その他	特にない	無回答
1,056	212	150	540	28	215	284	179	29	68	22
100.0	20.1	14.2	51.1	2.7	20.4	26.9	17.0	2.7	6.4	2.1

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。（○は3つまで）

上段：件数
下段：%

全体	スポーツ充実施設の増設・	学校整備 体育施設の開放・	施設利用時間の拡大	スポーツ教室の開催・大会・	障害のある人に対する スポーツ教室や	地域設立や活動に対する 支援	年齢にかかわらず 普及するスポーツの	一人でも参加できる 場の提供	公共健康・体力相談 スポーツ施設での	区内の情報発信 スポーツに関する	その他	わからない	無回答
1,056	474	134	240	143	34	81	237	347	85	121	38	120	42
100.0	44.9	12.7	22.7	13.5	3.2	7.7	22.4	32.9	8.0	11.5	3.6	11.4	4.0

9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

問25 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。（○は1つ）

全体	期待している	どちらかという と期待	ど ち ら か と い う と 懸 念	懸 念 が あ る	無 回 答
1,056	418	284	222	92	40
100.0	39.6	26.9	21.0	8.7	3.8

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。（○は3つまで）

全体	スポーツ意識の向上、 活動の活性化（ 障害者スポーツ など）	健康づくりの推進	外国人との交流機会の増加	学校における国際教育などの推進	障害者の福祉 支援やバリア フリー化など	地域活動の活性化 ボランティア なども	地域の向上 （伝統・文化・ 観光資源・知 名度の活	東京2020大会 による経済活 性化や消費	防犯・防災対策の強化	幹線道路や公共交通の整備促進 （道路の整備・ 拡幅、基幹的 交通システムの 導入など）	外国人が円滑に 移動できる多 言語	環境にやさしい まちづくりの 整備（ コミュニテイ サイクルの推 進など）	その他	無回答
1,056	169	110	233	141	183	136	205	326	281	329	105	193	25	67
100.0	16.0	10.4	22.1	13.4	17.3	12.9	19.4	30.9	26.6	31.2	9.9	18.3	2.4	6.3

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。
(○は3つまで)

上段：件数
下段：%

全体	海外観光客への対応(外国語や異文化への受入準備)	観光客の増加による交通混雑、買物生活の不便さ(交通混雑、買物生活の不便さ)	観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念	観光客の増加による衛生面(感染症など)の懸念	大会開催に伴う交通規制や選	選手村生活への影響	選手村工事などによる騒音や	東京2020大会関連以外の	公共インフラ整備の遅延の	材料費、人件費の高騰や便乗	値上げなどによる物価上昇	区の財政負担の増加	その他	無回答
1,056	269	409	805	376	244	72	103	243	176	36	39			
100.0	25.5	38.7	76.2	35.6	23.1	6.8	9.8	23.0	16.7	3.4	3.7			

10 築地魚河岸

問28 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

全体	よく行っている	行ったことがある	知っているが、行った	「築地魚河岸」を知らない	無回答
1,056	93	343	424	181	15
100.0	8.8	32.5	40.2	17.1	1.4

11 広報

問29 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。
(○はいくつでも)

全体	区の広報紙「区のおしらせ 中央」	わたしの便利帳	区の印刷物(パンフレットやチラシなど)	区のホームページ	区の広報掲示板	町会・自治会の掲示板や回覧板	ケーブルテレビ「こんには」の提供番組	コミュニティFM「中央FM」の提供番組	区の公式SNS(ツイッタ、フェイスブック、インスタグラム)	スマートフォンアプリ「中央区版マイ広報紙」	その他	無回答
1,056	741	109	231	287	102	175	29	14	21	20	26	76
100.0	70.2	10.3	21.9	27.2	9.7	16.6	2.7	1.3	2.0	1.9	2.5	7.2

12 緑・公園

問30 あなたが公園や緑に望む役割は何ですか。（〇はいくつでも）

上段：件数
下段：%

全 体	生き物の生息環境	ヒートアイランド対策など都市環境の改善	自然とのふれあいの場	体を動かせる場所	のんびり休息できる場所	子どもの遊び場	災害時の避難場所	まちなかの景観向上	その他	特 に ない	無 回 答
1,056 100.0	206 19.5	428 40.5	527 49.9	274 25.9	651 61.6	463 43.8	395 37.4	378 35.8	26 2.5	15 1.4	21 2.0

問31 あなたは、緑のまちづくりを進める上で、今後どのようなことに重点をおくとよいと思いますか。（〇はいくつでも）

全 体	新たな公園の整備	既存の公園や児童遊園などの改修	道路上の街路樹や緑地の整備	学校や公共施設の緑化	河川や運河沿いなど水辺の緑化	建物の屋上や壁面などの緑化	大規模開発などに伴う公園緑地の創出	その他	特 に ない	無 回 答
1,056 100.0	237 22.4	443 42.0	515 48.8	218 20.6	485 45.9	259 24.5	285 27.0	36 3.4	51 4.8	33 3.1

問32 緑に関することで、あなたが現在行っている、あるいは今後行ってみたいことはありますか。（〇はいくつでも）

全 体	庭や緑やベランダの育成など	公園や道路上の花壇のボランティア活動	園芸教室や自然観察会などへの参加	その他	特 に ない	無 回 答
1,056 100.0	456 43.2	95 9.0	108 10.2	19 1.8	466 44.1	31 2.9

問33 中央区では、公園や道路上的花壇管理や清掃などのボランティア活動を推進しています。このような活動を知っていますか。（〇は1つ）

全 体	知っている、参加して	知っているが、参加し	知らない	無 回 答
1,056 100.0	32 3.0	344 32.6	662 62.7	18 1.7

13 施策の要望・評価

問34 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	満 足	や や 満 足	普 通	や や 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,056 100.0	66 6.3	141 13.4	517 49.0	97 9.2	32 3.0	203 19.2	0.66
(2) 障害者福祉	1,056 100.0	30 2.8	78 7.4	659 62.4	77 7.3	9 0.9	203 19.2	0.25
(3) 高齢者福祉・介護	1,056 100.0	39 3.7	100 9.5	622 58.9	100 9.5	28 2.7	167 15.8	0.12
(4) 保健衛生	1,056 100.0	67 6.3	167 15.8	605 57.3	40 3.8	2 0.2	175 16.6	1.46
(5) 男女共同参画社会の推進	1,056 100.0	22 2.1	61 5.8	697 66.0	71 6.7	10 0.9	195 18.5	0.08
(6) 住宅対策	1,056 100.0	26 2.5	87 8.2	567 53.7	141 13.4	57 5.4	178 16.9	-0.66
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,056 100.0	66 6.3	254 24.1	429 40.6	124 11.7	37 3.5	146 13.8	1.03
(8) 消費者生活対策	1,056 100.0	23 2.2	75 7.1	674 63.8	85 8.0	10 0.9	189 17.9	0.09
(9) 環境保全・公害対策	1,056 100.0	30 2.8	110 10.4	633 59.9	84 8.0	19 1.8	180 17.0	0.27
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,056 100.0	62 5.9	211 20.0	560 53.0	58 5.5	8 0.8	157 14.9	1.45
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,056 100.0	26 2.5	117 11.1	506 47.9	175 16.6	70 6.6	162 15.3	-0.82
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,056 100.0	38 3.6	133 12.6	574 54.4	109 10.3	31 2.9	171 16.2	0.21
(13) 防災対策	1,056 100.0	33 3.1	141 13.4	636 60.2	67 6.3	13 1.2	166 15.7	0.64
(14) 防犯対策	1,056 100.0	34 3.2	124 11.7	628 59.5	90 8.5	14 1.3	166 15.7	0.42
(15) 再開発などによる地域整備	1,056 100.0	26 2.5	123 11.6	558 52.8	125 11.8	50 4.7	174 16.5	-0.28
(16) 中小企業対策	1,056 100.0	13 1.2	31 2.9	723 68.5	67 6.3	19 1.8	203 19.2	-0.28
(17) 学校教育の充実	1,056 100.0	32 3.0	120 11.4	606 57.4	83 7.9	17 1.6	198 18.8	0.39
(18) 青少年対策	1,056 100.0	15 1.4	57 5.4	711 67.3	53 5.0	12 1.1	208 19.7	0.06
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,056 100.0	35 3.3	118 11.2	618 58.5	86 8.1	18 1.7	181 17.1	0.38
(20) コミュニティの育成	1,056 100.0	19 1.8	68 6.4	688 65.2	79 7.5	17 1.6	185 17.5	-0.04
(21) 観光振興	1,056 100.0	45 4.3	165 15.6	596 56.4	62 5.9	10 0.9	178 16.9	0.99
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,056 100.0	24 2.3	92 8.7	639 60.5	86 8.1	20 1.9	195 18.5	0.08
(23) 区の施策を総合的に見ると	1,056 100.0	38 3.6	224 21.2	568 53.8	65 6.2	14 1.3	147 13.9	1.14

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点 + 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問34 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	たい へん 重要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,056 100.0	481 45.5	180 17.0	131 12.4	264 25.0	7.21
(2) 障害者福祉	1,056 100.0	294 27.8	291 27.6	197 18.7	274 25.9	5.62
(3) 高齢者福祉・介護	1,056 100.0	426 40.3	235 22.3	147 13.9	248 23.5	6.73
(4) 保健衛生	1,056 100.0	271 25.7	300 28.4	219 20.7	266 25.2	5.33
(5) 男女共同参画社会の推進	1,056 100.0	97 9.2	286 27.1	397 37.6	276 26.1	3.08
(6) 住宅対策	1,056 100.0	198 18.8	290 27.5	304 28.8	264 25.0	4.33
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,056 100.0	232 22.0	335 31.7	239 22.6	250 23.7	4.96
(8) 消費者生活対策	1,056 100.0	136 12.9	291 27.6	351 33.2	278 26.3	3.62
(9) 環境保全・公害対策	1,056 100.0	231 21.9	315 29.8	239 22.6	271 25.7	4.95
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,056 100.0	185 17.5	343 32.5	264 25.0	264 25.0	4.50
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,056 100.0	160 15.2	314 29.7	326 30.9	256 24.2	3.96
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,056 100.0	224 21.2	316 29.9	255 24.1	261 24.7	4.81
(13) 防災対策	1,056 100.0	417 39.5	249 23.6	144 13.6	246 23.3	6.69
(14) 防犯対策	1,056 100.0	385 36.5	272 25.8	151 14.3	248 23.5	6.45
(15) 再開発などによる地域整備	1,056 100.0	177 16.8	285 27.0	328 31.1	266 25.2	4.04
(16) 中小企業対策	1,056 100.0	99 9.4	254 24.1	420 39.8	283 26.8	2.92
(17) 学校教育の充実	1,056 100.0	268 25.4	265 25.1	247 23.4	276 26.1	5.13
(18) 青少年対策	1,056 100.0	162 15.3	288 27.3	322 30.5	284 26.9	3.96
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,056 100.0	135 12.8	291 27.6	366 34.7	264 25.0	3.54
(20) コミュニティの育成	1,056 100.0	111 10.5	280 26.5	398 37.7	267 25.3	3.18
(21) 観光振興	1,056 100.0	124 11.7	302 28.6	364 34.5	266 25.2	3.48
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,056 100.0	114 10.8	304 28.8	361 34.2	277 26.2	3.41

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

問35 問34の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。
1位から3位までを選んで番号を記入してください。

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地・水辺の整備	(8) 消費者生活対策	(9) 環境保全・公害対策	(10) 清掃・リサイクル事業の推進	(11) 駐車場・駐輪場の整備	(12) 道路環境整備、交通安全対策
第1位～第3位の累計	1,056 100.0	357 33.8	85 8.0	372 35.2	91 8.6	27 2.6	104 9.8	197 18.7	54 5.1	85 8.0	51 4.8	107 10.1	111 10.5
第1位	1,056 100.0	219 20.7	24 2.3	188 17.8	23 2.2	6 0.6	26 2.5	66 6.3	13 1.2	22 2.1	8 0.8	30 2.8	22 2.1
第2位	1,056 100.0	74 7.0	38 3.6	107 10.1	31 2.9	10 0.9	49 4.6	77 7.3	19 1.8	26 2.5	22 2.1	44 4.2	50 4.7
第3位	1,056 100.0	64 6.1	23 2.2	77 7.3	37 3.5	11 1.0	29 2.7	54 5.1	22 2.1	37 3.5	21 2.0	33 3.1	39 3.7
	(13) 防災対策	(14) 防犯対策	(15) 再開発などによる地域整備	(16) 中小企業対策	(17) 学校教育の充実	(18) 青少年対策	(19) 生涯学習・文化・スポーツの	(20) コミュニティの育成	(21) 観光振興	(22) 地域療育・なな区ネットVの整備促進など 情報・生涯学習の推進(福祉・医療)		無回答	
第1位～第3位の累計	249 23.6	245 23.2	103 9.8	42 4.0	139 13.2	18 1.7	82 7.8	36 3.4	58 5.5	31 2.9		154 14.6	
第1位	78 7.4	60 5.7	32 3.0	15 1.4	32 3.0	2 0.2	13 1.2	6 0.6	6 0.6	11 1.0		154 14.6	
第2位	91 8.6	80 7.6	23 2.2	12 1.1	58 5.5	11 1.0	23 2.2	9 0.9	23 2.2	9 0.9		170 16.1	
第3位	80 7.6	105 9.9	48 4.5	15 1.4	49 4.6	5 0.5	46 4.4	21 2.0	29 2.7	11 1.0		200 18.9	

*第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

14 フェイスシート

F 1 性別（○は1つ）

上段：件数
下段：%

全 体	男 性	女 性	無 回 答
1,056 100.0	388 36.7	639 60.5	29 2.7

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
1,056 100.0	89 8.4	200 18.9	247 23.4	182 17.2	52 4.9	75 7.1	59 5.6	124 11.7	28 2.7

性別／年齢

全 体	男 性								女 性								性 別 ま た は 年 齢 無 回 答
	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	
1,056 100.0	34 3.2	73 6.9	83 7.9	79 7.5	21 2.0	23 2.2	21 2.0	54 5.1	55 5.2	127 12.0	164 15.5	103 9.8	31 2.9	52 4.9	38 3.6	69 6.5	29 2.7

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （ 家 族 従 業 を 含 む ）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （ 主 婦 ）	無 職 （ 学 生 ）	無 職 （ そ の 他 ）	無 回 答
1,056 100.0	130 12.3	516 48.9	84 8.0	165 15.6	12 1.1	116 11.0	33 3.1

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
1,056 100.0	244 23.1	312 29.5	468 44.3	32 3.0

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(〇は1つ)

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	9 人	無 回 答
1,056 100.0	253 24.0	359 34.0	218 20.6	158 15.0	24 2.3	3 0.3	4 0.4	2 0.2	35 3.3

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

全 体	持 家		借 家						無 回 答	
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	社、都 市再 生機 構(旧 公団) 公 共住 宅(区 立、 区営、 都営、 公)	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト、 マ ン シ ヨ ン	社 宅、 官 舎、 寮	間 借 り、 住 込 み		そ の 他
1,056 100.0	132 12.5	482 45.6	9 0.9	93 8.8	2 0.2	290 27.5	33 3.1	3 0.3	- -	12 1.1

(F 6 で、「分譲マンション」、「公共住宅」、「民間木造アパート」、「民間鉄筋アパート、マンション」、「社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

上段：件数
下段：%

F 6-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	10 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	10 階 以上
分譲マンション	482 100.0	6 1.2	19 3.9	32 6.6	30 6.2	34 7.1	32 6.6	34 7.1	25 5.2	31 6.4	179 37.1	60 12.4	121 25.1	122 25.3	179 37.1
公共住宅	93 100.0	2 2.2	3 3.2	4 4.3	1 1.1	1 1.1	3 3.2	5 5.4	2 2.2	5 5.4	40 43.0	27 29.0	11 11.8	15 16.1	40 43.0
民間木造アパート	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 100.0	- -	- -
民間鉄筋アパート、 マンション	290 100.0	3 1.0	18 6.2	21 7.2	23 7.9	21 7.2	26 9.0	22 7.6	20 6.9	17 5.9	88 30.3	31 10.7	86 29.7	85 29.3	88 30.3
社宅、官舎、寮	33 100.0	1 3.0	3 9.1	3 9.1	3 9.1	2 6.1	5 15.2	2 6.1	3 9.1	- -	5 15.2	6 18.2	12 36.4	10 30.3	5 15.2

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ(1世代)	夫婦と子どもだけ(2世代)	夫婦と子どもと親(3世代)	その他	無 回 答
1,056 100.0	239 22.6	315 29.8	374 35.4	29 2.7	87 8.2	12 1.1

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	一番上の子どもが小学校入学前	一番上の子どもが小・中学生	一番上の子どもが高校・大学生	一番上の子どもが学校卒業	独身	その他	無 回 答
1,056 100.0	230 21.8	111 10.5	96 9.1	55 5.2	192 18.2	279 26.4	51 4.8	42 4.0

ライフステージ

全 体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	老齡期	その他	無 回 答
1,056 100.0	104 9.8	181 17.1	96 9.1	55 5.2	90 8.5	196 18.6	275 26.0	59 5.6

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力のお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第48回区政世論調査」を行うことといたしました。今回の世論調査は、満18歳以上の区民の皆さん2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をおかけすることはありません。

また、今回、あなたにこの調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年 5月

中央区企画部広報課

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、あて名のご本人がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごさいますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、5月28日(月)までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222 (直通)

第 48 回 区 政 世 論 調 査

1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満 | 4 10～15年未満 | 6 20年以上 |
| 2 3～6年未満 | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 | | |

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい | |

2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分) |
| 3 簡易トイレの備蓄 → () 日分 |
| 4 家具類の転倒防止 |
| 5 消火器・救急セットなどの備え |
| 6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え |
| 7 貴重品を持ち出す準備 |
| 8 風呂などへの水のため置き |
| 9 救命救助の講習会への参加 |
| 10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |
| 11 避難方法、避難場所の確認 |
| 12 家庭での連絡方法などの話し合い |
| 13 建物の補強 |
| 14 その他 (具体的に) |
| 15 特にない |

問5 大地震が発生した場合、家具の転倒やガラスの飛散により大けがをすることがあります。
あなたのご自宅では、どのような備えを行っていますか。(〇はいくつでも)

- 1 たんす、書棚など転倒しないよう固定している
- 2 テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している
- 3 窓や食器棚などのガラス面に飛散防止フィルムを貼っている
- 4 食器棚などに止め金具を付けている
- 5 家具の配置を工夫している
- 6 家具類がないため固定する必要がない
- 7 特に何もしていない

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、場所はわからない
- 3 知らない

(問6で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問6-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、活動内容はよくわからない
- 3 知らない

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難する
ことになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 水・食料 | 8 スペースの確保 |
| 2 トイレ | 9 暑さ寒さ対策 |
| 3 プライバシー | 10 ペットの世話 |
| 4 家族・友人・知人などの安否 | 11 その他 |
| 5 災害状況・対策などの情報 | (具体的に) |
| 6 医療・医薬品 | 12 特にない |
| 7 高齢者介護や乳幼児保育 | 13 わからない |

問8 大地震などの災害が起こったら、お住まいの近くで、あなたが協力できると思う活動には何がありますか。(○はいくつでも)

- 1 負傷者の応急手当
- 2 倒壊家屋などからの救出・救助
- 3 初期の消火活動
- 4 避難所での被災者の世話
- 5 救援物資の仕分けなどの防災活動への協力
- 6 外国語通訳・手話・建物の危険度判定など専門的スキルを活用した活動
- 7 インターネットによる情報収集や伝達
- 8 その他の支援活動(具体的に)
- 9 協力できそうもない
- 10 わからない

問9 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 防災マップアプリ
- 3 ちゅうおう安全・安心メール
- 4 インターネット
- 5 ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)
- 6 防災行政無線(屋外スピーカー)
- 7 緊急告知ラジオ
- 8 ケーブルテレビ
- 9 その他(具体的に)

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。がん検診は含みません。

問10 あなたが加入している健康保険は次のどれですか。(○は1つ)

- 1 中央区国民健康保険
- 2 国民健康保険組合（自営業などの業種ごとに加入する健康保険）
- 3 健康保険組合
- 4 協会けんぽ（全国健康保険協会）
- 5 共済組合
- 6 後期高齢者医療制度
- 7 その他（具体的に)

問11 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。(○はいくつでも)

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問11で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

問11-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に)

4 高齢者施策

問12 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい
- 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい
- 5 介護付き有料老人ホームに入りたい
- 6 その他 (具体的に)
- 7 わからない

問13 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 健康づくり・介護予防の充実
- 2 就労・社会参加の促進
- 3 在宅サービス (医療・介護・区の在宅福祉サービスなど) の充実
- 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致
- 5 高齢者向け住宅の整備・誘致
- 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援
- 7 低所得者への経済的支援
- 8 特にない

問13-1 問13で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

5 子育て支援

問14 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者
9	その他(具体的に)
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問15 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があるとするもの (○はいくつでも)
1 保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	1	1
2 一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	2	2
3 子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3	3
4 子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	4	4
5 放課後などにおける児童の遊びや生活の場	5	5
6 情報の提供や相談サービス	6	6
7 公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	7	7
8 母親と乳幼児などの健康の確保および増進	8	8
9 職業生活と家庭生活との両立の支援	9	9
10 児童虐待防止対策	10	10
11 経済的な支援	11	11
12 特にない	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問15-1 あなたが問15で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会

※ 男女共同参画社会 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会のことです。

問16 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性が優遇 されている	2 やや女性が優遇 されている	3 平等になっている	4 やや男性が優遇 されている	5 男性が優遇 されている
(記入例)(1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 教育の場(学校・大学)では	1	2	3	4	5
(4) 社会活動の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) しきたりや習慣では	1	2	3	4	5
(7) 政治の場では	1	2	3	4	5
(8) 全体としては	1	2	3	4	5

問17 あなた自身の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、望ましいと思うものはどれですか。（○は1つ）

※ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と仕事以外の生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

- 1 仕事に専念する方がよい
- 2 仕事以外の生活も大事ではあるが、仕事の方を優先する方がよい
- 3 仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい
- 4 仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい
- 5 仕事以外の生活に専念する方がよい
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に

問18 問17の望ましい位置づけに対して、あなたの現在の状況は次のどれにあてはまりますか。

（○は1つ）

- 1 仕事に専念している
- 2 どちらかといえば、仕事の方を優先している
- 3 仕事と生活を同じように両立させている
- 4 どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている
- 5 現在仕事をしていない
- 6 その他（具体的に

問19 あなたは、区が男女共同参画推進のための拠点として設置した女性センター「ブーケ21」を知っていますか。（○は1つ）

- 1 知っているし、利用している
- 2 利用したことはないが、活動内容は知っている
- 3 利用したことはなく、活動内容も知らないが、施設があることは知っている
- 4 知らない
- 5 その他（具体的に

7 防犯対策

問20 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

1 ひったくり	9 痴漢・強制わいせつ
2 空き巣	10 少年犯罪
3 強盗	11 子どもの誘拐・連れ去り
4 すり・置き引き	12 暴力団員による犯罪
5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	13 悪質な客引き
6 振り込め詐欺	14 その他
7 傷害・暴行	(具体的に)
8 放火	15 特にない

問21 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している
2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている
3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている
4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている
5 防犯性能の高い鍵や窓を使用したり、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している
6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している
7 その他 (具体的に)
8 特に何もしていない

問22 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信
2 住まいの防犯設備整備費用の助成
3 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進
4 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動
5 学校や児童館などの子どもの安全対策
6 通学路や公園などの安全対策
7 地域の防犯パトロール活動などへの支援
8 その他 (具体的に)
9 特にない

8 スポーツ

問23 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）
- 2 体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）
- 5 マシントレーニング（ランニングマシーン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）
- 6 武道（柔道、剣道、空手など）
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）
- 9 屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴（遊水）
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）
- 19 ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）
- 20 その他（具体的に)
- 21 スポーツや運動はしなかった

（問23で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に）

→ 問23-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度（年に4～11日程度） |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | 6 わからない |

問24 あなたは、区民のスポーツへの参加の機会を増やすために、区は今後どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)

- 1 スポーツ施設の増設・充実
- 2 学校体育施設の開放・整備
- 3 施設利用時間の拡大
- 4 スポーツ行事・大会・教室の開催
- 5 障害のある人を対象としたスポーツ教室や体験会の開催
- 6 地域スポーツクラブの設立や活動に対する支援
- 7 年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及
- 8 一人でも参加できるスポーツの場の提供
- 9 公共スポーツ施設での健康・体力相談体制の整備
- 10 区内のスポーツに関する情報発信
- 11 その他 (具体的に)
- 12 わからない

※ 地域スポーツクラブ 地域が主体となって運営し、学校など身近な施設において子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツ、レクリエーション、文化活動を楽しめるスポーツクラブです。地域の皆さんは、会員、運営スタッフ、指導者としてクラブに参加することができます。中央区では平成25年2月に月島地域を拠点とする「中央区地域スポーツクラブ大江戸月島」が設立されました。

9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

問25 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）が開催されることについて、現段階でのお気持ちをお聞かせください。（○は1つ）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 期待している | 3 どちらかというと懸念がある |
| 2 どちらかというと期待している | 4 懸念がある |

問26 東京2020大会の開催に伴い、あなたが期待していることは何ですか。（○は3つまで）

- | |
|--|
| 1 スポーツ活動の活性化（スポーツ参加意識の向上、障害者スポーツの普及など） |
| 2 健康づくりの推進 |
| 3 外国人との交流機会の増加 |
| 4 学校における国際教育などの推進 |
| 5 障害者支援やバリアフリー化などの福祉施策の推進 |
| 6 ボランティアやおもてなしなどの地域活動の活性化 |
| 7 地域の伝統・文化・観光資源の活用による中央区の魅力・知名度の向上 |
| 8 東京2020大会関連投資や消費増などによる経済活性化 |
| 9 防犯・防災対策の強化 |
| 10 幹線道路や公共交通の整備促進（道路の整備・拡幅、基幹的交通システムの導入など） |
| 11 外国人が円滑に移動できる多言語対応の取り組み |
| 12 環境にやさしいまちづくりの推進（コミュニティサイクルの整備など） |
| 13 その他（具体的に) |

※ コミュニティサイクル 貸出・返却のための拠点（サイクルポート）を複数設置し、どのサイクルポートでも自転車を借りられ、返却できるネットワーク型のレンタサイクルです。

問27 東京2020大会の開催に伴い、あなたが懸念していることは何ですか。（○は3つまで）

- | |
|--------------------------------------|
| 1 海外観光客に対する受入準備の不足（外国語や異文化への対応の不足など） |
| 2 観光客の増加による日常生活の不便さ（交通混雑、買物不便など） |
| 3 観光客の増加による治安・防犯・マナー面の懸念 |
| 4 観光客の増加による衛生面（感染症など）の懸念 |
| 5 大会開催に伴う交通規制や選手村の警備などによる日常生活への影響 |
| 6 選手村工事などによる騒音や渋滞の発生 |
| 7 東京2020大会関連以外の公共インフラ整備の遅延 |
| 8 材料費、人件費の高騰や便乗値上げなどによる物価上昇 |
| 9 区の財政負担の増加 |
| 10 その他（具体的に) |

10 築地魚河岸

- ※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロである54の事業者が厳選した高品質の水産物や青果物を販売しています。

問28 平成28年11月にプレオープンした「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 よく行っている | 3 知っているが、行ったことがない |
| 2 行ったことがある | 4 「築地魚河岸」を知らない |

11 広報

問29 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 区の広報紙「区のおしらせ 中央」 |
| 2 わたしの便利帳 |
| 3 区のパンフレットやチラシなどの印刷物 |
| 4 区のホームページ |
| 5 区の広報掲示板 |
| 6 町会・自治会の掲示板や回覧板など |
| 7 ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」 |
| 8 コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」 |
| 9 区の公式SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム） |
| 10 スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」、「マチイロ」 |
| 11 その他（具体的に |

- ※ 中央区版 マイ広報紙 広報紙を記事ごとに文字データ化しているため、読みたい記事を簡単に探すことができます。

- ※ マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

12 緑・公園

問30 あなたが公園や緑に望む役割は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|---------------------|---|
| 1 | 生き物の生息環境 | |
| 2 | ヒートアイランド対策など都市環境の改善 | |
| 3 | 自然とのふれあいの場 | |
| 4 | 体を動かせる場所 | |
| 5 | のんびり休息できる場所 | |
| 6 | 子どもの遊び場 | |
| 7 | 災害時の避難場所 | |
| 8 | まちなかの景観向上 | |
| 9 | その他（具体的に |) |
| 10 | 特にない | |

問31 あなたは、緑のまちづくりを進める上で、今後どのようなことに重点をおくとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---|-------------------|---|
| 1 | 新たな公園の整備 | |
| 2 | 既存の公園や児童遊園などの改修 | |
| 3 | 道路上の街路樹や緑地の整備 | |
| 4 | 学校や公共施設の緑化 | |
| 5 | 河川や運河沿いなど水辺の緑化 | |
| 6 | 建物の屋上や壁面などの緑化 | |
| 7 | 大規模開発などに伴う公開緑地の創出 | |
| 8 | その他（具体的に |) |
| 9 | 特にない | |

問32 緑に関することで、あなたが現在行っている、あるいは今後行ってみたいことはありますか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---|----------------------------|---|
| 1 | 庭やベランダなどでの緑や花の育成 | |
| 2 | 公園や道路上の花壇の草花植付や清掃などのボランティア | |
| 3 | 園芸教室や自然観察会などへの参加 | |
| 4 | その他（具体的に |) |
| 5 | 特にない | |

問33 中央区では、公園や道路上の花壇管理や清掃などのボランティア活動を推進しています。このような活動を知っていますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|----------------|---|------|
| 1 | 知っていて、参加している | 3 | 知らない |
| 2 | 知っているが、参加していない | | |

13 施策の要望・評価

問34 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満 足 度					重 要 度		
	1 満 足	2 やや 満足	3 普 通	4 やや 不 満	5 不 満	1 たい へん 重要	2 比 較 的 重要	3 普 通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 〔福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など〕	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5			

問35 問34の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

第1位	第2位	第3位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでの答えの内容を統計的に分類するためのものです。
ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 2 年齢 (○は1つ)

- | | | | |
|----------|--------|----------|----------|
| 1 18～29歳 | 3 40歳代 | 5 60～64歳 | 7 70～74歳 |
| 2 30歳代 | 4 50歳代 | 6 65～69歳 | 8 75歳以上 |

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|-----------------|------------|
| 1 自営業 (家族従業を含む) | 3 アルバイト・パートタイマー | 5 無職 (学生) |
| 2 勤め人 | 4 無職 (主婦) | 6 無職 (その他) |

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川) |
| 2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町) |
| 3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海) |

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

- | | | |
|------|------|-------------|
| 1 1人 | 3 3人 | 5 5人 |
| 2 2人 | 4 4人 | 6 6人以上 (人) |

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション (階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)	
家	5	民間木造アパート (階)	
	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)	
	7	社宅、官舎、寮 (階)	
	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に)	

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に)	

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に)	

※ご協力ありがとうございました。

調査結果は、中央区ホームページで公表いたします。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入ください。

概要版ができ次第、送付いたします。(9月下旬予定)

住 所 中央区 _____

氏 名 _____

第48回 中央区政世論調査 報告書

平成30年 9月

刊行物登録番号

30-047

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03(3546)5222 (直通)
- 実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 03(3239)0071 (代表)
-